2018年度

（平成30年度）

授　業　概　要

＜健康福祉学科＞

仙台大学　体育学部

予習・復習（授業時間外学修）について（注意）

文部科学省の定める「大学設置基準」においては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

本学においては「講義」、「演習」の科目は一部科目を除き 2 単位（必要な総学修時間は 90 時間）としていますが、2 時間の授業（90 分を 2 時間と換算）を 15 回（合計 30 時間）実施していますので、残りの 60 時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

また、「実験」、「実習」、「実技」の科目は一部科目を除き 1 単位（必要な総学修時間は 45 時間）としていますが、2 時間の授業（90 分を 2 時間と換算）を 15 回（合計 30 時間）実施していますので、残りの 15 時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

履修計画を立てる際には、以上のような予習・復習の時間が必要であることを十分に考慮に入れてください。

＜ 目　　次 ＞

1. 基礎科目

≪教養基礎科目≫

導入演習 …… 2
情報処理 …… 3
学習基礎教養演習 …… 4
総合英語Ａ（含外国語コミュニケーション）… 5
総合英語Ｂ（含外国語コミュニケーション）… 6
総合英語Ｃ（含外国語コミュニケーション）… 7
英語Ａ（含外国語コミュニケーション） …… 8
英語Ｂ（含外国語コミュニケーション） …… 9

≪教養展開科目≫

（人文分野）

哲学入門 …… 12
現代の思想 …… 13
現代の思想（介護福祉士用） …… 14
心理学概論 …… 15
人の心と行動 …… 16
人の心と行動（介護福祉士用） …… 17
ことばと人間Ａ …… 18
ことばと人間Ｂ（鎌田クラス） …… 19
ことばと人間Ｂ（菊地博クラス） …… 20

（社会分野）

社会学概論 …… 22
社会構造と人間関係 …… 23
消費経済とスポーツ …… 24
世界経済・日本経済とスポーツ …… 25
法学 …… 26
歴史学入門 …… 27
歴史と人間 …… 28

（自然分野）

生物科学 …… 30
エコロジー概論 …… 31
教養数学 …… 32

（教養演習）

体育系大学の基礎教養 …… 34
仙台大学の専門教養演習Ⅰ …… 35
仙台大学の専門教養演習Ⅱ …… 36
仙台大学の専門教養演習Ⅲ …… 37
全学教養演習 …… 38

≪海外文化科目≫

スポーツに何故英語が必要か …… 40
イングリッシュ･リーディングＡ …… 41
イングリッシュ･リーディングＢ …… 42
英会話Ａ …… 43
英会話Ｂ …… 44
イングリッシュ･トランスレーション …… 45
スポーツ＆イングリッシュ …… 46
ドイツ語Ⅰ …… 47
ドイツ語Ⅱ …… 48
スペイン語Ⅰ …… 49
スペイン語Ⅱ …… 50
中国語Ⅰ …… 51
中国語Ⅱ …… 52
韓国語Ⅰ …… 53
韓国語Ⅱ …… 54

≪人生設計科目≫

キャリアプランニングⅠ …… 56
キャリアプランニングⅡ …… 57
キャリアプランニングⅢ …… 58

2. 専門基礎科目

≪講義≫

健康福祉総論 …… 60
コミュニケーション技術演習 …… 61
運動生理学 …… 62
リハビリテーション論 …… 63

栄養学概論…… 64
社会福祉概論Ⅰ…… 65
健康づくり運動演習…… 66
運動障害救急法（含実習）…… 67
スポーツ社会学…… 68
スポーツ心理学…… 69
スポーツバイオメカニクス…… 70
スポーツ指導の基礎（含実習）…… 71

≪実技≫

健康運動指導実技…… 74
体操（含体つくり運動）…… 75
ボランティア活動実践Ａ…… 76
ボランティア活動実践Ｂ…… 77
ボランティア活動実践Ｃ…… 78
陸上競技…… 79
器械運動（男子）…… 80
器械運動（女子）…… 81
水泳…… 82
バレーボール…… 83
バスケットボール（児玉クラス）…… 84
バスケットボール（佐藤クラス）…… 85
ハンドボール…… 86
サッカー（黒澤クラス）…… 87
サッカー（吉井クラス）…… 88
ラグビー…… 89
柔道…… 90
剣道…… 91
ダンスⅠ…… 92
海浜実習…… 93
スキーⅠ…… 94
キャンプ…… 95
スケート…… 96
レクリエーション実技Ⅰ…… 97
エアロビックダンス…… 98

3. 発展科目

衛生・公衆衛生学…… 100
看護学概論Ⅰ…… 101
免疫・薬理学…… 102
障害の理解…… 103
保健医療論…… 104
医学一般…… 105
介護過程と介護研究Ⅰ…… 106
介護過程と介護研究Ⅱ…… 107
介護概論Ⅰ…… 108
生活支援技術の基礎Ⅰ…… 109
介護総合演習Ⅰ…… 110
介護総合演習Ⅱ…… 111
介護総合演習Ⅲ…… 112
介護総合演習Ⅳ…… 113
介護における安全とリスクマネジメント…… 114
認知症の理解Ⅰ…… 115
認知症の理解Ⅱ…… 116
こころとからだⅠ…… 117
こころとからだⅡ…… 118
精神保健学…… 119
学校保健学…… 120
健康相談…… 121
社会福祉援助技術論Ⅰ…… 122
福祉行財政と福祉計画…… 123
老人福祉論…… 124
社会福祉概論Ⅱ…… 125
介護総論…… 126
養護概説…… 127
障害者福祉論…… 128
発育発達と老化…… 129
スポーツ医学Ａ…… 130
スポーツ医学Ｂ…… 131
スポーツ医学概論…… 132
スポーツ経営学…… 133
スポーツ計量学…… 134
体育原理…… 135

運動学（含運動方法学）…… 136
体力相談と運動処方…… 137
健康支援・介護予防演習…… 138
福祉レクリエーション実技…… 139
福祉レクリエーション支援実習…… 140
障害者とスポーツ…… 141
ニュー・ゲームズ…… 142

4. 応用科目

看護学概論Ⅱ（前期）…… 144
看護学概論Ⅱ（後期）…… 145
看護学実習…… 146
臨床心理学…… 147
レクリエーション支援論…… 148
介護過程Ⅰ…… 149
生活支援と障害者介護Ⅲ…… 150
社会福祉援助技術論Ⅱ…… 151
社会福祉援助技術演習Ⅰ①（2年前期）…… 152
社会福祉援助技術演習Ⅰ②（2年後期）…… 153
社会福祉援助技術演習Ⅱ①（3年前期）…… 154
社会福祉援助技術演習Ⅱ②（3年後期）…… 155
社会福祉援助技術演習Ⅱ③（4年前期）…… 156
社会福祉援助実習…… 157
社会福祉施設経営論…… 158
社会調査法Ⅰ…… 159
社会調査法Ⅱ…… 160
児童福祉論…… 161
社会保障論…… 162
公的扶助論…… 163
地域福祉論…… 164
就労支援論…… 165
権利擁護と成年後見制度…… 166
更生保護制度論…… 167
教育の基礎理論…… 168
教育の心理…… 169
教育の制度…… 170
教育課程論…… 171
教育方法論…… 172
教育相談…… 173
保健体育科教育論Ⅰ…… 174
保健体育科教育論Ⅱ…… 175
保健体育科教育論Ⅲ…… 176
保健体育科教育論Ⅳ…… 177
福祉科教育論Ⅰ…… 178
福祉科教育論Ⅱ…… 179
障害者教育総論（特別支援教諭クラス）…… 180
障害者教育総論（介護福祉士・福祉科教諭クラス）181
知的障害者の心理・生理・病理…… 182
肢体不自由者の心理・生理・病理…… 183
病弱者の心理・生理・病理…… 184
知的障害者のスポーツ指導…… 185
肢体不自由者のスポーツ指導…… 186
生涯学習概論 A …… 187
生涯学習概論 B …… 188
社会教育計画 A …… 189
社会教育計画 B …… 190
社会教育演習 A …… 191
社会教育演習 B …… 192
教育社会学…… 193
日本国憲法…… 194
生活文化論…… 195
文章表現論Ⅰ…… 196
文章表現論Ⅱ…… 197
データ処理の基礎…… 198
メディア・リテラシー実習…… 199
スポーツ史…… 200
スポーツ政策論…… 201
スキーⅡ…… 202
マリンスポーツⅠ…… 203
マリンスポーツⅡ…… 204
テニス…… 205
バドミントン…… 206
ソフトボール…… 207
新体操…… 208

テーピング …… 209
レクリエーション実技Ⅱ …… 210
ボランティア活動実践D …… 211
北米のプロスポーツ事情 …… 212
海外短期研修A …… 213
海外短期研修B …… 214
海外短期研修C …… 215
海外短期研修D …… 216

5. 介護福祉士及び社会福祉士に関する科目

介護概論Ⅱ …… 218
生活と生活支援 …… 219
コミュニケーション技術論 …… 220
生活支援技術の基礎Ⅱ …… 221
介護福祉とレクリエーション活動援助 …… 222
介護福祉とレクリエーション援助演習 …… 223
生活支援技術の実践と応用Ⅰ …… 224
生活支援技術の実践と応用Ⅱ …… 225
生活支援と居宅介護 …… 226
生活支援と高齢者介護 …… 227
生活支援と障害者介護Ⅰ …… 228
生活支援と障害者介護Ⅱ …… 229
介護過程Ⅱ …… 230
介護過程Ⅲ …… 231
介護実習Ⅰ …… 232
介護実習Ⅱ …… 233
介護実習Ⅲ …… 234
社会福祉援助技術現場実習指導①（3年前期） 235
社会福祉援助技術現場実習指導②（3年後期） 236
社会福祉援助技術現場実習指導③（4年前期） 237
社会福祉援助技術現場実習 …… 238
医療的ケア実施の基礎 …… 239
喀痰吸引 …… 240
経管栄養 …… 241
医療的ケア演習 …… 242

6. 教職に関する科目

養護実習Ⅰ …… 244
養護実習Ⅱ …… 245
教職論A …… 246
教職論B …… 247
道徳教育論 …… 248
生徒指導論A（含進路指導の理論及び方法） 249
生徒指導論B …… 250
特別活動論 …… 251
教職総合演習 …… 252
教職総合実技 …… 253
教職実践演習（教論） …… 254
教職実践演習（養護教諭） …… 255
教職キャリア演習Ⅰ …… 256
教職キャリア演習Ⅱ …… 257
保健体育科授業研究Ⅰ …… 258
保健体育科授業研究Ⅱ …… 259
福祉科教材・授業研究 …… 260
養護演習 …… 261
教育実習Ⅰ …… 262
教育実習Ⅲ …… 263
教育実習Ⅳ …… 264
知的障害者の教育 …… 265
肢体不自由者の教育 …… 266
病弱者の教育 …… 267
視覚障害教育総論 …… 268
聴覚障害教育総論 …… 269
情緒障害教育総論 …… 270
学習障害等教育総論 …… 271
特別支援学校教育実習Ⅰ …… 272
特別支援学校教育実習Ⅱ …… 273

7. 自由科目

地域スポーツ戦略論 …… 276
トレーニング方法論 …… 277
レジャー・レクリエーション論 …… 278
スポーツマネジメント実習 …… 279

野外教育・活動論…… 280
野外･レクリエーション･マネジメント論（含演習） 281
野外・レクリエーション・マネジメント実習…… 282
スポーツクラブ・マネジメント論（含演習） 283
音楽・器楽演奏…… 284
スポーツターフ管理概論Ⅰ …… 285
スポーツターフ管理概論Ⅱ …… 286
卓球…… 287
アスレティックトレーニング論Ⅰ …… 288
コンディショニング論…… 289
コンディショニング実習…… 290
スポーツ栄養学…… 291

授業科目と免許・資格（教員免許、国家資格を除く）の対応表QRコード

資格科目対応表・健康福祉学科（1年生用）

この資格科目対応表は仙台大学ホームページの“取得資格について”にあります。（QRコード読み取りに必要なソフトなどは、各自、注意事項に従って利用して下さい。）なお、資格科目対応表は履修登録の参考になるように作成したもので、あくまで学生便覧“免許・資格”の記載内容が正しいです。万が一、表に誤り等があった場合には、キャリアセンター（事務担当：事業戦略室）まで連絡下さい。

本授業概要各授業科目の“関連資格”欄も同様で、学生便覧と食い違いがあった場合は、学生便覧が正しいです。

1. 基礎科目

≪教養基礎科目≫

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction (P.A.)				担当教員	各担任
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。

授業の一般目標

修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。

授業計画(全体)

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行います。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容]導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習]自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。	⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容]「いまどきの大学・いまどきの大学生―ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習]テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習]新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。	⑩	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容]「大学で身につけるべきこと―学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習]テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと
③	[テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて [内容] 平成29年度後期より始まった英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。 [授業外学習]大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。	⑪	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容]「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 英語プレイスメントテスト [内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイスメントテストを行う。 [授業外学習]自分の英語力について自己評価してみる	⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習]事前に資料を読んでおくこと
⑤	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習]卒業までの計画や目標について考えてみること	⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習]これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみること	⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習]仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと	⑮	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習]大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと	⑯	[テーマ] まとめ及び後期に向けて [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習]これまでの資料などに目を通しておくこと

成績評価方法(方針)

出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。授業内レポート、宿題・授業外レポート等の返却を希望する者に対しては、各担任が解説を交えて返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート	○	○	○	25%
授業外レポート	○	○	○	25%
演習・実技	○	○	○	25%
授業態度	○	○	○	25%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない
・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと
・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する
・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する
・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある

関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習		
教科書	オリエンテーション時に資料を配布	参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室		

授業科目名	情報処理 Data Processing (L.)				担当教員	内野秀哲・相場徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA認定パーソナルトレーナー(体育学科) ストレングス&コンディショニングスペシャリスト(体育学科)
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。

授業の一般目標

ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1.ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2.状況や対象に応じて処理機能を選択できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。

授業計画(全体)

本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと	⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと	⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] ICTスキルの把握(履修前) [内容] ICTスキルについて、受講前の状況を各自で把握しておくための調査を行い、個々の目標設定についても検討する。 [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること	⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的事象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理」の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること	⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習] これまでの提示資料や例題などを整理し、理解を深めておくこと
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習] これまでの提示資料や例題などを整理し、理解を深めておくこと
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑯	[テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。レポート等はコラボレーションウエア上で共有し、相互評価を行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				対象としない
授業内レポート	◎		◎	100%
授業外レポート			○	欠格条件
演習・実技				加減点要素
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)で実施する
・初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須
・講義部門、実習部門のどちらか一方で2回以上欠席すると欠格となるので要注意
・いかなる事情があっても、欠席した分は補講で補うこと(期限あり)
・履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
※能動的学習環境の支援を意図するコラボレーションウェアの活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

関連科目			
教科書	使用しない(プリント教材を使用)	参考書	必要に応じて授業内で提示
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50		

授業科目名	学習基礎教養演習 Introduction to Academic Writing				担当教員	各担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。

授業の一般目標

1. 語彙力を上げることができる(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになる。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになる。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. 文献検索、引用を適切に付記できる。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションできる。

授業の到達目標

■	認知的領域	パラグラフ構造を理解するとともに、ある主題について分節化の重要性を理解できる。
■	情意的領域	適切な日本語を用いて課題に熱心に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	日本語の文章として適切なパラグラフを書くことができる。

授業計画(全体)

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4.教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次回の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む。	⑨	[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。
②	[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文を漢字かな混じり文へ変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落抜きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす。	⑩	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する。 [授業外学習] 目標規定文の問題点を明確にする。
③	[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるトピック, サポート,コンクルーディングセンテンスの再確認し、パラグラフ・アウトラインを作成する。 [授業外学習] パラグラフ・アウトラインにかんする課題をこなす。	⑪	[テーマ] 2000字程度のレポートの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料とその引用について考える。 [授業外学習] 論文の引用注にかんする課題をこなす。
④	[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類を考える。 [授業外学習] 分類にかんする課題をこなす。	⑫	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうることを考えて説明する。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす。
⑤	[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となることを説明する。 [授業外学習] 比較・対照にかんする課題をこなす。	⑬	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習] パラグラフ・アウトラインの課題を復習する。
⑥	[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] 原因・結果のパラグラフは使用頻度が高いので、とくに習熟する必要があることを念頭において説明する。 [授業外学習] 原因・結果にかんする課題をこなす。	⑭	[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。
⑦	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解と展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するためのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] パラグラフ展開にかんする課題をこなす。	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習] 自身のレポートに対するコメントに応答できるよう準備する。
⑧	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 小論文の構成にかんする課題をこなす。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には各担当教員の研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	○	○	◎	20%
授業外レポート	○	◎	○	30%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	◎	○	○	50%
出席	—	—	—	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない(欠席の場合は必ず「欠席届」を提出すること)。
2. パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くとき必要となるので、積極的にこの授業に臨んでほしい。
3. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。		
教科書	プリントを配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先	各担当教員		

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション) All-Round English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)・(宮野)・ (大曾根)・(マンキン)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。

授業の一般目標

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。②すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施)。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

授業テーマとその内容

プレイスメント・テストを実施し、その結果に基づいて5段階の能力別クラス(6クラス)に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。**「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う**。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。

レベル1　日常生活の基礎的英単語を修得する
　★季節や曜日や月の名称を復習しよう
　★一日の生活で接する事物を取り上げ、その英語名称を覚えよう
　★スポーツ競技の英語の名称を確認しよう
レベル2　スポーツに用いられる英単語を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex 次の英単語の日本語訳は? この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ意味で使われていますか? → アクティブラーニング
　★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex 次の日本の言葉の英訳は? この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ単語が使われていますか? → アクティブラーニング
　★スポーツのルールを表す単語の物語
　　ex 「オフサイド」を英語で書きましょう その意味は? スポーツ以外の場面での意味は? その語源は?
　　この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は? → アクティブラーニング
レベル3　英検4級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル4　英検3級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル5　英検準2級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 40～56)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル6　英検2級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 57～86)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル7　英検準1級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 87～109)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル8　教員採用試験レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 110以上)
　★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)

なお、「総合英語B」ではレベル2～6、「総合英語C」ではレベル3～7、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う。

[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法(方針)

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内課題	◎			80%
授業外課題	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
2. 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
3. 授業の内容について予習・復習を必ず行うこと。
4. 「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
5. 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション) All-Round English B (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)・(宮野)・ (大曾根)・(マンキン)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。

授業の一般目標

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。②すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施)。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

授業テーマとその内容

5段階の能力別クラス(6クラス)に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。**「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う**。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。

レベル1　日常生活の基礎的英単語を修得する
　★季節や曜日や月の名称を復習しよう
　★一日の生活で接する事物を取り上げ、その英語名称を覚えよう
　★スポーツ競技の英語の名称を確認しよう
レベル2　スポーツに用いられる英単語を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex 次の英単語の日本語訳は? この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ意味で使われていますか? → アクティブラーニング
　★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex 次の日本の言葉の英訳は? この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください 全て同じ単語が使われていますか? → アクティブラーニング
　★スポーツのルールを表す単語の物語
　　ex 「オフサイド」を英語で書きましょう その意味は？ スポーツ以外の場面での意味は? その語源は?
　　この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は? → アクティブラーニング
レベル3　英検4級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル4　英検3級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル5　英検準2級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 40～56)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル6　英検2級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 57～86)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル7　英検準1級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 87～109)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル8　教員採用試験レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 110以上)
　★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)

なお、「総合英語A」ではレベル1～5、「総合英語C」ではレベル3～7、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う。

[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法(方針)

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内課題	◎			80%
授業外課題	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
2. 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
3. 授業の内容について予習・復習を必ず行うこと。
4. 「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
5. 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語C、総合英語D		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	総合英語C（含む外国語コミュニケーション） All-Round English C (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・（志子田）・（宮野）・ （大曾根）・（マンキン）
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス（6クラス）を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング（「語学学習システム」）を加点する。②すべてのクラスに，英会話の時間を設ける（各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施）。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

授業テーマとその内容

5段階の能力別クラス（6クラス）に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。**「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う**。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。

レベル1　日常生活の基礎的英単語を修得する
　★季節や曜日や月の名称を復習しよう
　★一日の生活で接する事物を取り上げ、その英語名称を覚えよう
　★スポーツ競技の英語の名称を確認しよう
レベル2　スポーツに用いられる英単語を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→（毎回確認テスト）
　　ex　次の英単語の日本語訳は?　この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ意味で使われていますか?　→　アクティブラーニング
　★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→（毎回確認テスト）
　　ex　次の日本の言葉の英訳は?　この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ単語が使われていますか?　→　アクティブラーニング
　★スポーツのルールを表す単語の物語
　　ex　「オフサイド」を英語で書きましょう　その意味は？　スポーツ以外の場面での意味は?　その語源は?
　　この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は?　→　アクティブラーニング
レベル3　英検4級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル4　英検3級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル5　英検準2級レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 40～56）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル6　英検2級レベルの英文法を修得する　（TOEFL iBT 57～86）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル7　英検準1級レベルの英文法を修得する　（TOEFL iBT 87～109）
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
レベル8　教員採用試験レベルの英文法を修得する（TOEFL iBT 110以上）
　★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）
　★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　（毎回確認テスト）

なお、「総合英語A」ではレベル1～5、「総合英語B」ではレベル2～6、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う。

［授業外学習の指示等］「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内課題	◎			80%
授業外課題	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
2. 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
3. 授業の内容について予習・復習を必ず行うこと。
4. 「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
5. 獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、記入にはくれぐれも注意すること。

関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語D		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語A(含む外国語コミュニケーション) English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC400点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar (文法)」・「Intensive Reading (精読)」・「Speed Reading (速読)」・「Extensive Reading (内容把握)」・「Writing (作文)」・「Listening (聞き取り)」・「Speaking (会話)」・「Translation (翻訳)」・「Basic English(基礎英語)」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar (文法)」・「Intensive Reading (精読)」・「Speed Reading (速読)」・「Listening (聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

[授業外学習の指示等] 「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法(方針)

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内課題	◎			80%
授業外課題	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語B(含む外国語コミュニケーション)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語B（含む外国語コミュニケーション） English B (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・（志子田）
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語Aと同様に、英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC450点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Extensive Reading（内容把握）」・「Writing（作文）」・「Listening（聞き取り）」・「Speaking（会話）」・「Translation（翻訳）」・「Basic English（基礎英語）」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Listening（聞き取り）」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

［授業外学習の指示等］「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上：「秀」、599～400ポイント：「優」、300～399ポイント：「良」、200～299ポイント：「可」、200ポイント未満：「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内課題	◎			80%
授業外課題	○			20%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1．教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2．学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3．取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4．獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語A（含む外国語コミュニケーション）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

≪教養展開科目≫

（人文分野）

授業科目名	哲学入門 Introduction to Philosophy				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。

授業の一般目標

1. 考えるということに慣れ、それが実はおもしろいものなのだということを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性があることを見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べたうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。

授業計画（全体）

考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の関係をめぐる問題（たとえば、社会に生きることと個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造）、さらに、その応用として、体罰をめぐる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容]「・・・とは何か」という問いの位相を考える。さらに、問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習]各自関心のある「・・・とは何か」という問いを考察してみる	⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調（圧力）などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意味であるかどうかを考える。 [授業外学習]授業外レポートを書く。
②	[テーマ] 問いと答えの論理――理解するということ [内容]「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習] 自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す	⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターナリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習]この概念の市民社会における重要性を整理する
③	[テーマ]「自己」、「私」とは何者か [内容]「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。とくに「他者」との関係の [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。	⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習]返却された授業外レポートを振り返る。
④	[テーマ]「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習]具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)	⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習]具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に取り出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。	⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習]日本の場合、それはどのような集団であるか予習する
⑥	[テーマ]「子供」と「大人」 [内容]「大人」であることの意味について、カントの考え方を「啓蒙とは何か」に基づいて紹介する。 [授業外学習]各自の生活の場面で大人であるような行為の例を考える	⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習]自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す
⑦	[テーマ] 権威主義的人間と大衆社会 [内容] アドルノらによる権威主義的人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習]自分のなかにある権威主義を検討してみる	⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避的であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習]試験の準備をする
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習]具体例を挙げ、その構造を取り出す	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。レポートについては、授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	40%
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業に出席すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行う。

関連科目			
教科書	教科書はとくにない。	参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先	小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限		

授業科目名	現代の思想 Introduction to Modern Thoughts				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	健康福祉学科の場合、介護福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

「人間とは何か」という問いは、つまりわれわれの存在をテーマとし、それをもっとも根本から考えてみようとする問いである。現代社会に生きるわれわれ人間が直面している具体的な問題を取り上げ、その問いに接近しよう。

授業の一般目標

ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということが重要である。その際、各自の体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかを表現し、自分の意見を表明できるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる

授業計画（全体）

1回目から6回目までは、人間にかんする基礎的な理解に資するテーマを扱う。
6回目から9回目までは、「生命倫理学」のいくつかのトピックを扱う。
10回目以降は「人間とは何か」あるいは「人間の尊厳」に関わる個々の問題の解明。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 生物あるいは動物としての人間 [内容] 自然の一部としての人間の根本的存在様態について考える。生命としての人間は何をしているのか。 [授業外学習]各自のなかに生命または動物としての在り方を見出す。	⑨	[テーマ] 遺伝子操作の問題 [内容] 遺伝子レベルで生命に介入することが可能となっている。それがはらむ問題点。 [授業外学習]自分の問題として遺伝子操作を考えてみる。
②	[テーマ]人間の定義について [内容] 「人間とは何か」という問いにたいする形式的答えとその問題点。定義とは、規定することであると同時に排除も意味し得る。 [授業外学習]ある一つの人間の定義がはらむ問題点を指摘する。	⑩	[テーマ] 差別の一般理論 [内容] 差別が生じてくる背景、条件についての一般的理論。 [授業外学習]身の回りにある差別の事例を見出す。
③	[テーマ] 「人格」の概念 [内容] おもにカントの考え方に即して「人格」概念の条件を考察する。とくに、道徳と自由の関係について。 [授業外学習]ある個別的行為を想定し、そこでの道徳と自由の関係を指摘する。	⑪	[テーマ] 優生学とナチ [内容] ヒトラー第三帝国が行った、優生学に基づく安楽死あるいは生命の抹殺から弱者の権利について。 [授業外学習]日本での優生学の適用の例を調べる。
④	[テーマ] 宇宙における人間の位置 [内容] 哲学的人間学、とくにプレスナーとゲーレンの基本的考え方を概説する。動物との違いについて考える。 [授業外学習]自らの中に授業で述べられた思想の例を見出す。	⑫	[テーマ] LGBTという存在 [内容] 性的マイノリティーを多数者（マジョリティー）はどのように考えるべきなのか。異質なものの排除が持つ問題。 [授業外学習]自分が、または周りがLGBTである場合、自分の態度を考える。
⑤	[テーマ] ハイデガーの現存在 [内容] 現存在とは各自のことであるが、その存在の在り方をハイデガーの考え方に基づいて概説する。 [授業外学習]自分と動物のかかわりについてシンガーを引証して書いてみる。	⑬	[テーマ] ヘイト・スピーチ [内容] とくにインターネット上で繰り返される罵詈雑言は、民族的マイノリティーに向けられている。共生の問題。 [授業外学習]授業以外のヘイトスピーチの例を挙げ、その虚偽を指摘する。
⑥	[テーマ] 動物の権利 [内容] しかし、最近は人間の特異性に対する反論も多い。おもにシンガーに基づいて、「動物解放論」について概説する。 [授業外学習]自己の死を見据えたとき、それが生き方に与える影響を考える。	⑭	[テーマ] 宗教が引き起こす対立と寛容 [内容] テロリズムが問題となっている。ある信念、ある信仰をもつことと、他者に対する寛容の思想。 [授業外学習]日本における宗教が引き起こした事件を指摘しその背景を書く。
⑦	[テーマ] 尊厳死の問題 [内容] 尊厳死をめぐる事件をとおして、人間の死について具体的に考察する。 [授業外学習]自分の問題として尊厳死をどう考えるか書いてみる。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 異なる人間同士が共存する可能性はどこにあるか。 [授業外学習]授業の概要を書き、試験の準備をする。
⑧	[テーマ] 脳死の問題 [内容] 脳死と臓器移植にかかわる倫理について考察する。 [授業外学習]自分の問題となったとき臓器移植に対する態度を記してみる。	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。授業内レポートについては、授業内で講評し返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	60%
授業内レポート	◎		◎	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

出席する。
ノートをとる。
質問する。
私語はダメ。
大学設置基準で求められている授業時間外学修を行う。
試験およびレポートについては返却する。

関連科目			
教科書	教科書はない。	参考書	参考書はその都度指示する
連絡先	小松恵一研究室A506(オフィス・アワー、水曜日4限)		

授業科目名	現代の思想(介護福祉士用) Introduction to Modern Thoughts				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	健康福祉学科の場合、介護福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

「人間とは何か」という問いは、つまりわれわれの存在をテーマとし、それをもっとも根本から考えてみようとする問いである。現代社会に生きるわれわれ人間が直面している具体的な問題を取り上げ、その問いに接近しよう。特に「人間の尊厳」という発想の意味とその限界を考察することをとおして、「よく生きる」ための前提条件を考える。

授業の一般目標

ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということが重要である。その際、各自の体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかを表現し、自分の意見を表明できるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる

授業計画(全体)

1回目から6回目までは、人間にかんする基礎的な理解に資するテーマを扱う。
7回目から9回目までは、「生命倫理学」のいくつかのトピックを扱う。
10回目以降は「人間とは何か」あるいは「人間の尊厳」に関わる個々の問題の解明。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 生物あるいは動物としての人間 [内容] 自然の一部としての人間の根本的存在様態について考える。生命としての人間は何をしているのか。 [授業外学習]各自のなかに生命または動物としての在り方を見出す。	⑨	[テーマ] 障碍者の権利と人格 [内容] 障碍者と健常者を区別し、弁別する考え方の根底にあるものを摘出し、それを乗り越える論理を考える。 [授業外学習]親族に障碍者がいるとして、自分がどう考えるか記述する。
②	[テーマ]人間の定義について [内容] 「人間とは何か」という問いにたいする形式的答えとその問題点。定義とは、規定することであると同時に排除も意味し得る。 [授業外学習]ある一つの人間の定義がはらむ問題点を指摘する。	⑩	[テーマ] 差別の一般理論 [内容] 差別が生じてくる背景、条件についての一般的理論。 [授業外学習]身の回りにある差別の事例を見出す。
③	[テーマ]「人格」の概念 [内容] おもにカントの考え方に即して「人格」概念の条件を考察する。とくに、道徳と自由の関係について。 [授業外学習]ある個別的行為を想定し、そこでの道徳と自由の関係を指摘する。	⑪	[テーマ] 優生学とナチ [内容] ヒトラー第三帝国が行った、優生学に基づく安楽死あるいは生命の抹殺から弱者の権利について。 [授業外学習]日本での優生学の適用の例を調べる。
④	[テーマ]「人間の尊厳」という概念の生成と問題 [内容] 人格概念と密接に結びつく「尊厳」概念の由来とその問題点。 [授業外学習]人間の尊厳に対して自分がどのような態度を取るかを記してみる。	⑫	[テーマ] LGBTという存在 [内容] 性的マイノリティーを多数者(マジョリティー)はどのように考えるべきなのか。異質なものの排除が持つ問題。 [授業外学習]自分が、または周りがLGBTがいる場合、自分の態度を考える。
⑤	[テーマ] 動物の権利 [内容] おもいシンガーに基づいて、「動物解放論」について概説する。 [授業外学習]自分と動物のかかわりについてシンガーを引証して書いてみる。	⑬	[テーマ] ヘイト・スピーチ [内容] とくにインターネット上で繰り返される罵詈雑言は、民族的マイノリティーに向けられている。共生の問題。 [授業外学習]授業以外のヘイトスピーチの例を挙げ、その虚偽を指摘する。
⑥	[テーマ] 老化と死について [内容] 人間は老い、そして死ぬ。それも様々な形で。死という運命に、まだ生きている人間はどのように向かうか。 [授業外学習]自己の死を見据えたとき、それが生き方に与える影響を考える。	⑭	[テーマ] 宗教が引き起こす対立と寛容 [内容] テロリズムが問題となっている。ある信念、ある信仰をもつことと、他者に対する寛容の思想。 [授業外学習]日本における宗教が引き起こした事件を指摘しその背景を書く。
⑦	[テーマ] 尊厳死について [内容] 尊厳死をめぐる事件をとおして、終末期における医療の在り方を考える。 [授業外学習]自分の問題として尊厳死をどう考えるか書いてみる。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 異なる人間同士が共存する可能性はどこにあるか。 [授業外学習]授業の概要を書き、試験の準備をする。
⑧	[テーマ] 脳死の問題 [内容] 脳死と臓器移植にかかわる倫理について考察する。 [授業外学習]自分の問題となったとき臓器移植に対する態度を記してみる。	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	60%
授業内レポート	◎		◎	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席する。
ノートをとる。
質問する。
私語はダメ。
大学設置基準で求められている授業時間外学修を行う。
試験およびレポートについては返却する。

関連科目			
教科書	教科書はない。	参考書	参考書はその都度指示する
連絡先	小松恵一研究室A506(オフィス・アワー、水曜日4限)		

授業科目名	心理学概論 Introduction to Psychology (L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。

授業の一般目標

授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説します。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる	⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる
②	[テーマ]感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる	⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤（複数の動機の競合）と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる	⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとまりとしてとらえるという知覚の特徴ついて考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる	⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか（遺伝の要因と環境の要因）について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる	⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法（心理検査）について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる	⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる	⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友だちとして選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30％×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。

授業の一般目標

「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するするとともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。

授業の到達目標

■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する
■	情意的領域	人の行動を客観的分析的に考える態度を身につける
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

「衣」に関わるさまざまな話題（装い、化粧、流行、身体イメージなど）について解説をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習]自分の「衣」をよく観察してみよう	⑨	[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習]流行に対する自分の態度を振り返ってみる
②	[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習]服を着ることの意味について考えてみる	⑩	[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習]自分の性格と流行との関係について考えてみる
③	[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習]装いで自分が伝えたいことについて考えてみる	⑪	テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習]顔に注目することについて考えてみる
④	[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習]なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる	⑫	テーマ] 化粧② [内容]髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習]自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる
⑤	[テーマ]「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習]自分の購入の決断過程を考えてみる	⑬	[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体（客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ）の関係について考える [授業外学習]自分の身体についての好き嫌いを考えてみる
⑥	[テーマ]「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習]商品のどのような特性を重視するかを考えてみる	⑭	[テーマ] 身体と被服② [内容]被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習]被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる
⑦	[テーマ]「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習]買った後の後悔経験を振り返ってみる	⑮	[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習]講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる
⑧	[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習]今年流行したこと・ものを思い出してみる	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30%×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	人の心と行動(健康福祉学科介護福祉士用) Human Mind and Behavior(L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士、社会福祉士受験資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

私たちは毎日周りの人たちとコミュニケーション(以下、COM)をしながら生活しています。私たちはどのような意図や動機を持って、他の人に働きかけるのでしょうか。また何かを伝えたいときに、私たちはどのような手段や方法を用いて伝えようとするのでしょうか。この授業では対人COM行動をとりあげ、他の人に自分の意図を伝え、他の人の意図を解釈することの関わる様々なことについて考えてもらいます。

授業の一般目標

対人COMの諸側面について理解するするとともに、それを通して、自分自身と周囲の他の人たちの精神的特徴と行動傾向、さらに人と人との関係について意識して考える態度を身につけることが目標になります。

授業の到達目標

■	認知的領域	対人COMの諸側面について理解する
■	情意的領域	人の行動を客観的分析的に考える態度を身につける
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる

授業計画(全体)

対人COMとはどのような過程か、また対人COMは他の対人行動、人間関係とどのように関連するのかについて概説します。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションと序論 [内容]授業の内容と進め方についての説明、COMとは何かについて考える [授業外学習]COMとは何かについて自分で考えてみる	⑨	[テーマ] 人間関係とCOM④ [内容] 人間関係が悪化あるいは崩壊する時に、COMはどのように変化するかについて考える [授業外学習]関係が悪化した時のCOMの特徴を考えてみる
②	[テーマ] 対人COM① [内容]対人COMにはどのような目的があるのか、どのような機能を持っているのかについて考える [授業外学習]他の人と話をする目的について考えてみる	⑩	[テーマ] 対人行動とCOM① [内容]自己表現の機能と、それを実現するためのCOMの手段について考える [授業外学習]自分らしさを表現するための方法を考えてみる
③	[テーマ] 対人COM② [内容] 対人コミュニケーションはどのように成立するのか、成立の条件は何かについて考える [授業外学習]COM成立には何が必要かを考えてみる	⑪	[テーマ] 対人行動とCOM② [内容] 援助行動におけるCOMの特徴について考える [授業外学習]援助者と被援助者のCOMの違いを考えてみる
④	[テーマ] 対人COM③ [内容] 言葉を用いたCOMについて考える [授業外学習]表現の仕方や表現の背後の意図を考えてみる	⑫	[テーマ] 対人行動とCOM③ [内容]他の人を説得するためのCOMについて考える [授業外学習]他者の考えや行動を変える方法を考えてみる
⑤	[テーマ] 対人COM④ [内容]言葉を用いないCOMの方法について考える [授業外学習]言葉によらない表現の仕方について考えてみる	⑬	[テーマ] 対人行動とCOM④ [内容] 嘘をつく、他の人をだますことについて考える [授業外学習]私たちはどのように嘘をつくかを考えてみる
⑥	[テーマ] 人間関係とCOM① [内容]人間関係を開始する時のCOM、特に挨拶について考える [授業外学習]私たちはなぜ挨拶をするのかを考えてみる	⑭	[テーマ] 現代社会とCOM① [内容] 携帯電話やインターネットなど、機械を介したCOMの特徴について考える [授業外学習]自分のスマホの使用状況について考えてみる
⑦	[テーマ] 人間関係とCOM② [内容]人間関係進展に伴ってCOMがどのように変化していくかについて考える [授業外学習]親しい関係の間でのCOMの特徴を考えてみる	⑮	[テーマ] 現代社会とCOM② [内容]異なる文化に属する人との交流におけるCOMの面白さと難しさについて考える [授業外学習]他文化の人との交流経験を振り返ってみる
⑧	[テーマ] 人間関係とCOM③ [内容]人間関係の深まりに欠かせない自己開示について考える [授業外学習]内面的なことを人に話すことの意味を考えてみる	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。
レポートは評価後返却するとともに、課題の意図や評価の観点について説明する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象)
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象)
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	ことばと人間A Language and Human Being A				担当教員	青沼一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、「私たちにとってことばとは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解について解説する。

授業の一般目標

ことばについて理解することにより、日常的な言語表現に気をくばり、より的確な表現ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	表現に対する意識を高める。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は、毎回一つのトピックについて考察し、回を重ねるたびにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。なお、毎回授業の初めに前回の授業内容のふり返りを行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑨	[テーマ]「比喩的表現について(2)」 [内容] 比喩的表現の有効性について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
②	[テーマ]「ことばとは人間にとってなにか」 [内容] 我々にとってことばとは何かを考える。 [授業外学習] 配布資料のより次週の予習を行う	⑩	[テーマ]「比喩的表現について(3)」 [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再度考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
③	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(1)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
④	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(2)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑫	[テーマ]「わかるとは(1)」 [内容]「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑤	[テーマ]「概念について(1)」 [内容] ことばと概念の関係について考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する	⑬	[テーマ]「わかるとは(2)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑥	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑭	[テーマ]「わかるとは(3)」 [内容]前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
⑦	[テーマ]「概念について(2)」 [内容] 概念の形成について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習]
⑧	[テーマ]「比喩的表現について(1)」 [内容] 比喩的表現の構造について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業内レポートおよびテストの結果で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・学則通り全授業の2/3以上の出席が必要。
・授業環境を著しく乱す行為が再度に亘った場合は受講停止とする。

関連科目			
教科書	特に使わない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟3階研究室(313)		

授業科目名	ことばと人間 B Language and Human Being B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。

授業の一般目標

言語学全般に関する基本的概念を理解する。
身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」・「語」・「文」・「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑨	[テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクリオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑩	[テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
③	[テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑪	[テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語／征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する
④	[テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学習] ことばとは何かを考える
⑤	[テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名：人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名：地名の命名法、英米の地名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑧	[テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイディンティティーとしての言語、言語と民族等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑯	[テーマ] 期　末　試　験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

期末試験（80%）と出席を含む積極的授業参加（20%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。
期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと
なお、この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語（例えば英語や日本語）の技能が向上するものと誤解しないようしてください。

関連科目	ことばと人間 A		
教科書	特に指定しない	参考書	講義の際にその都度紹介します
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	ことばと人間B Language and human B				担当教員	菊地　博/ジェリー　パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

In this class, students think about what sports and health are for human being.For this purpose, this class will examine current topics of sports and health to lead students to the deeper understanding of sports and health. In the later lessons, students make presentations about sports and health for human being. All lessons are given in English.

授業の一般目標

Students can acquire current knowledges of sports and health. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English. Studendents also can make some presentations about sports and health.

授業の到達目標

■	認知的領域	To acquire current knowledges of sports and health for human being.
■	情意的領域	To make summaries, write reports and make presentations voluntarily.
■	技能表現的領域	To write summaries and explain about sports and health. To write reports and make presentations about sports and health for human being.

授業計画（全体）

One topic is treated per a class. Students make a summary of, and write a report of it. Then students make a presentation about sports and health for human being.Through this learning, students are expected to deepen their understanding of sports and health for human being.

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation(Kikuchi) [内容] Explanation of the classes [授業外学習]Read the next topic before class.	⑨	[テーマ] Word list and explanations (Parangi) [内容] Proof reading of English scripts and feedback regarding over presentation content and continuity. [授業外学習]Students must prepare word lists for their presentations. Rehearsal
②	[テーマ] Vitamin D and and our health.(Kikuchi) [内容] Vitamin D helps our bodies in many ways. The latest discovery is how it helps people with breast cancer. V.D also helps other suffering people. [授業外学習] Read the next topic before class	⑩	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations [授業外学習] Decide a new topic of research and prepare a pacing plan for next
③	[テーマ] Age and abilities [内容] French man set a record in the 105-year-old category for his one-hour ride. We should do some excise on a daily basis to stay healthy. [授業外学習] Read the next topic before class.	⑪	[テーマ] Research new topic (Parangi) [内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.
④	[テーマ] Sports can change the society.(Kikuchi) [内容] Young women train to wrestle in conservative Indian state. Wrestling will improve things for women in patriarchal culture. [授業外学習] Read the next topic before class.	⑫	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.
⑤	[テーマ] Running in cold weather improves performance.(Kikuchi) [内容] The runners don't let cold temperatures and snow keep them from running outdoors. Running in cold weather has more benfits than one in hot. [授業外学習] Read the next topic before class.	⑬	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations. Introduction of new topic for next lesson [授業外学習] Find a current affairs article that is sports relevant to prepare.
⑥	[テーマ] Demonstration Power point presentation(Parangi) [内容] An introduction of Traditional Maori culture & games used for eye-hand coordination, balance, strength and rhythm [授業外学習] Develop a pacing plan for first power point presentation	⑭	[テーマ] Current Affairs sports (Parangi) [内容] Paper cutouts of current sports affairs around the world, presentation and discussion [授業外学習] Research a current sports event to report back to the group.
⑦	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.	⑮	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学習] Prepare another article for presentation
⑧	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容]Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.	⑯	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学習]

成績評価方法（方針）

Students who submit their report must have comments and returned to them.

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	40%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度		◎		30%
出席		◎		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

The maximum nunber of students is 10.
Establishment of grading standards set forth by the university in regards to studies of classroom hours.

関連科目	Language and human A		
教科書		参考書	Dictionaries
連絡先	菊地研究室　A515		

（社会分野）

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士・社会福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題を自分自身と関連付けながら、より鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑩	[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑪	[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑫	[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑬	[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料（映画）を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑭	[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑮	[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会（後期近代社会）がもつ特徴や問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する

成績評価方法（方針）

中間試験（50%）＋期末レポート（50%）で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン（50点中30点）に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外修学を行なうこと。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為（私語など）は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。

関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法 I		
教科書	特に指定せず、毎回自作のレジュメを配布する。参考文献はその都度提示する。	参考書	倉沢進他［編著］『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆［編著］『社会学になにができるか』八千代出版、1997
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間、さらに運動部活動に焦点を当てる。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。後半は学校運動部活動について歴史や現状を社会科学的に解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校運動部活動にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑩	[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性・秩序性・文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑪	[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校におけるリスクの問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑫	[テーマ] 運動部活動の教育社会学① [内容] 運動部活動の歴史と制度的位置づけについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑬	[テーマ] 運動部活動の教育社会学② [内容] 運動部活動における教師の超勤問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料（映画）を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑭	[テーマ] 運動部活動の教育社会学③ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」の問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑮	[テーマ] 運動部活動の教育社会学④ [内容] 運動部活動の存在意義を「生徒自治」の側面から解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する

成績評価方法（方針）

中間試験（50%）＋期末レポート（50%）で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン（50点中30点）に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外修学を行なうこと。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為（私語など）は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。

関連科目	社会学概論、社会調査法Ⅰ		
教科書	特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。	参考書	倉沢進他［編著］『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 神谷拓『運動部活動の教育学入門』大修館書店、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport				担当教員	高成田享
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。

授業の一般目標

消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。

授業計画（全体）

消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習]自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる	⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学習]クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ]消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習]自分nそれぞれの消費についてその目的を考える	⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習]どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習]万国博について調べる	⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習]日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習]自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える	⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習]マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習]自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える	⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容]消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習]人間の価値観について考える
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習]ブランドとは何かを考える	⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ（上） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習]自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える	⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]消費するスポーツ（下） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習]同上	⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定.

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				30%
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	○	10%
出席	○	○	○	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	toru@takanarita.com		

授業科目名	世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports				担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。

授業の一般目標

スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、それを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎的面についての理解を深める。

授業計画（全体）

本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容]国際経済・日本経済の現状とその中におけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習]GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる	⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容]第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習]第二次大戦後の現代史を予習しておくこと
②	[テーマ]資本主義の成立と近代スポーツ [内容]英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習]欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる	⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容]我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習]明治期から現代までの経済史を学習すること
③	[テーマ]資本主義経済の考察① [内容]資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習]資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく	⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容]90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミックスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習]失われた20年とは何を意味するか調べること
④	[テーマ]資本主義経済の考察② [内容]ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習]生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと	⑫	[テーマ] .直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容]経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習]経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べてる
⑤	[テーマ]資本主義経済の考察③ [内容]ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習]需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと	⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容]少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習]高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容]マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動 [授業外学習]GDPを構成する要素を調べておくこと	⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容]近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習]近代オリンピックの歴史を予習すること
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容]マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済（貿易、比較優位、国際収支と円高・円安） [授業外学習]マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと	⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容]2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習]東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容]英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習]英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	90%
授業内レポート	◎	○	○	10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	○	○	
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要 。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書		参考書	スポーツの経済学（マイケル・A ・リーズ）　スポーツ産業論（原田宗彦）
連絡先	遠藤　ys-endo@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	法学 Jurisprudence				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	CSCS
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。

授業の一般目標

日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、 離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 予備、または、中間考査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本的事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業には必ずテキストを携行すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)	参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	歴史学入門 Introduction to History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。

授業の一般目標

国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることが出来るようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようにする。
■	技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。

授業計画（全体）

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
③	[テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容]聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語の解説	⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し，生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語の解説
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応えて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容]100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑧	[テーマ] 織田信長，天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				30%
授業内レポート	○	○	○	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。
2 就職活動を念頭に役立つ具体の情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。
3 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	手作り教科書（34ページ）と四字熟語集（20ページ）を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話　0224－55－2052		

授業科目名	歴史と人間 Individual Elements in History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。

授業の一般目標

日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあってはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。
■	技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。

授業計画(全体)

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
②	[テーマ]聖徳太子, 理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
③	聖徳太子の意思を敬称, 大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれ一吉田松陰一 [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑭	[テーマ]日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけで新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけで全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語ことわざ解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート	○	○	○	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1 生きていく上での参考・ヒントになる情報を提供するので可能な限り講義を受講すること。
2 毎回レポートを提出させるので、講義内容を簡潔にまとめる訓練の場にして欲しい。
3 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224－55－2052		

（自然分野）

授業科目名	生物科学 Biological Science (L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で，体育科学や健康科学の科学的内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。

授業の一般目標

高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取組みが円滑に出来るようにしたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。
■	情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。
■	技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。

授業計画(全体)

選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認	⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解	⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解	⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー生産構造について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認	⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解	⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解	⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解	⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験の評価を70%、授業内レポートを20%とし、授業態度は10%で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	70%
授業内レポート	○	○	○	20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			△	10%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
難解なところもあると思うので、しっかり理解を深めて欲しい。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料提供。	参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	エコロジー概論 Guidance of Ecology(L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。

授業の一般目標

この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。

授業の到達目標

■	認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。
■	情意的領域	映像による理解を深める。
■	技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。

授業計画(全体)

選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育大学学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習]配布資料ににより内容の確認をする。	⑨	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解。
②	[テーマ]環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習]パワーポイントと資料の照合	⑩	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較
③	[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習]パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。	⑪	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。
④	[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合	⑫	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。
⑤	[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習]パワーポイントと配布資料の確認作業。	⑬	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。
⑥	[テーマ] 個生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習]映像と配布資料との照合と総合理解。	⑭	[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総合理解。	⑮	[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総合理解。
⑧	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験内容70%、授業内レポート20%、授業態度10%として評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	70%
授業内レポート	○	○	○	20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	△		△	10%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業態度10%、提出物20%とし、定期試験は70%合わせて100%としている。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかり理解すること。	参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics				担当教員	大内悦夫
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に応用できる統計学の基礎を学習する。

授業の一般目標

問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に応用できる統計学の基礎を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。
■	情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。
■	技能表現的領域	自分の考えが発表できる。

授業計画(全体)

講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習]本日の講義内容の復習
②	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
③	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習]本日の講義内容の復習
④	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容]文章題 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑤	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑥	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	△			5%
演習・実技	○			20%
授業態度			△	5%
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業に於いてその内容を検討する。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	特になし		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	大内研究室(A303)		

（教養演習）

授業科目名	体育系大学の基礎教養 Liberal Arts for Sport-oriented Students				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。

授業の一般目標

体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。

授業計画(全体)

全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回ごとに担当教員が変わることになる)。

授業テーマとその内容

＊ 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系:本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。
＊ 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第2回 学士力(1):導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学
　第3回 学士力(2):学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎
　第4回 学士力(3):英語、基盤科目の活きた事例
＊ 第5回 教員養成
＊ 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第6回 コーチング・コース
　第7回 トレーナー・コース
　第8回 マネジメント・コース
　第9回 健康福祉学科
　第10回 運動栄養学科
　第11回 スポーツ情報マスメディア学科
　第12回 現代武道学科
　第13回 子ども運動教育学科
＊ 第14回 英語の必要性
＊ 第15回 レポート作成・総評

成績評価方法(方針)

授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	○	○	◎	30%
授業外レポート	—	—	—	評価対象外
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	◎	○	○	70%
出席	—	—	—	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

＊ 2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。
＊ 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。
＊ 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	導入演習、学習基礎教養演習、仙台大学の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	クラス担任、各授業担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。

授業計画（全体）

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学習]自身の所属するクラスを事前に確認する。	⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学（社会科学3） [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学習]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。	⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学習]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学（人文科学1） [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の歴史を調べる。	⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学（自然科学1） [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学（人文科学2） [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。	⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学（自然科学2） [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学（人文科学3） [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の心理的側面について調べる。	⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学（自然科学3） [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学習]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。	⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学習]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学（社会科学1） [内容] 各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢（競技人口等）、社会的意義を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。	⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学習]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学（社会科学2） [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会（公式戦）マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。	⑯	[テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考査し、仙台大学の専門教養演習Ⅱ・Ⅲに向けた課題を明確化する。 [授業外学習]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。

成績評価方法（方針）

原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	◎	○	○	60%
授業外レポート	○	◎	○	20%
演習・実技	○	○	◎	20%
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題を確実にクリアすること。
2. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各受講クラス担当教員		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports & Cultural Context Ⅱ				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

仙台大学の専門教養演習Ⅰの学修を踏まえ、所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得し、深化させる。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。

授業計画(全体)

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学習]自身の所属するクラスを事前に確認する。	⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学習]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。	⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学習]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の歴史を調べる。	⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。	⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の心理的側面について調べる。	⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学習]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。	⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学習]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。	⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学習]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。	⑯	[テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考査し、仙台大学の専門教養演習Ⅲに向けた課題を明確化する。 [授業外学習]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。

成績評価方法(方針)

原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	◎	○	○	60%
授業外レポート	○	◎	○	20%
演習・実技	○	○	◎	20%
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題を確実にクリアすること。
2. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各受講クラス担当教員		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅲ Sports & Cultural Context Ⅲ				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱの学修を踏まえ、所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得し、集大成する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。

授業計画（全体）

全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学習]自身の所属するクラスを事前に確認する。	⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学（社会科学3） [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学習]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。	⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学習]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学（人文科学1） [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の歴史を調べる。	⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学（自然科学1） [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学（人文科学2） [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。	⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学（自然科学2） [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学（人文科学3） [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の心理的側面について調べる。	⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学（自然科学3） [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学習]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。	⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学習]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学（社会科学1） [内容] 各競技・種目の社会的位置づけ、趨勢（競技人口等）、社会的意義を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。	⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学習]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学（社会科学2） [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会（公式戦）マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。	⑯	[テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考査し、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学修成果を実践する。 [授業外学習]実践に向けた課題として挙げられた諸点について調べる。

成績評価方法（方針）

原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	◎	○	○	60%
授業外レポート	○	◎	○	20%
演習・実技	○	○	◎	20%
授業態度	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	欠格事項

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題を確実にクリアすること。
2. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各受講クラス担当教員		

授業科目名	全学教養演習【過年度・編入生】 Sophomore Seminar				担当教員	福田伸雄・久能和夫他
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができることが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。

授業の一般目標

学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。

授業の到達目標

■	認知的領域	あるテーマについての知識を深め、理解する。
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。
■	技能表現的領域	あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。

授業計画(全体)

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学習] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
②	[テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑩	[テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
③	[テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
④	[テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑬	[テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑭	[テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学習] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。
⑧	[テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。

なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 上にも述べたように出来るだけ休まないこと。出席を重視する科目である。
2. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。
3. この科目は卒業必修科目のため、単位修得できなければ、卒業することができない。特に4年生は、この科目の成績が「放棄」の場合は即、留年確定のため、くれぐれも注意すること。
4. この科目は各担当教員にクラス分け後、履修登録することになるので、履修登録だけでは、授業に参加することができない。クラス分けの方法について4月配布のオリエンテーション資料に書いてあるので、よく読んでおくこと。
5. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言いうる。		
教科書	プリント・資料を配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先			

≪海外文化科目≫

授業科目名	スポーツに何故英語が必要か Merits of Studying English in Sports				担当教員	山口貴久 他
開講内容	学年・学期	1年後期	授業方法	講義	関連資格	英語検定 TOEIC TOEFL
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本で愛好されているスポーツのほとんどは、そのルールが英語で定められている。スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等から、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。

授業の一般目標

スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解させる
■	情意的領域	英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解させる。
■	技能表現的領域	ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚させることにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げさせる

授業計画(全体)

本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 本講義の目的と方法 [内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する [授業外学習]自己のスポーツが英語とどう関わっているかについて情報を収集	⑨	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
②	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が、体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑩	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
③	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑪	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
④	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑫	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑤	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑬	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑥	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑭	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑦	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑮	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備
⑧	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備	⑯	[テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり [内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学習取組みを整理させる [授業外学習]必修科目との関わりについて予習復習

成績評価方法(方針)

ポートフォリオ作成内容を40%、2回のレポートを各30%で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	60%
授業外レポート	○	○	○	40%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

ポートフォリオ作成を授業外レポートと位置づける
大学設置基準で求められてる時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	総合英語A～D 就職のための英語		
教科書	特になし	参考書	スポーツと英語に関する文献
連絡先	山口研究室		

授業科目名	イングリッシュ・リーディングA English Reading A				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 次回の課題の予習をする	⑨	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Weight Training!' Song: Prince 'Wherever U Go, Whatever U Do' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
②	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Cultual Differences Don't Matter' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑩	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Feel-Good fashion' Song: Keb' Mo' 'Closer' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
③	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Nutrition' Song: Jackson 5 'I'll be There' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑪	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Psychology' Song: Lauryn Hill (feat. Bob Marley) 'Turn Your Lights Down low' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
④	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Women's Soccer!' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑫	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Johnny Depp: A modern-Day gentle pirate' Song: Nat "King" Cole 'Smile' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑤	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ryo ishikawa: Japan's Golf Superstar' Song: Bob Dylan 'Blowing in the Wind' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑬	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Green Light for Graffiti?' Song: The Velvet Underground 'I'm Set Free' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑥	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Best friends Forever' Song: R. Flack & D. Hathaway 'You've Got a Friend' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑭	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Germany's Turkish Delight' Song: Sam Cooke 'A Change Is Gonna Come' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑦	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sportsmanship!' Song: Michael Jackson 'Heal the World' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑮	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Night to Remember' Song: Louis Armstrong 'What A Wonderful World' [授業外学習] 今回の課題の復習と期末試験の準備
⑧	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ai Miyazato: Swinging towards Far Horizons' Song: Aretha Franklin 'Do Right Woman, Do Right Man' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学習]

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
2. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
3. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
4. 辞書は必ず持参すること。
5. 定員20名以下。

関連科目	イングリッシュ・リーディング B		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	A棟5階研究室（512）　オフィスアワー：火曜日10：20～11：50		

授業科目名	イングリッシュ・リーディングB English Reading B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 次回の課題の予習をする	⑨	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
②	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: The Beatles 'In My Life' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑩	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Bangkok: More Than Meets the Eye' Song: Stevie Wonder 'Living For The City' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
③	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Organic Farms Seek Willing Workers'' Song: Bruno Mars 'Just the way you are' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑪	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Singapore Cool' Song: Amy Winehouse 'Love is a Losing Game' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
④	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Guest Workers: A Complex Issue' Song: Donny Hathaway 'Someday We'll All Be Free' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑫	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Zhang Ziyi: Memoirs of an Asian Beauty' Song: Keb' Mo' 'I'll be Your Water' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑤	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The World's Worst Weed' Song: Marvin Gaye & Tammi Terrell 'Ain't No Mountain High Enough' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑬	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Thailand's J-Trend' Song: John Lennon & Yoko Ono 'Happy Xmas (War Is Over)' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑥	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Supplements' Song: Eric Clapton 'Tears in Heaven' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑭	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Chinese New Year Food: A Celebration of Life' Song: Bob Marley 'Redemption Song' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習
⑦	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'How Many Guns Are Enough?' Song: Chuck Berry 'Johnny B. Goode' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑮	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Paralympic Games & Special Olympic World Games' Song: John Lennon 'Imagine' [授業外学習] 今回の課題の復習と期末試験の準備
⑧	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Dressing Like a Hippie' Song: Otis Redding 'Try a Litte Tenderness' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学習]

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと
2. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
3. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
4. 辞書は必ず持参すること。
5. 定員20名以下。

関連科目	イングリッシュ・リーディング A		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	A棟5階研究室（512）　オフィスアワー：火曜日10：20～11：50		

授業科目名	英会話A English Conversation A				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画(全体)

Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction of the class & grading. [内容] Description of the class, semester schedule outline + self introduction preparation and key English instructions [授業外学習] Memorize self-introductions and key English phrases	⑨	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学習] Memorize key vocabulary
②	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学習] Conversation model presentation	⑩	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学習] Introduce your family preparation
③	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学習] Conversation model presentation	⑪	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Compare people [授業外学習] MyEnglishLab online study
④	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Provide personal information and introduce someone to the group [授業外学習] Grammar + conversation model presentation	⑫	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学習] Textbook assignmnent + MyEnglishLab online study
⑤	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Accept or decline an invitation [授業外学習] Conversation model presentation	⑬	Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学習] Memorize key vocabulary
⑥	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学習] Unit 1+2 review - MyEnglishLab - online study	⑭	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学習] Memorize key vocabulary and phrases
⑦	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Make plans to see an event + talk about musical tastes [授業外学習] Study for Unit 1&2 test	⑮	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学習] Unit 3 & 4 review ; study for test
⑧	[テーマ] Unit 1&2 Test [内容] Test [授業外学習] Reading Unit 3 preview	⑯	[テーマ] Test Unit 3 & 4 [内容] Test Unit 3 & 4 [授業外学習] None

成績評価方法(方針)

Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				35%
授業態度				35%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

Students serious about improving their English abilities and committed to the 1st & 2nd Semesters should apply for this course. In principle, new students will not be accepted in the 2nd Semester without special approval from Jerry. Students should attend 2/3 of all classes & score above 60% in their final score to qualify for credit. Instantaneous feedback after oral tests and feedback after written tests will also be employed. Progress reports will be given in "one on one," interviews, as well as extra advice for improvements.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	LC棟2階 G201研究室 Jerry's contact email: j-parangi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	英会話B English Conversation B				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画（全体）

Top Notch 1 (3rd Edition) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on ″English for today's world.″ The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Review of class grading. [内容] Briefing of second semester syllabus. Pair discussion about summer vacation. Start Unit 6 preview [授業外学習] Study key vocabulary	⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学習] Study for Unit 7 short test + Unit 9 conversation model
②	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape [内容] Review last class + Plan an activity with someone [授業外学習] Memorize conversational model presentation	⑩	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Unit 7 short test + Unit 9 - Discuss schedules and buying tickets [授業外学習] Memorize key vocabulary
③	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape [内容] Talk about habitual activities and plans [授業外学習] Memorize coversational model presentation	⑪	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Unit 7 Test handback and advice. Understand airport annoucements. [授業外学習] Memorize conversation model for presentation
④	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape Discuss fitness and eating habbits + describe your routines [授業外学習] Reading comprehension + Unit 6 review	⑫	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Book travel services [授業外学習] Memorize conversation model for presentation
⑤	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Greet someone arriving from a trip [授業外学習] Study for Unit 6 short test	⑬	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Describe transporation problems [授業外学習] Unit 9 review + study for final test
⑥	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Administer Unit 6 short test + continue with Unit 7 conversation model [授業外学習] Memorize conversation model for presentation	⑭	[テーマ] Final test [内容] Administer the final test [授業外学習] None
⑦	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Unit 6 test handback + advice. Continue with Unit 7 Ask about someones vacation [授業外学習] Memorize conversation model for presentation	⑮	[テーマ] Test handback with feedback [内容] Test handback with class feedback + individual feedback of overall progress in class. Sports related media study [授業外学習] Complete comprehension questions from the media study
⑧	[テーマ] Unit 7 - On vacation [内容] Discuss vacation preferences + describe vacation experiences [授業外学習] Unit 7 review	⑯	[テーマ] Complete the media study [内容] Complete the media study + check answers for comprehension [授業外学習] None

成績評価方法（方針）

Homework/online study 10%, Participation/ attitude 30%, Presentations 30%, Tests 30%

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				35%
授業態度				35%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

This is a continuation course from the first semester. In principle, new students will not be admitted into the 2nd semester. Students are required to attend 2/3 of all class without prior approval from Jerry. To achieve full credit in the course students must achieve an average of at least 60% on their overall marks. Instantaneous feedback will be given for oral presentations, while test feedback will be employed for the class with common mistakes highlighted and advice give for improvement. Progress reports will be give in ″one on one,″ interviews as well as extra advice for improvements.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	LC棟2階 G201研究室 Contact email: j-parangi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	イングリッシュ・トランスレーション English Translation				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学術論文・レポート・発表等で要求されるアカデミック・ライティングについて、その基礎となるパラグラフ・ライティングを中心に授業を行う。

授業の一般目標

アカデミック・ライティングを習得することにより、論理的で明快な文章（英文）が書けるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	論理的文章とそれ以外の文章（情緒的/文学的文章など）との違いがわかる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	パラグラフ・ライティング形式で文章（英文）を書く

授業計画（全体）

本授業は以下の3部から成る。
1）英語の基本事項（文法）の確認　2）英文読解　3）パラグラフ・ライティングの説明、およびその形式に従っての英作

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明、およびパラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑨	[テーマ] 強調構文、パラグラフ・ライティング [内容] 英語における強調構文の確認、および最終レポート（英文）のテーマ、パラグラフ構成案の作成 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
②	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 英語における形容詞句の確認 パラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑩	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
③	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き、英語における形容詞句およびパラグラフ・ライティングの確認を行う。 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑪	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
④	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑫	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑤	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑬	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑥	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（III） [内容] 関係代名詞節の確認（関係代名詞を用いた文の作成）、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑭	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑦	[テーマ] 関係副詞節、パラグラフ・ライティング [内容] 関係副詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑮	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員により最終チェックを受ける [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑧	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング [内容] 現在分詞による名詞修飾の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑯	[テーマ] 最終レポート提出

成績評価方法（方針）

出席状況、課題の提出状況および最終レポートの出来具合で評価する。最終レポートの返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート			○	40%
授業外レポート			◎	60%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行なうこと。
・学則通り全授業の2/3以上の出席が単位取得には必要となるが、正当な理由なく欠席が重なるときは受講を止めてもらう場合がある。
・卒業単位を埋めるためとの理由で履修することは厳に慎んでもらいたい。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟5階研究室（512）　オフィスアワー：火曜日10：20～11：50		

授業科目名	スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English				担当教員	マーティ・キーナート / Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用句となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。

授業の一般目標

学生は英語の知識、読解、聴解力を高め上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用句にはいりこんだかを学習し会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用句に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。
■	情意的領域	スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

"REMEMBER THE TITANS"「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしながら、各テーマの英語フレーズと用法、そしてスポーツとその背景についても講義する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方。北米のスポーツ文化の背景の紹介。 [授業外学習]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。	⑨	[テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
②	[テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑩	[テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
③	[テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑪	[テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
④	[テーマ] チャプター 4,5.6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑫	[テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑬	[テーマ] Making Documentory 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑥	[テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑭	[テーマ] Making Documentory 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑦	[テーマ] チャプター 14,15,16, [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑮	[テーマ] 全体総括 [内容]　半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学習]　期末テストへむけて復習
⑧	[テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり。 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑯	[テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・講義受講人数は80人に限定。
・この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	教科書なし。その都度プリント配布。	参考書	
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	ドイツ語 I Introduction to German I				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語の初等文法を学ぶ。まずは、文法を一歩一歩急がず解説してゆく。その際、教科書として<Themen Aktuell I>を用いる。この教科書は、外国人向けのドイツ語学校あるいはドイツ語コースで一般的に用いられており、すべてドイツ語で書かれている。練習問題も豊富で、記述問題、会話訓練、聞き取りなど、さまざまな仕方でドイツ語に接近してゆくことができる。

授業の一般目標

文法がわからないと、ドイツ語は辞書も引けません。そこで、まず文法の初歩を理解できるようにすることが目標です。冠詞および名詞の格変化、人称代名詞、動詞の人称変化です。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語で積極的に話してみる。

授業計画(全体)

毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ドイツおよびドイツ語への導入 [内容] Allgemeine erklärung über deutsche Kultur, Politik und Wirtschaft und auch natürlich Aussprache [授業外学習] シラバスをよく読む。ドイツに関して興味のあることを調べる。(1S)	⑨	[テーマ] 約束する、情報を求める [内容] Wann fährst Du morgen vom Bahnhof ab? Halb elf. Dann können wir uns gegen zehn Uhr vor dem Bahnhof treffen? Mein Freund kommt mit. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
②	[テーマ] ドイツ語による挨拶 [内容] Guten Morgen. Wie geht es Ihnen, Professor? Danke, gut. Und Ihnen? Sehr Gut, Ausgezeichnet. Bis bald. Auf Wiedersehen! [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑩	[テーマ] 報告する(はがきを書く) [内容] Am Morgen früh gehe ich am Strand spazeiren. Danach esse ich schönes und reichhaltiges Frühstuck. Dann lese ich den ganzen Tag einen Roman. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
③	[テーマ] 人称の概要 [内容] Du bist so schön! Sie sind so schön! Ich bin Student. Du bist auch Student. Sie ist Studentin. Wir sind Studenten! [授業外学習] 小テストの復習	⑪	[テーマ] 一日の出来事を記録する [内容] Um sieben stehe ich auf. Gegen elf gehe ich zur Uni. In der Mensa esse ich Nudeln. Am Nachmittag besuche ich die Vorlesung von Prof. K. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
④	[テーマ] 一般動詞の人称変化 [内容] Ich geht heute zur Uni. Du gehst nicht. Er geht auch. Wir gehen zusammen. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑫	[テーマ] 予定の言い方 [内容] Ich habe vor, morgen nachmittag nach Sendai zu fahren, um meine Freundin zu sehen. Dann kann ich nicht mit Dir mitfahren. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑤	[テーマ] ものを名指して記述する [内容] Das ist mein Buch. Das ist nicht dein Buch. Das Buch ist weiß. Das Buch ist dick. [授業外学習] 小テストの復習	⑬	[テーマ] 住む家を探す [内容] Man sucht nach einer schönen Wohnung. Aber es ist schwer, so eine zu finden. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑥	[テーマ] 値段の言い方 [内容] Das Buch kostet 24 Euro. Ist das nicht so teuer? Für seine Dicke ist es preiswert, glaube ich. [授業外学習] 小テストの復習 (1S)	⑭	[テーマ] 映画を見る [内容] Einen Deutschen Film sehen wir in der Klasse, ohne ins Kino zu gehen. Welcher Film soll gewählt werden, weiß niemand noch jetzt. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑦	[テーマ] レストランでの注文 [内容] Ich möchte Schweinebraten mit Salat essen. Ich möchte auch Bier trinken. Was möchtest Du noch etwas haben? [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑮	[テーマ] これまで全体の復習 [内容] Fassen wir zusammen, was wir bisher lernen, um uns für das Examen von nächster Woche vorzubereiten. [授業外学習] 試験の準備(3S)
⑧	[テーマ] レストランでの会話と勘定 [内容] Das Essen ist sehr gut. Ja, das schmeckt gut. Dann zahlen bitte! Zusammen oder getrennt? Zusammen. 38 Euro bitte. 40 Euro, stimmt so. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑯	[テーマ] 筆記・口頭試験 [内容] Schriftliche und mündliche Prüfung. [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席及び授業態度が重要。授業内での作業が多いので、それに対する取り組みも評価の対象となる。随時、小テストを行う(50点分)。最後の試験は50点分。小テスト、試験については、前者は授業内、後者は随時返却予定。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○	◎	50%
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

積極的関与を求める。予習復習を課す。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506)オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ Introduction to German Ⅱ				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語Ⅰを履修していることが前提となる。前期で初等文法は終わっていないので、前半はその続き。さらに、後半では自分史(これまでの来歴とこれからの展望)を書いて、発表する。

授業の一般目標

ドイツ語の初等文法を終えることが目標である。さらに、ドイツ語で自分を語る。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語を使って表現できる。

授業計画(全体)

前期に引き続き次のようにする。毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] タバコを呑むべきではない(sollen) [内容] Du sollst nicht so viel rauchen. Vielmehr möchte ich sagen, du sollst aufhören, zu rachen. Aber das ist meine Freiheit, nicht wahr? [授業外学習] シラバスをよく読む(1S)	⑨	[テーマ] 願望を言う、評価する、非難する(比較級) [内容] Lieber möchte ich einen Kaffee trinken. Am besten trinkt man einen Kaffee ohne von anderen angesprochen zu werden und stumm alleine. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)
②	[テーマ] 仲間を激励する [内容] Ich kann nicht mitspielen. Du mußt aber unbedingt mitspielen. Ich möchte ja gern, aber ich kann wirklich nicht. Bald geht es Dir bestimmt besser. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑩	[テーマ] 自分史を書く(1) [内容] Zuerst schreibt man die Erreignisse im Leben, die man bisher erfahren hat, in Japanisch. [授業外学習] 自分史を推敲する
③	[テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了) [内容] Ich habe gestern Fußball gespielt. Dabei bin ich plötzlich gefallen und Schmerzen im Fuß gehabt. Mein Freund hat den Arzt geholt. [授業外学習]	⑪	[テーマ] 自分史を書く(2) [内容] Dann versucht man mit eigener Kraft, es ins Deutsche zu übersetzen. [授業外学習] ドイツ語に直す(1S)
④	[テーマ] 報告を読む、確認する(現在完了) [内容] Ich bin eine Woche in Berlin. Gestern habe ich zum erstenmal hier Sushi-Bar besucht, weil ich erst vom deutschen Essen müde geworden bin. [授業外学習] 小テストの復習をする (1S)	⑫	[テーマ] 自分史を書く(3) [内容] Den Versuch fortsetzen. [授業外学習] さらにドイツに直す(1S)
⑤	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(1) [内容] Ich bin einfach froh, dass ich die Chance habe, ein weiteres Halbfinale bei einem Grand-Slam-Turnier zu spielen“, sagte die Russin nach ihrem Sieg. [授業外学習]	⑬	[テーマ] 自分史を書く(4) [内容] Die Übersetzungen werden von mir korrigiert oder umgeschrieben. [授業外学習] さらにドイツ語に直す(1S)
⑥	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(2) [内容] „Es ist ein Wunder, dass ich das Spiel noch gewonnen habe“, sagte Ferrer nach dem Kraftakt über 3:44 Stunden. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑭	[テーマ] 自分史を完成する。 [内容] Die Biographien werden so viel wie die Zahl der Studenten kopiert und je in einem Heft gebunden. [授業外学習] 発表の練習をする(3S)
⑦	[テーマ] ベルリン紹介(1) [内容] Berlin ist die größeste Stadt in Deutschland. Man sagt manchmal, sie ist keine deutsche Stadt. Mit DVD die Szenen in Berlin vorstellen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑮	[テーマ] ドイツ語で自分史を発表する [内容] Jede Studenten/-innen präsentieren eigene Biographie und seine zu- künftige Hoffnung auf deutsch. [授業外学習]
⑧	[テーマ] ベルリン紹介(2) [内容] Berlin kennenlernen heißt in die deutsche Geschichte hineingehen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成果として、皆の自分史と将来展望をドイツ語でまとめたものを文集にまとめる。それが50%。毎回の小テストが50%。小テストについては授業内で返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技	◎	—	◎	50%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

熱心に参加すること。予習復習をすること。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506)オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	スペイン語 I Introduction to Spanish I (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学習]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう	⑨	[テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
②	[テーマ]発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑩	[テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
③	[テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑪	[テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
④	[テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑫	[テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑤	[テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑬	[テーマ] 数詞 [内容] 数を表わす言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑥	[テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑭	[テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑦	[テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑮	[テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	スペイン語 II		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	スペイン語Ⅱ Introduction to Spanish II (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語Ⅰに引き続き、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②簡単な会話を覚え、場面に応じて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語Ⅰに引き続いてスペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]動詞ser① [内容]serの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑨	[テーマ]動詞querer① [内容]quererの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
②	[テーマ]動詞ser② [内容]serを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑩	[テーマ]動詞querer② [内容]quererを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
③	[テーマ]動詞estar① [内容]estarの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑪	[テーマ]動詞poder① [内容]poderの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
④	[テーマ]前置詞 [内容]主な前置詞の用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑫	[テーマ]動詞poder② [内容]poderを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑤	[テーマ]動詞estar② [内容]estarを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑬	[テーマ]代名詞 [内容]目的語になる代名詞 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑥	[テーマ]動詞ir① [内容]irの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑭	[テーマ]再帰動詞① [内容]再帰動詞の活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする
⑦	[テーマ]所有形容詞と指示形容詞 [内容]所有を表わす言葉、指し示す言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑮	[テーマ]再帰動詞② [内容]再帰動詞を用いた表現 [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ]動詞ir① [内容]irを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この科目を受講するためには、「スペイン語Ⅰ」の単位取得が必要です。
・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	スペイン語Ⅰ		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	中国語Ⅰ Chinese Ⅰ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 第6課 何がありますか [内容] 動詞、助数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 単母音の発音練習、声調の発音特徴、声調の発音練習 [授業外学習]声調の抑揚に富む早口を正しく発音できる	⑩	[テーマ] 第7課 ホテルにチェックイン [内容] 完了を表す語、選択疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 子音の発音練習、簡単な挨拶文を勉強する [授業外学習] 中国語での挨拶を身につける	⑪	[テーマ] 第8課 何時に行きますか [内容] 経験を表す語、時をあらわす語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第1課 自己紹介 [内容] 自己紹介の言い方、人称代名詞 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第9課 タクシーに乗る [内容] 前置詞、時間の長さを表す語、目的語をもつ動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第2課 これは何ですか [内容] 指示代名詞(1)、否定表現、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第10課 試着と支払い [内容] 助動詞、前置詞、動詞の重ね用法、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第3課 これはいかがですか [内容] 指示代名詞(2)、形容詞述語文、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第4課 買い物 [内容]数詞、助詞、数量を表す語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第5課 どこにありますか [内容] 場所指示代名詞、動詞、助動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとすること。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらず積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	中国語Ⅱ(後期)		
教科書	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese Ⅱ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。文法と会話の学習を中心に授業を進めて行く。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できるようになる;中国語で自己紹介及び簡単な日常会話ができるようになる

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標とやり方の説明、成績評価の方法 [授業外学習] 前期で学習した内容を復習する	⑨	[テーマ] 第8課 友達に電話する [内容] 方向補語、使役文、謙語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] 第1課 北京に到着 [内容]連動文、動詞句主語、数詞、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑩	[テーマ] 第9課 郵便局 [内容] "如果～的话，就…"、前置詞"把"、方向補語"到"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] 第2課 道を尋ねる [内容] 疑問詞"怎么"、動詞＋"了"、反復疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑪	[テーマ] 第10課 医者に行く [内容] "有一点儿"、助動詞"要"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第3課 買い物 [内容]動詞＋"一点儿"、比較表現、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第11課 家庭訪問 [内容]助動詞"用"、進行形、"就是"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第4課 バスに乗る [内容] 名詞修飾詞、副詞、結果補語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第12課 謝恩会 [内容] "就要～了"、変化を表す語、"有了"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第5課 新しい友達 [内容] 様態補語、2つの"了"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第6課 外食 [内容] 助詞"过"、主述述語文、動詞"喜欢"、"多"、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第7課 約束 [内容] 動詞"听说"、"可～了"、助動詞"打算"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとこと。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらずに積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	中国語Ⅰ(前期)		
教科書	《最新版》2年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	本気で学ぶ中国語 趙玲華 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	韓国語Ⅰ Korean Ⅰ				担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングル文字のしくみから読み・書き、韓国語を学ぶとき最も苦手とする発音の練習、日常生活に必要な基礎的な表現について講義する。また、言葉と関連して、韓国のスポーツ事情・文化・歴史などについても紹介しながら授業を進めていく。

授業の一般目標

テキストをもとに、「聞く・読む」基礎的な能力を学習し、「話す・聞く」能力の習得を目指して学習することを目標とする。なお、スポーツ事情・文化・歴史に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国語の文字(ハングル)を読める。韓国語の特徴が理解できる。
■	情意的領域	韓国語の背景や韓国の文化に触れ、外国語習得や異文化交流に更なる関心を持つ。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音、文字、ならびに簡単な日常会話をわかりやすく説明する。テキストに沿ってゆっくり進み、全部で15回の講義項目を行い、2年次の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。文字と発音の段階から、あいさつなど基礎的な会話の要素もくわえ、知識と応用のバランスに配慮した授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、韓国語の簡単な挨拶紹介 [授業外学習] 韓国・韓国語に関して興味のあることを調べる	⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いません の表現の練習、教科書6課の練習問題 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学習] 教科書1課を読んでおく	⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得、教科書7課の単語 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
③	[テーマ]韓国語文字(ハングル)の仕組と発音] [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学習] 教科書2課を読んでおく	⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問できるように練習、教科書7課の練習問題 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
④	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学習] 教科書3課を読んでおく	⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞について日本語と比較しながら学習 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
⑤	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学習] 教科書4課を読んでおく	⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容]「です・ます」体の作り方学習 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑥	[テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体① [内容]「私は～です。～といいます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく	⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成を韓国語で言えるように練習、 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑦	[テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体② [内容]「私は～です。～といいます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 1－8課まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いません の表現学習、教科書6課の単語 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえに返却する。
これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。
＊大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	韓国語Ⅱ		
教科書	『新チャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著	参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20～16:00)		

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean Ⅱ				担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、日常会話を学習し、単語・文法は、会話を行いながら韓国人がよく使うパタン一学習を練習する。また、基礎的な文章を応用して、あいさつ、買い物、道を尋ね、案内などの日常会話を学ぶ。韓国人とのコミュニケーションができるように、ペアを組んで発表するなど会話中心の授業を行う。

授業の一般目標

実用的な会話場面を掲示し、毎回生徒同士がペアを組んで練習することで、自然な基礎会話能力を身に付ける。学生の興味・関心があるテーマ(スポーツ、旅行)を取り上げ、比較することで韓国と日本の文化をより深く理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国人と日本人の会話スタイルの類似点・相違点が理解できる。
■	情意的領域	韓国の文化について触れることによって、異文化交流に関心を持ち、広い世界観を確立する。
■	技能表現的領域	韓国語で日常会話ができる。

授業計画(全体)

韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、実用的な日常会話ができるように、学生同士あるいはクループで練習を行う。会話を中心に楽しく韓国語の会話を身につけるように授業を行う。(学生の学習の進度によって、授業計画を若干変更する場合があります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習	⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容]「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習、教科書11課の練習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑩	[テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習、教科書11課 [授業外学習] 文末表現、動作の進行や状態表現の復習する
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定 練習、教科書9課の単語の学習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑪	[テーマ] 年齢に関する表見 [内容] 年齢の数え方、これまで9課から11課まで学んだ表現を用いて会話の練習 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習、 [授業外学習] 教科書10課を読んでおく	⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容]「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去型の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習、教科書10課の単語の学習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑬	[テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習、教科書12課 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 教科書9課、10課で学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容]「～することができる」の可能表現の練習、教科書13課の単語 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習、教科書10課 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、教科書13課、9課から13課までの総括 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容]「明日何をするつもりですか。」を用いてよく使われる文末表現の学習、教科書11課の単語の学習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえに返却する。
これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。
＊大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	韓国語Ⅰ		
教科書	『もっとチャレンジ韓国語』 白水社 金順玉著	参考書	『新チャレンジ韓国語』、白水社 金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20～16:00)		

≪人生設計科目≫

授業科目名	キャリアプランニング Ⅰ Career Planning Ⅰ (L.)				担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これをやっているのか)を吟味することを通じ、大学生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。

授業の一般目標

ライフステージの一段階として大学生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。

授業計画(全体)

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。	⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。	⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者 (クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。	⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは (クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。	⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか (クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える。	⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑥	[テーマ] 教師になるには? (クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる。	⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。	⑮	[テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	30%
授業外レポート	△	△	△	20%
演習・実技	△	△	△	20%
授業態度	◎	◎	◎	30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。また、クラス合同の場合の実施教室等は掲示により周知します。なお、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	キャリアプランニングⅡ・キャリアプランニングⅢ		
教科書	「キャリアプランニング Ⅰ 演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	クラス担任教員		

授業科目名	キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ(S.)				担当教員	キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

本科目は、キャリアプランニングⅠで学んだことを活かしながら、将来の進路について各々が考えるきっかけやヒントを得るための科目である。講義形式での学びやインターンシップ実習(職業体験学習)の機会を通じて、将来への視圏を拡大するとともに、来たるべき社会人生活のありかたを実践的に理解する機会として欲しい。

授業の一般目標

「自分と社会人生活・進路選択」をメインテーマに、様々な学びの機会を通じて自分自身を自覚的に捉え、今後の進路について具体的に考えることができるようになることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。また、職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持てる。
■	情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより強くする。
■	技能表現的領域	社会人らしい考え方、話し方をすることができる。

授業計画(全体)

下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日掲示する。
なお、本科目は実習か講義かのコースを選択でき、また実習はさらに幾つかのプランに分かれる。詳細は第1回・第2回のガイダンスで周知するが、事前に夏休み期間の予定を確認すること(実習・講義共に夏季休暇期間の実施がメインとなるため)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 第1回オリエンテーション [内容] 本科目の基本的な流れとコース説明、履修の仕方を概説する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。	⑨	[テーマ] 社会を知る① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 社会で求められる能力を調べておく。
②	[テーマ] 第2回オリエンテーション [内容] コースごとの詳細な説明を行い、コース選択を実施する。 [授業外学習] 第1回オリエンテーションの内容を見直す。	⑩	[テーマ] 社会を知る② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 社会で求められる人格を調べておく。
③	[テーマ] 第3回オリエンテーション [内容] コースごとに分かれ、それぞれの今後の進め方を概説する。 [授業外学習] 第2回オリエンテーションの内容を見直す。	⑪	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 自分のコミュニケーション能力を検討する。
④	[テーマ] 将来の進路を考える① [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習の指示等] 自分なりに自己分析の方針を考える。	⑫	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 自身のコミュニケーション力を再検討する。
⑤	[テーマ] 将来の進路を考える② [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習] わからない職業は自分なりに調べておく。	⑬	[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 将来の夢や希望を再確認する。
⑥	[テーマ] 将来の進路を考える③ [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習] 分析結果から見た自分像について考える。	⑭	[テーマ] キャリアデザイン② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 将来に向かってやるべきことを確認する。
⑦	[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:事前指導 [授業外学習] 一般的マナーや礼儀を調べておく。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学習] 提出物などに漏れがないか確認する。
⑧	[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:事後指導 [授業外学習] 社会的マナーや礼儀を調べておく。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の主材料は出席状況および授業もしくは実習参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	
授業内レポート	○	○	○	20%
授業外レポート	○	○	○	20%
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度	◎	◎	◎	30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。なお、大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅢ		
教科書		参考書	
連絡先	キャリアプラニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知する)		

授業科目名	キャリアプランニングⅢ Career Planning Ⅲ(L.)				担当教員	学科・コースのグループ担当教員 キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

3年次は、将来の進路について明確なイメージを固め,行動する時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。

授業の一般目標

1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、外部講師を招聘し、職業に対するありうべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。
■	情意的領域	自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。
■	技能表現的領域	それぞれの進路に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。

授業計画(全体)

下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、学科やコースのグループごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合には全3年生合同で授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。	⑨	[テーマ] 大学院という進路(合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学習] 大学院の情報を収集する。
②	[テーマ] 自己PRとしての自己紹介 (各グループ) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学習]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。	⑩	[テーマ] 就職活動の全体像(合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学習] 就活支援サイトをチェックする。
③	[テーマ] 就職の道すじ(各グループ) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学習] 就職活動のスケジュールを組み立てる。	⑪	[テーマ] 自己プロデュースの方法 (合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学習] 前期の学習内容を振り返る。
④	[テーマ] 敬語の使いかた・電話ーのマナー(各グループ) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学習] 敬語等の使い方を調べる。		[テーマ] 対人スキルを磨く(合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学習] 対人スキルを日常で実践してみる。
⑤	[テーマ] 自己分析の実際(各グループ) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学習] 自分のアピールポイントを考える。	⑬	[テーマ] 訴求点を探す(合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学習の指示等] 自分の長所を考える。
⑥	[テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各グループ) [内容] 自己PR書を試作してみることにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学習] 他己分析をしてみる。	⑭	[テーマ] 視野を拡げる(合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学習] 求人票を読む。
⑦	[テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各グループ) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学習] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。	⑮	[テーマ] 「働く」を疑似体験する(合同) [内容] 体験型の就活ナビゲーションを通じて、新社会人になることを具体的にイメージする。 [授業外学習] 就活に必要な用具などを揃える。
⑧	[テーマ] 夏休みの過ごし方(合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学習] 夏休みの行動指針を立てる。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況および作業への取組状況を主材料とします。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	50%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

進路選択時に不利を背負わないよう、この授業を機会に積極的な情報収集と行動を心がけてください。なお、大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅡ		
教科書	「キャリアプランニングⅢ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	学科・コースのクラス担当教員(オリエンテーション時に告知します)		

2. 専門基礎科目

≪講義≫

授業科目名	健康福祉総論 The General Remarks of Health and Well-being				担当教員	小池/橋本/小松正/小澤/大山/関矢/ 高崎/笠原/後藤/馬/堀江/江口
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	健康づくり運動サポーター、介護福祉士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

仙台大学体育学部健康福祉学科で構築してきたこれまでの「健康福祉」の考え方と隣接分野の関連性について解説する。

授業の一般目標

健康福祉学科で学ぶことの意義を理解し、将来の自分の方向性について考える。体育、スポーツを基礎とした健康と福祉などの関係性について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	体育、スポーツ、健康、福祉などの健康福祉に関連するキーワードを理解し健康福祉学科の教育方針を理解する。
■	情意的領域	体育、スポーツを基礎とした健康づくり・健康増進、介護福祉、教育などに関心が深まり、自分の将来像を具体化できる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

健康福祉学科の教員が健康福祉とそれぞれの専門分野の関係についてオムニバス形式で講義する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション「健康福祉総論とは」(小池) [内容]「健康福祉総論」の学習目標と学習の進め方など。 [授業外学習]授業概要を事前に読む。	⑨	[テーマ] 健康福祉と障害者スポーツ(関矢) [内容] 健康福祉学科が推進する障害者スポーツのかたち。 [授業外学習]障害者スポーツについて新聞や雑誌から事例を調る。
②	[テーマ]健康福祉と介護予防(橋本) [内容] 健康福祉学科が推進する介護予防のかたち。 [授業外学習]わが国の現在の介護予防事業についての事前学習。	⑩	[テーマ] 健康福祉と学校保健(江口) [内容] 養護教諭の役割 [授業外学習]学校における養護教諭の役割を知る。
③	[テーマ] 健康福祉とスポーツ(小池) [内容] 「体育」「スポーツ」と「健康福祉」の接点。 [授業外学習]スポーツ、体育の社会における役割についてまとめる。	⑪	[テーマ] 健康福祉と医学(小澤) [内容] 「医学」と「健康福祉」の接点と相違点。 [授業外学習]医療の役割を事前学習。
④	[テーマ] 健康福祉とリハビリテーション(笠原) [内容] 健康福祉とリハビリテーションの接点。 [授業外学習]リハビリテーションについての事前学習。	⑫	[テーマ] 健康福祉とメンタルヘルス [内容] ストレスと健康について。 [授業外学習]ストレスについての事前学習。
⑤	[テーマ] 健康福祉と介護福祉(大山) [内容] 健康福祉学科だからできる介護福祉のかたち。 [授業外学習]介護福祉士の仕事のイメージと役割についてまとめる。	⑬	[テーマ] 健康福祉と健康増進(小松正) [内容] 健康福祉学科が推進する健康増進のかたち。 [授業外学習]地域の健康づくりについての事前学習。
⑥	[テーマ] 健康福祉と看護(堀江) [内容] 「看護」「介護」と「健康福祉」の接点と相違点。 [授業外学習]看護についての事前学習。	⑭	[テーマ] 健康福祉と社会福祉 [内容] 健康福祉学科が目指す社会福祉のかたち。 [授業外学習]社会福祉の歴史についての事前学習。
⑦	[テーマ] 健康福祉・国際事情(中国の健康支援)(馬) [内容] 中国における健康支援の実際。 [授業外学習]日本と海外の健康支援事情の違いについてまとめる。	⑮	[テーマ] 健康福祉関連資格と仕事(後藤) [内容] 健康福祉を支える人と資格。 [授業外学習]将来の仕事と資格取得について整理する。
⑧	[テーマ] 健康福祉とレクリエーション(高崎) [内容] 健康福祉学科が推進するレクリエーションのかたち。 [授業外学習]レクの言葉のイメージと生活への役割についてまとめる。	⑯	[テーマ] 試験(最終レポート) [内容] 健康福祉学科での学びを自分の将来にどのように反映させるのかを考える。 [授業外学習]健康福祉学科における学びの目標と将来の仕事をまとめる。

成績評価方法(方針)

授業内レポート(評価割合30%)、最終レポート(評価割合70%)の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価に加えず欠格条件とする。試験(最終レポート)は担任等を通して返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○		70%
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)
・授業態度が悪い(私語、居眠り等)学生は、成績評価から減点する。
・注)レポート課題等提出物は指定された様式で丁寧に作成されたもののみを受け付ける。(条件を満たさないレポートは評価対象から除外する。)

関連科目			
教科書	なし(必要に応じて資料を用意する)	参考書	なし
連絡先	小池和幸(F201)水14:20～15:50		

授業科目名	コミュニケーション技術演習 Communication Skill Practice(S)				担当教員	小池和幸・高崎義輝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士、福祉レクリエーションワーカー、 高校福祉科教諭
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

介護福祉サービスや健康支援、教育に必要なコミュニケーション技術の基礎を演習で学習する。

授業の一般目標

介護福祉・健康支援・教育対象者へのホスピタリティを意識したコミュニケーション能力を身につける。(主に初歩的なコミュニケーション技術及び健康支援技術を理解し習得する)

授業の到達目標

■	認知的領域	コミュニケーションについて説明できる。
■	情意的領域	楽しい運動指導等を通した健康づくりや介護予防などの関心が広がる。人と関わる意欲が醸成される。
■	技能表現的領域	楽しい運動指導を通した双方向のコミュニケーションができる。

授業計画(全体)

主に実技・演習を中心に授業をすすめる。運動指導実技演習についてはグループでロールプレイなどの方法で実施する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(小池)(高崎) [内容] コミュニケーション技術演習の授業概要と授業目的及びスケジュールについて。 [授業外学習]授業概要を事前に読む。	⑨	[テーマ] コミュニケーション演習6(高崎) [内容] メッセージを共有する。(意欲を高めるための障がい擬似体験) [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。
②	[テーマ]グループの関係づくりを目的としたコミュニケーション演習1(小池) [内容] アイスブレーキング、自己紹介ゲームを介したコミュニケーション。 [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑩	[テーマ] コミュニケーション演習7(高崎) [内容] 言語と非言語メッセージの伝達トレーニング。 [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。
③	[テーマ] グループの関係づくりを目的としたコミュニケーション演習2(小池) [内容] 人間交流・関係ゲーム。 [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑪	[テーマ] コミュニケーション演習8(高崎) [内容] 対象者の満足度を高めるメッセージとは。 [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。
④	[テーマ] コミュニケーション演習1(小池) [内容] 楽しい運動指導を介したコミュニケーション①。(健康づくりのためのプログラム体験) [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑫	[テーマ] コミュニケーション演習9(高崎) [内容] コミュニケーションのイメージをシナリオにする [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。
⑤	[テーマ] コミュニケーション演習2 [内容] 楽しい運動指導を介したコミュニケーション②。(コーチング・スキルを中心に) [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑬	[テーマ] コミュニケーション技術総合演習1(小池)(高崎) [内容] コミュニケーションスキルを活かした運動指導計画書を作成する。 [授業外学習]計画書の完成及び提出。
⑥	[テーマ] コミュニケーション演習3(小池) [内容] 楽しい運動指導を介したコミュニケーション③。(運動機能・感覚機能・知覚機能が低下している対象へ) [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑭	[テーマ] コミュニケーション技術総合演習2(小池)(高崎) [内容] コミュニケーションスキルを活かした運動指導計画書をもとに実際に指導をする。 [授業外学習]セルフチェックシートによる振り返り。
⑦	[テーマ] コミュニケーション演習4(小池) [内容] グループとコミュニケーション。 [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑮	[テーマ] コミュニケーション技術総合演習3(小池)(高崎) [内容] コミュニケーションスキルを活かした運動指導計画書をもとに実際に指導をする。 [授業外学習]セルフチェックシートによる振り返り。
⑧	[テーマ] コミュニケーション演習5(小池) [内容] 人間関係づくりの基礎。(運動、レクリエーション活動とコミュニケーション) [授業外学習]配布資料整理及び本日の授業の復習。	⑯	[テーマ] まとめ(小池)(高崎) [内容] コミュニケーション技術演習のまとめ。 [授業外学習]これまでの学習を課題に応じてレポートにまとめる。

成績評価方法(方針)

授業外総合レポート、運動指導計画書、セルフコミュニケーションチェックシート等(評価割合40%)、コミュニケーション技術総合演習における運動指導(評価割合60%)の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価に加えず欠格条件とする。提出されたレポートは解説をしながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				なし
授業内レポート				なし
授業外レポート	◎			40%
演習・実技	○	◎	◎	60%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)
・授業態度が悪い(私語、居眠り等)学生は、成績評価から減点する。
・講義の授業は資料を用意するがきちんとノートを取ること。
・教室は前から順に着席すること。
注)レポート課題等提出物は指定された様式で丁寧に作成されたもののみを受け付ける。(条件を満たさないレポートは評価対象から除外する。)

関連科目	介護福祉とレクリエーション援助演習、福祉レクリエーション実技		
教科書	特になし(授業に応じて資料を配布する)	参考書	「楽しさの追及を支えるための介入技術」日本レク協会編 「コミュニケーション技術」中央法規
連絡先	小池和幸(F201)水14:20～15:50　高崎義輝(F216)水14:20～15:50		

授業科目名	運動生理学 Exercise Physiology (L)				担当教員	内丸 仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、スポーツプログラマー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター、JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

運動生理学では生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。

授業の一般目標

運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウオームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。
■	情意的領域	実際の活動(運動およびトレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、 各授業毎に小テストを実施・提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 運動生理学とは？ [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学習] シラバスをよく読んでおくこと	⑨	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ [内容] 心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。 [授業外学習] P90～100をよく読んでおくこと
②	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ [内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学習] P1～6をよく読んでおくこと	⑩	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学習] P101～108をよく読んでおくこと
③	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ [内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する [授業外学習] P6～12をよく読んでおくこと	⑪	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅳ [内容] 運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する [授業外学習] P109～117をよく読んでおくこと
④	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ [内容] 筋力発揮特性について説明する [授業外学習] P13～18をよく読んでおくこと	⑫	[テーマ] 運動と免疫 [内容] 運動における免疫系の変化やトレーニングによる免疫機能の適応について説明する [授業外学習] P76～83をよく読んでおくこと
⑤	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅳ [内容] 骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。 [授業外学習] P19～28をよく読んでおくこと	⑬	[テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境と水分摂取・体温調節 [内容] 暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する [授業外学習] P154～162をよく読んでおくこと
⑥	[テーマ] 運動と神経 [内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学習] P29～57をよく読んでおくこと	⑭	[テーマ] 体力と体力特性とトレーニング [内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性について、体力維持・増進のためのトレーニングについて説明する [授業外学習] P134～153をよく読んでおくこと
⑦	[テーマ] 運動と内分泌系とストレス [内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学習] P58～75をよく読んでおくこと	⑮	[テーマ] 運動と健康および加齢 [内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学習] P121～133をよく読んでおくこと
⑧	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ [内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気のメカニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学習] P84～90をよく読んでおくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学習] これまでの復習をすること

成績評価方法(方針)

筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内に実施するクイズ(評価割合30%)および出席状況や授業態度(減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。提出されたクイズは解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート	◎	○		30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度		○		減点あり
出席		○		減点あり

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・教科書とノートを必ず持参すること。
・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。
・予習・復習を行うこと。
・授業計画は授業の進行状況により多少前後および内容を変更することがある。

関連科目	医学一般、スポーツ医学A、スポーツ医学B、体力相談と運動処方		
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版	参考書	運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建帛社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 冨樫健二編 化学同人
連絡先	研究室:C棟2F オフィスアワー:月曜日 16:00～17:00		

授業科目名	リハビリテーション論 Rehabilitation				担当教員	笠原 岳人
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	・介護福祉士 ・福祉レクリエーションワーカー ・障害者スポーツ指導員 ・社会福祉主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

本講義は、リハビリテーション医学を基盤とし、基礎的な知識や技術に関する内容を講義を通して教授する。

授業の一般目標

わが国におけるリハビリテーション医学の知識や技術を理解し、基礎医学から臨床・保健・福祉などの分野における役割について理解することを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明できる。
■	情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(2) 脳血管障害 [内容] 代表的な脳血管障害とリハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習] 脳の機能と役割について復習しておくこと
②	[テーマ] リハビリテーション医療の歴史と発展 [内容] リハビリテーション医療の確立について説明する [授業外学習] 「リハビリテーション」の語源について説明できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(3) 精神疾患 [内容] 代表的な精神疾患とリハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習] 精神疾患について復習しておくこと
③	[テーマ] リハビリテーション医療の過程 [内容] 発症から退院までのリハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習] リハビリテーション医療が抱える問題点を復習しておくこと	⑪	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(4) 内部疾患 [内容] 糖尿病とリハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習] 糖尿病について復習しておくこと
④	[テーマ] リハビリテーション専門職との連携 [内容] リハビリテーション専門職の種類について説明する [授業外学習] リハビリテーション専門職について復習しておくこと	⑫	[テーマ] リハビリテーションの展開(1) スポーツ傷害 [内容] 代表的なスポーツ傷害とリハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習]スポーツ場面にて発生する障害について復習しておくこと
⑤	[テーマ] 人体の構造と機能(骨・関節・筋肉) [内容] 身体を構成する運動器について説明する [授業外学習] 骨・関節・筋肉の名称と部位が説明できるようにしておくこと	⑬	[テーマ] リハビリテーションの展開(2) 形態測定 [内容] 代表的な身体計測の方法について説明する [授業外学習] 身体計測の方法について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動障害(1) 肢体不自由 [内容] 身体機能の障害について説明する [授業外学習] 身体部位の名称について復習しておくこと	⑭	[テーマ] リハビリテーションの展開(3) 介護予防 [内容] 介護予防の取り組みについて説明する [授業外学習] 介護予防の目的について復習しておくこと
⑦	[テーマ] 運動障害(2) 廃用症候群 [内容] 生活機能が不使用・不活発な状態になった場合の影響について説明する [授業外学習] 身体活動が不自由な場合の変化が説明できるようにしておくこと	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 運動障害・疾患別・展開に関する内容のまとめを行う [授業外学習] 講義内容の復習をしておくこと
⑧	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(1) 骨・関節疾患 [内容] 代表的な骨・関節疾患と、リハビリテーションの関わりについて説明する [授業外学習] 骨や関節の名称と部位について復習しておくこと	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習しておくこと

成績評価方法(方針)

成績評価は、定期試験(評価60%)と、授業内外レポート(評価40%)により、総合的に判断して成績評価を行う。
なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。
・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話を鞄の中にしまっておくこと。
・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・毎週の授業参加だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。
・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。

関連科目			
教科書		参考書	授業の中で紹介する
連絡先	笠原研究室:F棟2階207号室 オフィスアワー:木曜日14:20～15:50		

授業科目名	栄養学概論 Nutrition （L）				担当教員	藤井 久雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士免許、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会福祉主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について説明する。

授業の一般目標

各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について基本的なことを理解する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマごとに、教科書、配布資料、視聴覚教材等を用いて授業を進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ］ オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]授業内容を予習しておくこと	⑨	[テーマ] 無機質① [内容] 無機質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
②	[テーマ] 食習慣と健康 [内容] 食習慣と健康の関連について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 無機質② [内容] 疾病予防や健康増進のための無機質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
③	[テーマ] タンパク質① [内容] タンパク質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑪	[テーマ] ビタミン① [内容] ビタミンの定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
④	[テーマ] タンパク質② [内容] 疾病予防や健康増進のためのタンパク質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ] ビタミン② [内容] 疾病予防や健康増進のためのビタミンの摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑤	[テーマ] 脂質① [内容] 脂質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] その他の栄養成分 [内容] その他の栄養成分の特性について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑥	[テーマ] 脂質② [内容] 疾病予防や健康増進のための脂質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] 栄養と食事 [内容] 栄養素と食事の関連について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 炭水化物① [内容] 炭水化物の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] 栄養摂取と人体 [内容] 栄養の必要性を総合的に捉え、栄養摂取の重要性を理解する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 炭水化物② [内容] 疾病予防や健康増進のための炭水化物の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]授業内容を復習しておくこと

成績評価方法（方針）

・試験は、期末試験を実施する（評価割合100％）。
・試験内容については各領域ごとに解説する。さらに試験直前の授業でその内容について復習をする機会を設ける。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・全員の名前を読み終えた時点で不在の学生は遅刻とする。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	基礎栄養学 改訂4版 奥 恒行・柴田克己編集	参考書	適宜、指定する
連絡先	藤井（久）研究室D棟1階		

授業科目名	社会福祉概論Ⅰ The General Theory of Social Welfare Ⅰ				担当教員	高橋　亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士 、介護福祉士 、栄養士、 社会福祉主事任用資格、高等学校教諭一種免許状（福祉）
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に講義する。先ず、社会福祉の基礎を学ばせ、その思想や理論そして「社会福祉法」等を土台に据えた法制度の全体像を理解させる。次に、法制度の中でも実務上において特に重要な介護保険制度とその背景及び目的および昨今の動向について解説する。

授業の一般目標

・相談援助業務と介護サービスの現場において必要な知識、判断力そして豊かな人間性を養う。（必要な知識とは社会福祉法制度に関する情報であり、判断力とは専門職として相談援助の原則を知りその原則に基づき判断することである。）
・社会福祉士、介護福祉士の社会的使命を学ぶ。・社会福祉への充分な理解を踏まえた上で介護保険制度の基礎的理解へ到達する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。
■	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、「用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）」というかたちで講義を進め、授業効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 社会福祉学への招待 [内容] 導入と動機付け。 [授業外学習]初回のため、特になし。	⑨	[テーマ] 介護保険制度の動向 [内容] 介護保険法の成立から今日に至る経緯を説明し、その問題点と課題を論じる。 [授業外学習]介護や介護保険について見聞きしたことを自分なりにまとめる。
②	[テーマ]　社会福祉とは何か [内容] 具体的な事例による社会福祉とその仕事に関する理解。 高校までに見聞きした「社会福祉」について、自分なりのイメージをまとめておく。	⑩	[テーマ] 介護保険制度のしくみに関する基礎的な理解（1） [内容]「介護保険法」の詳細について解説する。 [授業外学習]身近で見聞きした介護保険制度の問題点を整理し考えてみる。
③	[テーマ] 社会福祉の基礎概念とフレームワーク [内容] 社会福祉を学ぶための基本フレームと学問研究のプロセス、及び関連分野への応用について学ぶ [授業外学習]前回講義の復習を行い、社会福祉について「自分なりの定義」を行う。	⑪	[テーマ] 介護保険制度のしくみに関する基礎的な理解（2） [内容]前回の講義に引き続いて、「介護保険法」の詳細について解説する。 [授業外学習]実習等を通じて、身近で見聞きした介護保険制度の問題点を整理する。
④	[テーマ] 社会福祉制度論：総論（1） [内容] 社会福祉法と「地域福祉の時代」について説明する。 [授業外学習]前回講義で示した「社会福祉の全体像について描いた図」を、描けるようにする。	⑫	[テーマ] 介護保険制度における組織、団体の役割 [内容] 国、都道府県、市町村および民間の社会福祉事業、NPOなどの機能について説明する。 [授業外学習]前回講義の内容を、自分の言葉で説明できるようにしておく。
⑤	[テーマ]社会福祉方法論：総論（1） [内容] 社会福祉法制度の概要と全体像について説明する。 [授業外学習]地域福祉の概念について整理しておくこと。	⑬	[テーマ] 介護保険制度における専門職の役割 [内容] 介護支援専門員、介護福祉士と他の関連職種との連携などについて説明する。 [授業外学習]自分がボランティアや実習で行った組織、団体の役割についてまとめる。
⑥	[テーマ] 社会福祉方法論：総論（1） [内容] ソーシャルワークの生成と発展について論じる。 [授業外学習]福祉三法、福祉六法の名称と簡単な説明を言えるようにする。	⑭	[テーマ] 介護保険制度と障害者自立支援制度 [内容] 支援費制度から障害者自立支援制度への移行過程を説明し、介護保険制度と障害者自立支援制度との類似点と相違点を明らかにし、制度の詳細を説明する。 [授業外学習]　ケアマネと呼ばれている専門職の実態を調べておくこと。
⑦	[テーマ]社会福祉方法論：総論（2） [内容] ソーシャルワークの理論と展開について論じる。 [授業外学習]M.リッチモンドについて図書館等で調べておくこと。	⑮	[テーマ] 社会福祉、老人福祉における介護保険制度とその歴史的な位置づけ／結びに代えて [内容]　介護保険制度が今日の社会福祉や老人福祉の中へどのように位置づけられるかについて論じるとともに、半期間の総括を行う。 [授業外学習]障害者自立支援制度の問題点についてまとめる。
⑧	[テーマ] 介護保険制度の背景および目的 [内容]「社会的介護」の歴史的変遷と介護保険の成立過程について説明する。 [授業外学習]F.バイステックについて図書館等で調べておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容]講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		45%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅱ、社会保障論、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、更生保護制度論、就労支援論、保健医療論、社会福祉施設経営論		
教科書	使用しない。	参考書	『新・社会福祉士養成講座 4 』中央法規出版
連絡先	高橋研究室：E棟2階		

授業科目名	健康づくり運動演習 The Practice of Health and Well-being				担当教員	高崎/橋本/小池/大山/関矢/笠原/後藤/馬/堀江/ 福田伸/篠原
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	介護福祉士、福祉レクリエーションワーカー、 健康づくり運動サポーター
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

高齢者の健康づくりのための運動に着目し、その体験を通して、発達と老化の理解を深める。また、人材不足を指摘される介護予防等の運動指導者の養成のため、運動の効果について「正しい知識」を持ち、「安全に」、「元気よく」、「明るく」運動指導できる指導者としてのリアリティを育み、実践力を育成する。

授業の一般目標

1.高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴について、具体的な高齢者の健康づくりプログラム等の実際を体験することから、基本的な知識技術を修得する。2.運動の効果について「正しい知識」を持ち、「安全に」、「元気よく」、「明るく」運動指導できる指導者のための基本的な技術を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動の効果について、「正しい知識」を説明できる。
■	情意的領域	高齢者と積極的にかかわり、楽しみを感じる。
■	技能表現的領域	楽しく効果的な運動指導ができる。

授業計画(全体)

高齢者の健康づくり教室等の実際体験から、発達と老化の理解を深める総合演習科目(講義5回、演習・実技7回、実習4回)である。10人程度の小グループで実施するため、各回で担当教員、教室、準備物等異なる。本授業に関する連絡等については、十分注意し受講して欲しい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、高齢者の健康と運動介入(1)　(高崎) [内容]　1.日程、担当教員等の確認 2.講義「健康づくり運動サポーターと仙台大学の教育について」 [授業外学習]シラバスをよく読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 高齢者の健康づくりプログラム(1)　(後藤) [内容] 実技「基礎運動」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。
②	[テーマ]高齢者の健康と運動介入(2)　(堀江) [内容] 講義「わが国における健康づくりに関する現状」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑩	[テーマ] 高齢者の健康づくりプログラム(2)　(小池) [内容] 実技「楽しい運動指導1　」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。
③	[テーマ] 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響(1)　(大山) [内容]　演習「高齢者擬似体験」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑪	[テーマ] 高齢者の健康づくりプログラム(3)　(高崎) [内容] 実技「楽しい運動指導2 」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。
④	[テーマ] 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響(2)　(笠原) [内容] 演習「高齢者の体力評価(健脚度)」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑫	[テーマ] 高齢者の健康づくりプログラム(4)　(関矢、馬) [内容] 実技「筋力トレーニングの方法」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。
⑤	[テーマ] 高齢者と健康(1)　(橋本、篠原) [内容] 講義「高齢者に多い病気とその留意点(高血圧症・糖尿病等)」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑬	[テーマ] 健康づくり教室体験実習1　(高崎) [内容]　1.保健医療職との連携、2.見学実習のオリエンテーション [授業外学習]実習記録を作成し、所定の期日まで提出すること。
⑥	[テーマ] 高齢者と健康(2)　(橋本、篠原) [内容] 講義「高齢者に多い病気とその留意点(腰痛等) 」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑭	[テーマ] 健康づくり教室体験実習2　(高崎) [内容] 高齢者健康づくり教室等の体験実習① [授業外学習]実習記録を作成し、所定の期日まで提出すること。
⑦	[テーマ] 高齢者と健康(3)　(橋本、福田) [内容] 実技・演習「高齢者への運動介入と応急処置」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑮	[テーマ] 健康づくり教室体験実習3　(高崎) [内容] 高齢者健康づくり教室等の体験実習② [授業外学習]実習記録を作成し、所定の期日まで提出すること。
⑧	[テーマ] 高齢者と健康(4)　(高崎) [内容] 実技・演習「高齢者への運動介入とコミュニケーションの方法」 [授業外学習]各担当より、授業外の課題が提示されるので、指示に従うこと。	⑯	[テーマ] 健康づくり教室体験実習4　(高崎) [内容] 高齢者健康づくり教室等の体験実習③ [授業外学習]実習記録を作成し、所定の期日まで提出すること。

成績評価方法(方針)

各回の授業で、授業内レポートや実技の確認テストなどを行う。授業内容の修得が出来ていない場合は、その都度、補講や追試験で対応する。また、授業終了後には定期試験を実施する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート		○		20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		◎	30%
授業態度		○		減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・担当教員は各回テーマで異なるため、準備物の確認、欠席届の提出先等はその都度確認のこと。
・実習等では学外の実習先との日程調整により、変更される場合もあるため、掲示板等の連絡は欠かさず確認すること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目	※健康福祉学科で取得できる複数の指導者資格に関係しています。詳細は、各自、取得希望資格の担当教員に確認のこと。		
教科書	新・介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」/中央法規 健康づくり運動サポーター養成テキスト(初級)／仙台大学	参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト ／財団法人健康体力づくり事業団発行
連絡先	代表教員:高崎義輝(F棟2階216)　※オフィスアワー:水曜日4時限目		

授業科目名	運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury （Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格	教員免許状(全免許)、介護福祉士、健康運動指導士、健康運動実践指導者、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、福祉ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ﾜｰｶｰ、ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ、、障害者ｽﾎﾟｰﾂ指導員、ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰ、NSCA-CPT、CSCS、JPSU
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。
スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。

授業の一般目標

スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。
固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学習]ﾌﾟﾘﾝﾄを配布するので参考にすること	⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
④	[テーマ] 固定法 [内容]様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容]頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法(方針)

公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は受験番号で発表し、レポートはICTツールで相互閲覧・評価できるようにしている

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			95%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			5%
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書	運動障害救急法 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)				担当教員	荒牧　亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保体), レクリエーションコーディネーター, アシスタントマネージャー, ジュニアスポーツ指導員, 社会教育主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。

授業の一般目標

スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また内容の理解のための確認テストを授業内において行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツ社会学とは [内容]　本授業の計画及び授業の進め方等について説明する。 [授業外学習]　自分とスポーツの関係について発表できるようにしておくこと	⑨	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容]　スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト, バーンアウトについて解説する。 [授業外学習]バーンアウトの原因について考えておくこと
②	[テーマ]　現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、スポーツをめぐる諸問題について特にオリンピック競技大会を中心に説明する。 [授業外学習]　スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておく	⑩	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容]　日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習]　日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと
③	[テーマ]　スポーツと社会(1) [内容]　近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習]　イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと	⑪	[テーマ]　スポーツ集団(1) [内容]　わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習]　大学スポーツの歴史について調べておくこと
④	[テーマ]　スポーツと社会(2) [内容]　現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習]　現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと	⑫	[テーマ]　スポーツと政治・経済(1) [内容]　オリンピック競技大会を事例に、スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習]1936年ベルリン大会について調べておくこと
⑤	[テーマ]　スポーツと文化(1) [内容]　スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習]　文化とは何かを調べておくこと	⑬	[テーマ]　スポーツと政治・経済(2) [内容]　スポーツにおけるナショナリズムについて、オリンピック競技大会を事例に解説する。 [授業外学習]　ナショナリズムとは何かについて調べておくこと
⑥	[テーマ]　スポーツと文化(2) [内容]　ホイジンガ, カイヨワの議論を参考にプレイとは何かについて解説する。 [授業外学習]　ホイジンガやカイヨワという学者について調べておくこと	⑭	[テーマ]　スポーツと政治・経済(3) [内容]　箱根駅伝を事例として、スポーツとテレビメディアの関係について解説する。 [授業外学習]　箱根駅伝の歴史について調べておくこと
⑦	[テーマ]　スポーツと文化(3) [内容]　スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習]　自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと	⑮	[テーマ]　スポーツと政治・経済(4) [内容]　スポーツにおける商業主義について解説する。 [授業外学習]　商業主義とは何かについて調べておくこと
⑧	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容]　スポーツ参与およびスポーツ的社会化の概念について解説する。 [授外学習]　自らのスポーツ経験について発表できるようにしておくこと	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習]　テキストを熟読し、復習しておくこと

成績評価方法(方針)

期末試験の成績(60%)、授業内課題及び確認テストの成績(40%)、以上の結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎			40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		加点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。
・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。
・授業計画は進捗状況等に応じて変更することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	体育原理(1年)、スポーツ経営学(1年), 地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ史(3年)、社会学概論、社会構造と人間		
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版	参考書	
連絡先	荒牧亜衣(A棟510)　ai-aramaki@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)				担当教員	栗木一博／菊地直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	中高保健体育、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者ほか
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の間で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。

授業の一般目標

スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（栗木・菊地） [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康（菊地） [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント（栗木） [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく。	⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ（菊地） [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論①（栗木） [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。	⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント（菊地） ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論②（栗木） [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。	⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格（菊地） [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定(栗木) [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。	⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング①（菊地） [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力①（栗木） [内容]「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。	⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング②（菊地） [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力②（栗木） [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。	⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③（菊地） [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ（栗木） [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。	⑯	[テーマ] テスト(菊地) [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を一回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合40%）を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出されたレポートは授業内で返却し、解説する　試験については授業内で返却し、解説する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	栗木研究室（E棟2階：内線336）、菊地研究室（第4体育館1階：内線429）オフィスアワーについては別途連絡する		

授業科目名	スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics（L.）				担当教員	宮西　智久
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状、健康運動指導士・同実践指導者、アスレチックトレーナー、レクリェーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力（外力と内力）が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツの運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学（ニュートン力学）の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス（運動力学）を中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。

授業の一般目標

スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。
■	情意的領域	スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ：スポーツバイオメカニクス序説（1回）、パートⅡ：キネマティクス（並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回）、パートⅢ：キネティクス（並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回）、パートⅣ：仕事・エネルギー・パワー（1回）、パートⅤ：流体力学（1回）、パートⅥ：筋収縮の力学（2回）。本講は、これらのパートについて順に系統だって進められる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション（授業概要、目標、評価他）を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。 [授業外学習]　教科書(1章)の予習と復習	⑨	[テーマ]　回転運動のキネティクスⅠ [内容]　力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算 [授業外学習]　教科書(6章)の予習と復習
②	[テーマ]　力学と数学の基礎　/　並進運動のキネマティクスⅠ [内容]　力学モデル、運動の形態（並進/回転/一般）と種類（等速/等加速度/加速度）、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位 [授業外学習]　教科書(2, 3章)の予習と復習	⑩	[テーマ]　回転運動のキネティクスⅡ [内容]　つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理 [授業外学習]　教科書(6章)の予習と復習
③	[テーマ]　並進運動のキネマティクスⅡ [内容]　位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動 [授業外学習] 教科書(3章)の予習と復習	⑪	[テーマ]　回転運動のキネティクスⅢ [内容]　ニュートンの運動の三法則の回転編、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則 [授業外学習]　教科書(6章)の予習と復習
④	[テーマ]　回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係 [授業外学習]　教科書(4章)の予習と復習	⑫	[テーマ]　仕事・エネルギー・パワー [内容]　仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率 [授業外学習]　教科書(7章)の予習と復習
⑤	[テーマ]　回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動 [授業外学習] 教科書(4章)の予習と復習	⑬	[テーマ]　流体力学：空気や水による力 [内容]　物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力（抗力・揚力）、ベルヌーイの定理、マグヌス効果 [授業外学習]　教科書(8章)の予習と復習
⑥	[テーマ]　並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進編、ダランベールの原理 [授業外学習]　教科書(5章)の予習と復習	⑭	[テーマ]　筋収縮の力学Ⅰ [内容]　筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性（力ー長さ関係、力ー速度関係、力ーパワー関係）、筋収縮モデル [授業外学習]　教科書(9章)の予習と復習
⑦	[テーマ]　並進運動のキネティクスⅡ [内容]　いろいろな力（万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力）、運動量と力積、運動量保存の法則 [授業外学習]　教科書(5章)の予習と復習	⑮	[テーマ]　筋収縮の力学Ⅱ [内容]　身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因 [授業外学習]　教科書(9章)の予習と復習
⑧	[テーマ]　並進運動のキネティクスⅢ [内容]　フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係 [授業外学習]　教科書(5章)の予習と復習	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　選択問題（マークシート方式） [授業外学習]　教科書、ノート等を復習し試験に万全を期すこと。

成績評価方法（方針）

定期試験、授業外レポート等に基づき評価する（解答掲出）。試験や提出されたレポートは解説をしながら返却する。
受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			75%
授業内レポート				−
授業外レポート	○			25%
演習・実技				−
授業態度		○		減点対象
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

受講条件:
1. 教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない者は欠席とします。
2. 学生証を忘れた者は欠席とします。
3. 学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率（学則参照）を満たした者です。授業の公欠はありません。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表します。試験は学則に基づき実施します。
4. 指定座席に座ること。
5. スマホや携帯電話の電源を切り、手に持たないこと。
6. 講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に大変支障を来しますので受講しないで下さい。なお、受講態度（私語、飲食、居眠り他）が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合があります。
7. 高校までの物理学（力学）や数学で学習した知識で理解できる内容です。教科書の予習に加え、中学・高校時の物理学・数学の教科書を復習し講義に臨んで下さい。なお、ノート、筆記用具はもちろんのこと、計算問題がありますので電卓（関数電卓推奨）を持参下さい。
8. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。
9. その他重要事項は第1回目の講義において伝えますので、必ず出席すること。

関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス＆コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)		
教科書	スポーツバイオメカニクス（宮西編，化学同人）	参考書	スポーツ技術のバイオメカニクス（J.Hay著，BookHouse HD） スポーツバイオメカニクス20講（阿江・藤井著，朝倉書店）
連絡先	管理研究棟4F404号室 【オフィスアワー：木曜日16:00〜17:30】		

授業科目名	スポーツ指導の基礎(含実習) Fundamentals of Sports Coaching				担当教員	阿部　肇・武石健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格，ﾚｸﾘｰｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ，ｼﾞｭﾆｱｽﾎﾟｰﾂ指導員，ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰ，障害ｽﾎﾟｰﾂ指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り，選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず，スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい．本講義では，指導者の機能と役割とは何かに始まり，トレーニング構成の諸原則，ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する．

授業の一般目標

スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際的な職務を知り，求められる能力を理解できるようなる．そして，実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける．そこには，組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案，実行する選手育成の内容も含まれる．

授業の到達目標

■	認知的領域	コーチの役割と，その実務における具体的な方法論を説明できる．
■	情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる．
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義では，先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて，トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的な行為といった狭義なものから，スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する．その後に，指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて，より詳細に講義を進める．

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス(阿部) [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] トレーニング課題と手段，方法の関係(阿部) [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者(武石) [内容] 競技集団にはどのような構造があり，そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学習]資料を基に予習しておくこと	⑩	[テーマ] トレーニング構成の一般原理(阿部) [[内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化(武石) [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑪	[テーマ]　トレーニング構成の基本単位(阿部) [内容] トレーニングを構成する，課業，ミクロ，メゾ，マクロの基本単位を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 指導者の機能と役割(武石) [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] トレーニング構成の計画立案(阿部) [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック(武石) [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期)(阿部) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力(武石) [内容] 組織の構造変化を伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑭	[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期)(阿部) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 組織の基本類型(阿部) [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑮	[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期)(阿部) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル(阿部) [内容] 組織構造が諸引力(目標，理念)に導かれ変化する様を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト(阿部) [内容] 授業の理解度，到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]テストに備えて復習しておくこと

成績評価方法(方針)

試験は，期末試験を1回実施する(評価割合80%)．また，授業内レポートを課す(評価割合20%)．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する．

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと．
私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない(欠格条件)．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

関連科目	無し		
教科書	無し(プリント資料を配布する)	参考書	
連絡先	研究室:阿部　肇　A棟4階406　オフィスアワー　火曜　10:00-12:30　/　武石健哉　4体1階425		

≪実技≫

授業科目名	健康運動指導実技 Practice of Exercise Instruction for Health				担当教員	門野・阿部・河野・柴山・武石・吉井
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動指導士、健康運動実践指導者、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

形態および体力を測定、評価し、それを向上させるための運動理論および実施方法、指導方法について実習を行なう。

授業の一般目標

①形態および体力の測定方法と評価方法を理解する。
②体力を高めるための運動に関する基礎理論と実施方法、指導方法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	形態および体力の測定・評価方法が説明できる。 体力を高めるための運動に関する基礎理論と実施方法、指導方法が説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	形態および体力の測定・評価ができる。 体力を高めるための運動が実践でき、指導できる。

授業計画（全体）

形態および6つの体力要素（筋力、スピード・敏捷性、パワー、持久力、柔軟性、調整力）について、実際にこれらを測定し、評価を行なう。
また、6つの体力要素を向上させるための運動理論と実施方法、指導方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス（門野） [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] パワーを高めるための運動理論と方法（柴山） [内容] ハイパワーを高めるための運動理論と方法について学ぶ。
②	[テーマ] 形態計測とその評価（門野） [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。	⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価（阿部） [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価（門野） [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。	⑪	[テーマ] 持久力を高めるための運動理論と方法（阿部） [内容] 持久力を高めるための運動理論と方法について学ぶ。
④	[テーマ] 筋力の測定と評価（武石） [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価（河野） [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑤	[テーマ] 筋力を高めるための運動理論と方法（武石） [内容] 筋力を高めるための運動理論と方法について学ぶ。	⑬	[テーマ] 柔軟性を高めるための運動理論と方法（河野） [内容] 柔軟性を高めるための運動理論と方法について学ぶ。
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価（吉井） [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価（河野） [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑦	[テーマ] スピードを高めるための運動理論と方法（吉井） [内容] スピードと敏捷性を高めるための運動理論と方法について学ぶ。	⑮	[テーマ] 調整力を高めるための運動理論と方法（河野） [内容] 調整力を高めるための運動理論と方法について学ぶ。
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価（柴山） [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。	⑯	[テーマ] まとめ（門野） [内容] 授業のまとめを行なう。

成績評価方法（方針）

・①出席、②演習・実技、③授業外レポートによって評価を行なう。
・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。提出されたレポートはコメントして返却する。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			50%
演習・実技			◎	50%
授業態度		◎		減点対象
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。	参考書	
連絡先	門野洋介（A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp）、オフィスアワー月曜10:00-11:00		

授業科目名	体操(含体つくり運動) Gymnastic(P.A.)				担当教員	溝口　絵里加
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状(中高保体)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。

授業の一般目標

実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導や手本ができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することができる。
■	技能表現的領域	指導者としてふさわしい手本をすることがきる。対象者に応じた体操を創ることができる。

授業計画(全体)

体操とはなにかを理解し、基本的な運動を身に付けていく。リズム体操の個人技能試験や、対象者に応じた創作体操の発表により、体操の仕方や手本の仕方を学んでいく。また個人学習ノート(リフレクティブジャーナル)の記入(評価割合30%)を毎回の授業で行う。実技試験や授業に取り組む態度等を総合して成績評価を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 組み合わせ課題 [内容] サーキットトレーニング。自重トレーニング。
②	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。	⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリスティックストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。	⑪	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。
④	[テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑫	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について
⑤	[テーマ] リズム体操(応用] [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑬	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄えが良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。
⑥	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑭	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。
⑦	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。
⑧	[テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について	⑯	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。

成績評価方法(方針)

個人技能の出来栄えとグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○		30%
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度				減点対象
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4回以上欠席をした学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・10分以上の遅刻は欠席とみなす。
・服装や身だしなみを整えて(体育指導者としてふさわしい恰好で)受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	体つくり運動ー授業の考え方と進め方ー文部科学省
連絡先	溝口研究室(第3体育館5階)		

授業科目名	ボランティア活動実践A Voluntary Activity Practice A				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

授業計画(各回のテーマ等)

1. ボランティア事前研修の受講
 a.ボランティア活動を実践するための手続きについて
  ①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
  ②ボランティア保険への加入
 b.ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識
  ※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」

2. ボランティア活動の実際
 a.下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。
  ①学内における障害を持つ学生の支援 (聴覚障害者のノートテーカーなど)
  ②地域における高齢者、障害児・者の支援 (社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)
  ③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
  ④留学生の学習の支援
 b.参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。
 c.ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。
  ※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。
 d.年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。

3. 単位認定試験(レポート提出)の受験
 単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。

成績評価方法(方針)

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				欠格要件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D		
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)	参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目		

授業科目名	ボランティア活動実践B Voluntary Activity Practice B				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

授業計画(各回のテーマ等)

1. ボランティア事前研修の受講
 a.ボランティア活動を実践するための手続きについて
  ①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
  ②ボランティア保険への加入
 b.ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識
  ※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」

2. ボランティア活動の実際
 a.下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。
  ①学内における障害を持つ学生の支援 (聴覚障害者のノートテーカーなど)
  ②地域における高齢者、障害児・者の支援 (社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)
  ③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
  ④留学生の学習の支援
 b.参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。
 c.ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。
  ※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。
 d.年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。

3. 単位認定試験(レポート提出)の受験
 単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。

成績評価方法(方針)

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				欠格要件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D		
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)	参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目		

授業科目名	ボランティア活動実践C Voluntary Activity Practice C				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

授業計画(各回のテーマ等)

1. ボランティア事前研修の受講
 a.ボランティア活動を実践するための手続きについて
  ①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
  ②ボランティア保険への加入
 b.ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識
  ※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」

2. ボランティア活動の実際
 a.下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。
  ①学内における障害を持つ学生の支援 (聴覚障害者のノートテーカーなど)
  ②地域における高齢者、障害児・者の支援 (社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)
  ③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
  ④留学生の学習の支援
 b.参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。
 c.ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。
  ※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。
 d.年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。

3. 単位認定試験(レポート提出)の受験
 単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。

成績評価方法(方針)

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				欠格要件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D		
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)	参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目		

授業科目名	陸上競技 Track and Field				担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、 スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。

授業の一般目標

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。
自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。

授業計画（全体）

グループに分かれ、競走種目（短距離走、リレー、ハードル走）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）、投てき種目（砲丸投）を複数回に分けて実施していく。
最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス（門野） [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] 走高跳②（門野） [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
②	[テーマ] 短距離走①（名取） [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。	⑩	[テーマ] 走幅跳①（柴山） [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。
③	[テーマ] 短距離走②（名取） [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑪	[テーマ] 走幅跳②（柴山） [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
④	[テーマ] リレー①（名取） [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。	⑫	[テーマ] 砲丸投①（宮崎） [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。
⑤	[テーマ] リレー②（名取） [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑬	[テーマ] 砲丸投②（宮崎） [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
⑥	[テーマ] ハードル走①（柴山） [内容] ハードリングの技能について学習する。	⑭	[テーマ] 実技試験①（柴山） [内容] 走（短距離走、ハードル）の記録を測定する。
⑦	[テーマ] ハードル走②（柴山） [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑮	[テーマ] 実技試験②（門野） [内容] 跳（走高跳、走幅跳）の記録を測定する。
⑧	[テーマ] 走高跳①（門野） [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。	⑯	[テーマ] 実技試験③（宮崎） [内容] 投（砲丸投）の記録を測定する。

成績評価方法（方針）

・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度		◎		
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	門野洋介（A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp）オフィスアワー月曜10:00-11:00		

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics(Men)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振りとびおりの基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技術の習得	⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振りとびおりを連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得	⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。
○大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	研究室:A棟4階412 オフィスアワー:火曜日10:20～11:50		

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics(Women)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技術から応用技術へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、平均台、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末倭の基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技能の習得	⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 習得した技を連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技術習得	⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技能習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 平均台② [内容]平均台上での前転・前後開脚ジャンプの基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。
○大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	研究室:A棟4階412 オフィスアワー:火曜日10:20～11:50		

授業科目名	水　泳 Swimming（P. A. ）				担当教員	渡邉　泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	日本体育協会公認水泳指導員、日本体育協会公認水泳コーチ、健康運動指導士、健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点（安全管理に関する内容を含む）について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。

授業の一般目標

体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。水泳動作のメカニズムと指導法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。
■	情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。

授業計画（全体）

最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者は泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。	⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー（50Br+50Fr）の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容]「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。	⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者は、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。	⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れの方法を説明する。加えて、クロール及び平泳ぎの泳能力調査を実施する。	⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ（巻足）泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。	⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ]クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。	⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・ﾊﾞﾀﾌﾗｲ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。	⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識（健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる）水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。	⑯	[テーマ]水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、 水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー（50Br+50Fr）の泳法検定を行う。

成績評価方法（方針）

実技は、100m（50m平泳ぎ+50mクロール）完泳が最低合格ラインで（可）評価、これに立泳ぎ（1分間）完泳か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で（良）評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が（優）評価となる。（秀）評価は前述の全種目で高得点者に与えられる。理論に関わる講義は必ず出席。欠席の場合、レポート等の課題が課せられ、怠った場合は（不可）評価となる。提出されたレポートは授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	80%
授業態度		○		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。
②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。
③海浜実習の受講希望者が望ましい。
④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。

関連科目	海浜実習、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳）、スポーツコーチング実習（渡邉泰典クラス）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室　渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp）　オフィスアワー：火曜日12：00～13：00		

授業科目名	バレーボール Volleyball （P.A.）				担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員、教員免許状（中高保体） JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能（特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク）の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。

授業の一般目標

バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク（少なくともジャンプなしでの打球の仕方）を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。
■	情意的領域	仲間との‘‘繋がり’’が、プレーの‘‘繋がり’’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。

授業計画（全体）

前半は、バレーボールの基本的な運動技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球）の向上に重点を置くため、2～3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘‘繋がり’’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う	⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う	⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則（アウトオブ・ポジション）を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う	⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う	⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う	⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない

成績評価方法（方針）

授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(30%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(40%)、技術向上度（30%）、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合は、成績評価対象外とする。チェックテストについては授業内でフィードバックを行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート			◎	40%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		○	30%
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は仙台大学指定のジャージ及びTシャツ。体育館用シューズを用意すること。はだしでシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは更衣室で行う。バッグ等の貴重品は各自で管理し、更衣室には絶対に置かないこと。試合で休む等は直接口頭で伝える事。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えにくること。遅刻は原則的に認めない。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、退出してもらう場合もある。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ（バレーボール）		
教科書	特に指定しない	参考書	Volleypedia バレーボール百科事典 （日本バレーボール学会・編）
連絡先	石丸研究室（E棟2階） オフィスアワー：水曜日 10:30-11:30、荒牧研究室（A棟5階）		

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)				担当教員	児玉善廣 ・ 菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を説明しながら審判法なども紹介する．

授業の一般目標

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを知る．

授業の到達目標

■	認知的領域	バスケットボール競技に関する基礎知識と基本的技術を理論的に理解し，説明できる．
■	情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって，仲間との連携や協力ができ．ゲームに楽しく参加できる．
■	技能表現的領域	スキルの向上を確認しながら，基本プレーの技術的操作ができる．

授業計画（全体）

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンティーション [内容] 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅰ（スクリメージ） [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史的変遷 と 基本技術 と ルールの説明	⑩	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅱ（スクリメージ） [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 Ⅰ [内容] 1)ボールコントロール 2)ボールハンドリング 3)パッシングの紹介	⑪	[テーマ] ゲーム Ⅰ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンス とゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 Ⅱ [内容] シューティング 1)ドリブル と レイアップシュート	⑫	[テーマ] ゲーム Ⅱ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 Ⅲ [内容] シューティング 2)ジャンプシュート とリバウンド	⑬	[テーマ] ゲーム Ⅲ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率 とリバウンディングの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 Ⅳ [内容] 1)パッシング とドリブル 2)シューティングとの組み合わせ	⑭	[テーマ] ゲーム Ⅳ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率 とリバウンディングの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感	⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ]基礎技術の総合練習 [内容] 1)ドリブル 2)ドリブルターン 3)レイアップシュート 4)ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する．	⑯	[テーマ] オフェンス技術の評価 [内容] ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ

成績評価方法（方針）

1・実技試験は期末に実施する．
2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える．
3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う．以上を総合的に評価を行う．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				35%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				30%
授業態度				35%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない．
・授業態度の悪い者や，著しく授業を妨げる行動と判断した者は，受講資格を失う．
・授業用の専用ジャージを用意しているので，そのジャージを着用し参加すること．
・授業計画は授業の進み方（技術体得状況）で若干変更する場合がある．
・尚，大学設置基準に求められている時間の授業時間外の学習を行う．

関連科目	種目別 コーチング演習 Ⅰ・Ⅱ（3年），スポーツ・コーチング実習（3年）		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室32 ： 第5体育館3階 オフィスアワー ： 前期/後期 木曜日 10:20 ～12:00		

授業科目名	バスケットボール Basketball				担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。

授業の一般目標

バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。
■	情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。
■	技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明	⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法	⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御	⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防	⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防	⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防	⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク 2、模範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防	⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度

成績評価方法(方針)

授業内での協力的な貢献度や授業態度について、成績評価の判断の材料とする。また、個人のスキルテストの結果と、試合を行った際のチームの勝敗、バスケットボールのルールの理解度も含め、総合して成績評価を行う。個人のスキルテストについては、評価の基準を授業内で説明する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	○	◎	70%
授業態度	○	◎		30%(減点アリ)
出席	◎	○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業における服装は指定されている運動着とする。
・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設定基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	佐藤研究室:A棟4階410室 オフィスアワー:木曜10:20-12:00 菅野研究室:第5体育館 2階 オフィスアワー:木曜日 10:20-12:00		

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)				担当教員	桑原　康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状(中・高 保健体育) JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、ハンドボールの基本的な技術・戦術の実技を身に付けることを中心に展開する。また、ハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについて講義する。

授業の一般目標

ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を習得する。
実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について説明できる。
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を習得する。

授業計画(全体)

ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け	⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明	⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】	⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の際の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム	⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム	⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム	⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ

成績評価方法(方針)

授業に対する関心・意欲・態度等(50%)。スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。試験結果については、口頭または掲示にて公表する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎		50%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

原則、欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。
公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても授業の2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。)
その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書		参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階　桑原研究室　オフィスアワー:前期後期ともに　木曜日11:30～12:30		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	黒澤 尚 ・ 中屋敷 眞
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの正しい基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本技術を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。また、授業内容の充実と指導の徹底のためT&Tにて授業実施する。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画(全体)

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範と言語を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ＆パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] インステップキック その2(プレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、そして1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] トラッピング その1(グランダーボール) [内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム
⑥	[テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用
⑦	[テーマ] インサイドでのスワーブキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワーブキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] [内容]

成績評価方法(方針)

出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、およびサッカーのルールに関する2つのレポート提出を達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングについては、毎週授業時の最初の15分間をウォームアップも兼ねてリフティングタイムとして設け、小テスト的に確認するので、出来る限り早い段階での達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○		20%
演習・実技	◎	○	◎	80%
授業態度				失格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。
・「大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと」

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟409　オフィスアワー:火曜日12:30～14:00		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	吉井　秀邦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画（全体）

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ペネトレーション（突破）①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] ペネトレーション（突破）②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール（止める）技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。

成績評価方法（方針）

出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施せず
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技	◎	○	◎	60%
授業態度	○	○	○	20%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・各自サッカーができるシューズ（スパイク、トレーニングシューズ）を用意する。
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席（見学）する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室：A棟4F414　オフィスアワー：木曜日12:40～14:10		

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)				担当教員	武石 健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員・PSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

ラグビーの基本理念・スキルを身につける為に、毎回テーマを与えながら実技形式で講義する。また受講者相互にコミュニケーションをとり、ラグビー特有のプレーができるよう関係を構築することを説明する。

授業の一般目標

ラグビー独自の基本的なスキルを身につけ、基本理念とされているノーサイド、ワンフォアオール・オールフォアワンの精神を理解する。また、ラグビー憲章にある自由、責任、フェア、多様性といった特徴をゲームから知る。さらに戦術・戦略面について考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を説明できる。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役目、キャプテンシーとは何かを説明できる。
■	情意的領域	ボールを前方へパスしてはいけない、前方へ落してはいけない等のラグビーのルールに留意して、他者と関係を構築しながら授業でのテーマに取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ラグビーの競技特性を理解しつつ、個人、チームスキルを発揮できる。

授業計画(全体)

主にグループにより活動を進め、多様なゲーム形式にてラグビーに必要な要素を理解する。基本的なスキルトレーニングにて、ゲームに必要なスキル習得を目指す。ミニゲーム、基本スキル習得ドリルを並行して行い、実戦で活用できるレベルに基本スキルを高めると共に、ゲームを構成しているプレーについて知識を深める。最終的に、15人制のルールでゲームを行い、ルール・ゲーム特性を理解し、チーム力の向上を目指すことでラグビーを学ぶ。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーの歴史、国内外のラグビーについて説明する。	⑨	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する。
②	[テーマ] ラグビーのルーツ、フットボールを体験する [内容] サッカーとラグビーのルーツであるフットボールについての説明を行い、実体験する。ラグビーにおけるレフリー、キャプテンの役割、ローの意味等についての説明を行う。	⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
③	[テーマ]] 走る・投げる・捕る① [内容] パススキル・キャッチングスキルの習得。ボールを持ってのランニングスキル、ランニングパススキル、ランニングキャッチスキルの習得。	⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
④	[テーマ] 走る・投げる・捕る② [内容] 3on3のゲーム形式の中でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑫	[テーマ] アタック方法の理解と実践④ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。グランドの形状、大きさを考え、ゲームを組み立てる。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑤	[テーマ] 走る・投げる・捕る③+ユニットプレー(BK) [内容] ゲームで使うBKサインプレーの動きを習得する。6on6のゲーム形式でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑬	[テーマ] アタック方法の理解と実践⑤ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑥	[テーマ] 密集を作る [内容] 5対5の攻防を行う。モールの形成方法、サイド攻撃プレーを習得する。	⑭	[テーマ] ディフェンス方法の理解と実践、攻撃課題を練習する [内容] ディフェンスの基本的な原則を提示し練習する。アタック方法にて抽出された課題に対しての練習を行う。
⑦	[テーマ] ユニットプレー(FW) [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する。	⑮	[テーマ] 15人制ラグビーのルールによる試合 [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する。
⑧	[テーマ] キックスキル [内容] 様々なキックスキル、キックボールのキャッチングスキルを習得する。キックゲームを行い、実戦に活用できるスキルへ高める。	⑯	[テーマ] スキルテスト [内容] スキルテストを行う。実際のゲーム場面を抜出し、その中でスキルを発揮する、ラグビー精神が反映されたプレーができるか確認する。

成績評価方法(方針)

授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、定期試験スキル到達度チェック(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。試験は事前にポイントを示す。また終了後に総括しながら、評価状況を口頭にてフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		○	30%
授業内レポート			○	評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○		◎	40%
授業態度		○	◎	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

最初のガイダンスには必ず出席すること。参加・体験型の学習を中心とする本授業では、自ら考え行動する意欲が必要とされる。身体接触が伴う競技であるため、授業に出席する際の靴や服装をよく考えることが必要。ピアスや貴金属、実技に適さない靴の着用は認めない。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	特になし		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20~11:50		

授業科目名	柔道 Judo(P.A.)				担当教員	川戸湧也・南條充寿
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体,ジュニアスポーツ指導員,講道館柔道初段※有料
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)を実技を通じて解説する。

授業の一般目標

基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。
技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。
手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。

授業計画(全体)

本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身においては試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。	⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。	⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。	⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。	⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。	⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。

成績評価方法(方針)

実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。試験に関し、合格しなかった者に対して一人一人に改善点を記した表を提示し、授業内でも徹底して指導する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席			◎	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項など)を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。
柔道衣は各自で準備してください。 ※第1回目の授業で申し込みが可能です。
柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	柔道Ⅰ・Ⅱ		
教科書		参考書	
連絡先	川戸研究室		

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体、ジュニアスポーツ指導員、 JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。

授業の一般目標

剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようする。また、日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。

授業計画(全体)

基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を修得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導	⑨	[テーマ]切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 基本動作の修得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導	⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手ー面、小手ー胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導	⑪	[テーマ] 引き技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
④	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる	⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習(素振り)、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習(これまで練習した技を組み合わせて行う)、互格稽古(試合のように実施する)
⑤	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の修得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導	⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち	⑭	[テーマ]簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習	⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手ー面打ち

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。実技試験については(授業内で)解説をし伝える。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○		30%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。また、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具として、竹刀と手拭いを準備してください。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	全日本剣道連盟編『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	ダンスⅠ Dance Ⅰ (P.A.)				担当教員	山梨　雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状（中高保体）、ジュニアスポーツ指導員、 スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアーの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、全て音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく、音感を育むことも重視する。

授業の一般目標

クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	自己の身体に気づくことができる。
■	情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。
■	技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。

授業計画（全体）

毎時間、クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容]　担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。	⑨	[テーマ]　ステップ① [内容]　フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。
②	[テーマ]　足の動きと手の動き [内容]　5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。	⑩	[テーマ]　ステップ② [内容]　フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。
③	[テーマ]　両手でバーにつかまって行う動き [内容]　バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。	⑪	[テーマ]　バランスとターン① [内容]　フロアでバランスからターンを行う動きを行う。
④	[テーマ]　片手でバーにつかまる動き [内容]　バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。	⑫	[テーマ]　ジャンプとターン① [内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑤	[テーマ]　バーを用いたジャンプの動き [内容]　床を踏んでからジャンプをするステップを行う。	⑬	[テーマ]　ジャンプとターン② [内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑥	[テーマ]　バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容]　バーを用いて、バランスやジャンプを行う。	⑭	[テーマ]　ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容]　13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑦	[テーマ]　バーを用いたターンの動き [内容]　バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。	⑮	[テーマ]　ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容]　13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑧	[テーマ]　ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容]　フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。

成績評価方法（方針）

実技試験で、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	30%
授業内レポート	○	○		5%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎	◎	15%
出席		◎		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。
・体調管理を怠らない。（飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。）
・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。
　①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。
　②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。
　③服装については、授業担当者の指示に従うこと。

関連科目	保健体育科教育論　Ⅲ、ダンス　Ⅱ		
教科書	適宜資料を配布する。	参考書	・片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
連絡先	山梨研究室（第4体育館1F）		

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp				担当教員	渡邉 泰典
開講内容	学年・学期	1年・集中	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用しての水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて7月中旬に3泊4日間の日程で開講する。

授業の一般目標

事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳（約3km・2時間）完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。

授業の到達目標

■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。

授業計画（全体）

事前オリエンテーション、事前実技講習有り。実習日程は7月中旬（海の日を含む）に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み（事前に掲示にて告知）。

授業テーマとその内容

1、事前作業
[テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認
[内 容]
①泳力チェック；同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。
②海浜実習オリエンテーション（6月初旬から中旬ごろ）；指定会場にて実習に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。
③事前実技講習（7月初旬ごろ）；遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。

2、現地本番作業
[テーマ] 実地海浜訓練実技体験
[内 容]
＜第1日目＞ 午前；大学出発、現地到着、
午後；開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、
海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得

＜第2日目＞ 全日；遠泳に向けた隊列泳練習（状況に応じてマリンスポーツ等を含む）

＜第3日目＞ 全日；遠泳に向けた隊列泳練習（①小遠泳、②中遠泳 等）

＜第4日目＞ 午前；大遠泳、
午後；撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散

成績評価方法（方針）

本実習に関わる全ての日程（オリエンテーション、学内事前指導を含む）に参加し、大遠泳を完泳することが単位修得の条件となる。実習中の取り組みかた、レポート等の課題を総合的に判断して評価する。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	◎	◎	◎	20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない（合否は問わない）。
②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。
③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。

関連科目	水泳、水上安全法（含実習）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp） オフィスアワー：火曜日12:00～13:00		

授業科目名	スキーⅠ SkiⅠ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦　岡田 成弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。
実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。

授業の一般目標

修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。

授業の到達目標

■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。

授業計画(全体)

技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。
ナイタースキーも実施する。
※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。
各自の技能評価用紙を提出させる。

2. 実習
①全体ミーティング
開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。
②開講式
各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。
ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。
③実技
技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。
講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。
1)プルーク:押し開き、リズミカルな連続押し開き
2)プルークボーゲン:交互押し出し、浅まわりと深まわり
3)シュテムターン:山開き、谷開き
4)パラレルターン(大回り):スキッディング、カービング
5)パラレルターン(小回り):スキッディング、カービング
6)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り
7)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース
8)班別デモンストレーション
④閉講式

成績評価方法(方針)

修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアーの取り扱いはない。5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。6. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	スキーⅡ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階　55-3002(研究室直通)　hr-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)				担当教員	岡田 成弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを通して、一般的な野外活動に必要とされるスキルや、プログラムの運営方法等を、体験を通して学んでもらう。さらに、指導者からは、指導法やキャンプ指導の魅力を伝える。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を促進する。

授業の一般目標

・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。
・野外活動に必要な知識、技術を身につける。
・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。
■	情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。
■	技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。

授業計画(全体)

8月下旬～9月初旬に、学外のキャンプ場で宿泊型の実習を行う。
実習前に複数回のオリエンテーション及び準備を行う。
キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。

授業テーマとその内容

日程: 第一団 2018年8月29日～9月1日(3泊4日)
第二団 2018年9月3日～6日(3泊4日) ※日程は変更する可能性があります。

対象: 仙台大学1年生及び過年度生 200名 (第一団100名 第二団100名)

指導者: 仙台大学教員(岡田、弓田、仲野、他)、ティーチングアシスタント(大学院生)、補助学生(学部生3～4年生)

実習施設: 南蔵王野営場(国立花山青少年自然の家保有の施設)

費用: 10,500円程度(施設使用料、食費、バス代、保険代、教材費)
※実習に必要な持ち物にかかる費用は自己負担とする(雨具など)

プログラム:
1日目 野外レクリエーション、テントサイト設営、野外炊事
2日目 沢歩きハイク、登山準備、野外炊事
3日目 南蔵王縦走登山、キャンプファイヤー
4日目 撤収、ふりかえり
※天候などの諸事情によって変更となる場合あり

実習までの流れ:
5月中旬 ガイダンス(日時・場所は掲示板で告知します)
キャンプ実習の目的、日程、プログラム、費用、持ち物
キャンプインストラクターの資格について説明
6月中旬 オリエンテーション①
キャンプ実習の持ち物、参加費振込について、個人調査票記入
7月下旬 オリエンテーション②
実施要項作成、最終確認
8月下旬 キャンプ実習本番 (第一団、第二団)
10月中旬 まとめの会
ふりかえり、レポート提出

詳細は、5月のガイダンスで説明するので、必ず参加すること。キャンプ前に2回行われるオリエンテーションとキャンプ後に行われるまとめの会にも必ず参加すること。
これらの集まりに無断で遅刻・欠席した者は、キャンプ実習に参加することはできない。掲示板をよく見ておくこと。

成績評価方法(方針)

実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。
その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		○	○	50%
演習・実技	○	○	○	50%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・学科及び男女混成の6～7人程度の少人数班を作成する。友人同士で同じ班になれない可能性があるが、サークルや学科といった垣根を越えて積極的に交流してもらいたい。
・施設にお風呂はない。シャワーも毎日入れるわけではない。シャワーを毎日浴びなくても、清潔で快適に過ごせる野外スキルを学んでもらいたい。
・ガイダンスやオリエンテーションに無断欠席・遅刻した者は実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に岡田のところに相談にくるように。
・必要最低限の道具は各自で揃えてもらう(詳しくはガイダンスで説明)。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をを行うこと。

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ(1年)、レクリエーション実技Ⅱ(2年前期)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外教育活動論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
連絡先	岡田研究室(A棟509、オフィスアワー:木曜4限)		

授業科目名	スケート Skating(P.A.)				担当教員	川口鉄二　他
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スケートに関する理論（歴史・滑走原理）及び基本技術（直進系・曲進系・転向系・停止系）を学習する。更に選択種目（フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等）の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを経験する。

授業の一般目標

体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。
■	情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。
■	技能表現的領域	日本スケート連盟公認プレーンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。

授業計画（全体）

領域は希望と経験を考慮し、基礎、フィギュア、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。

授業テーマとその内容

[テーマ] オリエンテーション
[内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について

[テーマ] スケートの基礎知識
[内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。
[内容] 滑走技術の類型と位相構造を知る。
[内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。

[テーマ] 曲進系,停止系 転向系滑走技術の習得
[内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。
[内容] イの字、ハの字ストップの練習。
[内容] フォアーバック、バックーフォア、モフォークターン、ジャンプターン

[テーマ] コース別上位技術の習得
[内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。

[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。

[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。
[内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。

[テーマ] まとめ
[内容] 実習全体の総括と内容の記録（日誌）、動感達成内容の記録・公開。

成績評価方法（方針）

実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。
レポートはコメントを付して返却する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		○	◎	70%
授業態度	○			30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
①履修希望者は必ずオリエンテーションに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具（スキー系ウェア、帽子、手袋）を身に付け、けがの防止に留意すること。④地方（盛岡）と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です（アイスホッケーのみ）。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。

関連科目			
教科書		参考書	アイススケーティングの基礎（DSK）
連絡先	A403川口		

授業科目名	レクリエーション実技Ⅰ Practical Skill on Recreation Ⅰ(P.A.)				担当教員	南條正人・櫻井佳子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・インストラクター、 レクリエーション・コーディネーター、 福祉レクリエーション・ワーカー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目(レクリエーション財)を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめ、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。

授業の一般目標

実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。

授業の到達目標

■	認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について。
■	情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる
■	技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。

授業計画(全体)

基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け	⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する
②	[テーマ] 室内ゲーム1 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングを紹介する	⑩	[テーマ] 体解しゲーム [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する
③	[テーマ] 室内ゲーム2 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングで、前回とは異なる内容を紹介する	⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ)
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動	⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ペタンク)※インドア、アウトドア両方
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験	⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス	⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー)
⑦	[テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目(レクリエーション財)の体験	⑮	[テーマ] 生涯スポーツ5 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目
⑧	[テーマ] 室外ゲーム [内容]	⑯	[テーマ] 総括 [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する

成績評価方法(方針)

基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○		60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○	○	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	レクリエーション実技Ⅱ、レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論など		
教科書	特になし	参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	エアロビックダンス Aerobic Dance				担当教員	渋谷　祐子・坂上　香里
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。

授業の一般目標

エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。
■	情意的領域	身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。
■	技能表現的領域	エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。

授業計画（全体）

各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について シラバスを熟読すること、水分補給の用意、ウエア、シューズを用意すること	⑨	[テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導について説明する 配布資料を理解しておくこと
②	[テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する	⑩	[テーマ] 指導法2 [内容] 集団の運動指導について説明する
③	[テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑪	[テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する 配布資料を理解しておくこと
④	[テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、筋力トレーニング（自重負荷運動）について説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑫	[テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う（グループ発表） プログラムを覚え指導練習をすること
⑤	[テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。 配布資料を理解しておくこと	⑬	[テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表）
⑥	[テーマ] メインエクササイズの運動強度について [内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する 配布資料を理解しておくこと	⑭	[テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表） テストに備えて復習をすること
⑦	[テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する	⑮	[テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う
⑧	[テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する	⑯	[テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う

成績評価方法（方針）

試験は、実技試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合30%）と、学習態度（評価割合10%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	60%
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート				予定なし
演習・実技		◎		10%
授業態度		◎		減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（放棄とみなす）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。
・実技中心なのでシューズ、ウエア、水分を各自用意すること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 「エアロビックダンスEX理論」（社）日本フィットネス協会
連絡先	研究室：なし　　教育企画室経由		

3. 発展科目

授業科目名	衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)				担当教員	小松正子・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	保体科教諭、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。

授業の一般目標

衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。

授業の到達目標

■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

テキスト、配布資料、パワーポイントをもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるための小問も随時課し、提出させる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは (小松) [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する。 [授業外学習]社会における役割について復習しておくこと	⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1)(高橋) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等)。 [授業外学習]地球環境問題とその影響についてについて復習しておくこと
②	[テーマ]健康の概念、医事法規 (小松) [内容]健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規についても学ぶ。 [授業外学習]他者に説明できるよう復習する。	⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2)(高橋) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等)。 [授業外学習]生活環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
③	[テーマ] 生活習慣病概論 (小松) [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。 [授業外学習]各自の生活習慣を見直して、考察する。	⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3)(高橋) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等)。 [授業外学習]化学的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
④	[テーマ]健康づくり施策 (小松) [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4)(高橋) [内容] 生物的環境問題について(ウィルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学習]生物的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
⑤	[テーマ] 生活習慣病と運動疫学 (小松) [内容] 運動と生活習慣病予防の関連について疫学等を通じて理解する。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1)(高橋) [内容]気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する。 [授業外学習]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針 (小松) [内容]運動基準・運動指針(エクササイズガイド)2006について理解する。 [授業外学習]各自の運動習慣を見直して、考察する。	⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2)(高橋) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する。 [授業外学習]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと
⑦	[テーマ]介護予防概論 (小松) [内容]細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑮	[テーマ] まとめ (高橋) [内容]全体を振り返る。 [授業外学習]各自、理解不足のところを補習すること
⑧	[テーマ] 食中毒、有機溶剤等中毒について [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]身近な食物・曝露(喫煙等)と関連づけて考えられるように復習する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。そのほか、理解度確認のための小問を時折行い、その回答をまとめたものの配布・解説などする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート		○		
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				注意参照
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	学校保健学		
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)	参考書	特になし
連絡先	研究室:小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階)		

授業科目名	看護学概論Ⅰ Introduction to Nursing Ⅰ(L)				担当教員	堀江 竜弥 ／ 篠原 真弓
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

看護学とは何かについて理解し、実際の看護および看護技術の展開方法、理論について学ぶ。

授業の一般目標

さまざまな状態の人々の健康問題や、疾患について学ぶことで、看護を展開する方法と理論、技術について学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。
■	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。
■	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。

授業計画(全体)

看護とは何かについて学び、また、看護を必要とする人々の健康問題や心理を理解する。また、基礎看護技術について学び、習得することを目的とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション(堀江) [内容] 授業内容についてのガイダンスを行う。 [授業外学習]看護の定義について教科書を読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 小児看護①(堀江) [内容] 小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。
②	[テーマ]看護とは何か(篠原) [内容] 看護・ケアとは何かについて学習する。 [授業外学習]該当箇所について教科書をよく読んでおくこと。	⑩	[テーマ] 小児看護②(堀江) [内容] 小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。
③	[テーマ] 基本的看護とは何かについて学ぶ。(篠原) [内容] 看護の基礎、基本行為について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑪	[テーマ] フィジカルアセスメント論(堀江) [内容] フィジカルアセスメントの必要性について学ぶ。 [授業外学習]移動について教科書をよく読んでおくこと。
④	[テーマ] 養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ①(堀江) [内容] 健康相談活動を展開する上で必要な看護能力について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑫	[テーマ] フィジカルアセスメント方法論(堀江) [内容] フィジカルアセスメントの実際について学ぶ。 [授業外学習]清潔について教科書をよく読んでおくこと。
⑤	[テーマ] 養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ②(堀江) [内容] 健康相談活動を展開する上で必要な看護方法について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑬	[テーマ] フィジカルアセスメント演習(堀江・篠原) [内容] フィジカルアセスメントの実際について学ぶ。 [授業外学習]身じたくの方法について教科書をよく読んでおくこと。
⑥	[テーマ] 養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ③(堀江) [内容] 健康相談活動を展開する上で必要な連携について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑭	[テーマ] 授業のまとめ1(堀江・篠原) [内容] 今まで学んだ基礎看護の総復習を行う。 [授業外学習]基礎看護技術の教科書をよく読んでおくこと。
⑦	[テーマ] 疾病の経過に伴う看護について学ぶ(篠原) [内容] 急性期・慢性期看護について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑮	[テーマ] 授業のまとめ2(堀江・篠原) [内容] 今まで学んだ基礎看護の総復習を行う。 [授業外学習]基礎看護技術の教科書をよく読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 治療・処置課程における看護機能について学ぶ(篠原) [内容]代表的な治療方法とその看護について学ぶ。 [授業外学習]該当箇所について教科書を予習しておくこと。	⑯	[テーマ] 筆記試験(堀江) [内容] 授業で学んだ内容に基づき、筆記試験を行う。 [授業外学習]試験問題について試験後に自己採点を行っておくこと。

成績評価方法(方針)

養護および看護におけるレポート、実技試験、授業態度、出席状況について総合的に評価を行う。レポートはコメントを付して返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎		○	70%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。看護についての講義のほか、演習により、看護学実習に必要な基礎看護技術について学びます。出席と、授業参加態度が重視されます。また、演習を行うときは実習着と実習用シューズが必要となります。

関連科目	看護学概論Ⅱ、看護学実習		
教科書	養護教諭のための看護学、基礎看護技術	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507　　オフィスアワー:水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	免疫・薬理学 Immunology & Pharmacology				担当教員	小澤輝高／柴原茂樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

薬理作用や免疫機構の基礎的な知識を解説し、体の抵抗力としての免疫、薬の作用について理解させる。さらに、免疫機構が関係する疾患の発症メカニズム・治療法や主要な疾患の薬理作用に基づく治療法などについて解説する。

授業の一般目標

保健活動や保健室業務に必要な薬の作用や免疫機構の基礎的事項を理解する。感染症や予防接種、病気のメカニズムや薬の働きについてわかりやすく説明できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	薬の作用、体の抵抗力としての免疫についてよく理解する。
■	情意的領域	感染症も含めた病気のメカニズムや薬の働きについてわかりやすく解説できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業期間を半分に分け、それぞれ免疫学と薬理学の講義を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 免疫学総論（柴原） [内容] 免疫とは何かその役割についての概要を解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 薬理学総論（小澤） [内容] 薬の体内での代謝、排泄の仕組みや、薬が標的器官の細胞で効果を発揮する仕組みについて解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
②	[テーマ] 細菌に対する防御反応（体液性免疫について）（柴原） [内容] 体液性免疫についてのしくみ、働きを解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 炎症並びに感染症の治療薬（小澤） [内容] 炎症反応の起こる仕組みや、抗炎症薬、細菌・ウイルス感染の治療薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
③	[テーマ] ウイルスに対する防御反応(細胞性免疫について)（柴原） [内容] 細胞性免疫について、その働きとしくみを解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 血液疾患の治療薬（小澤） [内容] 貧血の原因とその治療薬、血栓が生じる仕組みと血栓形成を抑える薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
④	[テーマ] 免疫に関わる物質・細胞について（柴原） [内容] 免疫において細胞と物質がどのようにお互いが関係しているかについて、その働きを解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 代謝性疾患の治療薬（小澤） [内容] 糖尿病、高脂血症、高尿酸血症の原因や病態、治療薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
⑤	[テーマ] リンパ球の役割について（柴原） [内容] リンパ球が、免疫を保つにおいて、どのような働きをしているかについて解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 消化器・呼吸器疾患の治療薬（小澤） [内容] 消化性潰瘍や気管支喘息などの原因、病態や治療薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 免疫と病気との関係について（柴原） [内容] 免疫と病気との関係性について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 循環器疾患の治療薬（小澤） [内容] 心不全、高血圧症、虚血性心疾患の原因、病態や治療薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 免疫細胞を制御するもの（柴原） [内容] 免疫に影響する物質や現象について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 精神障害の治療薬（小澤） [内容] 睡眠障害、うつ病、パーキンソン病などの原因、病態や治療薬について解説する。 [授業外学習] 授業で配布されたプリントを復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 免疫学のまとめと試験（柴原） [内容] 今までの免疫学の授業のまとめと知識の確認を行う。 [授業外学習] これまでの免疫学の授業内容をよく復習すること。	⑯	[テーマ] 薬理学のまとめと試験（小澤） [内容] 講義後半（薬理学）の内容について、正しく理解できたかを確認する。 [授業外学習] これまでの薬理学の授業内容をよく復習しておくこと。

成績評価方法（方針）

免疫学と薬理学の総合成績により評価する。免疫学と薬理学それぞれで基準点（60点）以上取ることが必要になる。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業内容は暗記して覚えるのではなく、理解するようにつとめること。時間内小テストを活用してよく復習しておくこと。

関連科目	医学一般、衛生・公衆衛生学、学校保健学		
教科書	特に指定しない	参考書	
連絡先	小澤研究室：F棟2階　オフィスアワー：水曜日　14時20分～15時50分		

授業科目名	障害の理解 Understanding of Handicap				担当教員	小澤 輝高/笠原 岳人
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

身体的障害の医学的基礎知識と障害者の心理、家族と地域、介護と教育との連携による支援体制を学習する。

授業の一般目標

身体的障害の医学的基礎知識、障害者を取り巻く状況について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者の肉体的、心理的問題を理解する。
■	情意的領域	知識の習得を通して障害を抱えた方々への支援に必要とされる資質の獲得を目指す。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

前半では身体の構造と機能を解説し、その機能が失われることによって生じる障害、肢体不自由を引き起こす疾患の原因、予後などについて基礎的な事項を講義する。後半では身体障害者の生活支援について事例等を交えながら解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 障害とその基本概念 (小澤) [内容] 障害に関して [授業外学習] 障害について理解できるようにしておくこと	⑨	[テーマ] 障害者の心理(1) 障害の生活受容 (笠原) [内容] 障害受容に関して [授業外学習] 障害受容に関して説明できるようにしておくこと
②	[テーマ] 障害福祉の理念と基本概念 (小澤) [内容] 障害福祉に関して [授業外学習] 障害福祉について説明できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] 障害者の心理(2) 適応と適応規制 (笠原) [内容] 障害の適応に関して [授業外学習] 障害の適応に関して説明できるようにしておくこと
③	[テーマ] 身体障害の原因・特性と生活支援 (1) 肢体不自由 (小澤) [内容] 肢体不自由に関して [授業外学習] 身体活動が不自由な場合の身体変化が説明できるようにしておく	⑪	[テーマ] 障害者の心理(3) 心理的な支援 (笠原) [内容] 障害者の心理的支援に関して [授業外学習] 障害者の心理的支援に関して説明できるようにしておくこ
④	[テーマ] 身体障害の原因・特性と生活支援(2) 内部障害 (小澤) [内容] 内部障害に関して [授業外学習] 内部障害について説明できるようにしておくこと	⑫	[テーマ] 身体障害への生活支援 (笠原) [内容] 身体障害者の生活支援に関して [授業外学習] 身体障害者の生活支援に関して説明できるようにしておくこと
⑤	[テーマ] 精神障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 精神疾患の特性と生活支援に関して [授業外学習] 精神疾患の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑬	[テーマ] 身体障害者家族への支援 (笠原) [内容] 身体障害者を支える家族支援に関して [授業外学習] 身体障害者を支える家族支援が説明できるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 知的障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 知的障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 知的障害の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑭	[テーマ] 障害者支援の連携体制 (笠原) [内容] 障害者支援の連携に関して [授業外学習] 障害者支援の連携に関して説明できるようにしておくこと
⑦	[テーマ] 発達障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 発達障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 発達障害の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑮	[テーマ] まとめ (笠原) [内容] 講義全体のまとめ [授業外学習]
⑧	[テーマ] 高次脳機能障害・重度重複障害への支援 (小澤) [内容] 高次脳機能障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 高次脳機能障害について説明できるようにしておくこと	⑯	[テーマ] 定期試験 (笠原) [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績評価は、定期試験(評価60%)と、授業内外レポート(評価40%)により、総合的に判断して成績評価を行う。
なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。
・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話を鞄の中にしまっておくこと。
・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・毎週の授業参加 だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。
・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。

関連科目			
教科書		参考書	授業の中で紹介する
連絡先	笠原研究室:F棟2階207号室　オフィスアワー:木曜日14:20～15:50		

授業科目名	保健医療論 Healthcare(L)				担当教員	小松正子/小澤輝高/高橋亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	介護福祉士・社会福祉士受験資格、教員免許状、他
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健医療制度全般(保健医療サービスの内容、専門職等々)や主要な疾病、高齢者の医学的特性等を解説する。

授業の一般目標

1. 保健医療制度を理解することで生活支援に際し、高齢者の不調に適切な対応をとり、相談に応じられる能力を身につける。2. 疾病と障害に関する医学的基礎知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	疾病や障害に関して医学的基礎知識をもとに説明できる。
■	情意的領域	保健医療的サービスを必要とする人々へ専門職としての態度をとることができる。
■	技能表現的領域	保健医療サービスを求められる人々へ適切な支援ができる。

授業計画(全体)

パワーポイント、配布資料をもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるために演習等も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション(小松) [内容]授業の目的を概説し、進め方、授業の成績評価方法等についてのオリエンテーションも行う。 [授業外学習]出席・レポートの重要性について自覚しておくこと。	⑨	[テーマ] 医療保険サービスにおける専門職の役割と連携について②(高橋) [内容] 医療保険サービスにおける専門職の役割と連携について考える。 [授業外学習]身近な例で連携の実態を知ろう。
②	[テーマ]保健医療制度とは(小松) [内容]我が国の保健医療制度を概観する。 [授業外学習]保健医療制度のしくみについて復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 社会保障制度のしくみ (高橋) [内容] 社会保障制度のしくみの中で保健医療制度を考える 。 [授業外学習]社会保障制度について予習・復習すること。
③	[テーマ] 医療保険制度、診療報酬①(小松) [内容] 医療保険制度、診療報酬について解説する。 [授業外学習]医療保険について理解しておくこと。	⑪	[テーマ] 高齢者の疾患の特徴について(小澤) [内容] 高齢者の疾患にはどのようなものがあるのか、その特性は何かについて学ぶ。 [授業外学習]高齢者の疾患について復習すること。
④	[テーマ] 医療保険制度、診療報酬②(高橋) [内容] 医療保険制度、診療報酬について解説する(国際比較含む)。 [授業外学習]医療保険について理解しておくこと。	⑫	[テーマ] 代謝・内分泌疾患(小澤) [内容]糖尿病、高脂血症について学ぶ。 [授業外学習]医学的な専門用語を覚えること。
⑤	[テーマ]保健医療統計(小松) [内容] 保健医療に関連の深い傷病統計(患者調査、国民生活基礎調査、他)を概観し、我が国の現状を把握する。 [授業外学習]各自で関心をもった統計について調べてみよう。	⑬	[テーマ]呼吸器疾患(小澤) [内容]呼吸器に関する代表的な疾患について解説する。 [授業外学習]医学的な専門用語も復習し、覚えること。
⑥	[テーマ]医事法制について①(小松) [内容]保健医療関連法規について、全般的に学習する(医療法、他)。 [授業外学習]医事法規とは何かについて復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 循環器疾患(小澤) [内容] 高血圧、脳血管疾患、虚血性心疾患について学ぶ。 [授業外学習]医学的な専門用語を覚えること。
⑦	[テーマ]医事法制について②(高橋) [内容]保健医療関連法規について、全般的に学習する(身分法、他)。 [授業外学習]医事法規について復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 生活習慣病(小澤) [内容] 生活習慣病の発生原因と、どのような疾患があるのかについて学ぶ。 [授業外学習]生活習慣病について復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 医療保険サービスにおける専門職の役割と連携について①(小松) [内容] 医療保険サービスにおける専門職の役割と連携について考える。 [授業外学習]身近な例で連携の実態を知ろう。	⑯	[テーマ] まとめ(小松) [内容] 知識を定着させるための試験等を行う。 [授業外学習]事前に見直し、復習をすること。

成績評価方法(方針)

評価は、各担当の小試験やレポートを平均して行う。出席状況、授業参加状況を参考点として減加算する場合もある。ただし、3分の2以上の出席が必要条件である。提出されたレポートは授業内に解説をしながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	○	○		20%
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度			○	
出席			○	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

積極的に知識を吸収してほしい。授業態度の悪いものには厳正に対処する。社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス(中央法規) も参考になる(社会福祉士希望者向け) 詳しくはオリエンテーションで説明する。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書		参考書	新・介護福祉士養成講座第2巻 社会と制度の理解、他
連絡先	小松正、小澤(F棟2階)、高橋亮(E棟2階)		

授業科目名	医学一般 General Medicine （Ｌ.）				担当教員	小澤輝高／柴原茂樹／山口貴久
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許（中高保体、福祉、養護）、介護福祉士、 社会福祉士、健康運動指導士、健康運動実践指導者、 障害者スポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日常生活を支える、体の器官の構造と機能について学習する。国際生活機能分類、リハビリテーションの概要についても解説する。

授業の一般目標

骨格と骨格筋、呼吸循環系、消化器系、内分泌系、神経系などヒトのからだを構成する、様々な器官系の構造（仕組み）を理解するとともに、これらの機能（働き）に関する基礎的知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	ヒトのからだを構成する人体各部の名称やその働きについて体系的に説明できる。
■	情意的領域	ヒトの体についての医学的知識を、日常生活支援や介護に生かしていけるようにする。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教科書にしたがって講義を進める。講義の後半には、小テストを行って講義内容が理解できているか確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（小澤） [内容] 授業の担当者や授業の進め方などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 呼吸器系の構造と機能（小澤） [内容] 肺や気管など呼吸器系の構造と呼吸の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 呼吸器系に関する内容を教科書で復習しておくこと。
②	[テーマ] 細胞と人体の構成（柴原） [内容] 人体を構成している細胞、組織、器官について説明する。 [授業外学習] 細胞、組織に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 消化と吸収（小澤） [内容] 消化管の構造と食物の消化・吸収の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 消化器系に関する内容を教科書で復習しておくこと。
③	[テーマ] 骨と筋肉（1）（山口） [内容] 骨、関節、筋肉の構造と機能（上半身）について説明する。 [授業外学習] 骨、筋肉に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 腎臓と尿の生成（小澤） [内容] 腎臓の構造と尿の生成の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 腎臓に関する内容を教科書で復習しておくこと。
④	[テーマ] 骨と筋肉（2）（山口） [内容] 骨、関節、筋肉の構造と機能（下半身）について説明する。 [授業外学習] 骨、筋肉に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 中枢神経系（小澤） [内容] 大脳、小脳、中脳、延髄、脊髄などの中枢神経系の構造と役割について解説する。 [授業外学習] 中枢神経系に関する内容を教科書で復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 骨と筋肉（3）（山口） [内容] 骨、関節、筋肉の構造と機能についてのまとめを行い、到達度を確認するための試験を行う。 [授業外学習] 骨、筋肉に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 末梢神経系（小澤） [内容] 運動の指令や感覚情報を伝える体性神経系と内臓の機能に関与する自律神経系について説明する。 [授業外学習] 末梢神経系に関する内容を教科書で復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 循環器系の構造と機能（柴原） [内容] 心臓や血管などの循環器系の構造と血液循環の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 循環器系に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 体温調節（小澤） [内容] 体温をいつも一定に保つ仕組みについて説明する。 [授業外学習] 体温調節に関する内容を教科書で復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 血液と体液（柴原） [内容] 血液（体液）の組成とその役割について説明する。 [授業外学習] 血液と体液に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 生活機能の障害とリハビリテーション（小澤） [内容] 生活機能の障害とリハビリテーションの理念について説明する。 [授業外学習] 生活機能障害に関する内容を復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 内分泌（柴原） [内容] 内分泌器官とホルモンの役割について説明する。 [授業外学習] 内分泌系に関する内容を教科書で復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 試験（小澤） [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。 [授業外学習] これまでの授業内容をよく復習しておくこと。

成績評価方法（方針）

授業に2/3以上出席し、期末試験にて60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。

関連科目	運動生理学（2年）		
教科書	人体の構造と機能（医歯薬出版）	参考書	特に指定しない。
連絡先	小澤研究室：F棟2階　オフィスアワー：水曜日　14時20分～15時50分		

授業科目名	介護過程と介護研究Ⅰ The Care Process and Care Research Ⅰ				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・篠原真弓
開講内容		4・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

利用者の課題を明確化するための情報収集、アセスメント、介護計画の立案、実施、評価という介護過程を振り返り、より実践力を身につけるための研究方法について授業を行う。

授業の一般目標

介護過程の総まとめとして、介護過程とチームアプローチ、他職種との連携について学ぶ。また、より良い介護を行うための研究方法について学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	具体的なサービスのできる研究能力を養うことができる。
■	情意的領域	利用者の心理状況を理解し、実践できる能力を養うことができる。
■	技能表現的領域	具体的な介護サービスの提供ができる実践力を身につける。

授業計画(全体)

4名の教員ごとにグループ、または個人に分かれ、介護に関するテーマを中心にゼミ方式で研究を行う。詳細な方法については各担当教員の指示に従うこと。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 介護過程と介護サービス計画 [内容] 介護過程と介護サービス計画の関係について講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑨	[テーマ] 研究プロセスの概観 [内容] 研究の進行プロセスについて講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
②	[テーマ]介護過程とチームアプローチ1 [内容] 介護過程におけるチームアプローチの方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑩	[テーマ] 介護研究問題の選択と定義 [内容] 介護研究にはどのような問題があり、どんな研究がなされてきているかについて講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
③	[テーマ]介護過程とチームアプローチ2 [内容] 介護過程におけるチームアプローチの方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑪	[テーマ] 研究問題に関する既存の情報と要約 [内容] 介護研究にはどのような問題があり、どんな研究がなされてきているかについて講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
④	[テーマ]介護過程とチームアプローチ3 [内容] 介護過程におけるチームアプローチの方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑫	[テーマ] 研究仮説の組み立て [内容] テーマに沿った研究仮説の組み立て方について講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑤	[テーマ]介護過程とチームアプローチ4 [内容] 介護過程におけるチームアプローチの方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑬	[テーマ] 介護研究のための設計 [内容] 研究の設計方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑥	[テーマ] 介護研究とは何か [内容] 介護研究とは何か、研究の意義と目的について講義する。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑭	[テーマ] 測定とデータ収集 [内容] 研究における測定方法とデータ収集方法について学ぶ。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑦	[テーマ] 介護と研究の役割 [内容] 介護における研究の役割について講義を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑮	[テーマ] 授業のまとめ1 [内容] 研究方法についての総まとめとグループワークによる研究テーマのディスカッションを行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑧	[テーマ] 科学的アプローチ [内容] 研究における科学的アプローチの方法について講義する。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ2 [内容] 研究方法についての総まとめとグループワークによる研究テーマのディスカッションを行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。

成績評価方法(方針)

授業出席状況、授業態度、授業内レポート、プレゼンテーションなどを総合的に見て評価を行う。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			70%
授業外レポート				
演習・実技			○	20%
授業態度			○	10%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

この授業は、各教員の指導の下に、個人またはグループで介護にかかわるテーマの研究を行うため、研究方法についてよく理解することと、文献検索などは主体的に取り組み、関係する文献をよく読むようにしてください。
また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護過程Ⅰ～Ⅲ. 介護実習Ⅰ～Ⅲ. 介護過程と介護研究Ⅱ		
教科書	それぞれの指導教員の指示に従うこと。	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211　オフィスアワー:火曜日　12:40～14:10		

授業科目名	介護過程と介護研究Ⅱ The Care Process and Care Research Ⅱ				担当教員	後藤満枝・大山さく子・篠原真弓・福田伸雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

利用者の課題を明確化するための情報収集、アセスメント、介護計画の立案、実施、評価という介護過程を振り返り、より実践力を身につけるための研究方法について授業を行う。

授業の一般目標

介護過程の総まとめとして、介護過程とチームアプローチ、他職種との連携について学ぶ。また、より良い介護を行うための研究方法について学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	具体的なサービスのできる研究能力を養うことができる。
■	情意的領域	利用者の心理状況を理解し、実践できる能力を養うことができる。
■	技能表現的領域	具体的な介護サービスの提供ができる実践力を身につける。

授業計画(全体)

3名の教員ごとにグループ、または個人に分かれ、介護に関するテーマを中心にゼミ方式で研究を行う。詳細な方法については各担当教員の指示に従うこと。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]研究計画の立案1 [内容] 指導教員の指導の下に研究計画の立案を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑨	[テーマ] データ分析1 [内容] 指導教員の指導の下にデータ分析を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
②	[テーマ]研究計画の立案2 [内容] 指導教員の指導の下に研究計画の立案を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑩	[テーマ] データ分析2 [内容] 指導教員の指導の下にデータ分析を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
③	[テーマ] 研究方法の選択1 [内容] 指導教員の指導の下に研究テーマに沿った研究方法についての選択を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑪	[テーマ] 研究のまとめ1 [内容] 指導教員の指導の下に研究のまとめを行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
④	[テーマ] 研究方法の選択2 [内容] 指導教員の指導の下に研究テーマに沿った研究方法についての選択を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑫	[テーマ] 研究のまとめ2 [内容] 指導教員の指導の下に研究のまとめを行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑤	[テーマ] データ収集1 [内容] 指導教員の指導の下に、実験、アンケート収集、フィールドワークを通じてデータ収集を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑬	[テーマ] 研究のまとめ3 [内容] 指導教員の指導の下に研究のまとめを行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑥	[テーマ] データ収集2 [内容] 指導教員の指導の下に、実験、アンケート収集、フィールドワークを通じてデータ収集を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑭	[テーマ] 研究発表1 [内容] 卒業研究発表会を通して、研究成果の発表を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑦	[テーマ] データ収集3 [内容] 指導教員の指導の下に、実験、アンケート収集、フィールドワークを通じてデータ収集を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑮	[テーマ] 研究発表2 [内容] 卒業研究発表会を通して、研究成果の発表を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。
⑧	[テーマ] データ収集4 [内容] 指導教員の指導の下に、実験、アンケート収集、フィールドワークを通じてデータ収集を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 研究の総まとめを行い、評価を行う。 [授業外学習]指導教員の指示に従うこと。

成績評価方法(方針)

授業出席状況、授業態度、授業内レポート、プレゼンテーションなどを総合的に見て評価を行う。なお、レポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			70%
授業外レポート				
演習・実技			○	20%
授業態度			○	10%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

この授業は、各教員の指導の下に、個人またはグループで介護にかかわるテーマの研究を行うため、研究方法についてよく理解することと、文献検索などは主体的に取り組み、関係する文献をよく読むようにしてください。
また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行ってください。

関連科目	介護過程Ⅰ～Ⅲ. 介護実習Ⅰ～Ⅲ. 介護過程と介護研究Ⅰ		
教科書	それぞれの指導教員の指示に従うこと。	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202、大山研究室:F棟2階211、篠原研究室:F棟2階212、福田研究室:LC棟2階212　オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	介護概論Ⅰ Introduction to Nursing Care Ⅰ(L.)				担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士受験資格、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護福祉士を取り巻く状況や背景について、介護の歴史を通して理解させ、介護福祉士の社会的役割や利用者の主体性や自立支援の重要性について解説する。

授業の一般目標

一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の意義と役割、専門性について述べることができる。
■	情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いた講義を展開するが、介護をより身近に、そして理解を深めるため事例を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 介護を必要とする人の理解1 [内容] 人間の多様性・複雑性について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ]人間と生活の理解1 [内容] 生活の考え方と私たちの生活の理解について説明する [授業外学習]‘人間’と‘生活’について、その本質を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 介護を必要とする人の理解2 [内容] さまざまな高齢者の暮らしや介護が必要になった事例を紹介する [授業外学習]高齢者の暮らしを理解しておくこと
③	[テーマ] 人間と生活の理解2 [内容] 生活の個別性・多様性、複雑性について説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 介護を必要とする人の理解3 [内容] さまざまな障害者の暮らしと生活ニーズについて説明する [授業外学習]障害者の暮らしを理解しておくこと
④	[テーマ] 介護福祉士を取り巻く状況1 [内容] わが国の介護の歴史について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 介護を必要とする人の理解4 [内容] 介護を必要とする人の生活環境とその人らしさについて説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 介護福祉士を取り巻く状況2 [内容] 介護問題の背景と介護の社会化について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 自立に向けた介護 [内容] 自立の意味、重要性について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ1 [内容] 社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要を説明、また、倫理規定について説明する [授業外学習]社会福祉士及び介護福祉士法の誕生と目的、概要を発表できる	⑭	[テーマ] 生活支援としての介護 [内容] さまざまな生活支援とその意義について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ2 [内容] 専門職能団体の活動と役割、機能を説明する [授業外学習]介護福祉士の担う社会的役割と機能について説明できる	⑮	[テーマ] 尊厳を支える介護 [内容] QOL、ノーマライゼーションの考え方について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 介護福祉士の倫理 [内容] 介護実践における専門職としての倫理と日本介護福祉士会倫理綱領について説明する [授業外学習]教科書を復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				0%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	介護概論Ⅱ(1年)、リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、レクリエーション活動援助法Ⅰ(1年)、生活と生活支援(1年)、生活支援技術に基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)		
教科書	最新介護福祉全書3介護 介護の基本 メヂカルフレンド社	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211 オフィスアワー:火曜日 12:40～14:10		

授業科目名	生活支援技術の基礎Ⅰ Lifestyle Support Skill Basic Ⅰ(S.)				担当教員	後藤満枝／福田伸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自立支援の視点をふまえ、介護を必要とする人々の安全で快適な環境の整備、食事、入浴、排泄、移動、身じたく等の日常生活援助について、基本的知識・技術を習得できるよう、解説をもとに演習を展開する。

授業の一般目標

介護に必要な基本的知識を身につけ、介護を必要とする人々の身体的状況や、心理的状況などについて理解することができる。また、対象者の日常生活の自立を促し、対象者の状態に応じた安全で、安楽な基本的介護技術を展開することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護に必要な基本的知識について説明することができる。
■	情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮できる。
■	技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を展開することができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って、教科書や視聴覚教材を用いて解説を加えながら、内容の確認を行う。特に重要な項目や技術については、デモンストレーションを取り入れ、その後グループごとに演習を展開し、技術の習得につなげる。教員が随時技術指導・確認を行うが、授業終了時に感想等を聞き、助言を行うなど、まとめとして、補足説明を加える。なお、授業で得た知識や学び等をレポートにまとめ、提出してもらう課題を課す場合もある。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 生活支援とは何か(福田) [内容] 生活を理解する視点と生活支援の基本的な考え方について解説する。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業の復習をしておくこと。	⑨	[テーマ] 自立に向けた身じたくの介護2(後藤) [内容] 口腔内清潔保持の意義について説明し、実際の方法について演習を行う。 [授業外学習]実際に演習を行うため、歯ブラシとコップを持参すること。
②	[テーマ]自立に向けた移動の介護1(福田) [内容] ボディメカニクスの原理・原則について解説をもとに演習を行う。 [授業外学習]ボディメカニクスの原理・原則について復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 自立に向けた入浴・清潔保持の介護1(後藤) [内容] 身体を清潔に保つ方法として、、安全で的確な入浴介助の技法について実際に演習を行う。 [授業外学習]実際に入浴するため、水着とバスタオルを持参すること。
③	[テーマ]自立に向けた移動の介護2(福田) [内容] 介護場面に必要となる姿勢の種類の説明、要介護者の移動介助の演習を行う。 [授業外学習]姿勢の種類(名称)を覚えられるように復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 自立に向けた入浴・清潔保持の介護2(後藤) [内容] 身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な食事介助の方法について演習を行う。 [授業外学習]実際に足浴を行うため、タオルを持参すること。
④	[テーマ]自立に向けた移動の介護3(福田) [内容] 車椅子の扱い方や、ベッドと車椅子間の移動介助について演習を行う。 [授業外学習]車椅子の各部の名称を覚えられるように復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 自立に向けた食事の介護(福田) [内容] 摂食のメカニズムについて解説し、安全で適切な食事介助の方法について演習を行う。 [授業外学習]実際に食事の介助を行うため、エプロンを持参すること。
⑤	[テーマ] 自立に向けた居住環境の整備1(福田) [内容] 居住環境や居住環境の整備における意義・目的・実際について説明する。 [授業外学習]居住環境の整備について教科書等で復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 自立に向けた排泄の介護(後藤) [内容] 排泄のメカニズムについて解説し、ポータブルトイレでの排泄介助について演習を行う。 [授業外学習]演習の際、実習着の下にハーフパンツを着用すること。
⑥	[テーマ] 自立に向けた居住環境の整備2(福田) [内容]寝具の整え方について説明し、ベッドメイキングの演習を行う。 [授業外学習]自宅でベッドメーキングについて復習してみること。	⑭	[テーマ] アセスメントとは何か(後藤) [内容] アセスメントの意味と手法について解説する。 [授業外学習]アセスメントについて、教科書で復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 自立に向けた居住環境の整備3(福田) [内容] ベッドメイキングの技術確認を行う。 [授業外学習]自宅でベッドメーキングについて復習してみること。	⑮	[テーマ] 授業のまとめ(後藤) [内容] これまでの授業を振り返り、解説する。 [授業外学習]これまでの授業について教科書等で復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 自立に向けた身じたくの介護1(後藤) [内容] 身だしなみを整えることの意義を説明し、衣服の着脱介助の方法について演習を行う。 [授業外学習]脱健着患の原則を理解し、実際に自宅で復習してみること。	⑯	[テーマ] テスト(後藤・福田) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]テストに備えて、復習しておくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験、実技試験の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席3分の2以上が前提となる。試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎	◎	40%
授業態度				加点・減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本授業は学外の「介護実習Ⅰ」に直接つながる授業である。毎回演習や体験を通しての学習になるため、授業をできるだけ休まないようにすること。
・3分の2以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)
・授業態度によっては、成績評価の加点・減点を行うこともある。
・授業中の身だしなみも授業態度として評価する。
・介護実習室では実習着、体育館シューズを着用すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション技術論、生活と生活支援、生活支援技術の基礎Ⅱ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202、福田研究室:LC棟2階212　オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	介護総合演習Ⅰ General Seminar on Nursing Care Ⅰ(S.)				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

実習を展開するにあたり、実習に必要な知識や技術、心構え等、介護専門職として総合的対応能力を身につけるよう展開する。

授業の一般目標

介護実習に向けての心構え、知識・技術・価値・倫理等を総合的に実践する力を身につけ、介護福祉士としての自覚を高め、要介護者の課題に応じた適切な介護実践の必要性が理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護実習に必要な知識や技術、心構え等理解し、要介護者の課題に応じた適切な介護実践の必要性を説明できる。
■	情意的領域	介護実習に関心を持ち、実習前の課題に意欲的に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	習得した介護および介護周辺領域の知識、学問を応用し、実践的な技術、態度を習得できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および実習要項を用い展開するが、介護実習をより身近に、そして理解を深めるためにさまざまな演習やグループ活動、さらに、個別指導を通して進める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 介護実習Ⅰの目標を設定① [内容] 自己の実習課題を明確化し、実習目標を立てる [授業外学習]教科書、実習要項の復習
②	[テーマ]介護総合演習と介護実習Ⅰについて① [内容] カリキュラムと介護総合演習の位置づけについて説明する [授業外学習]教科書、実習要項を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 介護実習Ⅰの目標を設定② [内容] 自己の実習課題を明確化し、実習目標の確認 [授業外学習]教科書、実習要項の復習
③	[テーマ] 介護総合演習と介護実習Ⅰについて② [内容] 介護総合演習の目的について説明する [授業外学習]教科書、実習要項を復習しておくこと	⑪	[テーマ] 実習目標に基づいた到達状況の確認と個別指導① [内容] 実習先の概要、実習内容の確認と記録の指導を行う [授業外学習]教科書、実習要項の復習
④	[テーマ] 介護実習の意義と目的について学ぶ [内容] なぜ介護 実習が必要か、実習の目標を持つことの大切さを説明する [授業外学習]教科書を復習しておくこと	⑫	[テーマ] 実習目標に基づいた到達状況の確認と個別指導② [内容] 実習先の概要、実習内容の確認と記録の指導を行う [授業外学習]教教科書、実習要項の復習
⑤	[テーマ] 介護実習の展開方法について [内容] 介護実習の流れと実習内容について説明する [授業外学習]教科書、実習要項を復習しておくこと	⑬	[テーマ] 自己の実習目標に基づいた到達状況の確認と個別指導③ [内容] 実習先の概要、実習内容の確認と記録の指導を行う [授業外学習]提出物の清書、および最終資料の確認をしておくこと
⑥	[テーマ] 介護実習Ⅰの内容① [内容] 実習Ⅰの施設の種類と利用者特性について説明する [授業外学習]次回のグループ活動に向け、情報収集しておくこと	⑭	[テーマ] 実習の心構えについて [内容] 実習心構えと姿勢、留意事項について説明する [授業外学習]教科書とともに実習要項も使用する
⑦	[テーマ] 介護実習Ⅰの内容② [内容] 実習施設の機能や役割について調べる [授業外学習]教科書、他参考書を用い、情報収集した資料の整理をしておく	⑮	[テーマ] 施設別オリエンテーション [内容] 実習施設ごとに個別指導(実習先事前訪問の確認) [授業外学習]復習しておくこと
⑧	[テーマ] 介護実習Ⅰの内容③ [内容] 実習施設の調整・確認 [授業外学習]実習施設の概要を復習しておくこと	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 専門職としての介護福祉士について [授業外学習]教科書とともに実習要項も使用する

成績評価方法(方針)

実習レポート(50%)、授業内レポート(30%)、授業参加態度(20%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート	◎			50%
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護実習Ⅰ、介護総合演習Ⅰ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 中央法規	参考書	介護実習要項
連絡先	福田研究室:G棟2階212 オフィスアワー:火曜日 14:20～15:50		

授業科目名	介護総合演習Ⅱ General Seminar on Nursing CareⅡ（S.）				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、介護実習の事前・事後指導を行う。グループディスカッション等により、総合的な実習の振り返りと課題の明確化を行い、その上で、個別の課題抽出と解決に必要な個別的指導を行う。

授業の一般目標

介護実習Ⅰの振り返りから自己の課題を明確にすることができる。また、実習の事前・事後の学習を通じて、改めて実習の心構えや求められる介護の専門的知識・技術等について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護実習Ⅰの振り返りから自己の課題について述べることができる。また、介護実習Ⅱの施設の特性について説明することができる。
■	情意的領域	介護福祉士としての自覚を持ち、専門職に求められる資質や技能等の総合的能力について考えることができる。また、介護実習と他科目を関連づけて学習することの必要性に気づくことができる。
■	技能表現的領域	介護実習Ⅰにおける自己の学びや今後の課題について客観的にとらえ、それを記録にまとめることができる。

授業計画（全体）

前半は介護実習Ⅰを振り返り、グループディスカッションや実習レポートのまとめを行う。後半は、介護実習Ⅱに向けて、実習施設の特性について理解を深めることを中心にグループワーク等を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、介護実習Ⅰのレポート提出について [授業外学習]実習レポートの作成を進めておくこと。次回実習要項を持参。	⑨	[テーマ] 事例検討④ [内容] 実習における困難事例・失敗事例についてグループ内で討議した内容・結果を全体で発表してもらう。 [授業外学習]次回実習要項と教科書持参。実習Ⅱの内容を確認しておくこと。
②	[テーマ] 介護実習Ⅰ反省会 [内容] 介護実習Ⅰの反省会を通して実習の振り返りを行う。 [授業外学習]実習レポートの作成を進めておくこと。次回実習レポート持参。	⑩	[テーマ] 介護実習Ⅱについて [内容] 介護実習Ⅱの概要について説明する。 [授業外学習]次回、教科書や参考書等を持参すること。
③	[テーマ] 介護実習Ⅰレポート添削指導① [内容] 実習レポートを個別に添削し、考察を深められるよう指導する。 [授業外学習]添削指導をもとに実習レポートを修正し、次回持参すること。	⑪	[テーマ] 実習施設についての理解① [内容] 介護実習Ⅱで使用する施設の種別の特性についてグループワークを展開する。 [授業外学習]わからない点は、教科書や参考書等を参考に調べてみること。
④	[テーマ] 介護実習Ⅰレポート添削指導② [内容] 実習レポートを再度個別に添削し、より考察を深められるよう指導する。 [授業外学習]添削指導をもとに実習レポートを修正し、次回持参すること。	⑫	[テーマ] 実習施設についての理解② [内容] 前回に引き続き、介護実習Ⅱで使用する施設の種別の特性についてグループワークを展開する。 [授業外学習]わからない点は、教科書や参考書等を参考に調べてみること。
⑤	[テーマ] 介護実習Ⅰレポート添削指導③ [内容] 修正された実習レポートの内容を確認し、完成版の提出へとつなげる。 [授業外学習]実習レポートの完成版を次回提出できるよう準備しておくこと。	⑬	[テーマ] 実習施設についての理解③ [内容] 前回に引き続き、介護実習Ⅱで使用する施設の種別の特性についてグループワークを展開する。 [授業外学習]わからない点は、教科書や参考書等を参考に調べてみること。
⑥	[テーマ] 事例検討① [内容] 実習における困難事例・失敗事例について振り返りと考察をする。自己の振り返りをもとに、グループ内で情報交換をする。 [授業外学習]実習の振り返りを各自しておくこと。	⑭	[テーマ] 実習施設についての理解④ [内容] 介護実習Ⅱで使用する施設の種別の特性についてグループ内で調べた内容をグループ内で確認する。 [授業外学習]施設種別の特性について不足情報を確認、追加しておくこと。
⑦	[テーマ] 事例検討② [内容] 実習における困難事例・失敗事例について、グループ内で考察を深める。 [授業外学習]グループ内で取り上げた事例について各自考えてみること。	⑮	[テーマ] 介護実習Ⅱの実習先決定 [内容] 次年度に行われる介護実習Ⅱの実習先を決定する。 [授業外学習]決定した実習先の施設についてよく調べておくこと。
⑧	[テーマ] 事例検討③ [内容] 前回に引き続き、実習における困難事例・失敗事例について、グループ内で考察を深める。次回の発表資料も必要部数印刷準備する。 [授業外学習]事例検討した内容を次回発表できるよう準備しておくこと。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

実習レポート（50%）、授業内レポート（30%）、授業参加態度（20%）の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席率2/3以上が前提となる。なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート			◎	50%
演習・実技				
授業態度			◎	20%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生や実習レポート未提出の学生については、、単位を修得することができないので注意すること。
・授業計画は、授業の進み具合により多少前後することもある。
・本授業は介護実習に直接つながる内容であるため、できるだけ授業を欠席しないようにすること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ、介護総合演習Ⅰ		
教科書	新・介護福祉士養成講座　第10巻　介護総合演習・介護実習　中央法規	参考書	介護実習要項
連絡先	福田研究室：G棟2階212　オフィスアワー：火曜日　14:20～15:50		

授業科目名	介護総合演習Ⅲ General Seminar on Nursing Care Ⅲ(S.)				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

グループディスカッション等により、介護実習Ⅱの事前・事後指導、および介護実習Ⅲの事前指導を行う。授業の演習を通し、総合的な介護実習Ⅱの振り返りと、介護実習Ⅲにむけての自己の課題の明確化を行い、次の介護実習Ⅲに向けての内外の準備を行う。

授業の一般目標

介護実習Ⅱ・Ⅲに向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備から実習への実践力を身につけ、介護実習Ⅱ終了後の介護実習Ⅲへの課題設定を行い、次の介護実習Ⅲに向けての内外の準備を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護実習Ⅱ・Ⅲの意義とその重要性について理解する。
■	情意的領域	介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能等の総合的能力について理解する。
■	技能表現的領域	習得した介護技術、および介護周辺の領域の知識、学問を応用し、実践的な技術、態度を習得できる。

授業計画(全体)

授業前半は、介護実習Ⅱに向けての事前・実習中・事後指導を行う。後半は介護実習Ⅲの事前指導を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 介護実習Ⅱの目的について学ぶ。 [内容] 教科書、介護実習要綱を通して、介護実習Ⅱの意義と目的について学ぶ。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 介護実習Ⅱの評価を行う。 [内容] 介護実習Ⅱのレポート作成を通じて、実習の振り返りを行い、介護実習Ⅲに向けて、自己の課題を明確にする。 [授業外学習]レポート作成については各実習担当教員の指導に従うこと。
②	[テーマ]実習先の概要について学ぶ。 [内容] 介護実習Ⅱの施設の概要・利用者の特徴について学ぶ。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 介護実習Ⅱの評価を行う。 [内容] 介護実習Ⅱのレポート作成を通じて、実習の振り返りを行い、介護実習Ⅲに向けて、自己の課題を明確にする。 [授業外学習]レポート作成については各実習担当教員の指導に従うこと。
③	[テーマ] 介護実習Ⅱの目標を設定する。 [内容] 介護実習Ⅰを踏まえ、自己の課題を明確にして目標を設定する。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。	⑪	[テーマ] 介護実習Ⅱの評価を行う。 [内容] 介護実習Ⅱのレポート作成を通じて、実習の振り返りを行い、介護実習Ⅲに向けて、自己の課題を明確にする。 [授業外学習]レポート作成については各実習担当教員の指導に従うこと。
④	[テーマ] 介護実習Ⅱの実践を通して、実際の介護について学ぶ。 [内容] 実際の実習を通して、介護の実際について学ぶ。 [授業外学習]実習中は施設指導者の指示に従う。	⑫	[テーマ] 介護実習Ⅲの目的について学ぶ。 [内容] 教科書、介護実習要綱を通して、介護実習Ⅲの意義と目的について学ぶ。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。
⑤	[テーマ] 介護実習Ⅱの実践を通して、実際の介護について学ぶ。 [内容] 実際の実習を通して、介護の実際について学ぶ。 [授業外学習]実習中は施設指導者の指示に従う。	⑬	[テーマ] 介護実習Ⅲの施設決定を行う。 [内容] 介護実習Ⅱの結果を踏まえ、介護実習Ⅲの施設決定を行う。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。
⑥	[テーマ] 介護実習Ⅱの実践を通して、実際の介護について学ぶ。 [内容] 実際の実習を通して、介護の実際について学ぶ。 [授業外学習]実習中は施設指導者の指示に従う。	⑭	[テーマ] 介護実習Ⅲの目標を設定する。 [内容] 介護実習Ⅱの結果を踏まえ、自己の課題を明確にして目標を設定する。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。
⑦	[テーマ] 介護実習Ⅱの実践を通して、実際の介護について学ぶ。 [内容] 実際の実習を通して、介護の実際について学ぶ。 [授業外学習]実習中は施設指導者の指示に従う。	⑮	[テーマ] 介護実習Ⅲの展開方法について学ぶ。 [内容] 介護実習要項を通して、介護実習Ⅲの展開方法について学ぶ。 [授業外学習]介護実習要綱をよく読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 介護実習Ⅱの評価を行う。 [内容] 実習反省会を通して、個人、グループでの学びについて振り返りを行う。 [授業外学習]介護実習Ⅱで使用した実習資料をよく読んでおくこと。	⑯	[テーマ] 実習先事前訪問 [内容] 実際の介護実習Ⅲの施設を訪問し、実習の流れ、施設の特徴を把握する。 [授業外学習]実習先の場所、交通手段、持参物等の確認をしっかり行うこと。

成績評価方法(方針)

実習レポート(50%)、授業内レポート(30%)、授業参加態度(20%)の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席率2/3以上が前提となる。なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート	◎			50%
演習・実技				
授業態度		○		20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席3分の2以上の学生に対し、実習レポート、授業参加態度の結果に基づき、総合的に評価を行う。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、介護実習Ⅱ・Ⅲ、介護過程Ⅲ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習	参考書	介護実習要項
連絡先	福田研究室:G棟2階212 オフィスアワー:火曜日 14:20～15:50		

授業科目名	介護総合演習Ⅳ General Seminar on Nursing CareⅣ (S.)				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、介護実習の事後指導を行う。
① 総合的な実習の振り返りと課題の明確化を行い、課題抽出と解決に必要な個別的指導を行う。
② ワークシート等を用いた自己評価と他者の体験を聞くことで介護観・職業観の形成に向けた相互の学びを深める。

授業の一般目標

介護実習Ⅲの振り返りから自己の課題を明確にすることができる。また、実習後の指導により、介護観の形成と介護職に求められる専門的知識・技術等について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護実習Ⅲの振り返りから自己の課題について述べることができる。そのうえで、介護の理論を具体的な実践内容に反映できる術を論理的に整理することができる。
■	情意的領域	介護福祉士としての自覚を持ち、専門職に求められる資質や技能等の総合的能力について考えることができる。また、介護実習と他科目を関連づけて学習することの必要性に気づくことができる。
■	技能表現的領域	介護実習Ⅲにおける自己の学びや今後の課題について客観的にとらえ、それを記録にまとめることができる。

授業計画(全体)

前半は介護実習Ⅲを振り返り、グループディスカッションや実習レポートのまとめを行う。後半は、個別作業で作成したワークシートを用いたグループ討議から介護観や職業観・職業倫理を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、介護実習Ⅰのレポート提出について [授業外学習]実習レポートの作成を進めておくこと。次回実習要項を持参。	⑨	[テーマ] 事例検討④ [内容] 実習における困難事例・失敗事例についてグループ内で討議した内容・結果を全体で発表してもらう。 [授業外学習]各実習レポートを基に、目標到達度の自己評価をしておくこと。
②	[テーマ] 介護実習Ⅲ反省会 [内容] 介護実習Ⅲの反省会を通して実習の振り返りを行う。 [授業外学習]実習レポートの作成を進めておくこと。次回実習レポート持参。	⑩	[テーマ] 介護実習目標達成度の評価① [内容]ワークシート(7種 A～G)の各項目に沿い記入,作成を行う。 [授業外学習]記入内容を推敲し、ワークシートを完成させ持参すること。
③	[テーマ] 介護実習Ⅲレポート添削指導① [内容] 実習レポートを個別に添削し、考察を深められるよう指導する。 [授業外学習]添削指導をもとに実習レポートを修正し、次回持参すること。	⑪	[テーマ]介護実習目標達成度の評価② [内容]指示された構成グループにおいて、作成した資料を基に討議を行う。 [授業外学習]次回も継続して展開するので、資料を読み込むこと。
④	[テーマ] 介護実習Ⅲレポート添削指導② [内容] 実習レポートを再度個別に添削し、より考察を深められるよう指導する。 [授業外学習]添削指導をもとに実習レポートを修正し、次回持参すること。	⑫	[テーマ]介護実習目標達成度の評価③ [内容]指示された構成グループにおいて、作成した資料を基に討議を行う。 [授業外学習]次回も継続して展開するので、資料を読み込むこと。
⑤	[テーマ] 介護実習Ⅲレポート添削指導③ [内容] 修正された実習レポートの内容を確認し、完成版の提出へとつなげる。 [授業外学習]実習レポートの完成版を次回提出できるよう準備しておくこと。	⑬	[テーマ] 介護観・職業観の形成に向けて① [内容]ワークシートの各項目に沿い記入,作成を行う。 [授業外学習]記入内容を推敲し、ワークシートを完成させ持参すること。
⑥	[テーマ] 事例検討① [内容] 実習における困難事例・失敗事例について振り返りと考察をする。自己の振り返りをもとに、グループ内で情報交換をする。 [授業外学習]実習の振り返りを各自しておくこと。	⑭	[テーマ]介護観・職業観の形成に向けて② [内容]指示された構成グループにおいて、作成した資料を基に討議を行う。 [授業外学習]次回も継続して展開するので、資料を読み込むこと。
⑦	[テーマ] 事例検討② [内容] 実習における困難事例・失敗事例について、グループ内で考察を深める。 [授業外学習]グループ内で取り上げた事例について各自考えてみること。	⑮	[テーマ]介護観・職業観の形成に向けて③ [内容]指示された構成グループにおいて、作成した資料を基に討議を行う。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 事例検討③ [内容] 前回に引き続き、グループ内で考察を深める。次回の発表資料も必要部数印刷準備する。 [授業外学習]事例検討した内容を次回発表できるよう準備しておくこと。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

実習レポート(50%)、授業内レポート(30%)、授業参加態度(20%)の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席率2/3以上が前提となる。なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート			◎	50%
演習・実技				
授業態度			◎	20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生や実習レポート未提出の学生については、単位を修得することができないので注意すること。
・授業計画は、授業の進み具合により多少前後することもある。
・本授業は介護実習に直接つながる内容であるため、できるだけ授業を欠席しないようにすること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 中央法規	参考書	介護実習要項
連絡先	福田研究室:G棟2階212 オフィスアワー:火曜日 14:20～15:50		

授業科目名	介護における安全とリスクマネジメント Life Risk Management				担当教員	堀江　竜弥　/　大山　さく子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護事故防止の取り組みを行うことは、事業者や利用者の双方にとって不幸な事故の発生を未然に防ぐことになる。事故を未然に防止し、万一事故が発生しても適切な対応によりその損害を最小限にとどめる「リスクマネジメント」の重要性が認識でき、介護保険制度下の事業運営に求められる介護サービスの質的向上に取り組める知識を養う。

授業の一般目標

自己の健康管理ができ、利用者の視点で介護リスクマネジメントのあるべき方向性を理解し実践できる能力を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護保険制度下の事業運営に求められる、介護サービスの質的向上に取り組む意義について説明できる
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業テーマにより、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　福祉サービスとリスクマネジメント（大山） [内容]　福祉サービスの質的向上について、アンケート調査を基に概説する [授業外学習]　シラバス記載内容を確認し、本授業進行の全体像を理解すること	⑨	[テーマ]　産業界と福祉業界におけるリスクマネジメント①（大山） [内容]　定義の差異について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと
②	[テーマ]　リスクマネジメントの意義（大山） [内容]　用語法に基づき、福祉領域で求められるリスクマネジメントについて説明する [授業外学習]　前回配布資料を基に予習しておくこと	⑩	[テーマ]　産業界と福祉業界におけるリスクマネジメント②（大山） [内容]　業種別のリスクマネジメントの実例を基に説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと
③	[テーマ]　介護リスクマネジメントの重要性と背景事情（大山） [内容]　リスクマネジメントが説かれるようになった背景的事情等について説明する [授業外学習]　前回配布資料を基に予習しておくこと	⑪	[テーマ]　災害と対策（堀江） [内容]　災害時の予防と対応策について説明する [授業外学習]　課題を整理し、予習につなげておくこと
④	[テーマ]　介護リスクマネジメントの視点（大山） [内容]　福祉サービスに求められる視点について説明する [授業外学習]　課題を整理し、予習につなげておくこと	⑫	[テーマ]　介護従事者の健康管理①（堀江） [内容]　心身の健康管理について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと
⑤	[テーマ]　施設経営・事業運営におけるリスク（大山） [内容]　サービス提供母体に係わるリスクと対処法について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと	⑬	[テーマ]　介護従事者の健康管理②（堀江） [内容]　心身の健康管理について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと
⑥	[テーマ]　介護福祉サービス提供とリスクマネジメント①（大山） [内容]　サービス提供とリスクについて解説する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと	⑭	[テーマ]］　感染症と対策①（堀江） [内容]　感染予防の意義等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと
⑦	[テーマ]　介護福祉サービス提供とリスクマネジメント②（大山） [内容]　在宅介護現場に望まれるリスクマネジメントについて解説する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと	⑮	[テーマ]　感染症と対策②（堀江） [内容]　感染の予防対策と衛生管理について説明する [授業外学習]　課題を整理し、予習につなげておくこと
⑧	[テーマ]　介護福祉サービス提供とリスクマネジメント③（大山） [内容]　施設におけるリスクマネジメントについて解説する [授業外学習]　配布資料を基に予習しておくこと	⑯	[テーマ]　テスト（堀江） [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]　テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合20%）と、授業外レポート（評価割合20%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート	◎			20%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	関係資料配布　ならびに　別途指示	参考書	
連絡先	研究室：A棟5階507　　オフィスアワー：水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	認知症の理解Ⅰ Comprehension of Dementia Ⅰ				担当教員	篠原真弓
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

認知症の基礎事項、認知症患者の抱える心理問題、日常生活に関する問題について解説する。家族支援に必要な知識、行政・地域の支援体制の現状などを解説する。

授業の一般目標

1. 認知症に関する基礎知識を身につける。
2. 認知症の行動障害や家族への支援に適切に対応できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	認知症に関する基礎事項、心理的問題、日常生活に関する問題と対応方法について説明できる。
■	情意的領域	認知症を持つ利用者へ尊厳ある態度で接することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

講義を中心におこなう。学習効果を深めるために事例に関する討論とビデオ視聴も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当者の紹介と授業の進め方、評価方法について説明する。 [授業外学習] シラバス参照	⑨	[テーマ] 認知症高齢者への対応 (2) [内容] 状況に応じた対応について説明する。 [授業外学習] 尊厳ある接し方、安全を配慮した接し方を考える
②	[テーマ] 加齢による精神機能、記憶、知能の変化 [内容] 加齢による精神機能、記憶、知能の変化について説明する。 [授業外学習] テキストを読む	⑩	[テーマ] 認知症高齢者への対応 (3) [内容] 状況に応じた対応について説明する。 [授業外学習] 尊厳ある接し方、安全を配慮した接し方を考える
③	[テーマ] 認知症とは [内容] 認知症とはどのような疾患なのか解説する。 [授業外学習] テキストを読み、キーワードを理解して上で授業に臨む	⑪	[テーマ] 認知症の治療と予防 [内容] 現代医学における認知症の治療と予防について解説する。 [授業外学習] TV・ 新聞報道に関心を持ち、現在の状況を把握しておく
④	[テーマ] 認知症を取り巻く社会状況 [内容] 認知症を取り巻く社会状況の現状と将来について解説する。 [授業外学習] TV・ 新聞報道に関心を持ち、現在の状況を把握しておく	⑫	[テーマ] 家族への支援 (1) [内容] 受容過程における援助について解説する。 [授業外学習] TV・ 新聞報道に関心を持ち、現在の状況を把握しておく
⑤	[テーマ] 認知症による障害 [内容] 記憶、見当識、失語、失認、失行の障害について解説する。 [授業外学習] テキストを読み、キーワードを理解して上で授業に臨む	⑬	[テーマ] 家族への支援 (2) [内容] 家族介護への支援 [授業外学習] TV・ 新聞報道に関心を持ち、現在の状況を把握しておく
⑥	[テーマ] 認知症高齢者の心理的特徴と行動障害 [内容] 認知症高齢者の心理的特徴と鼓動障害についてう概説する。 [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習し授業に臨むこと	⑭	[テーマ] 地域における支援体制、行政の対応 [内容] 地域・行政の施作について解説する。 [授業外学習] TV・ 新聞報道に関心を持ち、現在の状況を把握しておく
⑦	[テーマ] 認知症高齢者の日常生活 [内容] 認知証高齢者の日常生活への影響とアセスメントについて概説する。 [授業外学習] 健康な高齢者の生活と認知症の場合との違いを整理しておく	⑮	[テーマ] 資聴覚授業、事例検討 [内容] 事例についてグループ討議を行う。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 認知症高齢者への対応 (1) [内容] 状況に応じた対応について説明する。 [授業外学習] 尊厳ある接し方、安全を配慮した接し方を考える	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでのセッションの学びを確認する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席2/3以上を必須条件にし、定期テスト(80%)、レポート(20%)の総合評価とする。提出されたレポートは、授業内で解説等を加え返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	◎		10%
授業外レポート		◎		10%
演習・実技				
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	発育発達と老化　認知症の理解Ⅱ　こころとからだⅠ　こころとからだⅡ　生活支援と障害者介護Ⅰ・Ⅲ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規	参考書	新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ 中央法規
連絡先	研究室:F棟2階212　オフィスアワー:月曜日 12:40～14:10		

授業科目名	認知症の理解Ⅱ Comprehension of Dementia Ⅱ				担当教員	篠原真弓
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

認知症の原因疾患と認知症との鑑別が問題となる医学的基礎事項および障害者支援に必要な基礎知識について講義を行なう。

授業の一般目標

日常生活支援に必要な医学的知識を習得し、障害者本人や家族の困難に対応できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	認知症について説明できる。本人と家族の認知症に伴う心身の変化と日常生活について考える事ができる。
■	情意的領域	認知症に伴う心身の変化と日常生活との関連を理解し、課題に応じた生活支援に取り組むための視点が持てるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業テーマにより、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 脳の解剖と精神機能 [内容] 脳に局在する機能と精神機能との関連について概説する [授業外学習] シラバス記載内容を確認し、授業進行の全体像を理解すること	⑨	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援⑥ [内容] レビー病、ピック病、クロイツフェルトヤコブ病について概説する [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと
②	[テーマ] 認知症の症状と特徴① [内容] 記憶障害・見当識障害・失語・失認・失行について説明する [授業外学習] 各症状と特徴について予習しておくこと	⑩	[テーマ] せん妄状態・慢性硬膜外血腫の原因と症状 [内容] 症状と発生要因について概説する [授業外学習] 配布資料を基に予習をしておくこと
③	[テーマ] 認知症の症状と特徴② [内容] 高次脳機能障害について説明する [授業外学習] 症状と特徴について予習しておくこと	⑪	[テーマ] うつ病と認知症 [内容] うつ病と認知症の類似症状と相違点について概説する [授業外学習] 疾患と症状に関する復習をしておくこと
④	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援① [内容] アルツハイマー病について概説する① [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと	⑫	[テーマ] アルコール依存症と認知症 [内容] 双方の関連性と関係について概説する [授業外学習] 配布資料を基に予習をしておくこと
⑤	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援② [内容] アルツハイマー病について概説する② [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと	⑬	[テーマ] 認知症の検査と診断・治療・予防 [内容] 診断に必要な検査内容や認知症の予防・治療について概説する [授業外学習] 配布資料を基に予習をしておくこと
⑥	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援③ [内容] 脳血管性疾患による認知症について概説する① [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと	⑭	[テーマ] 連携と協働① [内容] 地域サポート、チームアプローチ、制度や関係機関について概説する [授業外学習] 配布資料を基に予習をしておくこと
⑦	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援④ [内容] 脳血管性疾患による認知症について概説する② [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと	⑮	[テーマ] 連携と協働② [内容] 家族支援と家族の支援力強化について概説する [授業外学習] 課題を整理し、予習につなげておくこと
⑧	[テーマ] 認知症の種類と原因、治療、経過と生活支援⑤ [内容] 若年性認知症等について概説する [授業外学習] 疾患の特徴について予習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

出席2/3以上を必須条件にし、定期テスト(80%)、レポート(20%)の総合評価とする。提出されたレポートは、授業内で解説等を加え返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	◎		10%
授業外レポート		◎		10%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格事由

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	認知症の理解Ⅰ　発育発達と老化　こころとからだⅠ　こころとからだⅡ　生活支援と障害者介護Ⅰ・Ⅲ		
教科書	関係資料配布　ならびに　別途指示	参考書	新・介護福祉士養成講座　第8巻　生活支援技術Ⅲ　中央法規
連絡先	研究室:F棟2階212　オフィスアワー:月曜日　12:40～14:10		

授業科目名	こころとからだⅠ Mental and the Body Ⅰ				担当教員	堀江 竜弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

食事、排泄、移動、身じたくに関するこころとからだのしくみについて解説する。

授業の一般目標

健康と、生活活動である食事、排泄、移動、身じたくの関わりについての重要性を理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康と、生活活動である食事、排泄、移動、身じたくの関わりについて理解ができる
■	情意的領域	健康と日常生活との関わりについて理解し、配慮できる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教科書を用いた講義を中心とし、実際の事例紹介やビデオ等も用いる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] こころのしくみを理解する。 [内容] 人間の成長と発達との関連について概説する。 [授業外学習] 指定テキストを熟読し、授業に臨むこと	⑨	[テーマ] 食事に関連したしくみについて理解する。 [内容] 心身の低下が食事に及ぼす影響について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
②	[テーマ] からだのしくみを理解する。 [内容] 基本的な解剖・生理学的知識の確認と整理をする。 [授業外学習] 関連既習科目の予習をして授業に臨むこと	⑩	[テーマ] 入浴・清潔保持に関連したしくみについて理解する。 [内容] 入浴・清潔保持に関連した心とからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
③	[テーマ] 身じたくのしくみについて理解する。 [内容] 身じたくに関連したこころとからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑪	[テーマ] 入浴・清潔保持に関連したしくみについて理解する。 [内容] 心身の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
④	[テーマ] 心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響について理解する。 [内容] 老化、病気、障害による機能低下が、身じたくに及ぼす影響について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑫	[テーマ] 排泄に関連したしくみについて理解する。 [内容] 排泄に関連した心とからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
⑤	[テーマ] 移動のしくみについて理解する。 [内容] 移動に関連した心とからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑬	[テーマ] 排泄に関連したしくみについて理解する。 [内容] 心身の低下が排泄に及ぼす影響について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
⑥	[テーマ] 移動のしくみについて理解する。 [内容] 心身の低下が移動に及ぼす影響について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑭	[テーマ] 睡眠に関連したしくみについて理解する。 [内容] 睡眠に関連した心とからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
⑦	[テーマ] 移動のしくみについて理解する。 [内容] 移動における観察、他職種との連携について概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑮	[テーマ] 死にゆく人に関連したこころのしくみについて理解する。 [内容] 「死」に関連した心とからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること
⑧	[テーマ] 食事に関連したしくみについて理解する。 [内容] 食事に関連したこころとからだのしくみについて概説する。 [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] こころとからだのしくみについての総括を行う。 [授業外学習] これまでの授業内容を復習して臨むこと

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅡ		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507 オフィスアワー:水曜日 10:20～11:50		

授業科目名	こころとからだⅡ Mental and the Body Ⅱ				担当教員	堀江 竜弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

入浴・清潔・睡眠・終末期に関連したこころとからだについて解説する。

授業の一般目標

入浴・清潔・睡眠に関連したこころとからだ、終末期のこころとからだについて生理学的・医学的理解ができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	入浴・清潔・睡眠に関連したこころとからだ、終末期のこころとからだについて生理学的・医学的理解ができる。
■	情意的領域	対象者および家族の状況を推察し、身体面・心理面への支援と配慮ができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った講義が中心となるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業テーマにより、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ① [内容] 生活活動としての位置づけについて概説する [授業外学習] 自身の生活活動を振り返り、意義・目的等を整理しておく。	⑨	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ② [内容] 「終末期」について概説する [授業外学習] ライフサイクルと発達段階についての復習・予習をすること
②	[テーマ] 入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ② [内容] 入浴・清潔の効果と影響についてについて説明する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑩	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ③ [内容] 「死」に対するこころの理解 [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
③	[テーマ] 入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ③ [内容] 機能低下・障害への支援について説明する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑪	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ④ [内容] 「死」に対するこころの理解 [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
④	[テーマ] 睡眠に関連したこころとからだのしくみ① [内容] 生活活動としての位置づけについて概説する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑫	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ⑤ [内容] 医療職との連携のありかたについて概説する [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
⑤	[テーマ] 睡眠に関連したこころとからだのしくみ② [内容] 睡眠に関連するからだの諸器官について概説する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑬	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ⑥ [内容] 医療職との連携のありかたについて概説する [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
⑥	[テーマ] 睡眠に関連したこころとからだのしくみ③ [内容] 睡眠のしくみについて概説する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑭	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ⑦ [内容] 医療職との連携のありかたについて概説する [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
⑦	[テーマ] 睡眠に関連したこころとからだのしくみ④ [内容] 機能低下や障害が睡眠に及ぼす影響と支援のありかたについて概説する [授業外学習] 自身の生活とテキスト記載内容との関連で予習すること	⑮	[テーマ] 生活支援と個の尊厳 [内容] 家族も含めた支援のありかたと尊厳をの保持について概説する [授業外学習] テキスト記載内容を基に予習をすること
⑧	[テーマ] 死にゆく人に関連したしくみ① [内容] 人間の生涯における「生」と「死」について概説する [授業外学習] ライフサイクルと発達段階についての復習・予習をすること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅠ		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507 オフィスアワー:水曜日 10:20～11:50		

授業科目名	精神保健学 Mental Health				担当教員	山崎英樹・堅山貴志・吾妻淳一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

心の健康と病理について学ぶ。はじめに精神分析理論やライフサイクルについて、ついで代表的な精神疾患について、そして高齢社会の大きな課題である認知症について学習する。

授業の一般目標

授業で学んだことを、自らのメンタルヘルスに活かしていくことを目標とする。家庭や職場において活用できる、いわば心の知恵を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	ライフサイクルにおける心の危機と、代表的な精神疾患について理解している。
■	情意的領域	自分自身も含めた心のケアについて考察できる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

下記のテーマにそってパワーポイントやDVDなどを使用しながら講義する。適宜、スライド資料や参考文献を配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 心の中の世界① [内容] フロイトの古典的精神分析理論による神経症理論や精神性的発達論等。無意識という人間活動の基盤を成している心の構造を学ぶ。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 自閉症の理解 [内容] 疫学、診断、症状、家庭、教育機関、就労現場での対応とサポートについて解説する。 [授業外学習]
②	[テーマ] 心の中の世界② [内容] 精神分析理論の発展としてのクラインやビオンの対象関係論。投影同一化という心の働きを鍵概念として心の世界の理解を進める。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 認知症のBPSDについて [内容] BPSDの成り立ち、物とられ妄想、BPSDに対するケアおよび薬物療法とその注意点について解説する。 [授業外学習]
③	[テーマ] ライフサイクル [内容] エリクソンのライフサイクル論の紹介。乳幼児発達論、青年期等の発達課題、中年期危機、女性特有の危機、老年期の理解等を学ぶ。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 認知症の医学的理解 [内容] 脳の損傷によって現れる高次脳機能障害を、本人の体験世界とともに解説する。 [授業外学習]
④	[テーマ] ストレスとは何か [内容] セリエなどによるストレス理論の紹介。強いストレスや虐待などによる引き起こされる外傷後ストレス障害と関連の心的障害の紹介。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 認知症の心理的理解 [内容] 老いて脳を患うことの心理状況を、「孤立」と「支配」をキーワードに解説する。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 対象喪失について [内容] 人生のなかで遭遇する大切なものの喪失体験、その受容と心の成熟という心理過程について解説する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 認知症のスピリチュアルケア [内容] 認知症高齢者の介護や看取りを通して学ぶナラティブな関わりについて解説する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ]統合失調症の理解 [内容] 疫学、成因、症状、経過、治療、保健福祉サポートについて解説する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] スピリチュアリティと良心 [内容] フランクルやナイチンゲールのことばを通して「人間の無垢な良心」について考察する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] うつ病の理解 [内容] 疫学、成因、症状、経過、治療、各病期における周囲の接し方について解説する。 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 震災とスピリチュアリティ [内容]3・11を振り返りながら、ケアの現場で試されたスピリチュアリティについて考察する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 躁うつ病の理解 [内容] 疫学、成因、症状、経過、治療について解説する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 専門家支配について [内容] 映画「カッコーの巣の上で」を鑑賞し、医療に潜む専門家支配という現象を具体的に理解する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業内レポート(30%)、授業外レポート(70%)で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		30%
授業外レポート	◎	◎		70%
演習・実技				
授業態度	◎	◎		減点あり
出席	◎	◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・原則として聴講とレポート提出を単位取得の要件とする。
・授業態度が悪い者は、成績評価から減点する。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	学校保健学 School Health(L.)				担当教員	小松正子、小浜明、高橋弘彦、入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体、養護）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

児童生徒の健康の保持増進についての講義を行なう。

授業の一般目標

学校保健の概要と心身両面からの保健管理（対人管理・環境管理）・教育（保健学習・保健指導）を学び，理解することを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校保健について深く理解している
■	情意的領域	関心・意欲が高い
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション、「学校保健」とは何か（小松） [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、学校保健の定義 [授業外学習]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。	⑨	[テーマ] 保健室の役割(小松) [内容]保健室の役割について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ]学校保健管理の実際(入澤) [内容] 学校保健管理が進められる際のツールなど [授業外学習]配布資料等でよく復習を行う	⑩	[テーマ]学校でみられる疾病（小松） [内容] 学校で多く見られる疾病・異常等について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 身体の発育・発達(小浜) [内容] 学童期の身体の発育・発達の特徴について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 性教育・薬物中毒・小児生活習慣病（小松） [内容]避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識を視聴覚教材供覧も行いながら修得する [授業外学習]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べる
④	[テーマ]健康状態の評価（小浜） [内容]児童生徒の健康状態を把握するための指標について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ]学校でみられる重要な疾患（小松） [内容] 心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について [授業外学習]難しく感じた点、興味がわいた点は図書館で調べる
⑤	[テーマ] 健康診断(小浜) [内容] 学校で行われる健康診断について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 学校管理下の事故の実態と防止(高橋) [内容] 小・中・高校における事故発生状況とその予防法について説明する [授業外学習]学校区分ごとの事故発生状況とその要因について復習すること
⑥	[テーマ] 児童生徒の健康状態(小浜) [内容] 児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 学校環境衛生(高橋) [内容] 点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと [授業外学習]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと
⑦	[テーマ]児童生徒の健康と教育（入澤） [内容] 保健学習・保健指導について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] まとめ(小松) [内容]これまでの学習についてまとめる。 [授業外学習]これまで学習したところを復習しておくこと
⑧	[テーマ] 心の発達と諸問題(小松) [内容] 事例を中心にして考える [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] 試験 [内容]授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

期末試験により評価を行う。授業進行状況により、授業内レポート（評価割合10％）を課す場合がある。レポートは総評の配布・解説などする。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90～100%
授業内レポート	○	○		0～10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授講態度が悪い学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	健康相談（3年：健康福祉・運動栄養）、衛生・公衆衛生学（2年）、保健体育科教育論Ⅱ（3年）		
教科書	基礎から学ぶ学校保健（建帛社）	参考書	特に指定しない
連絡先	小松正子（F棟2階）、小浜、入澤（A棟3階）、高橋弘（C棟3階）		

授業科目名	健康相談 Health Consultation(L.)				担当教員	江口、小松正、真野
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校現場での健康相談活動等に必要な理論と実際について、授業を通じて主体的に学ばせる。

授業の一般目標

養護教諭や栄養教諭などが学校現場で健康相談活動等を行う際の、基礎知識習得、スキルアップをめざす。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康相談に関する基礎知識・スキルを理解し習得する。
■	情意的領域	理論を実際に活かすことができるような姿勢を演習を通じて培う。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

資料、パワーポイント等を使用した講義、簡単な演習を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション (真野) [内容] 科目「健康相談」のねらいと授業運営について [授業外学習]図書館などで関連書籍を手にとってみよう	⑨	[テーマ]こどもの精神発達理論 (江口) [内容]様々な精神発達理論を振り返り学習させ、健康相談における対象理解の基礎知識として役立てさせる。 [授業外学習]それぞれの発達段階の課題を考えよう
②	[テーマ]保健室と養護教諭 1 (江口) [内容]思春期問題とは [授業外学習]レポート課題について準備しよう	⑩	[テーマ]こどもの成長と成長曲線および成長障害 (江口) [内容]こどもの成長に関する基礎知識として成長曲線・骨年齢・スキャモン発育曲線について学び、成長障害を理解させる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
③	[テーマ]保健室と養護教諭 2 (江口) [内容] 保健室実践とは [授業外学習]復習して知識を自分のものにしよう	⑪	[テーマ] 精神と言語の発達とその障害(江口) [内容] 知能検査と精神遅滞について学習させる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
④	[テーマ] 性・母体保護に関する統計・知識① (小松) [内容] 性に関していろいろな考え方があることを知ろう [授業外学習]自分の意見を整理して、意識・関心をたかめよう	⑫	[テーマ]健康相談活動の実際1(こどもの心身症)(江口) [内容] 子どもに多い心身症を理解させるとともにその支援について考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑤	[テーマ]性・母体保護に関する統計・知識② (小松) [内容]妊娠・出産にかかわる用語・法律を学ぼう [授業外学習]レポート課題について復習しよう	⑬	[テーマ] 健康相談活動の実際2(摂食障害)(真野) [内容] 摂食障害の概要を理解させ、事例を基にその対応と支援について考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑥	[テーマ] 食事の基本的な考え方 (真野) [内容]食生活指針を学習する。国民健康栄養調査結果等より、食生活の問題点を把握し改善案をまとめる。 [授業外学習]小テストを復習すること。	⑭	[テーマ] 健康相談活動の実際3(児童虐待・不登校) (江口) [内容]児童虐待と不登校についての理解を深めさせるとともに、現在の課題を説明しその対応を考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑦	[テーマ]ライフステージ別「食事の基本」と肥満 (真野) [内容] 特に学童期・思春期の食事の基本を学習する。肥満の定義を知り、体脂肪率の測定方法およびBMIの概念について理解する。 [授業外学習]小テストを復習すること。	⑮	[テーマ]健康相談活動の実際4(児童生徒の自殺) (江口) [内容] 自殺についての世界の中の日本の現状を理解に、こどもの自殺についての近年の傾向を知る。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑧	[テーマ] 健康相談と保健室の役割 (江口) [内容] 健康相談の法的変遷について復習させる。養護教諭(保健室)の役割を復習させる。 [授業外学習]健康相談における教員の役割を事例とともに考えよう。	⑯	[テーマ] まとめ (江口) [内容] 試験 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

・毎回授業の後には、内容に関連した演習問題に取り組ませ、次回の採点し返却した上で解説する。
・まとめの考査が最後に行なう。
・レポート等による各教員の成績を総合して評価する。授業で考え方を鍛錬することが重要なので出席・受講態度も評価で考慮する場合がある。

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			30%
授業内レポート	◎	◎		60%
授業外レポート				
演習・実技			○	10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・学校における健康相談に関連する内容である。受講学生は積極的に授業に参加すること。
・授業態度が悪い学生については、成績評価で減点する。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	学校保健学(健康福祉・運動栄養)、養護概論(健康福祉)など		
教科書	特になし	参考書	
連絡先	江口、小松正子、真野(F棟2階)		

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ Skill Training for Social Work Ⅰ				担当教員	稲荷　智康
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴い、激変する時代の変化の中で福祉課題を理解する。ソーシャルワークの基礎知識を学ぶために相談援助の歴史及び発達を学習する。また、社会福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の定義形成過程、理念について学習する。

授業の一般目標

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者として期待される「実践の共通基盤」としてソーシャルワークを理解し、専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助に相応しい実践者として、充分な自己覚知を行う。
■	情意的領域	社会福祉相談援助における対人援助の基礎が分かる。
■	技能表現的領域	基本的な対人援助におけるコミュニケーション技術を身に付ける。

授業計画（全体）

基本的にテキストを用いて行うが、必要に応じて他の資料を配布することがある。講義授業ではあるが、必要な場合演習を行う場合もある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の自己紹介、学生の自己紹介、講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習]シラバスの熟読	⑨	[テーマ] ソーシャルワークの統合化 [内容] ジェネラリスト・ソーシャルワーク [授業外学習]
②	[テーマ] 社会福祉士の役割と意義 [内容] 現代社会と地域生活 [授業外学習]現代社会と地域生活を理解	⑩	[テーマ] 相談援助の理念 [内容]　ソーシャルワークの実践と価値 [授業外学習]
③	[テーマ] 相談援助の定義と構成要素 [内容] ソーシャルワークの概念 [授業外学習]	⑪	[テーマ] ソーシャルワーク実践と権利擁護 [内容]権利擁護 [授業外学習]
④	[テーマ] ソーシャルワークの知識・技術・価値 [内容] ソーシャルワークの概念 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 相談援助の理念Ⅱ [内容] クライエントの尊重と自己決定 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 相談援助の形成過程Ⅰ [内容] ソーシャルワークの源流 [授業外学習]	⑬	[テーマ] ノーマライゼーションと社会的包摂 [内容] ノーマライゼーション [授業外学習]
⑥	[テーマ] ソーシャルワークの基礎確立期（～1930年代） [内容] ソーシャルワークの歴史的考察 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 専門職の倫理と倫理的ジレンマ [内容]　専門職の理念 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 相談援助の形成過程Ⅱ [内容] ソーシャルワークの発展期（1940年代～50年代半ば） [授業外学習]	⑮	[テーマ] 総合的かう包括的援助を支える理論 [内容]　ジェネラルソーシャルワーク [授業外学習]
⑧	[テーマ] ソーシャルワーク発展期 [内容] ソーシャルワーク発展期（1950年代～1960年代） [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業外レポート他（評価割合10%）を課す。これらの結果と授業態度を総合して成績評価を行う。
出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		
授業外レポート	◎			10%
演習・実技				
授業態度	○			10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ、社会福祉援助技術演習Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習指導		
教科書	『相談援助の基盤と専門職』、岩間伸之他、中央法規（2008）	参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	福祉行財政と福祉計画 The Study on Finance and Planning of Social Welfare				担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

・社会福祉の財源や支出の実態、及び社会福祉の計画化と福祉計画の現状について説明し、その問題点や課題を論じる。
・このため法制度だけではなく、統計データや福祉計画とその作成に係る事例の研究を重視する。

授業の一般目標

・卒業後のライフデザインと実務、特にソーシャルワークに必要な財政と法制度、及び「社会福祉計画法」に関する知識と技術を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉の財政と、福祉計画及び福祉計画の具体的な適用事例について解説できるようになる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料とテキストを用いて講義を行う。（テキストは必ず購入する。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 動機づけと、授業科目の全体像 [内容]通期の計画や、国家試験そして他の科目との連動性を説明するとともに、社会福祉行財政と福祉計画を学ぶメリットについて解説する。 [授業外学習] 社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて調べる。	⑨	[テーマ] 社会福祉の財政と、その課題 [内容] 社会福祉に係る財政の知識を国と都道府県／市町村別に分けて理解するとともに、社会福祉の財政問題とその解決策について考える。 [授業外学習]福祉の財政問題について、具体的な事例を2つ以上調べてくる。
②	[テーマ]行財政とは何か、社会福祉行財政とは何かとは何か？ [内容] 社会福祉との関係性を軸に、行財政の意義・目的およびその枠組みについて解説する。 [授業外学習]日常生活の中で体験した行政の役割について整理してくる。	⑩	[テーマ] 社会福祉の行財政と、ソーシャルワーク [内容] 具体的な行政サービスとその苦情処理システム及び専門職・専門機関の役割を踏まえながらソーシャルワーク実践と関連づけて社会福祉の法制度を理解し総括する。 [授業外学習] これまでの講義について概括的に復習してくること。
③	[テーマ]「福祉」概念と社会福祉の法制度 [内容] 法制度の概要を（社会）福祉の概念との関連において理解する。 [授業外学習]前回講義に基づき、社会福祉について自分なりの定義を用意すること。	⑪	[テーマ] 社会福祉の計画化と福祉計画（総論） [内容] 戦後社会福祉の歴史について確認し、社会福祉の計画化が生成してくる過程と意義について学ぶ。 [授業外学習]時事問題の中から関連する話題を調べてくること。
④	[テーマ] 事例研究・判例研究 [内容] 事例研究、判例研究による動機づけ、そして国家試験を視野に入れつつ福祉行財政のポイントを説明する。 [授業外学習]時事問題の中から福祉行政に関する話題を一つ選び発表可能にする。	⑫	[テーマ] 障害者自立支援法と障害者福祉計画、及び障害者プラン [内容] 社会的な背景と障害者福祉の歴史的経緯について説明する。 [授業外学習]障害者福祉論について復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 社会福祉法制の生成と展開 [内容] 法制度の成立過程と歴史を背景にしつつ「社会福祉法制とは何か」ということを詳細に論じる。 [授業外学習]前回までの講義を復習しておくこと。	⑬	[テーマ] ゴールドプラン・新ゴールドプラン・ゴールドプラン21と老人保健福祉計 [内容] 高齢社会という社会的背景を踏まえて、高齢者に関する社会福祉計画の意義と保健・医療・福祉の連携について学ぶ。 [授業外学習]老人福祉論について復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 行政学の基礎と社会福祉行政 [内容] 行政学の概観を理解しつつ、行政の基礎について学ぶ。特に日本国憲法の第5章から8章に至る規定を重点的に理解する。 [授業外学習] 日本国憲法第7章と第8章を読んでくる。	⑭	[テーマ] ）少子高齢化とエンゼルプラン、及び「地域福祉計画」序説 少子化問題を検討し、その対策としてのエンゼルプランについて学ぶ。 [授業外学習]児童福祉論について復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 財政学の基礎と社会福祉行財政 [内容]財政の基礎について学ぶとともに、行財政改革の意味と社会福祉にあたえる影響について考える。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、財政改革に関する話題を調べてくる。	⑮	[テーマ] 地域福祉計画と、その事例研究 [内容] コミュニティソーシャルワークについて確認しつつ、地域福祉計画の理論を実践事例に即して説明する。 [授業外学習]地域福祉論について復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 社会福祉法制度（詳説） [内容] 社会福祉に関する法制度の詳細について学ぶとともに、国家試験に備えそのポイントを整理する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を実施する。 [授業外学習]これまでの講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・レポートの評価と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：レポートの成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				40%
授業外レポート	◎			
演習・実技		◎		5%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、就労支援論、保健医療論		
教科書	『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 』中央法規出版	参考書	三浦文夫『社会保障』ぎょうせい：1999　広井良典『日本の社会保障』岩波書店1999　厚生労働省／監『厚生労働白書』
連絡先	千葉喜久也研究室		

授業科目名	老人福祉論 The Study on Social Welfare for the Elderly				担当教員	高橋　亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士　、高等学校教諭一種普通免許状（福祉）、 社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

・老人と高齢社会および老人福祉に関する基礎知識と理論枠を理解させる。
・高齢者のニーズと高齢者市場への接近方法を講義する。

授業の一般目標

・実際の事例を通して、高齢者と高齢社会が抱える問題を学ぶ。
・高齢者に関する法制度やサービス提供システムに関する知識を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	高齢者福祉の諸制度について説明できる。高齢者の支援方法について理解している。
■	情意的領域	高齢者および高齢者福祉に対して関心がもてる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　導入と動機づけ－－－－老人福祉とは何か？ [内容]「誰のための老人福祉か」「老人とは誰か」について論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰのうち、老人福祉に関連する項目を復習する。	⑨	[テーマ] 法制度論[総論]（1）：老人福祉法 [内容]　老人福祉法について解説し、その問題点について論じる。 [授業外学習]]『福祉小六法』を用いて老人福祉法を読んでくること。
②	[テーマ] 老人と加齢に関する理解－－－－「＜老い＞の歴史」とエイジング [内容]人口統計で見たときの老人、社会学的な視点に立ったときの老人について論じる。 [授業外学習]　前期の社会福祉概論Ⅰのうち、老人福祉に関連する項目を復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 法制度論[総論]（2）：老人保健法－後期高齢者医療制度 [内容]　老人保健法・後期高齢者医療制度について解説し、その問題点について論じる。 [授業外学習]]『福祉小六法』を用いて老人保健法、高齢者医療確保法を読んでくること。
③	[テーマ] 少子高齢化と高齢社会の衝撃－－－－今、若者にとって何が問題なのか [内容] 学生にとって少子高齢社会が、どのような意味を持ち、いかなる問題を含んでいるかについて論じる。 [授業外学習]身近な高齢者や高齢者問題について整理し考えて来る。	⑪	[テーマ]　法制度論[総論]（3）：介護保険法 [内容] 介護保険法について解説し、その問題点について論じる。 [授業外学習]『福祉小六法』を用いて介護保険法を読んでくること。
④	[テーマ]高齢者と高齢社会への接近（総論Ⅰ）：医学・生物学・心理学・人口統計学・文学・歴史学等の視点から [内容] 高齢者と高齢社会をさまざまな学問分野の視点から多面的、立体的に捉え論じる。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 法制度論[各論]（1）：介護保険法の詳細 [内容]介護保険法の詳細について解説し、その問題点について論じる。 [授業外学習]『福祉小六法』を用いて介護保険法を読んでくること。
⑤	[テーマ]]高齢者と高齢社会への接近（総論2）－経済学・マーケティングの視点から [内容] 経済学とマーケティングの視点から高齢社会を分析し把握する。 [授業外学習]高齢者市場（シルバー市場）にはどのようなものがあるかについて、考えてくる。	⑬	[テーマ] 法制度論[各論]（2）：福祉用具法、WAC法、ハートビル法 [内容] 上記3つの法律について説明し、高齢者ソーシャルワークにおけるその意義を補足する。 [授業外学習]『福祉小六法』を用いて、上記3つの法律を読んでくること。
⑥	[テーマ] 高齢者と高齢社会への接近　（総論3）－法解釈学の視点から [内容]　法制度の視点から高齢者や高齢社会を捉えた場合の[見え方]について論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰのうち、老人福祉に関連する項目を復習する。	⑭	[テーマ] 法制度論[各論]（3）：高齢者雇用、生活保護法、公営住宅法、交通バリアフリー法、消費者基本法、その他 [内容] 上記の法律について詳細に解説する。 [授業外学習] 『福祉小六法』を用いて上記法律を読んでくること。
⑦	[テーマ]　地域・住環境整備の方法（総論4）－－バリアフリー、高齢者住宅、ユニバーサルデザイン等 [内容] 高齢社会の地域社会や住環境はどうあるべきかについて論じ、住環境に関する施策や制度について解説する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰのうち、老人福祉に関連する項目を復習する。	⑮	[テーマ]　事例の検討と研究 [内容] 高齢者問題とその支援について具体的な事例を用いて検討する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰのソーシャルワークについて復習する。
⑧	[テーマ] 事例の検討と研究（その1） [内容] 高齢者問題とその支援について具体的な事例を用いて検討する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで論じたソーシャルワークについて復習する。	⑯	[テーマ] テスト [内容]講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		45%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、社会保障論、公的扶助論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、保健医療論		
教科書	使用しない。	参考書	『 新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度――高齢者福祉論 』中央法規出版
連絡先	高橋研究室：E棟2階		

授業科目名	社会福祉概論Ⅱ The General Theory of Social Welfare Ⅱ				担当教員	高橋　亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士　、高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

・相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に修得させる。
・社会福祉の本質を把握させ、その基本的な知識を修得させる。
・現代史の視点から社会福祉を理解し、社会福祉の理解を通じて現代史を理解する。

授業の一般目標

・将来において社会福祉を含む多様な職業に就いた場合を想定し、汎用性の高い思考方法と情報を修得する。
・社会福祉概論Ⅰが総論であるのに対し「各論」に重点を置く。　・国家試験に関する理解と、受験への意欲を高める。
・相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉士など社会福祉の専門職に必要な[社会福祉の基礎的な概念や制度、方法]について説明できる。
■	情意的領域	主体的に社会福祉専門職を目指すようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 前期科目との関連付けと、通年での全体像（Ⅰ＋Ⅱ） [内容] 社会福祉概論（Ⅰ）との関連性を説明し、社会福祉概論の（Ⅰ）と（Ⅱ）を合わせた通年の講義計画を説明する。 [授業外学習] 前期の社会福祉概論（Ⅰ）について概括的に復習しておく。	⑨	[テーマ]社会福祉制度論（4）：民生委員・児童委員、およびボランティア [内容] 民生委員・児童委員、およびボランティアについて説明し、論じる。 [授業外学習]自らのボランティア体験や民生委員について知っていることをまとめる。
②	[テーマ] 社会福祉思想（詳論）と事例研究 [内容] 具体的な事例の検討を踏まえつつ社会福祉思想を論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで論じた社会福祉思想について復習する。	⑩	[テーマ]　社会福祉制度論（5）：「制度－方法」論争、及び福祉専門職 [内容]「制度－方法」論争と、及び福祉専門職（社会福祉士、社会福祉主事以外の）について解説する。 [授業外学習]福祉専門職にはどのようなものがあるか、事前に調べてくること。
③	[テーマ]　自己覚知と偏見 [内容] ジョハリの窓と映像資料を使って自己覚知について説明し、偏見と先入観、思い込み等の意味について考えさせる。 [授業外学習]自分がもっている偏見や思い込みについて考えてみる。	⑪	[テーマ] 社会福祉方法論（2）：事例研究② [内容] 事例を検討し事例を通じて経験する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだソーシャルワークについて復習。
④	[テーマ]　社会福祉制度論（1）：社会福祉法の全体像 [内容] 主体と客体の話を軸に法制度を福祉主体とその活動、および福祉の客体（利用者）とに区分して論じる。 国、自治体及び社会福祉協議会について説明する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰの制度論について復習する。	⑫	[テーマ] 社会福祉制度論（6）：児童相談所と児童福祉法・児童虐待防止法 [内容] 児童に関連する法制度を論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰにおける児童福祉法の概説を復習してくること。
⑤	[テーマ] 社会福祉制度論（2）：社会福祉協議会と社会福祉主事 [内容] 社会福祉協議会と社会福祉主事について説明する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰの制度論について復習する。	⑬	[テーマ]　社会福祉方法論（3）：ソーシャルワークの理論とその史的展開 [内容] リッチモンド、トール以後のソーシャルワーク理論史について解説する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰにおけるリッチモンド、トール、バイステックについて復習する。
⑥	[テーマ]　社会福祉の戦後史 [内容] GHQの功罪とSCAPIN775について論じ、共同募金について説明する。 [授業外学習]日本の戦後史について調べておく。	⑭	[テーマ] 社会福祉方法論（4）：ニーズ論、および社会保障の概観 [内容] ニーズ論について論じ、併せて社会保障の全体像を説明する。 [授業外学習]3回目の講義で用いたジョハリの窓について復習してくること。
⑦	[テーマ] 社会福祉制度論（3）：社会福祉事業と社会福祉計画 [内容] 社会福祉法に規定された社会福祉事業と社会福祉計画について説明。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだ「社会福祉法」について	⑮	[テーマ]　1年間の総括と、来年度へと続く国家試験対策 [内容] 社会福祉概論Ⅰと社会福祉概論Ⅱを併せて総括し、2年生以後の国家試験対策について説明する。 [授業外学習]第4回の講義で論じた社会福祉士について、復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 社会福祉方法論（1）：事例研究① [内容] 事例を検討し事例を通じて経験する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだソーシャルワークについて復習する。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		45%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会保障論、公的扶助論、地域福祉論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、更生保護制度論、就労支援論、保健医療論、社会福祉施設経営論		
教科書	使用しない。	参考書	『新・社会福祉士養成講座４』中央法規出版
連絡先	高橋研究室：E棟2階		

授業科目名	介護総論 Nursing Care General Theory(L.)				担当教員	工藤 史
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護を取り巻く状況や背景、歴史を通し、介護の定義や対象について解説する。利用者の人権や自立支援の重要性について解説する。

授業の一般目標

介護を必要とする利用者は、さまざまな側面からの支援があることを理解し、尊厳や自立に向けた支援のあり方、多職種連携のあり方から、介護を学ぶ意義について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の定義や対象について述べることができる。
■	情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いた講義を展開するが、介護をより身近に、そして理解を深めるため事例を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 介護活動の場の理解 [内容] 施設介護と在宅介護について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ] 介護の概念と範囲 [内容] 社会福祉士が介護の理解を必要とする理由や介護の定義を説明する [授業外学習]教科書を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 介護予防の概念 [内容] 介護保険制度改正と介護予防について説明する [授業外学習]資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 介護の理念について [内容] 介護の専門性と法的位置づけについて説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 介護過程について [内容] 介護過程の概要について説明する [授業外学習]教科書を復習しておくこと
④	[テーマ] 介護福祉士の倫理 [内容] 介護実践における専門職としての倫理規定と日本介護福祉士会倫理綱領について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 介護過程の展開技法 [内容] 事例を元に介護過程を展開し、その視点について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 介護を必要とする人の理解1 [内容] 人間の多様性・複雑性について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 自立に向けた介護① [内容] 自立の意味、重要性について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 介護を必要とする人の理解2 [内容] さまざまな高齢者や障害者の暮らしや介護が必要になった事例を紹介する [授業外学習] 高齢者の暮らしを理解しておくこと	⑭	[テーマ] 自立に向けた介護② [内容] さまざまな家事における生活支援とその意義について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 介護を必要とする人の理解3 [内容] 介護を必要とする人の生活環境とその人らしさについて説明する [授業外学習]障害者の暮らしを理解しておくこと	⑮	[テーマ] 自立に向けた介護③ [内容] QOL、ノーマライゼーションの考え方に基づいた介護の実際について事例を基に説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 介護を必要とする人の理解4 [内容] 生活の理解と家族支援について説明する [授業外学習]教科書を復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				0%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ(1年)、老人福祉論(1年)、社会保障論(3年)、公的扶助論(3年)、地域福祉論(3年)		
教科書	新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規	参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	養護概説 Nursing General Statement				担当教員	江口　千恵
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭普通1種免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

養護教諭の「職務に関する専門性」や「保健室の機能」を生かすことができる知識を習得し、学校保健の諸課題を解決できる資質と実践力を身に付ける。さらに、本大学の特性や環境を生かし「スポーツ科学と健康科学」等に配慮しつつ、学校保健活動の推進者としての養護教諭の実践力の育成を　図ることを狙いとする。

授業の一般目標

①養護教諭の役割を理解し、学校保健活動の中核として、企画・運営に参画できる資質・能力を身に付ける。
②養護教諭の職務を理解し、児童生徒の心身の健康管理と健康の保持増進の指導等健康教育者としての力量を高める。
③新たな健康課題解決に取り組む積極的姿勢と研究的視点を養い、養護教諭としての健康観・教育観・人間観を培う。

授業の到達目標

■	認知的領域	児童生徒の心身の発育・発達を理解した上で、、学校保健全体の意義や内容を理解できる。また、養護教諭としての専門性を生かした関わり方について考えることができる。
■	情意的領域	児童生徒及び教職員との豊かな人間関係を培うことができる。また、人権の尊厳、健康の大切さを培う主体的関わりをすることができる。
■	技能表現的領域	養護教諭の専門性を生かし、児童生徒の心身の健康課題への指導を実践することができる。

授業計画（全体）

・学校教育目標や学校保健目標を理解できるように、講義を中心とした授業を展開する。内容の充実と理解を深めるため、視聴覚教材や現場の資料を活用する。
・グループワークやスキルの演習、課題のレポート提出により、学生の理解度・到達度を確認しながら進める。
・毎回授業の最後に、本時の内容に関連した演習問題に取り組み、次回まで採点し返却時に解説する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] ①養護教諭の資格取得のための教育課程の確認 ②養護教諭が求められているもの　③学校保健の今日的課題 [授業外学習]学校保健の役割を復習する。	⑨	[テーマ] 保健管理・環境衛生 [内容] ①学校環境衛生の目的②学校環境衛生の法的根拠と学校環境衛生基準③学校環境衛生活動における養護教諭の役割 [授業外学習]学校環境衛生基準を復習する。
②	[テーマ] 養護教諭制度の変遷 [内容] ①制度の変遷②養護教諭に関する法律・審議会答申③養護教諭の職業倫理 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑩	[テーマ]保健管理・学校における疾病管理 [内容] ①保健教育の目指すもの②保健学習の目標と内容③学校における保健指導の位置づけ④特別活動における保健指導 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
③	[テーマ] 養護教諭の職務と保健室の役割 [内容] ①養護教諭の職務と求められる資質を考える　②保健室の機能を理解し必要となる設備や構造を考える。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑪	[テーマ]保健教育・保健学習・保健指導 [内容] ①保健教育の目指すもの②保健学習の目標と内容③学校における保健指導の位置づけ④特別活動における保健指導 [授業外学習]保健学習と保健指導の違いについて理解する。
④	[テーマ] 保健管理・学校における健康診断の実際 [内容)①法的根拠②目的・ねらい③運営計画や実施計画を作成④校内組織や外部機関との連携 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑫	[テーマ]保健教育・保健学習 [内容] 保健学習の目標や指導時間及び指導内容を小学校・中学校・高等学校別に理解し、学習指導要領についても理解を深める [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑤	[テーマ] 保健管理・健康診断事後措置・事後指導 [内容] ①健康診断結果から、有所見者・要観察者・要治療者への事後措置②校医・学校関係者・保護者との連携による保健管理 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑬	[テーマ] 学校における教育相談・健康相談 [内容] ①学校における教育相談の基本的な考え方②学校における教育相談で期待される養護教諭の役割③健康相談における校内組織体制 [授業外学習]カウンセリングについての関心を深める。
⑥	[テーマ] 保健管理・健康観察・疾病管理 [内容] ①健康観察の重要性・目的②健康観察の法的根拠③危機発生時における健康観察④疾病管理の目的⑤学校における感染症予防の管理 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑭	[テーマ] 保健室経営と組織活動 ①保健室経営の重要性②保健室の機能と保健室経営③保健室経営計画の作成④組織活動の必要性⑤学校における保健組織 [授業外学習]学校保健活動のセンター的役割を理解する。
⑦	[テーマ] 保健管理・学校における救急処置 ①学校における救急処置の目的②学校における救急処置の特質③学校事故の特徴④救急体制の確立⑤学校管理下における事故発生時の対応 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習	⑮	[テーマ] 安全管理と危機管理 [内容] ①学校における危機管理の意義と基本的な考え方②危機管理における養護教諭の役割 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑧	[テーマ] テスト 授業を通して学校保健について、理解ができたか確認する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト 授業を通して学校保健について、理解ができたか確認する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

・講義の試験は、定期試験を2回実施する。また、授業内レポートを課し、授業態度や出席等も考慮し総合的に成績評価を行う。
・毎時間に実施する演習問題の点数は演習・実技として評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		80%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技			◎	10%
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①2/3以上出席しない学生は、単位を修得することができない。（欠格条件）
②授業態度の悪い学生は、評価を減点する。
　礼儀をわきまえ教師にふさわしい自分づくりに努める。
　携帯電話や不必要な私語は慎む。
③授業開始20分以上の遅刻は欠席とみなす。
④大学設置基準に90分の予習・復習が義務づけられている。シラバスを参考に実践すること。
⑤自己の養護教諭像をイメージし、自らの基本的生活習慣や健康管理づくりに留意すること。

関連科目	教職論B　養護演習　学校保健学　臨床心理学　保健体育　栄養学　公衆衛生学　健康相談		
教科書	新訂版学校保健実務必携第四次改訂版	参考書	随時、関係図書や資料を配布する
連絡先	研究室　F棟209　　オフィスアワー　火曜日9:30～12:00		

授業科目名	障害者福祉論 Social Welfare for Disabled Person (L.)				担当教員	関矢　貴秋
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

障がい者の福祉を日常生活や周辺の課題から考えるよう解説する。ノーマライゼイション理念の展開と、わが国における障害者福祉の理念について解説する。また、時系列に国内外における障害者施策を解説する。

授業の一般目標

授業概要に示した内容を通して障がい者の人権尊重、権利擁護について自ら考えられる力をつける。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考えることができる
■	情意的領域	障害者の人権尊重、権利擁護に関する学習に自ら取り組むことができる
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

障害者の福祉について、自らの身近な生活に照らして考えるように学習を進める。身近な社会にどのような課題が存在するか、障がい者の自立と共生とはどのようなことなのか、施策、法律の定義、概念に照らし合わせながら解説する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業概要の確認 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(国際障害者年以後) [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]
②	[テーマ]障害の概念 [内容] 施策、法律から障害の概念を学ぶ [授業外学習]	⑩	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(障害者自立支援制度) [内容] 障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]
③	[テーマ] 障害者福祉の基本理念 [内容] 施策、法律から障害の概念を学ぶ [授業外学習]	⑪	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み（新たな障害者制度） [内容] 時系列に施策を検討し今後の課題と方向性を見出す取り組み [授業外学習]
④	[テーマ] 障害の概念と法的定義 [内容] 歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ（戦前の社会事業） [授業外学習]	⑫	[テーマ] 障害者の人権 [内容] 歴史から障害者の人権を学ぶ [授業外学習]
⑤	[テーマ] 障害の概念と法的定義 [内容] 歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ（戦後の社会事業） [授業外学習]	⑬	[テーマ] ノーマライゼイションと人権、権利擁護 [内容] 歴史から障害者の人権を学ぶ [授業外学習]
⑥	[テーマ] 障害者の実態と福祉ニーズ [内容] 障害者に関するデータから 障害者の実態と福祉ニーズを学ぶ [授業外学習]	⑭	[テーマ] 障害者福祉と福祉サービス [内容] 医療・保健・教育・就労・雇用・所得保障の観点から [授業外学習]
⑦	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(戦前・後) [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]	⑮	[テーマ] 諸外国の障害者福祉 [内容] 諸外国の取り組みと実践から学ぶ [授業外学習]
⑧	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み（～’80年） [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 理解度、到達度を確認する [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験（90%）。授業内課題（10%）。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	社会福祉概論		
教科書	障害者に対する支援と障害者自立支援制度　障害者福祉論	参考書	授業に応じて提示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー：水曜　11：50～13：00		

授業科目名	発育発達と老化 Growth, Development and Aging (L.)				担当教員	堀江　竜弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。

授業の一般目標

人間の発育(成長)・発達について、現状の自己に至る過程の振り返りと将来を推察する事ができる。これまで経験した事のない加齢や老化という事象であるが故、共感的理解から生活支援につながる基礎知識としてアセスメントに活用することができる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	人間の発達段階について説明できる。加齢に伴う心身の変化と日常生活について考える事ができる。
■	情意的領域	加齢に伴う心身の変化と日常生活との関連を理解し、課題に応じた生活支援に取り組むための視点が持てるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業テーマにより、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループ学習やレポートの発表等も取り入れる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　人間の成長と発達① [内容]　人間の発育と発達について概説する [授業外学習]　シラバス記載内容を確認し、授業進行の全体像を理解すること	⑨	[テーマ]　精神機能の変化と日常生活への影響 [内容]　加齢に伴う日常生活への影響要因等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
②	[テーマ]　人間の成長と発達② [内容]　発達の定義と発達課題について説明する [授業外学習]　前回配布資料を基に復習・予習しておくこと	⑩	[テーマ]　高齢者の心理① [内容]　加齢に伴い生じる老化や障害等に関する受容過程について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
③	[テーマ]　老年期の発達と成熟 [内容]　老年期の定義、老人福祉法と老人保健法、高齢者と医療について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと	⑪	[テーマ]　高齢者の心理② [内容]　加齢に伴い生じる経済的不安、役割喪失や死別体験等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
④	[テーマ]　老年期の発達課題 [内容]　人格と尊厳、老いの価値、喪失体験等について説明する [授業外学習]　課題を整理し、予習につなげておくこと	⑫	[テーマ]　加齢と疾病① [内容]　高齢者に多く見受けられる疾病と日常生活の関連について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
⑤	[テーマ]　老化に伴う心身の変化① [内容]　防衛機能、回復力の変化等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと	⑬	[テーマ]　加齢と疾病② [内容]　高齢者に多く見受けられる疾病の症状や訴えの特徴について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
⑥	[テーマ]　老化に伴う心身の変化② [内容]　適応力の変化等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと	⑭	[テーマ]　加齢と疾病③ [内容]　疾病の早期発見と保健医療職との連携について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと
⑦	[テーマ]　身体機能の変化と日常生活への影響 [内容]　加齢に伴う日常生活への影響要因等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと	⑮	[テーマ]　加齢と疾病④ [内容]　健康な日常生活を送るための維持増進活動について説明する [授業外学習]　課題を整理し、予習につなげておくこと
⑧	[テーマ]　知的・認知機能の変化と日常生活への影響 [内容]　加齢に伴い生じる機能変化と日常生活への影響等について説明する [授業外学習]　配布資料を基に予習をしておくこと	⑯	[テーマ]　テスト [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]　テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	認知症の理解Ⅰ・Ⅱ　　こころとからだⅠ・Ⅱ		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書9　発達と老化の理解	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507　　オフィスアワー:水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	スポーツ医学A Sports Medicine A （Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	アスレティックトレーナー、健康運動指導士 、JPSU
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。

授業の一般目標

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。
■	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントを参照すること	⑨	[テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
②	[テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 顔面頚部外傷 [内容] 顔面頚部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
④	[テーマ]　腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容]　講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法（方針）

公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席（5回までの欠席に）するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は受験番号で発表し、レポートはICTツールで相互閲覧・評価できるようにしている

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			95%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			5%
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書	スポーツ医学A 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ医学B Sports Medicine B				担当教員	小澤輝高／柴原茂樹／橋本 実
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	健康運動指導士、日本体育協会公認AT、 JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。

授業の一般目標

スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。
■	情意的領域	スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（小澤） [内容] 講義内容、担当者、講義の進め方について説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 生活習慣病（4） 高血圧症（小澤） [内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
②	[テーマ] 運動療法（1）（柴原） [内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 生活習慣病（5） 高脂血症（小澤） [内容] 高脂血症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
③	[テーマ] 運動療法（2）（柴原） [内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 生活習慣病（6） 糖尿病（小澤） [内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
④	[テーマ] 運動療法（3）（柴原） [内容] 運動療法の実例について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 生活習慣病（7） 虚血性心疾患（小澤） [内容] 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 生活習慣病（1） 骨粗鬆症（柴原） [内容] 骨粗鬆症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑬	[テーマ] スポーツにおける適応と疲労（小澤） [内容] スポーツを長期間行うと体が、運動負荷に見合うだけ適応していくが、過剰に行うことでオーバートレーニング症候群になることを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 生活習慣病（2） 関節リウマチと変形性関節症（橋本） [内容] 関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患（小澤） [内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑦	[テーマ] まとめと中間試験（柴原） [内容] これまでの授業内容についてのまとめを行い、到達度を確認するための試験を行う。 [授業外学習] これまでの授業内容についてよく復習しておくこと。	⑮	[テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患（小澤） [内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 生活習慣病（3） メタボリックシンドロームと肥満症（小澤） [内容] メタボリックシンドロームと肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 試験（小澤） [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。 [授業外学習] 後半の授業内容についてよく復習しておくこと。

成績評価方法（方針）

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。

関連科目	スポーツ医学概論、スポーツ医学A		
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。	参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト
連絡先	小澤研究室：F棟2階　　オフィスアワー：水曜日　14時20分～15時50分		

授業科目名	スポーツ医学概論 Introduction to Sports Medicine (L .)				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体、養護）、健康運動指導士、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、障害者スポーツ指導員、JPSU
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の一般目標

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントを参照すること	⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ]ドーピング① [内容]ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ]ドーピング② [内容]ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法（方針）

公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席（5回までの欠席に）するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は受験番号で発表し、レポートはICTツールで相互閲覧・評価できるようにしている

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			95%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			5%
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室：F棟2階　　オフィスアワー：月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ経営学 Sport Management (L)				担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。

授業の一般目標

スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本授業は、スポーツ経営学の入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイントやビデオ等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／スポーツ経営学とは [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 商品やスポーツマーケティングの現実 [内容] ビデオ「地球市場　富の攻防 ～最強商品:スーパースター～」を視聴し、概要と感想をまとめる(小レポート該当) [授業外学習]ビデオ以外のスポーツマーケティングの事例について考える
②	[テーマ] スポーツ組織と取り巻く環境(ステークホルダー) [内容] スポーツ組織の特徴を説明するとともに、スポーツ組織を取り巻く環境(ステークホルダー)を理解し、事例についても考える [授業外学習]プロスポーツを取り巻くステークホルダーを考える	⑩	[テーマ] スポーツ組織の設計とスタッフ [内容] スポーツプロダクト(製品)を生み出すスポーツ組織の捉え方、設計の仕方、スタッフ等について理解する [授業外学習]スポーツ組織について調べておく
③	[テーマ] 市場における競争地位の類型化および経営資源の分類 [内容] 競争地位の類型化について説明するとともに事例検討も実施し、また類型化の前提となる経営資源の分類について理解する [授業外学習]競争地位の類型化に関するレポート作成要領を提示	⑪	[テーマ] スポーツ経営における経営評価 [内容] スポーツ経営現象をよりよいものにしていくための手段としての経営評価に着目し、その考え方を理解するとともに応用できるようにするため身につける [授業外学習]経営評価について調べておく
④	[テーマ] ブランド資産の創造とブランド価値評価 [内容] ブランドの概念、意義、資産とその維持に関して概説し、またブランド価値評価に関するデータも示す [授業外学習]各自の所属する学科のロゴマークを考えておく	⑫	[テーマ] プロスポーツの経営 [内容] 日本のプロスポーツ(Jリーグ等)を取上げ、そこでの組織の取組(経営)と消費者としての観戦者の特性に着眼し、現場での経営についての理解を深める [授業外学習]各自の関心のあるプロスポーツの現状を把握しておく
⑤	[テーマ] 商品の構造や開発、市場での経営戦略 [内容] ビデオ「NO.1を死守せよ ～カローラ40年目の苦闘～」を視聴し、キーワードを抽出する(小レポート該当) [授業外学習]ビデオで学んだことが他で応用できないか考えてみる	⑬	[テーマ] プロスポーツ経営の実際 [内容] プロスポーツの現場における経営の実際について、現場経験者の取り組みを視聴し、考察を深める [授業外学習]前回の理論と今回の現場とのずれについて考える
⑥	[テーマ]プロダクト(製品)とスポーツプロダクト [内容] プロダクトの概念、製品の開発やライフサイクル、スポーツプロダクトの構造を理解し具体例についても考察する [授業外学習]製品ライフサイクルについて調べておく	⑭	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営 [内容] 激しい競争環境の中にある商業スポーツ施設の経営の現状や課題等について理解を深め、今後の方向性について考える [授業外学習]特定の商業スポーツ施設について、その概要を調べておく
⑦	[テーマ] スポーツイベントの特徴及びメディアとの関係 [内容] イベント及びスポーツイベントの概要や波及効果を認識し、またスポーツイベントとメディア(テレビ)との関係について理解し検討する [授業外学習]スポーツイベントについてイメージを膨らませておく	⑮	[テーマ] 地域スポーツの経営 [内容] 地域に存在する各種スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ、あるいは地域と関わりの深い学校体育経営の現状や課題について概説する [授業外学習]地元に総合型地域スポーツクラブがどれだけあるか調べる
⑧	[テーマ] スポーツマーケティングの概要・計画・戦略 [内容] スポーツマーケティングの枠組み、計画づくり、そしてマーケティング戦略について、実践例を交え説明する [授業外学習]マーケティングとは何か調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(25%)、授業内レポートとリアクションペーパー(75%)の結果に基づき、総合的に評価する。
授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			75%
授業外レポート	◎			25%
演習・実技				評価対象外
授業態度		○		減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、健康福祉学科と運動栄養学科では必修ではないが、保健体育教諭免許を取得希望する者にとっては必要な科目である。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により変更することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント論(3年)、スポーツ政策論(4年)		
教科書		参考書	山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店、 柳沢和雄他『テキスト 体育・スポーツ経営学』大修館書店　他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)　オフィスアワー:火曜日　10:20 ～ 11:50		

授業科目名	スポーツ計量学 Metrics on Sports(L)				担当教員	菊地 直子・林 直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー、健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

体育・スポーツ場面において、様々なデータを採取し取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、⑩から⑮においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、それぞれ解説する。

授業の一般目標

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	データの意味を知り、2次データまで整理することができる。
■	情意的領域	データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(菊地・林) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]中間テスト(林) [内容] ②～⑧回分についてテストを行う。 [授業外学習]配布資料を熟読しておく。
②	[テーマ] 「スポーツ計量学」の意味と意義について考える(林) [内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。 [授業外学習] 「スポーツ」「計量」「学」という言葉の定義を復習する。	⑩	[テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ(菊地) [内容] 自然科学アプローチで一般的な統計解析を念頭に置き、スポーツ場面において計量することについて具体的なイメージを持たせる。 [授業外学習]配布資料を熟読しておく。
③	[テーマ] 体力の測定・計量(林) [内容]文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。 [授業外学習] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。	⑪	[テーマ]データの種類,データの整理(菊地) [内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]研究法と調査の流れについて復習しておく。
④	[テーマ] 様々な体力の計量とその可能性(林) [内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。 [授業外学習]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。	⑫	[テーマ] 代表値、散らばりの尺度(菊地) [内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。
⑤	[テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用)(林) [内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。 [授業外学習] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。	⑬	[テーマ] 標準偏差と標準化(菊地) [内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料を熟読し、 不明な点を抽出しておく。
⑥	[テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用)(林) [内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。 [授業外学習] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。	⑭	[テーマ] 2変数の相関(菊地) [内容]ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。
⑦	[テーマ]加速度、力、運動量を算出する(二次データの利用)(林) [内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。 [授業外学習] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。	⑮	[テーマ] T検定、χ^2乗検定(菊地) [内容]T検定と、クロス集計表の作成および、χ2検定について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]演習を見直し、課題を提出する。
⑧	[テーマ]様々な測定・計量とその評価(林) [内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。 [授業外学習]図表やICT機器でのフォードバック方法を復習する。	⑯	[テーマ] テストと総括(菊地) [内容] ⑩～⑮回分のテストを行う。 [授業外学習]ここまでの復習、テストの準備をしておく。

成績評価方法(方針)

主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。
試験は授業内で返却し、解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。・授業に積極的に参加している学生には成績評価に加点する。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室 オフィスアワー 火曜10:20～11:50		

授業科目名	体育原理 Philosophy of Physical Education				担当教員	髙橋　徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中・高　保健体育）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、体育・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。

授業の一般目標

体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。また、スポーツを指導する人間に求められる倫理観や教養を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	体育・スポーツの理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。
■	情意的領域	よい体育・よいスポーツ指導を追求しようとする意識をもつことができる。
■	技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。

授業計画（全体）

一貫して「よい体育の追求」および「よいスポーツ指導の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。また、この授業では各回ごとに異なるテーマを設定し、毎回完結する形式で講義を進めていきます。主なテーマは次の通りです。「体育とスポーツ」「身体教育」「運動指導」「身体文化教育」「指導者」「スポーツ指導の問題」「競技者」「オリンピック」「ルール」「スポーツと美しさ」「スポーツとコミュニティ」「スポーツとの良好な関係」

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　「体育原理」についてのオリエンテーション [内容]　「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学習]　教科書「はじめに」を読んできてください。	⑨	[テーマ]　スポーツ指導の問題性 [内容]　体罰・暴力のメカニズムを解説した上でスポーツ指導の在り方について解説する。 [授業外学習]　教科書「第6章」を読んできてください。
②	[テーマ]　スポーツとは何か？ [内容]　スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義について解説する。 [授業外学習]　教科書「第1章第1節」を読んできてください。	⑩	[テーマ]　競技者の世界と理想の姿 [内容]　競技者とスポーツ愛好者の違い、競技者が競技に惹きつけられる理由、競技者の理想の姿について解説する。 [授業外学習]　教科書「第7章」を読んできてください。
③	[テーマ]　体育とは何か？ [内容]　体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素について解説する。 [授業外学習]　教科書「第1章第2節」を読んできてください。	⑪	[テーマ]オリンピックと世界平和 [内容]　オリンピズムの本質、オリンピックの問題点、世界平和とオリンピックとの関係について解説する。 [授業外学習]　教科書「第8章」を読んできてください。
④	[テーマ]　教科としての体育の成り立ち [内容]　体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷、体育理念の変遷について解説する。 [授業外学習]　教科書「第1章第3節」を読んできてください。	⑫	[テーマ]スポーツのルールを考える [内容]　スポーツにおけるルールの機能、およびルールと選手との関係について解説する。 [授業外学習]　教科書「第9章」を読んできてください。
⑤	[テーマ]　身体教育という考え方 [内容]　身体教育が対象とする身体の捉え方、および身体教育としてのスポーツの可能性について解説する。 [授業外学習]　教科書「第2章」を読んできてください。	⑬	[テーマ]　スポーツにおける美しさを考える [内容]　スポーツと美しさとの関係、およびスポーツと芸術との関係について解説する。 [授業外学習]教科書「第10章」を読んできてください。
⑥	[テーマ]　運動を指導するための考え方 [内容]　運動実践と運動習得、および運動実践と運動指導について解説する。 [授業外学習]教科書「第3章」を読んできてください。	⑭	[テーマ]　コミュニティとスポーツをめぐる諸問題 [内容]　コミュニティとスポーツの現状と課題、およびコミュニティづくりにおけるスポーツの可能性について解説する。 [授業外学習]　教科書「第11章」を読んできてください。
⑦	[テーマ]　身体文化教育という考え方 [内容]　身体文化と教育の関係、芸道と身体、身体の模倣と学びについて解説する。 [授業外学習]　教科書「第4章」を読んできてください。	⑮	[テーマ]　スポーツと人間との良好な関係を考える [内容]　スポーツがもつ功罪、スポーツとの良好な関係が崩れてしまう要因、良好な関係づくりに向けて求められるものについて解説する。 [授業外学習]　教科書「第12章」を読んできてください。
⑧	[テーマ]　体育・スポーツ指導者 [内容]　体育教師の専門性、運動部活動の指導者、体育・スポーツ指導者の身体について解説する。 [授業外学習]教科書「第5章」を読んできてください。	⑯	[試験]　論述形式での試験を実施 [内容]　講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学習]　試験勉強

成績評価方法（方針）

基本的には、試験（70%）、課題（30%）とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容ももちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。レポートの返却については申し出に応じて対応し、評価の高いレポートについては授業内で内容を紹介します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	70%
授業内レポート	◎	○		30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度	○	◎		加点対象
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。
2. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。
3. 講義中は静寂を保ち、静寂を維持できない方は受講をやめてください。
4. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。
5. 詳細については第一回目の講義で説明します。

関連科目	教員免許状（保健体育）取得関連諸科目		
教科書	髙橋徹編（2018）『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 株式会社みらい．2,000円（税別）	参考書	特に指定なし。必要に応じて授業内で提示。
連絡先	G棟2階208研究室（高橋徹研究室）　アドレス：tr-takahashi@sendai-u.ac.jp　オフィスアワー：前後期とも水曜2時限目（予定）		

授業科目名	運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports				担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	保健体育教師教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育教師やスポーツ指導者の中核になる科目です。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでには様々な身体知がかかわります。教える側と教わる側を不可分の関係としてその志向内容を明らかにしていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を主体側の地平で捉え、具体例を示しながら解説していきます。

授業の一般目標

保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を伝えるために不可欠となる運動観察能力が理解できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。
■	情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。
■	技能表現的領域	指導に結びつく運動の観察ができる。

授業計画(全体)

最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学習]講義の受講方法を理解する	⑨	[テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学習]指導どいう用語の多義性を復習する
②	[テーマ]体育・スポーツ指導者にまつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。 [授業外スポーツにどのような問題があるのかを復習する	⑩	[テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力つくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学習]体力概念が曖昧なことを復習する
③	[テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学習]スポーツ科学の現状について復習する	⑪	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」ことと「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学習]身近なコツとカンの例を復習する
④	[テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容]技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロギー運動学(金子)の発展を概観する。 [授業外学習]自然科学と運動の理論の違いを復習する	⑫	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容]「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学習]コツとカンの特性と相互の関係を復習する
⑤	[テーマ]指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる鋳型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学習]現在のスポーツ指導の問題点を復習する	⑬	[テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学習]観察能力の重要性を復習する
⑥	[テーマ] 運動現象は何故因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データー化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学習]運動現象が何故複雑なのかを復習する	⑭	[テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容]運動アナロゴン、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学習]段階的学習の特性について復習する
⑦	[テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学習]専門用語が曖昧な現象を把握する	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学習]講義全体の内容を復習する
⑧	[テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。 教える―覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学習]教師の専門性について復習する	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。

成績評価方法(方針)

テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。レポートは解説した上で返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			90%
授業内レポート				10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			○	減点対象
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
・運動学に興味をもっていること
・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない)
・授業内容は毎年進化します
・教員志望者は必須です

関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論		
教科書	スポーツ運動学(明和出版)	参考書	1. 運動学講義(大修館)
連絡先	A棟403(川口)		

授業科目名	体力相談と運動処方 Exercise Prescription and Physical Fitness (L.)				担当教員	鈴木省三／竹村英和／馬　佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー、健康運動実践指導者、健康運動指導士、中学・高校教員免許(保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生活習慣の一つである「運動・スポーツ」が、健康の維持増進や体力向上に効果があることは多くの研究で明らかにされている。本講義では、健康づくりのために運動習慣を持つことの大切さと、体力向上を狙いとした運動プログラムの作成方法について、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

運動不足が体力に及ぼす影響について理解し、クライエントの目的に応じた適切な運動プログラムを作成するための能力を身につける。また、応用として、5段階評価表、メッツを用いた運動プログラム、体脂肪を減少させるための有酸素プログラム、高齢者の筋肉量を増加させるための筋力トレーニングプログラム等の作成と評価方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	体力相談や運動処方を実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いた運動プログラムの構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的な運動プログラムを子どもから高齢者のニーズに応じて構築することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげ、子どもから高齢者、スポーツ選手、メタボリックシンドローム予備軍らの運動プログラムの作成を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション (鈴木・竹村・馬) [内容] 体力相談と運動処方の概要、授業の目標と進め方、成績評価について説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読する。授業を基に関連する参考書を概観する。	⑨	[テーマ] 5段階評価表によるスポーツ選手の運動処方(作業2) (鈴木) [内容] クライエントのデータから5段階評価表を作り、目的を達成させるための運動プログラムを作成する。 [授業外学習] 解説をふまえ、運動プログラムを作成する要点をまとめる。
②	[テーマ] 体力相談と運動処方の意義 (鈴木) [内容] 現代の健康阻害要因と中高年のメタボリックシンドローム、介護が必要な高齢者との関係から体力相談と運動処方の意義を説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。	⑩	[テーマ] ITを用いた運動処方の実際 (竹村) [内容] 運動処方におけるITの活用や、その実際について説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。
③	[テーマ] メタボリックシンドローム (馬) [内容] メタボリックシンドロームに関する基礎的事項や改善方法の概略を説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。	⑪	[テーマ] METsを用いた運動処方 (竹村) [内容] METsの計算方法を説明し、運動中のエネルギー消費量の推定等の計算問題を実施する。 [授業外学習] METsによる各種計算を反復し、方法について習熟する。
④	[テーマ] 運動不足の影響とトレーニング効果 (馬) [内容] 運動不足やトレーニングが健康や体力に及ぼす影響について説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。	⑫	[テーマ] 身体活動支援法 (馬) [内容] 健康・体力の維持増進を目的とした身体活動支援法について説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。
⑤	[テーマ] 運動処方のプロセス (鈴木) [内容] クライエントの目的を達成するための運動処方のプロセスについて説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。	⑬	[テーマ] 高齢者の運動処方 (鈴木) [内容] 高齢者の生理学的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。
⑥	[テーマ] 体力向上を目的とした運動処方(作業1) (鈴木) [内容] 体力向上を目的としたクライエントのプログラムを作成する(作業)。 [授業外学習] 体力向上のためのプログラム作成について調べておく。	⑭	[テーマ] 子ども(幼児・児童・生徒)の運動処方 (鈴木) [内容] 子ども(幼児・児童・生徒)の発育・発達特性や生理学的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習。
⑦	[テーマ] 運動プログラムの組み立て手順 (鈴木) [内容] 前回のプログラム作成のポイントについて解説をする。 [授業外学習] 解説をふまえ、運動プログラムを作成する要点をまとめる。	⑮	[テーマ] 生活習慣病の予防・改善のための運動処方 (鈴木) [内容] ケーススタディ研究から、生活習慣病についての運動処方のポイントについて説明する。 [授業外学習] 解説をふまえ、運動処方のポイントについて要約する。
⑧	[テーマ] 5段階評価表の作成法 (竹村) [内容] 5段階評価表の作成法と分析手順について説明する。 [授業外学習] 5段階評価表の作成を反復し、方法について習熟する。	⑯	[テーマ] テスト (鈴木・竹村・馬) [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。 [授業外学習] 全15回の授業内容を復習すること

成績評価方法(方針)

評価は、筆記試験(70%)および授業内レポート(30%)に基づき行う。なお、2/3以上の出席がない場合は評価対象外とし、授業態度に問題のある場合は減点する。なお、レポートは授業内で解説しながらフィードバックする。また、試験も含めた授業内容に関する疑問点等については、随時、質問を受け付けたうえで解説・助言を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		70%
授業内レポート		○	◎	30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	運動生理学(2年)、健康支援・介護予防演習(2年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない(テーマに沿った資料を配布する)
連絡先	鈴木省三研究室(A棟4階402), オフィスアワー:金曜日　11:00～12:30		

授業科目名	健康支援・介護予防演習 Health Support & Care Prevention				担当教員	橋本/藤井/小松(正)/小澤/竹村/笠原
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	健康運動指導士・健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術について、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。

授業の一般目標

テーマに沿った演習やプログラムに参加し、援助者、指導者として必要な知識と技術を兼ね備えた実践的な関わりができることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康支援や介護予防に関する基本的な知識や技術について説明できる。
■	情意的領域	演習や講義を通して、将来の指導者としての資質の向上につなげる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

グループ別に、テーマに沿った演習や講義を受講し、健康支援や介護予防に関する知識や技術の習得につなげる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション (笠原) [内容] 演習・講義内容の説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] (講義)健診結果の見方および効果判定(1) (小澤) [内容] 健診結果の見方とその効果判定 [授業外学習] 検診項目と効果判定の目的を理解していくこと
②	[テーマ] (講義)体力と運動能力 (小松) [内容] 体力構成要素の測定法など [授業外学習] 体力測定法について説明できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] (講義)健診結果の見方および効果判定(2) (小澤) [内容] 健診結果の見方とその効果判定 [授業外学習] 検診項目と効果判定の目的を理解していくこと
③	[テーマ] (講義)身体活動量の定量法(1) (藤井) [内容] 栄養摂取状況 [授業外学習] 運動と栄養について復習しておくこと	⑪	[テーマ] (講義)運動のためのメディカルチエック (橋本) [内容] メディカルチエック [授業外学習] 安全に運動を行うメディカルチエックの方法についてまとめておく
④	[テーマ] (実習)身体活動量の定量法(2) (藤井) [内容] 食生活の指針、食事バランスガイド [授業外学習] 運動と食事について復習しておくこと	⑫	[テーマ] (講義)心電図の基礎と記録法 (橋本) [内容] 心電図 [授業外学習] 心電図の見方を理解しておくこと
⑤	[テーマ] (実習)運動負荷試験実習(1) (小松) [内容] 運動負荷試験の基準 [授業外学習] 運動時の負荷量について説明ができるようにしておくこと	⑬	[テーマ] (実習) フィールドテスト(1) (竹村) [内容] フィールドテストの実施方法 [授業外学習] 実習後、所定の用紙に漏れがないように記入しておくこと
⑥	[テーマ] (実習)運動負荷試験実習(2) (笠原) [内容]トレッドミル、エルゴメーター [授業外学習] 運動負荷を行う場合の注意点をまとめて説明できるようにしておく	⑭	[テーマ] (実習) フィールドテスト(2) (竹村) [内容] フィールドテストの実施方法 [授業外学習] 実習後、所定の用紙に漏れがないように記入しておくこと
⑦	[テーマ] (実習)運動負荷試験実習(3) (竹村) [内容] ホルター心電図 [授業外学習] 心電図を用いて運動することの目的についてまとめっておくこと	⑮	[テーマ] 演習のまとめ (笠原) [内容] 演習のまとめを行い、健康支援や介護予防に関する共通認識を深める [授業外学習] 演習・講義で使用した資料や講義ノートをしっかりとまとめておく
⑧	[テーマ] (実習)運動負荷試験実習(4) (小松) [内容] 潜水反射試験 [授業外学習] 潜水反射試験の目的についてまとめておくこと	⑯	[テーマ] レポート作成 (笠原) [内容] [授業外学習] 演習記録や資料等は1冊のファイルにまとめて提出する

成績評価方法(方針)

成績評価は、演習実技の内容(評価20%)と、授業内外レポート(評価80%)により、総合的に判断して成績評価を行う。
なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート	◎			40%
演習・実技	◎			20%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・本科目は実習を中心とし、20名程度のグループ編成にて授業を行う。
・講義・演習の変更に関しては掲示板にて連絡を行う。
・演習レポートは、講義・演習内容の要点をまとめて整理しておくこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	授業の中で紹介する
連絡先	笠原研究室:F棟2階207号室　オフィスアワー:木曜日14:20～15:50		

授業科目名	福祉レクリエーション実技 Skill Training for Social Welfare Recreation Work.(S)				担当教員	小池和幸・高崎義輝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	福祉レクリエーションワーカー、高校福祉科教諭
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

福祉レクリエーション支援に必要な「活動分析」と「活動アレンジ」の技術及び「コミュニケーションスキル」についての実技、演習を行う。

授業の一般目標

1）福祉レクリエーション支援の実際を理解し、支援に必要な「活動分析」、「活動アレンジ」の技術や「コミュニケーションスキル」を習得する。
2）実技・演習を通して対象者と支援者の理解を深め実践的な知識と技術を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	医療・福祉現場で活用できる「活動分析」「活動アレンジ」及び「コミュニケーションスキル」を理解する。活動分析、活動アレンジができる。レクリエーション支援の評価ができる。
■	情意的領域	対象者中心（クライアントオリエンテッド）の福祉レクリエーション支援志向になる。
■	技能表現的領域	医療や福祉サービス等の対象者の特徴を理解し、意図的な福祉レクリエーション支援ができる。

授業計画（全体）

活動分析、活動アレンジ、コミュニケーションスキルトレーニング等の実技・演習後、振り返りを行う。授業の内容に応じてグループ間ディスカッションやプレゼンテーションを実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（小池）（高崎） [内容] 授業概要の説明	⑨	[テーマ] レクリエーション活動分析3（小池） [内容] ①認知症予防プログラムにおけるレクリエーション活動の分析。②フローの概念と活動分析の関係。
②	[テーマ] 回想法1（高崎） [内容] ①回想法とは。②認知症高齢者を対象としたグループ回想法の実際。	⑩	[テーマ] レクリエーション活動アレンジ1（小池） [内容] ①援助対象に合わせたレクリエーション活動アレンジの理解。②対象のニーズに合わせたレクリエーション活動のアレンジ。
③	[テーマ] 回想法2（高崎） [内容] ①回想法によるコミュニケーションスキルの理解。②認知症の理解。③回想法プログラムの進め方。	⑪	[テーマ] レクリエーション活動アレンジ2（小池） [内容] ①ゲームアレンジシートを活用した目的別レクリエーション活動の開発。
④	[テーマ] 回想法3（高崎） [内容] ①ロールプレイによるグループ回想法の演習。（認知症高齢者のモデル体験）	⑫	[テーマ] レクリエーション活動アレンジ3（小池） [内容] ①利用者のレクリエーションニーズの理解。②フローマップを利用したレクリエーション活動の「楽しさ」の所在。
⑤	[テーマ] 回想法4（高崎） [内容] ①グループ回想法のまとめ。（効果、活用法、応用事例）	⑬	[テーマ] レクリエーション支援の評価1（高崎） [内容] ①レクリエーションの評価とは。②レクリエーションに関する最近の研究事例の紹介※レポート課題の提示。
⑥	[テーマ] 回想法5（高崎） [内容] レクリエーション支援とコミュニケーションスキルの仕組みについて。グループワークの仕組みと方法。（回想法を例に）	⑭	[テーマ] レクリエーション支援の評価2（高崎） [内容] ①心理テストによる評価。（HDS-R、MMSE、バウムテスト、基本チェックリスト等）
⑦	[テーマ] レクリエーション活動分析1（小池） [内容] ①活動分析とは。 ②活動分析の必要性。 ③レクリエーション活動の効果。（楽しさの効果）	⑮	[テーマ] レクリエーション支援の評価3（高崎） [内容] ①運動生理学的な評価。（心拍計、筋電計、重心動揺計等）
⑧	[テーマ] レクリエーション活動分析2（小池） [内容] ①転倒予防プログラムにおけるレクリエーション活動の分析。②アベドンの社会的相互作用の段階。	⑯	[テーマ] まとめ（小池）（高崎） [内容] ①授業目標到達度の自己評価。レクリエーションがもたらす「人の変化」。楽しさとレクリエーション効果の関係。

成績評価方法（方針）

授業内レポート（評価割合30%）、授業外レポート（評価割合70%）、の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価に加えず欠格条件とする。
提出されたレポートは解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート	○			70%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業外実習を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない（欠格条件）
・授業態度が悪い（私語、居眠り等）学生は、成績評価から減点する。
・実技は特に受身にならないよう積極的に参加すること。
・実技と講義の両方の講義形態を用いるので授業時間確保のために遅刻は特別な場合を除いて認めない方針である。
・授業の内容によって教室の形を変化させる場合に協力を要請する。
・注）レポート課題等提出物は指定された様式で丁寧に作成されたもののみを受け付ける。（条件を満たさないレポートは評価対象から除外する。）

関連科目	介護福祉とレクリエーション活動援助、介護福祉とレクリエーション援助演習		
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する。）	参考書	「楽しさの追及を支えるための介入技術」日本レク協会編
連絡先	小池和幸（F201）水14:20～15:50　高崎義輝（F216）水14:20～15:50		

授業科目名	福祉レクリエーション支援実習 Social Welfare Recreation Worker Training				担当教員	小池和幸・高崎義輝
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	レクリエーション指導者資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

福祉レクリエーション支援のための知識、技術及び心得について、現場での実践を通して学習する。
主にグループを介した福祉レクリエーション支援のアセスメント、計画、実施、評価(APIE)を行う。

授業の一般目標

福祉レクリエーション支援のための知識、技術及び心得について、現場での実践を通して身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	福祉レクリエーション支援に関する知識が身につく。
■	情意的領域	支援対象者本位の福祉レクリエーション支援のありかたについて理解できる。
■	技能表現的領域	グループを介した福祉レクリエーション支援ができる。

授業計画(全体)

1)実習プログラムと支援対象の理解。
2)福祉レクリエーション支援のアセスメント、計画、実施、評価(APIE)。

授業テーマとその内容

1)地域や施設における福祉レクリエーションプログラムの目的の理解。(プログラムの根拠についての理解)

2)地域や施設における福祉レクリエーションプログラム参加者の特性の理解。(対象のアセスメント)

3)福祉レクリエーションプログラムの計画。(指導計画書の作成)

4)福祉レクリエーションプログレムの実施。(参加、支援、指導)

5)福祉レクリエーションプログラムの評価。(指導実習報告書の提出)

6)学外実習における心得。(情報、プライバシー倫理上の留意事項及び実習全般の理由事項の理解)

成績評価方法(方針)

指導実習に関係する指導計画書等及び指導、実習態度、実習指導報告書により総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				50%
演習・実技				50%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・実習上知り得た情報に関する守秘義務の遵守。
・指導対象者のプライバシーの保護。
・実習中は実習担当者の指示に従う。
・実習にあたっては、現場実習要領をよく読み服装、態度等について良く理解する。
・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。

関連科目	介護福祉とレクリエーション活動援助、介護福祉とレクリエーション援助演習		
教科書	必要に応じて資料を提供	参考書	
連絡先	小池和幸(F201)水14:20～15:50　高崎義輝(F216)水14:20～15:50		

授業科目名	障害者とスポーツ Adapted Sports (L.)(P. A.)				担当教員	早川公康 / 関矢貴秋
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	障害者スポーツ中級指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、障害者のスポーツ活動に関する歴史・思想、社会的・制度的・経営的観点、指導方法について体系的に講義を行う。また、実際に障害者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義と実技を行う。

授業の一般目標

障害者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の基本、特性を知り、アダプテッドスポーツとは何かを理解する。また、実際にいくつかのスポーツを体験し、障害者の競技スポーツにおける道具やルールの工夫や配慮事項について理解し、実際の指導方法について思考する能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の基本、特性について説明できる。障害者の競技スポーツについて配慮事項、安全管理を考えることができる。
■	情意的領域	障害者の身近なスポーツについて指導的立場で考え取組むことが出来るようになる。
■	技能表現的領域	障害者の競技スポーツについて説明できるようになる。

授業計画(全体)

講義は、各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、実技は、実際に体験し、各競技スポーツの安全管理や配慮事項についてレポート提出により確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(関矢・早川) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 障害者スポーツの実際(早川) [内容] 障害者スポーツの競技大会や種類などについて紹介する。 [授業外学習]障害者の競技種目等について調べておくこと
②	[テーマ] 障害の理解(早川) [内容] 障害の理解について障害者の体育・スポーツ活動、アダプテッドスポーツの提唱、スポーツ科学のサポートを通して説明する。 [授業外学習]アダプテッドスポーツとは何かを発表できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] これからの障害者スポーツ(早川) [内容] 障害者スポーツの新たな取り組みについて学習する。 [授業外学習]実際のスポーツ活動を調べておくこと
③	[テーマ] 障害者スポーツの歴史(世界・日本)(早川) [内容] 障害者の競技スポーツの始まりからパラリンピック競技大会への発展について解説する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑪	[テーマ] 理論のまとめと評価(早川) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために理論のまとめと評価を行う。 [授業外学習]まとめ・評価に備えて復習すること
④	[テーマ] 障害者の運動能力の特徴とトレーニング(早川) [内容] 障害者スポーツを行う意義を通して残存機能の活用とトレーニング方法について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 実技 車いすの操作と応用(関矢) [内容] 医療用車いす、競技用車いす、足こぎ車いすの機能と操作方法の学習 [授業外学習]どのような障害の方に活用されているか調べておくこと
⑤	[テーマ] 障害者の社会参加とリハビリテーション(早川) [内容] 障害者のスポーツ活動を通して社会参加とリハビリテーションの効果について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 実技 車椅子スラローム(関矢) [内容] 車椅子スラロームとはどのような競技かを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]なぜ競技種目となっているか説明できるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 障害者スポーツに関わる指導者のあり方について(早川) [内容] 人間の生活構造の把握の視点、人間の持つ基本的欲求(心理的立場)からの視点、障害の受容と克服について解説する。 [授業外学習]具体的事例を用いて説明できるようにしておくこと	⑭	[テーマ] 実技 シッティング・ハンドボール(関矢) [内容] シッティング・ハンドボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]ルールや道具の工夫について理解しておくこと
⑦	[テーマ] 障害者スポーツの指導と支援について(早川) [内容] 指導上の留意点、競技者と指導者の関係について説明する。 [授業外学習]障害種別にどのような工夫が必要か調べておくこと	⑮	[テーマ] シッティング・バレーボール(関矢) [内容] シッティング・バレーボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]ルールや道具の工夫について理解しておくこと
⑧	[テーマ] 障害者スポーツの指導と支援について(その2)(早川) [内容] スポーツの持つ役割と可能性について説明する。 [授業外学習]障害種別にどのような工夫、役割と可能性があるかを調べておくこと	⑯	[テーマ] 実技のまとめ(関矢) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために実技のまとめを行う。 [授業外学習]課題レポートに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

講義の試験は、期末試験を1回実施する(評価割合10%)。また、授業内レポート(評価割合10%)を課す。実技の評価は、授業における実技(評価割合40%)と学外活動レポート(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポートは必要に応じて解説をしながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技			◎	40%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・各種イベントを見学したり、参加したりする学外の活動も必要である。学外行事への自発的な参加を期待する。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	早川 F棟2階、関矢 F棟2階		

授業科目名	ニュー・ゲームズ New Games(P.A.)				担当教員	仲野隆士・弓田恵里香・佐藤周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業では、これまでに考案されてきたニュー・ゲームを領域毎に紹介し実践する。さらに、最後の2回は全体授業とし、新しいオリジナルゲームを考案する方法について学習した上で、グループ毎に実際にオリジナルゲームを考案し、他のグループに対して発表する場面を設定することにしたい。最終的には、学校での授業や行事、地域でのレクリエーションなどで指導・支援できる能力を要請する。

授業の一般目標

限られた用具(体育館の倉庫に配置されているボールやネットなど)を用い、創意工夫を凝らして新しいオリジナルゲームを考案し提供する能力(応用力)を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	ルールや用具などのアレンジの仕方がわかる・できる
■	情意的領域	ルールを変えることで面白さが変化することを知り、ルールを変える遊び心と好奇心の大切さがわかる
■	技能表現的領域	既存のスポーツをアレンジすることで新たに出現するニューゲームの楽しみ方を実践を通して理解できる

授業計画(全体)

＊ 全体を3つに分けたグループ毎に、各教員の授業を4回受ける。4回終了したら、次の教員の授業を4回というようにローテーションしていく。なお、最後の2回は仲野・弓田・川口の3名が合同で担当する。14回目以降は1体に集合し、全体で実施する。最終回は各班が考案したオリジナルニューゲームを発表する(説明書は提出)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・弓田・佐藤) [内容] 授業の全体像の理解と教員の把握、班分けと名簿作成 [授業外学習]	⑨	[テーマ] フライングディスク(弓田4) [内容] フライングディスク その4 これまでの技能を用いてアルティメットを体験し、グループで戦術的課題を考案し、挑戦する [授業外学習]
②	[テーマ] バスケットボール型(仲野1) [内容] バスケットボール型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなバスケットボール型ニューゲームについて思案する [授業外学習]	⑩	[テーマ] ラケット型1・テニスのアレンジ1(佐藤1) [内容] 体育館の室内で実施可能なテニスをベースとしたパドルテニス・ラケットテニス・フリーテニスについて体験的に学習する [授業外学習]
③	[テーマ] バレーボール型1(仲野2) [内容] バレーボール型ニューゲームの概要を説明し，既に紹介されているバレーボール型のニューゲームを体験していく [授業外学習]	⑪	[テーマ] ラケット型2・テニスのアレンジ2(佐藤2) [内容] テニスコートにてプレイステイのボールを用いたテニス型のアレンジを学ぶと共に、テニス型のニューゲームを思案する [授業外学習]
④	[テーマ] バレーボール型2(仲野3) [内容] バレーボールのルールや用具をアレンジしてできる様々なバリエーションを体験するとともに、バレーボール型のニューゲームを思案する [授業外学習]	⑫	[テーマ] ラケット型3・バドミントンのアレンジ(佐藤3) バドミントンコートを使用し、バドミントンをアレンジしたニューゲーム(含むリングテニス・フリンゴ)を体験的に学ぶと共にニューゲームを思案する [授業外学習]
⑤	[テーマ] サッカー型(仲野4) [内容] サッカー型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなサッカー型ニューゲームについて思案する	⑬	[テーマ] ラケット型4・卓球のアレンジ(佐藤4) [内容] 卓球をアレンジした様々なニューゲームを体験的に学ぶと共に卓球型のニューゲームを思案する [授業外学習]
⑥	[テーマ] フライングディスク(弓田1) [内容] フライングディスク その1 フライングディスクの種目等について概説し、基本的なスローを用いてアキュラシーなどを体験する	⑭	[テーマ] ニューゲーム作成の考え方と方法の理解(仲野・弓田・佐藤) [内容] ニューゲームを考案するには、どのような考え方や作成手順が必要か理解する。その上で、班毎にニューゲーム考案の作業を開始する [授業外学習]
⑦	[テーマ] フライングディスク(弓田2) [内容] フライングディスク その2 子どもから高齢者まで楽しめるドッジビーを用いたゲームを体験する	⑮	[テーマ] オリジナルニューゲームの作成と説明書作成(仲野・弓田・佐藤) [内容] オリジナルニューゲームを完成させ、指定された用紙にまとめる。授業後半に、作成したニューゲームを他の班に紹介する [授業外学習]
⑧	[テーマ] フライングディスク(弓田3) [内容] フライングディスク その3 基本スロー以外の応用について学習し、アルティメットの基礎についても学習する [授業外学習]	⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 体験したことについて各自が振り返り、それをレポートにまとめ提出する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席を重視すると共に、グループ毎の授業への取り組みや態度を考慮して、総合的に判断して評価を出す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○		20%
授業外レポート				40%
演習・実技		○	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	『新しい軽スポーツのすすめ』 仲野隆士・原田宗彦 杏林書院
連絡先	仲野(A508)、弓田(A504)、佐藤(LC棟2F)		

4. 応用科目

授業科目名	看護学概論Ⅱ(前期) Introduction to Nursing Ⅱ (L)				担当教員	篠原 真弓 ・ 福田 伸雄 ・ 堀江 竜弥
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義・演習	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

看護学とは何かについて理解し、実際の看護および看護技術の展開方法について学ぶ。

授業の一般目標

人々の健康問題や、代表的疾患、看護展開の方法と理論、技術について学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。
■	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。
■	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。

授業計画(全体)

看護とは何かについて学び、また、看護を必要とする人々の健康問題や心理を理解する。また、基礎看護技術について学び、習得することを目的とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業内容についてのガイダンスを行う。 [授業外学習]看護の定義について教科書を読んでおくこと。	⑨	[テーマ] コミュニケーション方法① [内容] 情報収集に必要なコミュニケーションとは何かを学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
②	[テーマ] 看護学総論 [内容] 看護の機能と役割について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑩	[テーマ] コミュニケーション方法② [内容] 情報収集に有効なコミュニケーション方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
③	[テーマ]感染予防 [内容] 感染予防とスタンダードプリコーションについて学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑪	[テーマ] フィジカルアセスメント① [内容] バイタルサイン、身体変調とは何かを学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
④	[テーマ]環境整備の方法 [内容] ベッドメイキング、環境整備の方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑫	[テーマ] フィジカルアセスメント② [内容] バイタルサイン測定方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑤	[テーマ]清潔操作 [内容]清潔操作について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑬	[テーマ] フィジカルアセスメント③ [内容] バイタルサインを中心としたフィジカルアセスメント方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑥	[テーマ] 清潔保持の方法 [内容] 清潔保持の意義、足浴・手浴の方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑭	[テーマ] 病院・診療所の機能と構造① [内容]病院・診療所の機能と役割、連携方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑦	[テーマ] 移送・移動方法 [内容] 移送・移動方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑮	[テーマ] 病院・診療所の機能と構造② [内容] 退院後、療養中、復学支援の実際と方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑧	[テーマ]体位、罨法 [内容]安静時・急変時の体位、罨法の方法について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 今まで学んだ講義の総復習を行う。 [授業外学習]基礎看護技術の教科書をよく読んでおくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験、実技試験、授業態度、出席状況について総合的に評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度				減点対象
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・看護についての講義のほか、演習により、看護学実習に必要な基礎看護技術について学びます。出席と、参加態度が重視されます。また、演習を行うときは実習着と実習用シューズが必要です。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられています。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じて授業に臨んでください。

関連科目			
教科書	養護教諭のための看護学、基礎看護技術	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507　　オフィスアワー:水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	看護学概論Ⅱ(後期) Introduction to Nursing Ⅱ (L)				担当教員	篠原 真弓 ・ 福田 伸雄 ・ 堀江 竜弥
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義・演習	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

看護学とは何かについて理解し、実際の看護および看護技術の展開方法について学ぶ。

授業の一般目標

人々の健康問題や、代表的疾患、看護展開の方法と理論、技術について学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。
■	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。
■	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。

授業計画(全体)

看護とは何かについて学び、また、看護を必要とする人々の健康問題や心理を理解する。また、基礎看護技術について学び、習得することを目的とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業内容についてのガイダンスを行う。 [授業外学習]看護の定義について教科書を読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 感染症管理① [内容]感染症管理とその看護について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
②	[テーマ] 病院の機能と構造 [内容] 病院の役割とその連携方法について再学習する。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑩	[テーマ] 感染症管理② [内容]感染症予防に向けた予防接種について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
③	[テーマ] 歯科保健① [内容] 歯科疾患の特徴とその看護について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑪	[テーマ] 健康診断総論 [内容] 健康診断の必要性について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
④	[テーマ] 歯科保健② [内容] 歯科疾患の特徴とその看護について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑫	[テーマ] 健康診断方法 [内容] 健康診断の実際について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑤	[テーマ] 包帯法① [内容] 包帯法の特徴と役割について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑬	[テーマ] 健康診断評価 [内容] 検査データについて学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑥	[テーマ] 包帯法② [内容] 包帯法の実際について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑭	[テーマ] 養護教諭として発揮すべき看護役割 [内容] 救急処置の方法と応急手当について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。
⑦	[テーマ] 薬物療法と看護① [内容] 薬物療法の特徴とその看護について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑮	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 今まで学んだ基礎看護の総復習を行う。 [授業外学習]基礎看護技術の教科書をよく読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 薬物療法と看護② [内容] 薬物管理とその看護について学ぶ。 [授業外学習]教科書の該当箇所をよく予習しておくこと。	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 授業で学んだ内容に基づき、筆記試験を行う。 [授業外学習]試験問題について試験後に自己採点を行っておくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験、実技試験、授業態度、出席状況について総合的に評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度				減点対象
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・看護についての講義のほか、演習により、看護学実習に必要な基礎看護技術について学びます。出席と、参加態度が重視されます。また、演習を行うときは実習着と実習用シューズが必要です。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられています。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じて授業に臨んでください。

関連科目	看護学概論Ⅰ、看護学実習		
教科書	養護教諭のための看護学、基礎看護技術	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507　　オフィスアワー:水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	看護学実習 Training of Nursing				担当教員	堀江　竜弥 ・ 福田　伸雄 ・ 篠原　真弓
開講内容	学年・学期	3年	授業方法	実習	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

実際の臨床における実習を通し、患者の健康状態と、心理状態について学ぶ。病院の中での看護の実際や看護師の役割について学ぶ。また、保健医療職とのとの連携方法についてどのように連携をとっていく必要があるかについて学ぶ。

授業の一般目標

実習において、実際の看護の実際と役割について学ぶ。入院、または通院している患者の特徴や、保健指導の実際について学ぶ。保健医療職との連携方法について学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	病院に入院、または通院している患者の特徴や、保健指導の実際について学ぶ。保健医療職との連携方法について理解することができる。
■	情意的領域	病気にかかっている患者の心理状況に対して理解、共感ができる。
■	技能表現的領域	基礎看護技術について、実習で展開することができる。

授業計画（全体）

所定の実習期間の中で、患者の疾患の理解、保健指導の実際について理解できる。患者と良好なコミュニケーションをとり、患者の心理状況について、理解、共感することができる。病院の役割について理解することができる。

授業テーマとその内容

定められた期間で実習を行い、テーマ1～11について包括的学習を行う。（担当：福田・篠原・堀江）
1. 看護学実習オリエンテーション・事前施設訪問：実際の施設を訪問し、病院の特色、実習内容について理解する。
2. 身体の計測、バイタルサインの方法について学ぶ。
3. 内科、および外科の検査内容、救急処置方法について学ぶ。
4. リハビリテーションの実際について学ぶ。
5. 各種記録の方法と報告について学ぶ。
6. 保健指導、日常生活の援助方法、環境整備について学ぶ。
7. 外科的疾患とその治療方法と看護について学ぶ。
8. 内科的疾患とその治療方法と看護について学ぶ。
9. 感染症の取り扱い方法について学ぶ。
10.臨床における各種の栄養摂取方法の実際、および食事指導について学ぶ。
11.傷の手当て、包帯交換、ガーゼ交換の方法について学ぶ。

成績評価方法（方針）

実習参加状況、実習レポート、出席により総合的に評価を行う。レポートはコメントを付して返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			50%
演習・実技			◎	25%
授業態度			◎	25%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。実習に欠席した場合は、補充実習を後日行います。くれぐれも健康状態の管理に留意し実習に臨むこと。

関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ		
教科書	養護教諭のための看護学・基礎看護技術	参考書	
連絡先	研究室：A棟5階507　　オフィスアワー：水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	臨床心理学 Clinical Psychology(L)				担当教員	菊地 直子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

応用心理学である臨床心理学とはどのような学問か。その理論や背景とともに、心理臨床の実践を中心に解説する。

授業の一般目標

臨床心理学の背景を理解するとともに、基礎的な心理療法理論に触れ、相談者に対する態度やスキルについて理解している。

授業の到達目標

■	認知的領域	症状や問題について心理的に洞察できる。
■	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。
■	技能表現的領域	対人援助技術の一つとして、人の話を聞くことができる。

授業計画(全体)

本講義は、実践の学である臨床心理学の理論と実際を中心に概説する。前半は、基本的な人格理論について触れ、実際的な人間理解の諸方法について、学びを深めるために「体験」を通した学習を多く取り入れる。後半は、心理臨床の実際と、児童期・思春期臨床について解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について理解させる。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 心理療法の実際①・・・アセスメントと見立て [内容] 心理療法の介入を行うにあたってのアセスメントの重要性と見立てについて、精神医学のと異同とともに説明する。 [授業外学習]精神医学においての「診断」と見立ての違いについてまとめておく。
②	[テーマ] 臨床心理学とは [内容] 臨床心理学の定義と近年の動向について概説する。 [授業外学習]これまでに遭遇した心理的なの問題について発表できるようにしておく。	⑩	[テーマ] 心理療法の実際②・・・認知・行動療法 [内容] 教育現場における実際の臨床的手法について概説する。 [授業外学習]家族療法について、各自調べてレポートをする。
③	[テーマ] 青年期の心理的課題と問題 [内容] 受講学生にアンケートを実施し、身近にある問題や関心について調査したのち、一般的な課題について概説する。 [授業外学習]各自フロイトについて調べてくる。	⑪	[テーマ] 心理療法の実際③・・・来談者中心療法 [内容] ロジャースの心理臨床について、視聴覚機材を使って概説する。 [授業外学習]視聴覚教材を通して得た学びを文章にする。
④	[テーマ] 心理的援助の理論①・・・深層心理学 [内容] 精神分析理論について、無意識を中心に概説する。 [授業外学習]各自ユングについて調べてくる。	⑫	[テーマ] 乳幼児期の心理的問題・・・知的障害・自閉症・学習障害・ADHD [内容] 発達課題と乳幼児期に生じやすい問題について解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する①
⑤	[テーマ] 心理的援助の理論②・・・分析心理学 [内容] 分析心理学の理論について概説する。 [授業外学習]深層心理学的心理療法の特徴についてまとめておく。	⑬	[テーマ] 児童期・思春期の心理的問題① [内容] 心理的特徴とアセスメント・介入における留意点について解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する②
⑥	[テーマ] 対象理解の方法①・・心理査定 [内容] 質問紙調査法による理解とその評価についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑭	[テーマ] 児童期・思春期の心理的問題②・・・虐待・不登校・いじめ [内容] スクールカウンセラーと養護教諭との連携についても解説する。 [授業外学習]課題とする問題を設定し、その援助についてレポートを作成する。
⑦	[テーマ] 対象理解の方法② [内容] 言語によるコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑮	[テーマ] まとめと討論 [内容] これまで学んだことについて、学生の質問や疑問を検討するとともに課題の設定をする。 [授業外学習]質問や疑問について発表できるようにしておく。
⑧	[テーマ] 対象理解の方法③ [内容] ノンバーバルなコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑯	[テーマ] まとめ2と課題提出 [内容] 確認と課題提出 [授業外学習]課題についてレポートを作成する。

成績評価方法(方針)

定期試験は実施しないが、二つの課題についてレポートを課し、評価する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合20%)、演習や実習についても評価対象とする(評価割合10%)
レポートは、授業内で返却し解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート	△	◎		70%
演習・実技		◎		10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室 オフィスアワー 火曜10:20〜11:50		

授業科目名	レクリエーション支援論 Instruction Method for Recreation Activities(L.)				担当教員	仲野　隆士
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義では、レクリエーション運動を推進する上で特に重要な役割を担うであろうレクリエーション・コーディネーターが支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に概説する。

授業の一般目標

レクリエーション運動を推進するレクリエーション支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	支援者として求められる問題解決技法、レジャーカウンセリング、イベント企画などの基礎がわかる
■	情意的領域	支援者として支援する楽しさや喜びがわかる
■	技能表現的領域	グループワークやプレゼンテーション資料の作成などを通して、支援に必要な技術を高める

授業計画(全体)

新世紀を迎えた現在、私達はこれまでにない多くの自由時間を得ようとしている。その余暇社会の中において、レクリエーション支援者の果すべき役割は過去のどの時代より重要になっていくであろう。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] レクリエーションサービス論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション支援者の支援場面に学ぶ [内容] レクリエーションのベテラン支援者の支援場面のビデオを観察し、どのような点で優れているのか、個々の支援者の個性はどうなのか、自分ならどのように支援するか [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと	⑩	[テーマ] レクリエーション・マーケティング1 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
③	[テーマ] レクリエーション指導・支援の意味と役割 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑪	[テーマ] レクリエーション・マーケティング2 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
④	[テーマ] レクリエーション指導・支援の原則 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑫	[テーマ] ネットワーキング [内容]　資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑤	[テーマ] レクリエーション指導・支援の技術 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑥	[テーマ] レクリエーション指導・支援の内容と支援者に求められる資質 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑭	[テーマ]　プロモーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション支援の理論 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑮	[テーマ] 会議の持ち方、経理・財務管理 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑧	[テーマ] レクリエーション組織の経営論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと	⑯	[テーマ]　テスト [内容] 持ち込み「可」による筆記試験を実施(レポート形式) [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験(レポート形式)の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		40%
授業内レポート	◎	○		40%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

興味関心の強い学生は、教室の前の方で受講してほしい。また、教室後方で受講する学生も、周りに迷惑を及ぼすような言動や行動を慎むことを基本的なルールとする。質問のある学生は、授業中に質問してもかまわないし、研究室に来て質問をしてもかまわない。
黒板に書かれた内容のみをノートに書き写すのではなく、説明などの話で重要と思われる内容はメモするように心がけてほしい。
出席は毎回取るので、試合や実習等で欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。

関連科目	レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など		
教科書	『レクリエーション・コーディネートのすすめ方』(財)日レク協会編	参考書	『レクリエーションマネジメント』・『レジャーカウンセリング』(財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室		

授業科目名	介護過程Ⅰ The Process of Nursing Care Ⅰ				担当教員	後藤満枝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護過程の意義・目的・目標を理解し、実際の事例に基づいた介護計画の立案、実施、評価方法について演習を通して学ぶ。

授業の一般目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、ICFの視点に基づいた介護過程を展開し、介護計画を立案することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護過程の意義・目的・目標が理解できる。
■	情意的領域	利用者の視点に立った介護過程の展開ができる。
■	技能表現的領域	事例に基づき、介護過程の展開ができる。

授業計画（全体）

はじめに、介護過程とは何か、どんな目的があるのかについて理解した後、事例を用いて、利用者の情報収集、アセスメント、介護計画の立案の方法について学ぶ。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 介護過程の意義・目的・目標について [内容] 介護過程とは何かについて学ぶ。 [授業外学習]介護過程の定義について教科書を熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 介護計画の立案1 [内容] 介護計画の立案の方法について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
②	[テーマ]情報収集の方法 [内容] 介護過程における情報収集の意義と方法について学ぶ。 [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑩	[テーマ] 介護計画の立案2 [内容] 介護計画の立案の方法と実際について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
③	[テーマ] 情報収集1 [内容] 事例における情報収集の方法を学ぶ。 [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑪	[テーマ] 介護計画の立案3 [内容] 介護計画の立案の方法と実際について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
④	[テーマ] 情報収集2 [内容] 事例における情報収集の方法を学ぶ。 [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑫	[テーマ]実施と評価 [内容] 介護計画の実施と評価方法について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の実施と評価について教科書を読んでおくこと。
⑤	[テーマ]アセスメントとは何か アセスメントの方法1 [内容] 介護過程におけるアセスメントの意義と方法について学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑬	[テーマ] 記録と報告 [内容] 介護過程における記録と報告の方法について学ぶ。 [授業外学習]記録と報告について教科書を読んでおくこと。
⑥	[テーマ] アセスメントの方法2 [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑭	[テーマ] 介護計画の評価1 [内容] 介護計画の評価方法について学び、実際に介護計画の評価を行う。 [授業外学習]介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。
⑦	[テーマ] アセスメントの方法3 [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑮	[テーマ] 介護計画の評価2 [内容] 介護計画の評価方法について学び、実際に介護計画の評価を行う。 [授業外学習]介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 介護計画立案の方法について [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 今までの授業のまとめを行う。 [授業外学習]実際に自分が立案した介護計画をよく読んでおくこと。

成績評価方法（方針）

授業内レポート、演習の結果に基づき、総合的に評価する。ただし、授業出席の3分の2以上が前提となる。なお、レポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			70%
授業外レポート				
演習・実技			○	30%
授業態度				加点・減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

介護過程の授業は、毎回の授業の積み重ねが基本となります。できるだけ、欠席のないように授業に出席してください。

また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行ってください。

関連科目	介護過程Ⅱ・介護過程Ⅲ		
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202 オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	生活支援と障害者介護Ⅲ Lifestyle Support and Handicapped Persons CareⅢ				担当教員	篠原 真弓
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本科目は、介護福祉士として肢体不自由および精神障害を有する対象者に必要な介護の原則と生活支援技術を学べるように展開する。

授業の一般目標

本科目では、肢体不自由者や精神障害者の生活の理解とその状況に応じた支援技術を修得し、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1. 生活主体である個人の特性に起因する生活上の課題について説明できる。2. 日常生活支援に必要なアセスメント内容について説明できる。
■	情意的領域	肢体不自由、精神障害、発達障害等の利用者に対し、尊厳ある態度で接することができる。
■	技能表現的領域	自立支援に基づいた尊厳を支える介護の在り方を伝えるための技術や方法を選択し、適応できる。

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。授業テーマにより、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 障害に応じた介護とは [内容] 障害者福祉の基本理念や障害者介護の在り方に向けた基本的な概念等を含め概説する [授業外学習] シラバス記載内容を確認し、授業進行の全体像を理解すること	⑨	[テーマ] 精神障害と生活の理解① [内容] 関連する医学領域の基礎知識について説明する [授業外学習] 前週提示課題を整理し、授業に臨むこと
②	[テーマ] 肢体不自由者と生活の理解① [内容] 関連する医学領域の基礎知識について説明する [授業外学習] 既習科目内容を復習し、授業に臨むこと	⑩	[テーマ] 精神障害と生活の理解② [内容] VTR視聴により、症状と生活の状況を理解する [授業外学習] 前週提示課題を整理し、授業に臨むこと
③	[テーマ] 肢体不自由者と生活の理解② [内容] 日常生活に潜む諸課題について説明する [授業外学習] 前週提示課題を整理し、授業に臨むこと	⑪	[テーマ] 精神障害と生活の理解③ [内容] VTR視聴により、症状と生活の状況を理解する [授業外学習] 前週提示課題を整理し、授業に臨むこと
④	[テーマ] 肢体不自由者の介護に必要なアセスメント① [内容] 小グループで、事例に基づき情報の整理・統合から分析内容を検討する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと	⑫	[テーマ] 精神障害者の介護に必要なアセスメント① [内容] 小グループで、事例に基づき情報の整理・統合から分析内容を検討する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと
⑤	[テーマ] 肢体不自由者の介護に必要なアセスメント② [内容] 小グループで、事例に基づき介護支援展開上の諸課題について整理する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと	⑬	[テーマ] 精神障害者の介護に必要なアセスメント② [内容] 小グループで、事例に基づき介護支援展開上の諸課題について整理する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと
⑥	[テーマ] 肢体不自由者の介護に必要な生活支援技術の展開① [内容] 整理された諸課題に対する支援内容を検討する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと	⑭	[テーマ] 精神障害者の介護に必要な生活支援技術の展開① [内容] 整理された諸課題に対する支援内容を検討する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと
⑦	[テーマ] 肢体不自由者の介護に必要な生活支援技術の展開② [内容] 事例に基づき介護支援展開の具体的内容を整理する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと	⑮	[テーマ] 精神障害者の介護に必要な生活支援技術の展開② [内容] 事例に基づき介護支援展開の具体的内容を整理する [授業外学習]「介護過程Ⅰ・Ⅱ」を復習し授業に臨むこと
⑧	[テーマ] 精神障害者に応じた介護とは [内容]「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に至る法の変遷をたどり、介護の原則を確認・整理する [授業外学習] 前週提示課題を整理し、授業に臨むこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

出席2/3以上を必須条件にし、定期テスト（80%）、演習（10%）、レポート（10%）の総合評価とする。提出されたレポートは、授業内で解説等を加え返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	◎		5%
授業外レポート	◎	◎		5%
演習・実技		◎	◎	10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ（1年）、リハビリテーション論（1年）、コミュニケーション技術（1年）、レクリエーション活動援助法Ⅰ（1年）、生活と生活支援（1年）、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ（1年）、生活支援と居宅介護（2年）、生活支援と高齢者介護（2年）		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書11　障害の理解	参考書	新・介護福祉士養成講座　第8巻生活支援技術Ⅲ 中央法規
連絡先	研究室：F棟2階212　　オフィスアワー：月曜日　12:40～14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ Skill Training for Social Work Ⅱ				担当教員	稲荷　智康
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

福祉課題を抱えた利用者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性およびその具体的方法等にかかわる専門知識を学ぶ。福祉課題を抱えた利用者からの相談に応じ、利用者の自立支援の観点から地域において適切なサービスの選択を支援する技術を学ぶとともに、サービス提供者間のネットワークの形成を図ることを学ぶ。

授業の一般目標

①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。③相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。④相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。⑤相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	ソーシャルワークの理論と体系を説明することができる。ニーズに適した支援プランを提案することができる。
■	情意的領域	社会福祉専門職としての価値を説明することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

基本的にテキストを用いて行うが、必要に応じて他の資料を配布することがある。講義授業ではあるが、必要な場合演習を行うこともある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の自己紹介、学生の自己紹介、講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習]自分が福祉分野を志すに至った理由をワークシートに記入する。	⑨	[テーマ] ケースマネージメント（ケアマネジメント） [内容] 目的と展開過程を理解する。アセスメントの意味・目的・方法を理解し、ケアプランの作成を学習する。 [授業外学習]介護保険法、自立支援法に関する説明ができる。
②	[テーマ] 相談援助の機能と構造 [内容] ソーシャルワークの構造（人と環境との関係、ソーシャルワークにおけるニーズとは）。ソーシャルワークの機能を学習する。 [授業外学習]ソーシャルワークの定義を説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] コーディネーションとネットワーキング [内容]ケアマネジメントの中核的技術であるコーディネーションが有効的に機能するためにネットワーキングが必要であることを、事例を通して学習する。 [授業外学習]自分の周辺にあるインフォーマルサポートを調べて発表できること。
③	[テーマ] 相談援助における援助関係 [内容]援助関係の意義、構造、自己覚知等を学習する。 [授業外学習]援助技術演習Ⅰとの関連から、「自己覚知」が理解できている。	⑪	[テーマ] さまざまな実践モデルとアプローチ [内容] 相談援助における実践のモデルの特徴を理解する。 [授業外学習]テキストの各理論の説明に、自分なりにメモを加えてわかるようにしておく。
④	[テーマ] 相談援助の展開過程Ⅰ [内容] 受理面接（インテーク）、事前評価（アセスメント）、支援の計画（プランニング）、支援の実施までの概要を学習する。 [授業外学習]「かかわり技法」について説明できる。	⑫	[テーマ] 相談援助の実際① [内容] 社会資源の開発の必要性とその実際例について理解する。 [授業外学習]自分が居住する地域の社会資源マップを次回まで作成してくる。
⑤	[テーマ] 相談援助の展開過程Ⅱ [内容] 経過観察（モニタリング）、再アセスメント、支援の終結と効果測定、アフターケアの概要を学習する。 [授業外学習]次回まで、展開過程が説明（発表）できるようにする。	⑬	[テーマ] 相談援助の実際② [内容]権利擁護の意義と方法について理解する。 [授業外学習]施設内虐待を発見した際の自分の行動をシュミレーションしてみる。
⑥	[テーマ]相談援助のためのアウトリーチの技術 [内容] アウトリーチの意義と目的、必要性、援助過程とアウトリーチの具体的方法を学習する。 [授業外学習]アウトリーチを行うための留意点が説明できる。	⑭	[テーマ] 相談援助の実際③ [内容] 相談援助における倫理的葛藤とその解決方法について理解する。 [授業外学習]倫理綱領について、説明できる。
⑦	[テーマ] 相談援助のための面接の技術 [内容] 面接の基本姿勢や展開、面接において用いる技術とコミュニケーションを学習する。 [授業外学習]バイスティックの7原則が説明できる。	⑮	[テーマ] テスト [内容] 今まで履修した内容の確認 [授業外学習]試験終了後、テキストや配布資料にて自身で確認する。
⑧	[テーマ] 相談援助のための記録の技術 [内容]記録の意義と活用目的、種類、IT化等について学習する。 [授業外学習]個人情報保護法との関連について復習しておく。	⑯	[テーマ]フィードバック [内容] テストのフィードバックおよび授業内容の最終まとめ [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。レポート、毎回の振り返りシート（評価割合20%）。授業参加度（評価割合20%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技				
授業態度	◎			20%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ、社会福祉援助技術演習Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術現場実習指導		
教科書	新・社会福祉士養成講座7，8『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規	参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ① 2年 前期 Skill Training for Social Work Practice Ⅰ				担当教員	稲荷智康・高橋亮
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

個別援助及び集団援助に対する基本的な援助場面を設定し、ロールプレーイングなど用いて演習を行い、演習内容を振返り学習する。

授業の一般目標

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者として期待される「実践の共通基盤」としてソーシャルワークを理解し、専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助の基礎を理解できる。
■	情意的領域	自己覚知ができる。
■	技能表現的領域	簡単なコミュニケーション技術を身に付ける。

授業計画(全体)

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者としての基本的な技術を身に付ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の自己紹介、学生の自己紹介、講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 他者の価値観理解 [内容] 他者の価値観理解はなぜ必要なのか？－演習⑦ [授業外学習]
②	[テーマ]] 対人援助の倫理と価値 [内容]援助者の自己覚知－演習①－肖像画 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 他者の価値観理解はなぜ必要なのか？－演習⑧ [内容] 他者と自分の価値観の違いを理解する。 [授業外学習]
③	[テーマ] 自己紹介・他者紹介－演習③－自己紹介 [内容] 自己紹介・他者紹介を通して、他者による自己理解 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 面接場面での視線・表情の意味 [内容] 面接場面の視線や表情について演習する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 自己覚知－演習④－ライフヒストリ [内容] ライフヒストリを通して自己覚知 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 対人援助技術の基本－演習⑧－話す速さ・アクセント [内容] 対人援助の基本姿勢のうち話す速さやアクセントについて演習する。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 自分の「成り立ち」について [内容] 自分の今までの人生で思い出に残る人への手紙を書く。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 個人とソーシャルワーカーの基本姿勢－演習⑨－グループ討議 [内容] 個人の立場と専門職としての立場の違いを学ぶ。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 価値観の意味・尊重－演習⑤－価値観と他者理解 [内容]お互いに違う価値観を理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 個人とソーシャルワーカーの基本姿勢－演習⑩－グループ討議 [内容] 専門職としてのソーシャルワーカーの基本姿勢を理解する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 価値観の意味・尊重－演習⑤－価値観と他者理解 [内容] 価値観と他者理解演習 [授業外学習]	⑮	[テーマ] ジェノグラムとエコマップ作成－演習⑪ [内容] 環境マップ及び家族図を書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 他者の価値観－演習⑥－自己の価値観を言語化する。 [内容] 自分の価値観を他者に伝える表現を学ぶ。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート他(評価割合50%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。試験やレポート等は随時ディスカッションして理解を深めることも評価の中に加える。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			20%
授業態度	◎			10%
出席	―			

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	山田 容、『ワークブック社会福祉援助技術演習①』対人援助の基礎、ミネルヴァ書房	参考書	
連絡先	高橋研究室:E棟2階 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅰ-② 2年後期 Skill Training for Social Work Practice Ⅰ				担当教員	稲荷智康/高橋亮
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	社会福祉士国家資格受験資格
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

個別援助及び集団援助に対する基本的な援助場面を設定し、ロールプレーイングなど用いて演習を行い、演習内容を振返り学習する。

授業の一般目標

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者として期待される「実践の共通基盤」としてソーシャルワークを理解し、専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助の基礎を理解できる。
■	情意的領域	事例検討の資料作成ができる。プレゼンテーションができる。
■	技能表現的領域	簡単なコミュニケーション技術を身に付け、ロールプレイを行う。相談援助の応用技術を用いて演習ができる。

授業計画(全体)

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者としての相談援助技術を身に付ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] オリエンテーション 教員の自己紹介、学生の自己紹介、講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 評価と終結モニタリング演習⑦ [内容] 評価と終結モニタリングを事例に基づく演習 [授業外学習]
②	[テーマ] 事例検討－児童虐待の事例検討 [内容] (事例Aの概要理解) [授業外学習]	⑩	[テーマ] ネットワークのあり方－演習⑧ [内容] ネットワーク関連事例で演習 [授業外学習]
③	[テーマ] ソーシャルワークの過程(開始)－インテイク [内容] 実技演習① [授業外学習]	⑪	[テーマ] 援助計画アセスメント－事例展開演習⑨ [内容] 援助計画におけるアセスメントの実際－演習 [授業外学習]
④	[テーマ] ソーシャルワークの過程理解－事例A [内容] －事例A展開準備演習② [授業外学習]	⑫	[テーマ] 社会的排除問題理解－ホームレス事例演習⑩ [内容] 演習－多職種の連携 [授業外学習]
⑤	[テーマ] ソーシャルワーク過程理解－実技演習 [内容] 展開開始－実技演習③ [授業外学習]	⑬	[テーマ] 計画実施演習⑩ [内容] 演習－計画実施の事例検討:グループ討議 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 事例のアセスメント [内容] 実技演習④ [授業外学習]	⑭	[テーマ] 評価と終結と事後援助について－演習⑩ [内容] －事例検討:グループ討議 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 家庭内暴力(DV)事例演習 [内容] 演習－社会資源の調査(レポート) [授業外学習]レポート	⑮	[テーマ] 事例発表 [内容] 事例発表－演習グループごとに事例に対する援助計画を発表 [授業外学習] プレゼンテーション
⑧	[テーマ] 低所得者事例 演習⑥ [内容] 低所得者の事例を用いた演習 [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート他(評価割合50%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。試験やレポート等は随時ディスカッションして理解を深めることも評価の中に加える。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目	社会福祉援助技術論Ⅰ、演習Ⅰ、社会福祉援助技術現場実習指導、社会福祉援助技術現場実習		
教科書	山辺朗子、『ワークブック社会福祉援助技術演習②』個人とのソーシャルワーク、ミネルヴァ書房	参考書	白澤正和他、『相談援助の理論と方法Ⅱ』、中央法規、2008
連絡先	高橋研究室:E棟2階 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-① 3年前期 Skill Training for Social Work Practice Ⅱ				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	関連資格	社会福祉士国家資格受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

個別援助及び集団援助に対する基本的な援助場面を設定し、ロールプレーイングなどを用いて演習を行い、演習内容を振返り学習する。

授業の一般目標

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者として期待される「実践の共通基盤」としてソーシャルワークを理解し、専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助の基礎を理解できる。
■	情意的領域	事例検討の資料作成ができる。プレゼンテーションができる。
■	技能表現的領域	簡単なコミュニケーション技術を身に付け、ロールプレイを行う。相談援助の応用技術を用いて演習ができる。

授業計画(全体)

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者としての相談援助技術を身に付ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] オリエンテーション 教員の自己紹介、学生の自己紹介、講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 評価と終結モニタリング演習⑦ [内容] 評価と終結モニタリングを事例に基づく演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 事例検討ー児童虐待の事例検討 [内容] (事例Aの概要理解) [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑩	[テーマ] ネットワークのあり方 ー演習⑧ [内容] ネットワーク関連事例で演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] ソーシャルワークの過程(開始)ーインテイク [内容] 実技演習① [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] 援助計画アセスメントー事例展開演習⑨ [内容] 援助計画におけるアセスメントの実際ー演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] ソーシャルワークの過程理解ー事例A [内容] ー事例A展開準備演習② [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑫	[テーマ] 社会的排除問題理解ーホームレス事例演習⑩ [内容] 演習ー多職種の連携 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] ソーシャルワーク過程理解ー実技演習 [内容] 展開開始ー実技演習③ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] 計画実施演習⑩ [内容] 演習ー計画実施の事例検討:グループ討議 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 事例のアセスメント [内容] 実技演習④ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑭	[テーマ] 評価と終結と事後援助についてー演習⑩ [内容] ー事例検討:グループ討議 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] 家庭内暴力(DV)事例演習 [内容] 演習ー社会資源の調査(レポート) [授業外学習] レポート	⑮	[テーマ] 事例発表 [内容] 事例発表 ー演習グループごとに事例に対する援助計画を発表 [授業外学習] プレゼンテーション
⑧	[テーマ] 低所得者事例 演習⑥ [内容] 低所得者の事例を用いた 演習 〔授業外学習〕個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

・試験は、期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート他(評価割合50%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。
・提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目	社会福祉援助技術論Ⅰ、演習Ⅰ、社会福祉援助技術現場実習指導、社会福祉援助技術現場実習		
教科書	倉石哲也、『ワークブック社会福祉援助技術演習③』家族ソーシャルワーク、ミネルヴァ書房	参考書	白澤正和他、『相談援助の理論と方法Ⅱ』、中央法規、2008
連絡先	高橋亮研究室 E棟2階 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-② 3年 後期 Skill Training for Social Work Practice Ⅱ				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義・演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

個別援助に対する具体的な援助場面を設定(児童虐待の事例)し、ロールプレーイングなどを用いて演習を行い、個人とソーシャルワークの過程を理解し学習する。

授業の一般目標

専門社会福祉実践技法としてソーシャルワークについてより深く専門的技術を用いて、援助場面を想定し演習を行う。後半は社会福祉援助過程を理解し、事例を取り上げ、援助計画を立案することを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助の応用技術が分かる。
■	情意的領域	ロールプレイから間接的な相談援助の実際が理解できる。
■	技能表現的領域	相談援助の応用技術を用いて演習ができる。

授業計画(全体)

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者としての相談援助技術を身に付ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] オリエンテーション 地域ソーシャルワークについて理解 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑨	[テーマ] グループワーク [内容] グループワークの対象設定演習⑦ 演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 事例検討－事例からチームアプローチ理解 [内容] (事例Aの概要理解) [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑩	[テーマ] ネットワーク [内容] ネットワークのあり方 －演習⑧ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] [内容] ソーシャルワークの過程(開始)－インテイク 地域を知る－実技演習① [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] グループワーク [内容] グループワークの対象設定演習⑦ 演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] 地域資源 [内容] 地域資源及び対象のニーズ把握－事例A －事例A展開準備演習②(地域住民のニーズ把握－社会調査演習) [授業外学習]	⑫	[テーマ] アセスメント [内容] 援助計画アセスメント一事例展開演習⑨ 演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] [内容] 地域資源の活用方法－実技演習 展開開始－実技演習③ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] プログラム分析 [内容] プログラムの分析演習⑩ 演習－多職種の連携 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 地域資源 [内容] 地域資源及び対象のニーズ把握－事例A －事例A展開準備演習②(地域住民のニーズ把握－社会調査演習) [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑭	[テーマ] サービス評価 [内容] サービス評価－演習⑪－演習⑨ 演習－事例検討:グループ討議 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] モデル事例A [内容] モデル事例Aの地域福祉計画検討 実技演習④ [授業外学習]	⑮	[テーマ] 評価と終結 [内容] 評価と終結と事後援助について－演習⑩－事例検討:グループ討議 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] 低所得者事例 [内容] 低所得者事例 演習⑥ 演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] 事例発表 [内容] 事例発表 －演習グループごとに事例に対する援助計画を発表 演習－プレゼンテーション [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート	—			
演習・実技	◎			10%
授業態度	◎			10%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	岩間伸之、『ワークブック社会福祉援助技術演習④』グループワーク、ミネルヴァ書房	参考書	白澤正和他、『相談援助の理論と方法Ⅱ』、中央法規、2008
連絡先	高橋亮研究室 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-③ 4年 前期 Skill Training for Social Work Practice Ⅰ				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

地域福祉の援助に対する基本的な援助場面を設定し、ロールプレーイングなどを用いて演習を行い、演習内容を振返り学習する。

授業の一般目標

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者として期待される「実践の共通基盤」としてソーシャルワークを理解し、専門的援助技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	相談援助の基礎を理解できる。
■	情意的領域	自己覚知ができる。
■	技能表現的領域	簡単なコミュニケーション技術を身に付ける。

授業計画(全体)

相談援助の知識と技術に係る他の科目と関連性も視野に入れつつ国家資格に相応しい社会福祉実践者としての基本的な技術を身に付ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の進め方、シラバスの説明、評価方法 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑨	[テーマ] 地域での援助事例を通して地域づくりを考える。 [内容] 高齢者事例を通して地域づくりの実際を学ぶ。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 地域福祉援助技術とは [内容] コミュニティソーシャルワーカーに必要なスキルについて学ぶ。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑩	[テーマ] 市民参加の多様な形態について考える。 [内容] 地域福祉計画と住民参加について事例を用いて演習し、理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] 地域とは何か―コミュニティの意味 [内容] 地域性と共同性について演習を行い理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] ワークショップの意味、住民の役割理解。 [内容] 住民参加型の計画づくりの実際を演習を通して学ぶ。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] 地域を知る。 [内容] 地域について何を知りたいのか、どうやれば情報を得られるかについて演習を通して理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑫	[テーマ] ボランティアグループを支援する。 [内容] ボランティアグループの課題について考える。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] 住民を把握する。 [内容] 地域住民の多様性について理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] ボランティアコーディネーションの意味について学ぶ。 [内容] 個別対応が基本であるボランティアコーディネーションについて面談の必要性について事例を用いて考察する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 個別相談をどのように受け止めるか―事例を用いて演習 [内容] 地域住民の多様性から個々人を理解する力の大切さを学ぶ。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑭	[テーマ] 地域課題解決のためのプログラム案 [内容] 個別ニーズから地域課題へのプログラムづくりにおける柔軟なアイデアの出し方について考える。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] ネットワークづくりについて理解 [内容] 高齢者の事例を用いてネットワークづくりの実践を学ぶ。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑮	[テーマ] 福祉教育のプログラムづくり [内容] 学校と地域の協働する福祉教育プログラム作りについて事例を用いて演習し、理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] グールプホームでの展開 [内容] 生活の継続性に関する考察-高齢者の事例から演習を通して議論する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート他(評価割合50%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。
出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			20%
授業態度	◎			10%
出席	―			

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	筒井のり子、『ワークブック社会福祉援助技術演習①』 コミュニティソーシャルワーク、ミネルヴァ書房	参考書	
連絡先	高橋亮研究室 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助実習 Field Work for Social Work				担当教員	小池和幸・関矢貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	高校福祉科教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

1)福祉教諭が理解しておかなければならない福祉及び隣接領域の様々な報告事例や研究事例についての提示を行い自発的な関心を引き出させる。2)双方向のコミュニケーションスキルを用いた授業形態を体験しその方法と効果を示す。

授業の一般目標

1)「福祉」担当教員として仕事をする上で必要とされる社会福祉の専門援助技術の習得。研究報告や事例研究を通して、報告の技術や仲間から学ぶ姿勢を身につける。2) 少人数の演習形態で、主体的に行動する姿勢を身につける。自らの意見を主体的に述べると同時に仲間の意見を傾聴する態度を身につける。3)人権尊重、権利擁護、自立支援について理解を深める。社会福祉研究・実践について事例等をとおして理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	福祉領域の事例報告や事例研究等を読み、生活を保障することの意味を理解することができる。
■	情意的領域	人が人間らしく生きることやそれを支えることに関心が持てる。
■	技能表現的領域	福祉領域の事例報告や事例研究等を読み理解したことをまとめて他者へ伝えることができる。自己資源に気付き様々な方法で表現できる。

授業計画(全体)

グループか個人で各課題に対するアプローチの仕方を検討、計画して発表、評価の過程で授業をすすめる。(授業時間内、教室内だけの学習に留まらず必要に応じて授業形態を適宜、変える。)各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション (小池・関矢) [内容] ①学習課題の説明 ②学習グループづくり ③自己紹介。 [授業外学習]シラバスを事前に読む。	⑨	[テーマ] 社会福祉援助に関する演習2 (小池・関矢) [内容] 自己開発プランニング1(具体的な自己表現のためのアイディア) [授業外学習]これまでの自分の趣味や特技についてまとめる。
②	[テーマ]事例研究1 (小池・関矢) [内容] 事例研究の方法の説明。(レジメの作り方、発表の方法、発表順など)現在関心のある事柄について自由発表。 [授業外学習]研究や研究発表について事前に調べる。	⑩	[テーマ] 社会福祉援助に関する演習3 (小池・関矢) [内容] 自己開発プランニング2(具体的な自己表現のための計画と準備) [授業外学習]パフォーマンスに必要な準備をする。
③	[テーマ] 事例研究2 (小池・関矢) [内容] 福祉関連で関心のある事柄、テーマとキワードの発表会。 [授業外学習]事例発表に必要な資料の収集。	⑪	[テーマ] 社会福祉援助に関する演習4 (小池・関矢) [内容] 自己表現の実施(パフォーマンスの実施) と振り返り。 [授業外学習]パフォーマンスに必要な準備をする。
④	[テーマ] 事例研究3 (小池・関矢) [内容] 口頭発表の準備(発表原稿及びレジメの作成)。 [授業外学習]発表原稿及びレジメの作成。	⑫	[テーマ] 社会調査実習1 (小池・関矢) [内容] ①社会調査実習オリエンテーション ②調査・資料収集1 [授業外学習]必要に応じて調査の実施及び資料等の収集。
⑤	[テーマ] 事例研究4 (小池・関矢) [内容] 第1回口頭発表とレジメの提出。個人かグループで協力して1テーマ15分で発表する。 [授業外学習]発表内容、レジメの再検討。	⑬	[テーマ] 社会調査実習2 (小池・関矢) [内容] 調査・資料収集(資料調査、実地調査等調査方法は自由) [授業外学習]必要に応じて調査の実施及び資料等の収集。
⑥	[テーマ] 事例研究5 (小池・関矢) [内容] 発表原稿、レジメ等の修正。グループディスカッション [授業外学習]発表内容、レジメの再検討。	⑭	[テーマ] 社会調査実習3 (小池・関矢) [内容] 中間発表 [授業外学習]必要に応じて調査の実施及び資料等の収集。
⑦	[テーマ] 事例研究6 (小池・関矢) [内容] 第2回口頭発表とレジメの提出。個人かグループで協力して1テーマ15分で発表する。グループディスカッション及び自己評価 [授業外学習]発表内容等の振り返り。	⑮	[テーマ] 社会調査実習4 (小池・関矢) [内容] 調査報告会及び調査報告書の提出。 [授業外学習]報告書の作成
⑧	[テーマ] 社会福祉援助に関する演習1 (小池・関矢) [内容] ①生きがい援助に関する説明 ②自己開発プランニング(自己表現にための自己資源チェック) [授業外学習]人の生きがいについての事前学習。	⑯	[テーマ] まとめ (小池・関矢) [内容] まとめとディスカッション [授業外学習]報告書の作成、提出。

成績評価方法(方針)

①事例研究:口頭発表(評価割合40%) ②社会福祉援助に関する演習:自己表現(パフォーマンス)評価割合(30%) ③社会福祉調査実習(評価割合30%)の3つの課題と出席状況、授業態度により総合的に評価する。(①②③の3つの課題をクリアすることが必須条件) 出席は評価に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				なし
授業内レポート				なし
授業外レポート	○	○		30%
演習・実技	○		◎	70%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)
・学生一人一人が主体的に授業に取り組まなければ課題完成に至らないので、計画的かつ積極的に授業に臨んで欲しい。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	なし(授業に応じて資料を用意する)	参考書	無し
連絡先	小池和幸(F201号)水14:20～15:50　関矢貴秋(F204号)水12:40～14:10		

授業科目名	社会福祉施設経営論 the theory of social welfare administration				担当教員	小湊純一 、斎藤 隆 、蜂谷 宏
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会福祉法人や社会福祉施設を中心とした社会福祉事業の経営と管理について学ぶ。中でも管理については、福祉サービスの本質とそのマネジメントを掘り下げて学習する。実際に現場で発生している生の現状を、できる限りリアルに伝え、それを素材として学生自身が主体的に考える授業とする。

授業の一般目標

・実習や実務において知っておくべき具体的な福祉サービスを理解し記憶する。
・福祉サービスとその提供組織の管理について理解する。（このため、組織論についても併せて学習する。）
・社会福祉法人の経営について理解する。　・社会福祉法人、社会福祉施設の使命を覚知し、その意義と役割を学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉法人の経営と、社会福祉施設および福祉サービスの管理について理解する。
■	情意的領域	「老後の安心と生きがい」を創造できる感覚を養う。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

担当教員が用意したレジュメと演習資料によって授業を進める。講師の実体験を元に、生々しい現場の実態や事例を通して、対人福祉サービスとそれを提供する組織および組織経営が実感できるような「学生参加型の授業」を展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 社会福祉法人とは何か？ [内容]社会福祉法人の使命、組織、そして具体的な経営実態 について、リアルな認識を形成する。 [授業外学習]社会福祉概論等で学んだ社会福祉の基礎について復習する。	⑨	[テーマ]　社会人（組織人）とは　：　モラル、自助努力そして制度の充実 [内容] 職業倫理と施設職員による虐待事件について考える。 [授業外学習]　老人福祉論について、該当箇所を復習しておくこと。
②	[テーマ]経営と管理について理解する。 [内容] 介護保険制度、中でも介護報酬の仕組みと人材を授業素材とし、標記テーマを取り扱う。 [授業外学習]老人福祉論を復習しておくこと。	⑩	[テーマ]　社会福祉施設の課題 [内容] 人材確保（特に介護人材）、地域包括ケア、安定した運営、社会福祉法人の改革 [授業外学習]　社会福祉概論Ⅱの「社会福祉法人」の項を復習する。
③	[テーマ] 高齢者を対象とした社会福祉事業とその運営管理 [内容] 老人福祉と高齢者医療を素材に、その運営管理から、社会福祉事業一般の運営管理を説明する。 [授業外学習]老人福祉施設について老人福祉論を復習しておくこと。	⑪	[テーマ]　ケアの基本理念 [内容]　福祉サービスを提供する組織・団体に関する情報を提供し、問題点を検討する。 [授業外学習]　社会福祉概論ⅠおよびⅡの復習
④	[テーマ] 営利企業一般と社会福祉事業との差異を考える。 [内容] 両者の差異を考えることで、社会福祉事業と社会福祉施設のアイデンティティを明らかにする。 [授業外学習]「社会福祉概論Ⅱ」でNPOと社会福祉法人について復習しておく。	⑫	[テーマ]　福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論を学ぶ [内容]　経営とマネジメントに関する一般理論から入り、コンセンサスの形成に至る。 [授業外学習] 社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱと社会福祉概論Ⅱを復習する。
⑤	[テーマ] 今後の高齢社会の動向と課題 [内容] 超高齢社会の到来を、社会福祉法人経営や社会福祉施設経営の立場から論じる。 [授業外学習]老人福祉論の人口統計に関する項を復習しておくこと。	⑬	[テーマ]　福祉サービスを提供する組織と、その実践および経営について [内容] 社会福祉法人のコンプライアンス・ルールを中心に上記のテーマを論じる。 [授業外学習]　社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱと社会福祉概論Ⅱを復習する。
⑥	[テーマ] 老人福祉の変遷 [内容] 措置から契約へ（介護保険制度へ）。　社会福祉施設の歴史的な変遷、そしてサービスの種類とその変遷について [授業外学習]老人福祉論の該当箇所を復習する。	⑭	[テーマ] 福祉サービスの管理運営方法に関する理論と実際 [内容] 社会福祉施設と在宅福祉サービスのリスクマネジメントを中心に、上記のテーマを論じる。 [授業外学習]　社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱと社会福祉概論Ⅱを復習する。
⑦	[テーマ] ユニット型ケアとは何か？ [内容] ユニット型ケアを、ハード面とソフト面に分けて説明し、論じる。 [授業外学習]老人福祉論の該当箇所を復習しておくこと。	⑮	[テーマ]　まとめと発表 [内容]　演習の形式で、各人が発表用の資料を作成し、受講者全員の前でプレゼンする。 [授業外学習]　前回までの講義について復習し、自分なりにまとめておくこと。
⑧	[テーマ]　高齢者向け対人福祉サービスの現状 [内容]　民間企業の参入と予防重視への転換 [授業外学習]　老人福祉論を復習する。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業態度と授業内レポートで評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	○	○	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		30%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・集中講義のため、学内掲示で開講の日時を確実に把握すること。
（ 参考 ：これまでは、1月の上旬に開講 ）
・受動的に講義を聴くという姿勢ではなく、主体的に授業へ参加するよう努めること。（遠慮なく質問し意見を述べ、ディスカッションする。）
・20分以上の遅刻は欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を取得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、就労支援論、保健医療論		
教科書	特に指定しない	参考書	『社会福祉士養成講座10　福祉サービスの組織と経営』
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	社会調査法Ⅰ Social Research Ⅰ (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士・社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査に関する基本的な事柄について解説する。具体的には、社会調査の目的やその歴史、社会調査の種類、社会調査を実施する者の心構えなどである。また、講義後半には質的な模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。なお、本科目は社会調査士資格認定【A科目】に相当する。

授業の一般目標

① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解できる
■	情意的領域	社会調査の面白さと不完全さに関心を向ける
■	技能表現的領域	調査結果を適切にまとめることができる

授業計画(全体)

11回目までは、社会調査とは何か、いかに行うかといった基本的な事柄について、講義形式で解説する。そのうち6～10回目は、様々な種類の社会調査の結果をまとめたものを読みながら、社会調査が具体的にどのように社会に還元されるかを学び取る。12回目以降は、実際に模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法を説明する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑨	[テーマ] 調査技法③:参与観察 [内容] 参与観察について解説し、参与観察の結果をまとめた論文を読む。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
②	[テーマ] 社会調査とは何か [内容] 社会調査の意義と目的について解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑩	[テーマ] 量的調査の二次分析 [内容] 量的調査の結果の読解の仕方を解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:5時間)
③	[テーマ] 社会調査の歴史 [内容]社会調査の歴史(社会調査史)について、主要な先行研究をレビューしながら解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑪	[テーマ] 中間試験 [内容] これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストを行い、前半の講義を振り返る。 [授業外学習]中間試験の反省、模擬調査の計画(学習時間の目安:1時間)
④	[テーマ] 社会調査の倫理 [内容]社会調査の倫理について、人権の尊重と個人情報保護の概念について解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑫	[テーマ] 質的調査の実際① [内容] 質的な模擬調査を行うための下準備を行う。 [授業外学習]調査対象者の選定、質問項目準備(学習時間の目安:1時間)
⑤	[テーマ] 社会調査法の分類 [内容] 量的調査と質的調査の違いを解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑬	[テーマ] 質的調査の実際② [内容] 質的な模擬調査を行う。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
⑥	[テーマ] 実際の調査例 [内容] 国勢調査・公式統計・学術調査・世論調査・市場調査といった各種社会調査の違いを解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑭	[テーマ] 質的調査の実際③ [内容] 模擬調査の結果をまとめる方法を解説する。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)
⑦	[テーマ] 調査技法①:質問紙調査 [内容] 質問紙調査について解説し、その結果をまとめた論文を読む。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括し、社会調査法Ⅱ(B科目)で必要となる知識を整理する。 [授業外学習]最終レポートの作成(学習時間の目安:5時間)
⑧	[テーマ] 調査技法②:インタビュー調査 [内容] インタビュー調査について解説し、それに関する論文を読む。 [授業外学習]配布された講義資料について復習(学習時間の目安:30分)	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末レポートを作成する。 [授業外学習]講義全体の復習、社会調査法Ⅱ予習(学習時間の目安:2時間)

成績評価方法(方針)

中間試験(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。試験Ⅰはいわゆる「ペーパーテスト」。試験Ⅱはいわゆる「レポート」「論述」。なお、追試などは一切行わない。また、成績を掲示板等に貼り出すこともしない。全日程の2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため、どんな些細な質問でも大歓迎なので、授業後ないしはオフィスアワーに気軽に質問に来るように。また、期末レポートについては事前の添削を受け付けるので、こちらも気軽に利用して欲しい。

関連科目	社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	特に指定しない	参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp(三谷)		

授業科目名	社会調査法Ⅱ Social Research Ⅱ (L.)				担当教員	岡田成弘
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会調査士・社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会調査に関する基本的な事柄について、特に調査方法に焦点を当てて解説する。具体的には、社会調査の企画・設計から資料やデータの収集、そして収集されたデータを分析できる形に整理する方法を理解し、具体的な調査スキルを獲得してもらう。また、講義後半には量的な模擬調査を行い、データを分析し、発表する。なお、本科目は社会調査士資格認定【B科目】に相当する。

授業の一般目標

① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解する
■	情意的領域	社会調査の面白さに気づき、興味関心を持つ
■	技能表現的領域	適切に調査を行い、結果をまとめることができるようになる

授業計画(全体)

9回目までは、調査の方法論について講義形式で解説する。10回目以降は、量的調査を実際に行うために必要な具体的な手続きについて詳しく説明しながら、準備を進めていく。12回目に授業内で調査を行い、その結果をまとめて、発表する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法を説明する。 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)	⑨	[テーマ] 調査データの整理 [内容] 調査データの整理について、コーディング、スクリーニングなどの方法を説明する。 [授業外学習]量的先行研究の分析方法を確認すること(90分)
②	[テーマ]社会調査の目的と方法 [内容] 社会調査の目的と方法について、社会調査法Ⅰ(A科目)で学んだ内容を確認しながら説明する。 [授業外学習]配布資料を読み、本日の講義について復習をすること(90分)	⑩	[テーマ] 量的調査の実際① [内容] テーマの決定及び仮説の構築について説明する。授業内調査のテーマを決定し、先行研究をレビューした上で、仮説を構築する。 [授業外学習]先行研究をまとめ、調査計画書を作成してくる(90分)
③	[テーマ] 調査方法の決め方 [内容] 調査方法の決め方について、調査対象者の属性などに注目し、量的先行研究をレビューしながら説明する。 [授業外学習]興味のあるテーマについてレビューを行い、まとめる(90分)	⑪	[テーマ] 量的調査の実際② [内容] 調査票の配布、回収、分析の方法について説明する。受講生は、調査の変数を決定し、調査票を作成する。 [授業外学習]調査計画書を修正し、調査用紙を作成してくる(90分)
④	[テーマ] 量的調査の企画と設計 [内容] 量的調査をどのように企画し、調査票を設計するかについて、量的先行研究をレビューしながら説明する。 [授業外学習]量的調査研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑫	[テーマ] 量的調査の実際③ [内容]授業内で調査を行う。データ入力の方法を説明し、受講生は、実際にデータを入力する。 [授業外学習]データ入力を終わらせ、分析しやすい形に整える(90分)
⑤	[テーマ] 量的調査の仮説構成 [内容] 量的調査の仮説構成について、量的先行研究をレビューしながら調査対象者の属性や事象の社会的背景を踏まえて説明する。 [授業外学習]量的調査研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑬	[テーマ] 量的調査の実際④ [内容]データ分析と発表の仕方について説明する、受講生は、実際に 入力したデータについて分析を行い、発表の準備を行う。 [授業外学習]分析を行い、結果を発表できるようにまとめてくる(90分)
⑥	[テーマ] 量的調査のサンプリング [内容] 量的調査のサンプリングについて、母集団とサンプルの違いを踏まえながら無作為抽出の方法を説明する。 [授業外学習]量的調査研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑭	[テーマ] 量的調査の実際⑤ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する。 [授業外学習]発表をしてアドバイスされたところを修正する(90分)
⑦	[テーマ] 調査票の構成と質問文の作り方 [内容] 調査票の構成と質問文の作り方について、ダブルバーレル、ワーディング、キャリーオーバーなどの注意点を説明する。 [授業外学習]先行研究の調査票を確認すること(90分)	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括し、社会統計学Ⅰ(C科目)・社会統計学Ⅱ(D科目)で必要となる知識を整理する。 [授業外学習]15回分の講義をふりかえり、レポートを作成する(90分)
⑧	[テーマ] 調査の実施方法 [内容] 調査の実施方法について、面接、留置、郵送などの手法の違いを確認した上で、調査票の配布方法について説明する。 [授業外学習]量的先行研究の論文をレビューし、まとめる(90分)	⑯	[テーマ] 期末課題 [内容] 期末レポートを作成する [授業外学習]事前に期末レポートを作成すること

成績評価方法(方針)

出席点(授業内レポート含む):50点 → 欠席 −2点　遅刻・欠席証明 −1点　5回以上休むと単位を認定しない
授業内レポートは修正点を赤入れし、次回授業の冒頭に解説する
個人発表(14回) :30点 →発表に対して、修正点をアドバイスする
期末課題(調査レポート):20点 →発表でアドバイスされた点をレポートに反映させる

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート	◎		◎	20%
演習・実技	◎	○	◎	30%
授業態度				
出席	○	○	○	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・私語が多かったり、不真面目な態度の者、また人任せにしたり、グループの和を乱したりした者には、単位を認定しないこともある。
・授業では、前半は説明し、後半に作業をすることが多くなります。時間内に終わらない者は、授業外での作業が増えることになります。
・授業内で調査を行い、その結果をまとめて、13回と14回に全員が発表することになります。

関連科目	社会調査法Ⅰ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習		
教科書	特になし	参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
連絡先	岡田研究室(A棟509)		

授業科目名	児童福祉論 Study on Child Well-being (L.)				担当教員	菅田　賢治
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士　社会福祉主事
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本で「子どもの権利条約」が批准されて19年になる現在、児童を取り巻く状況は深刻さを増し、児童の最善の利益に拠って立つ専門職の役割は大変重要なものとなっている。本授業では、子どもにとって大切な環境である家庭も含めて、児童と家庭の現状と支援について、また児童・家庭福祉制度について学んでいく。

授業の一般目標

児童福祉の意義と歴史を学び、児童の権利についての価値を獲得する。さらに児童と家庭を取り巻く現状や課題（少子化・ひとり親家庭・児童虐待・ドメスティックバイオレンス・性犯罪等）を理解し、それらに対する支援策や福祉制度を学ぶ。また、児童・家庭福祉に関する児童福祉法をはじめとして、その他の法制度についても理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	児童と家庭の現状と課題、またそれらに対しての支援策や法制度を説明することができる。
■	情意的領域	児童の権利を価値として説明することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

担当教員の作成したレジュメをもとにして、講義を進めるのを基本とする。教科書・参考書の紹介は授業中に行うが、原則教科書がなくても理解できるようにする。また、児童と家庭に関する状況や制度・施策の変化など適時、最新の情報を紹介する。授業の中での効果測定や小レポート、リアクションペーパー等提出物があるので、筆記用具・国語辞書は必携である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ オリエンテーション ［内容］ 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 ［授業外学習］ シラバスを熟読すること	⑨	［テーマ］ 児童・家庭福祉に関する法制度1 ［内容］ 児童福祉法の概要について学ぶ ［授業外学習］ 社会的養護について調べておくこと
②	［テーマ］ 児童福祉の意義と歴史1 ［内容］ 日本における児童福祉の歴史と子ども観の変遷を学ぶ ［授業外学習］ 授業で挙げた児童福祉の先達の一人について調べておくこと	⑩	［テーマ］ 児童・家庭福祉に関する法制度2 ［内容］ 児童虐待防止法 、DV防止法の概要について学ぶ ［授業外学習］ オレンジリボン・パープルリボン運動について調べておくこと
③	［テーマ］ 児童福祉の意義と歴史2 ［内容］ 憲法・児童憲章・子どもの権利条約・子どもの権利の形成過程を理解する ［授業外学習］ 「子ども権利ノート」について調べておくこと	⑪	［テーマ］ 児童・家庭福祉に関する法制度3 ［内容］ 児童手当法、次世代育成支援対策推進法等のその他の法制度の概要を理解する ［授業外学習］ 子ども子育て関連法（3法）について調べておくこと
④	［テーマ］ 子どもと家庭の現状1 ［内容］ 少子高齢化社会のなかの子どもと家庭の現状を理解する ［授業外学習］ 「子ども権利ノート」についてレポートの提出	⑫	［テーマ］ 児童・家庭福祉関連の行政機関 ［内容］ 福祉事務所・児童相談所（児童家庭支援センター含む）の役割と現状について理解する ［授業外学習］ 措置と措置権について調べておくこと
⑤	［テーマ］ 子どもと家庭の現状2 ［内容］ ひとり親家庭の現状と課題また支援策の概要を学ぶ ［授業外学習］ 母子生活支援施設について調べておくこと	⑬	［テーマ］ 児童・家庭福祉関連の福祉施設1 ［内容］ 通所型の施設について取り上げ、特に保育所の待機児童の問題を考える ［授業外学習］ 放課後児童クラブについて調べること
⑥	［テーマ］ 子どもと家庭の現状3 ［内容］ 児童虐待の現状と被虐待児への支援についてを理解する ［授業外学習］ 専門里親について調べておくこと	⑭	［テーマ］ 児童・家庭福祉関連の福祉施設2 ［内容］ 入所型の施設について取り上げ、社会的養護のあり方について考察する ［授業外学習］ 自立援助ホームについて調べること
⑦	［テーマ］ 子どもと家庭の現状4 ［内容］ ドメスティック・バイオレンスの現状と被害者支援の実態について理解する ［授業外学習］ 「壊れた家族を視聴して」をテーマにレポートを作成すること	⑮	［テーマ］ まとめ ［内容］ これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する ［授業外学習］ テストに向けて復習すること
⑧	［テーマ］ 子どもと家庭の現状5 ［内容］ 青少年の健全育成の現状について、性犯罪や性被害も含めて理解する ［授業外学習］ 家庭裁判所について調べておくこと	⑯	［テーマ］ テスト ［内容］ 授業の理解度・到達度を確かめるためにテストを行う ［授業外学習］ テストに向けて復習すること

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合20%）と、授業外レポート（評価割合20%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。また、無断欠席や授業妨害（私語・携帯・居眠り）は減点の対象となるので注意すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート	◎			20%
演習・実技				評価外
授業態度				減点あり
出席				減点あり

履修上の注意（受講学生に望むこと）

公務等（実習・部活動等）で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。課題レポートや提出物については、誤字・脱字は減点の対象になるので必ず辞書で確認すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	授業の中で紹介する
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	社会保障論 The Study on Social Security				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士 、介護福祉士 、 社会福祉主事任用資格、高等学校教諭一種免許状(福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

・社会保障の法律制度について説明し、その問題点や課題を論じる。
・このため法律だけではなく事例と判例および統計データに基づく事例研究を重視する。
・社会保障から現代史を考え、現代史から社会保障を理解する。

授業の一般目標

・卒業後のライフデザインと実務、特にソーシャルワークに必要な法制度に関する知識を修得する。
・現代日本が抱える社会問題、特に財政危機について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会保障と、その具体的な適用事例について解説できるようになる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。(国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。)
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料(配布資料)＝視聴覚教材(プロジェクター)というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 動機づけと、社会保障論の全体像と [内容]通期の計画や、国家試験そして他の科目との連動性を説明するとともに、社会保障論を学ぶメリットを解説する。 [授業外学習] 1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて復習すること。	⑨	[テーマ] 動機づけと、社会保障論の全体像と [内容]通期の計画や、国家試験そして他の科目との連動性を説明するとともに、社会保障論を学ぶメリットを解説する。 [授業外学習] 1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて復習すること。
②	[テーマ] 社会保障とは何か？ [内容] 社会福祉との関係性を軸に、社会保障の意義・目的およびその領域(範囲)について解説する。 [授業外学習]1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて復習すること。	⑩	[テーマ] 社会保障とは何か？ [内容] 社会福祉との関係性を軸に、社会保障の意義・目的およびその領域(範囲)について解説する。 [授業外学習]1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて復習すること。
③	[テーマ] 社会保障制度の全体像と体系 [内容] 制度の概要を、マクロ経済の視点や社会政策との関連において論じる。 [授業外学習]前回講義に基づき、社会保障について自分なりの定義を用意すること。	⑪	[テーマ] 社会保障制度の全体像と体系 [内容] 制度の概要を、マクロ経済の視点や社会政策との関連において論じる。 [授業外学習]前回講義に基づき、社会保障について自分なりの定義を用意すること。
④	[テーマ] 事例研究・判例研究 [内容] 事例研究、判例研究による動機づけ、そして国家試験を視野に入れつつ社会保障論のポイントを説明する。 [授業外学習]時事問題の中から社会保障に関する話題を一つ選び発表できるようにする。	⑫	[テーマ] 事例研究・判例研究 [内容] 事例研究、判例研究による動機づけ、そして国家試験を視野に入れつつ社会保障論のポイントを説明する。 [授業外学習]時事問題の中から社会保障に関する話題を一つ選び発表できるようにする。
⑤	[テーマ] 福祉国家と社会保障 [内容] 社会保険の成立過程と歴史を背景にしつつ「福祉国家とは何か」ということを詳細に論じる。 [授業外学習]前回までの講義を復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 福祉国家と社会保障 [内容] 社会保険の成立過程と歴史を背景にしつつ「福祉国家とは何か」ということを詳細に論じる。 [授業外学習]前回までの講義を復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 各 論 1：公的扶助 [内容] 公的扶助の概観を説明する。特に、社会保険との違いを際だたせる。 [授業外学習] 公的扶助とは何かについて辞書的な意味を確認する。	⑭	[テーマ] 各 論 1：公的扶助 [内容] 公的扶助の概観を説明する。特に、社会保険との違いを際だたせる。 [授業外学習] 公的扶助とは何かについて辞書的な意味を確認する。
⑦	[テーマ] 各 論２:年 金 [内容]社会保険の中でも最近特に話題になっている年金(保険)について論じる。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、年金に関する話題を調べてくる。	⑮	[テーマ] 各 論２:年 金 [内容]社会保険の中でも最近特に話題になっている年金(保険)について論じる。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、年金に関する話題を調べてくる。
⑧	[テーマ] 医療(保険)と公衆衛生 [内容] 社会保険の中でも年金についでウエイトの大きい医療保険について詳しく論じる。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、医療に関する話題を調べてくる。	⑯	[テーマ] 医療(保険)と公衆衛生 [内容] 社会保険の中でも年金についでウエイトの大きい医療保険について詳しく論じる。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、医療に関する話題を調べてくる。

成績評価方法(方針)

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。(60点以上の者に単位を認定する。)
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績(55%)、出席日数(40%)、発言や質問の回数(5%)
・提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		45%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、就労支援論、保健医療論		
教科書	使用しない。	参考書	『新・社会福祉士養成講座 12 社会保障 』中央法規出版
連絡先	高橋研究室:E棟2階 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	公的扶助論 The Stydy on Public Assistance				担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士、社会福祉主事任用資格 、 高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ソーシャルケースワークに必要な経済的資源として、生活保護を中心とした公的扶助を理解する。

授業の一般目標

法制度としての公的扶助と、その中心を形づくる生活保護制度について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	要保護者に提供できる[経済的資源の組合せ]を描けるようになる。 公的扶助制度への批判的検討を通じて共同性について理解する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 何のために学ぶのか？ [内容] 動機づけと、公的扶助論の全体像について明らかにする。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習しておくこと。	⑨	[テーマ]『生活保護手帳』で基本事項を確認してくること。 [内容] 以上4つの扶助について、詳細を説明する。 [授業外学習]老人福祉論、社会保障論の該当する部分を復習
②	[テーマ] 史的展開と現代における意義 [内容] 社会福祉・社会保障における公的扶助の位置づけを説明し、講義のスケジュールを提示する。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑩	[テーマ] 各　論（3）出産扶助、生業扶助、葬祭扶助 [内容] 上記4つの扶助について詳細を説明する。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
③	[テーマ]総　論（1）：法制度の概観と通論 [内容] 法律と制度の全体像を見通せるように解説する。 社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑪	[テーマ] 各　論（4）：保護施設 [内容] 各保護施設について個別に詳細な説明を加え、統計データを用い各保護施設の動向を解説する。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
④	[テーマ] 個別事例の検討 [内容] 公的扶助（生活保護）の具体的なイメージが湧くように個別事例を用いて解説する。 [授業外学習]　社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑫	[テーマ] 貧困問題と低所得対策 [内容] 貧困研究の成果を説明し、現在の日本で行われている低所得対策を論じる [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
⑤	[テーマ] 総　論（2）：保護の基本原理、原則と要保護者の権利 [内容] 生活保護法の原理、原則について詳細な解説を行う。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑬	[テーマ] 事例研究と演習（2） [内容] 公的扶助ケースワークの事例を検討する。 [授業外学習]　社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
⑥	[テーマ] 総　論（3）：日本における公的扶助の実態と社会保障政策との関連性 [内容] 公的扶助の実態を統計データを中心に確認し、他の社会保障政策との関係を解説する。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑭	[テーマ] 公的扶助ソーシャルワークの理論研究 [内容] 公的扶助とソーシャルワークとの関係を「国家責任の原理」を通じて論じる。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
⑦	[テーマ] 事例研究と演習（1） [内容] 公的扶助ケースワークの事例を検討する。、 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習	⑮	[テーマ] 法解釈学と公的扶助 －不服申立てと行政訴訟 － [内容] ］生活保護法に基づく「不服申立ての制度」を説明し、具体的な事例を通じて確認する。 [授業外学習]社会福祉概論、社会保障論の該当する部分を復習
⑧	[テーマ] 各　論（1）：生活保護基準と、その計算方法 [内容] 生活保護基準の計算方法を説明し、学生が実際に計算する。 [授業外学習]『生活保護手帳』で基本事項を確認してくること。	⑯	[テーマ] テ ス ト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（50%）、レポート（45%）、演習（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			45%
演習・実技		◎		5%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、社会保障論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、就労支援論、保健医療論		
教科書	『新・社会福祉士養成講座 16 ――公的扶助論 』 中央法規出版	参考書	
連絡先	千葉喜久也研究室		

授業科目名	地域福祉論 Community　Welfare (L.)				担当教員	関矢　貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会福祉関係8法改正及び社会福祉法制定後の社会福祉において重要な意義と役割を持つ「地域福祉」について、理論と実践の両側面からとらえ解説する

授業の一般目標

「地域福祉の理念と概要」「地域福祉の推進方法」「地域福祉計画の意義と内容」について修得し理解する。また、地域福祉の現状に付いて過去の歴史と現在の具体的な実践の中から考え修得することを狙いとする

授業の到達目標

■	認知的領域	地域福祉の現状に付いて過去の歴史と現在の具体的な実践の中から考えることができる。「地域福祉の理念と概要」「地域福祉の推進方法」「地域福祉計画の意義と内容」について学修し理解できる
■	情意的領域	福祉の現場でコミュニティーソーシャルワークの実践ができる知識・技術を修得する
■	技能表現的領域	福祉の現場でコミュニティーソーシャルワークの応用実践ができる

授業計画（全体）

現代社会における社会集団、家族・家庭などコミュニティーと地域福祉の基本に付いて考える。また、地域社会の変容と地域福祉の理念と展開として戦前の地域社会、戦後の地域社会など歴史的にどのように変容して現在に至ったかを地域福祉の視点で現代までの変容の課程をとらえ学修する。また、地域社会の変容と地域福祉の理念と展開として諸外国と日本での今日までの背景と理念を学修する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 現代社会におけるコミュニティーと地域福祉 [内容] 現代社会におけるコミュニティーと地域福祉の概要 [授業外学習]自分の住む地域に目を向けてみよう	⑨	[テーマ] 地域福祉のサービス体系 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉のサービス体系を学ぶ [授業外学習]地域社会におけるサービスに視点をむけてみる
②	[テーマ]地域社会の変容と地域福祉の理念と展開(戦前) [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑩	[テーマ] 地域福祉の実際（社会福祉協議会） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
③	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（戦後～1975年） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑪	[テーマ] 地域福祉の実際（地域密着型） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
④	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（'75年～2000年） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑫	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画のあらまし） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
⑤	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（2000年～） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑬	[テーマ] 地域福祉の実際（各地の地域福祉計画） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑥	[テーマ] 地域福祉の役割と意義 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉の役割と意義を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑭	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画の課題） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑦	[テーマ] 地域福祉の推進方法 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉の地域福祉の推進方法を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑮	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画と諸計画の関連） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑧	[テーマ] 地域福祉計画の意義と内容 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉計画の実際を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑯	[テーマ] テスト [内容] 理解度、到達度の確認 [授業外学習]事前学習のすすめ

成績評価方法（方針）

試験（90%）。授業内課題（10%）。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	社会福祉概論		
教科書	地域福祉の理論	参考書	授業に応じて提示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー：水曜　11：50～13：00		

授業科目名	就労支援論 The Study on Employment Security and Vocational Rehabilitation Services				担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

・就労支援に係る法律制度と、それに関連する法制度について説明し、その問題点や課題を論じる。
・このため法律だけではなく事例と判例および統計データに基づく事例研究を重視する。

授業の一般目標

・就労支援に係る法律制度と、それに関連する法制度について説明し、その問題点や課題を論じる。
・このため法律だけではなく事例と判例および統計データに基づく事例研究を重視する。

授業の到達目標

■	認知的領域	就労支援サービスと、その具体的な適用事例について解説できるようになる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 法制度の全体像と支援対象、及び関連する福祉分野 [内容]講義の計画や国家試験との連動性を説明するとともに、就労支援を学ぶメリットを解説する。 同時に関連する法規について触れる。 [授業外学習] 1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉の枠組みについて復習すること。	⑨	[テーマ] テ ス ト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で試験を実施する。 [授業外学習] これまでの講義について復習し、試験のための準備を行う。
②	[テーマ] 障害者に対する就労支援 （その1） [内容] 「障害者自立支援法」や「障害者雇用促進法」を中心に、個別具体的な支援活動に必要な法律について学ぶ。 [授業外学習]「職業リハビリテーション」について辞書的な意味を調べてくる。	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ]障害者に対する就労支援 （その2） [内容] 専門職、施設・機関など、就労支援を担う主体とその支援方法及び支援活動に必要な法律について学ぶ。 [授業外学習]前回講義に基づき、就労支援について自分なりの定義を用意すること。	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 少子高齢社会と、高齢者に対する就労支援 [内容]「高齢者がの就労」がもつ意義について検討し、労働市場の現状と就労支援システムの妥当性を考える。同時に「就労する高齢者」を通じて、[働くこと]の意義を考える。 [授業外学習]ニュースの中から高齢者の就労や生きがいに関する話題を選び発表できるようにする。	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 低所得者問題と就労支援サービス 就労支援サービスの客体のうち障害者と高齢者以外の要支援者（一部の母子家庭を含む非正規就労者、そしてホームレス、ネットカフェ難民など）について、支援のための制度と支援方法を解説する。 [授業外学習]公的扶助論なかでも低所得者対策について復習しておく。	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 経済学と社会政策の視点から見た雇用保障と就労支援 [内容] 労働のもつ意味を多面的に捉えることで、就労支援のあり方を考える。このため経済学、社会政策等において労働や労働問題がどのように取り扱われてきたかを学ぶ。スミス、マルクス、ケインズ、大河内一男、他。 [授業外学習] 初回から前回までの講義をまとめて復習し、理解しておく。	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ]若年層（高校生、大学生等）への就労支援 [内容] 若者の就労問題を整理し問題解決のための公的施策について検討する。また、前回までの講義を踏まえ、「働くこと」および「職業」の意義を併せて考える。 [授業外学習]自分自身の就活を踏まえ、直面する課題と問題点を列挙してくる。	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 雇用問題と就労支援サービスの現状と将来展望 [内容]統計データと個別事例を用いつつ制度が抱える問題点と課題を整理し、同時に非正規雇用などの雇用問題を考える。他方、国家試験を視野に入れながら就労支援サービスのポイントをまとめ、解説する。 [授業外学習]時事問題の中から、雇用問題など就労支援に関係する話題を調べてくる。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			40%
演習・実技		◎		5%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、更生保護制度論、保健医療論		
教科書	『新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス 第2版 』中央法規出版	参考書	
連絡先	千葉喜久也研究室		

授業科目名	権利擁護と成年後見制度 Protection of Rights and Adult Guardianship				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

シラバスで挙げた問題事項における法律用語の意味とその適切な使用法を中心にしてテキストの理解を図る。

授業の一般目標

社会福祉士に係わる法的基礎知識を修得し、具体的な問題に適用して考え、法的観点から意見をまとめることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	法律用語の意味と使用法を理解する。
■	情意的領域	法的な論点を整理し、意見を組み立てて、議論できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

シラバスで挙げた主題(問題事項)についてテキストに沿って進め、理解を確認するために講義の次回にはテキスト該当範囲の要約を課しながら授業を進めていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価の方法について説明する [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示	⑨	[テーマ] 任意後見制度(1) [内容] 任意後見制度の基本的事項と成年後見制度との異同 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
②	[テーマ] 成年後見制度(1) [内容] 成年後見制度に関する基礎的な法律用語 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 任意後見制度〔2〕 [内容] 前回講義の範囲の要約 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
③	[テーマ] 成年後見制度(2) [内容] 被後見人と後見人 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示	⑪	[テーマ] 権利擁護に係わる組織(1) [内容] 権利擁護に係わる公的機関 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
④	[テーマ] 成年後見制度(3) [内容] 被後見人と後見人 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示	⑫	[テーマ] 権利擁護に係わる組織(2) [内容] 前回講義の範囲の要約 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
⑤	[テーマ] 成年後見制度(4) [内容] 前回講義の範囲の要約 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 消費者保護等(1) [内容] 消費者保護等の基本的事項 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
⑥	[テーマ] 成年後見制度(5) [内容] 被保佐人・被補助人と保佐人・補助人 [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示	⑭	[テーマ] 消費者保護等(2) [内容] 前回の感想文を書く [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示
⑦	[テーマ] 成年後見制度(6) [内容] 前回講義の範囲の要約 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 講義全体に関する小論文的感想文 [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 成年後見制度について感想文を書く [内容] [授業外学習] 次回までに読む頁範囲の指示	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績の評価は、提出する要約と感想文、最終の感想文により行なう。欠席日数の扱いは学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			100%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業ではテキストを必ず携行すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編、権利擁護と成年後見制度(弘文堂)	参考書	
連絡先			

授業科目名	更生保護制度論 The Study on Rehabilitation Services and Aftercare System				担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

・更生保護に係る法律制度と、それに関連する刑事法制について説明し、その問題点や課題を論じる。
・このため法律だけではなく事例と判例および統計データに基づく事例研究を重視する。

授業の一般目標

・ソーシャルワークに必要な法制度に関する知識を習得するとともに、社会を考えるための柔軟且つ多様な視点を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	更生保護制度と、その具体的な適用事例について解説できるようになる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] [内容]講義の計画や国家試験との連動性を説明するとともに、更生保護制度を学ぶメリットを解説する。同時に憲法、刑法、刑事訴訟法について触れる。 [授業外学習] 1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉の枠組みについて復習すること。	⑨	[テーマ] テ ス ト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で試験を実施する。 [授業外学習]これまでの講義について復習し、試験のための準備を行う。
②	[テーマ] 制度の主体と支援方法、及び関連する法律について （その1） [内容] 専門職を中心に、更生保護を担う主体とその支援方法及び個別具体的な支援活動に必要な法律について学ぶ。 [授業外学習]1年の社会福祉概論で学んだ社会福祉・社会保障の枠組みについて復習	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ]制度の主体と支援方法、及び関連する法律について （その2） [内容] 施設・機関を中心に、更生保護を担う主体とその支援方法及び支援活動に必要な法律について学ぶ。 [授業外学習]前回講義に基づき、更生保護について自分なりの定義を用意すること。	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 歴史、及び刑事法制（各論） [内容] 更生保護制度や司法福祉の形成過程について説明するとともに、刑事法制のうち更生保護にとって特に重要な仮釈放等・恩赦の制度について解説する。 [授業外学習]時事問題の中から更生保護に関する話題を一つ選び発表できるようにする。	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 制度の客体とその特長 ――社会福祉の個別領域との関わり― 制度の対照となっている要支援者について学ぶ。特に『犯罪白書』や「事例研究」を通じてその具体像を浮き彫りにし、要支援者が抱える問題を明らかにする。 [授業外学習]前回までの講義を復習しておくこと。	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 医療観察制度と精神保健福祉 [内容] 障害者福祉論と関連づけながら「障害をもつ犯罪者」について学ぶ。その中でも特に、精神障害者に焦点化し医療観察制度の詳細な検討を通じて、この問題を考える。 [授業外学習] 公的扶助とは何かについて辞書的な意味を確認する。	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ]非行少年に対する処遇と児童福祉 [内容] 児童福祉論と関連づけながら少年犯罪と「非行少年への処遇」について学ぶ。特に重要な点は犯罪被害者／家族の心情と児童の人権や責任能力等との関係である。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、少年犯罪に関する話題を調べてくる。	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 更生保護制度の現状と将来展望、及び事例研究 [内容]統計データと個別事例を用いつつ、制度が抱える問題点と課題を整理する。他方、国家試験を視野に入れながら更生保護制度のポイントをまとめ、解説する。 [授業外学習]時事問題の中から一つ、更生保護に関係する話題を調べてくる。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、レポート（40%）、演習での発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート	◎			40%
演習・実技		◎		5%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後します。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、就労支援論、保健医療論		
教科書	『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第2版』中央法規出版	参考書	
連絡先	千葉喜久也研究室		

授業科目名	教育の基礎理論 Fundamental Theory of Education (L.)				担当教員	山谷　幸司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。

授業の一般目標

「教育とは何か」について、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の五つの観点から理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。
■	情意的領域	「教育とは何か」という問題について関心をもち、主体的に探究することができる。
■	技能表現的領域	「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。

授業計画（全体）

⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「教育の基礎理論」で何を学ぶか [内容] 担当教員の紹介、教育の基礎理論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑵ [内容] 能力・特性の形成と環境 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育という言葉⑴ [内容]「教」と「育」の字源 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑶ [内容] 遺伝と環境の相互作用 [授業外学習]テーマ3全体の復習
③	[テーマ] 教育という言葉⑵ [内容]「教育」という言葉の日用化の謎 [授業外学習]テーマⅠ全体の復習	⑪	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑴ [内容] 人間形成の多様性と無意図的教育 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑴ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育①－哺乳類のなかの人間－ [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑵ [内容] 意図的教育と学校教育の特質 [授業外学習]テーマ4全体の復習
⑤	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑵ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育②－学ぶ動物としての人間－ [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑴ [内容] 大工型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑶ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと①－野生児の事例－ [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑵ [内容] 農民型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑷ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと②－環境剥奪児の事例－ [授業外学習]テーマ2全体の復習	⑮	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑶ [内容] 経験主義の教育観 [授業外学習]テーマ5全体の復習
⑧	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑴ [内容] 能力・特性の形成と遺伝 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法（方針）

期末試験の結果に、授業内の課題提出および受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。欠席は、評価の欠格条件として扱う。成績評価の結果については、オフィスアワー等において個別にフィードバックする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		○	90%
授業内レポート	△	△	△	5%
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることを意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。

関連科目	教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年)		
教科書	授業時に配布するプリントを使用する。	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308、オフィスアワー火曜日10:20−11:50		

授業科目名	教育の心理 Educational Psychology				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと(学ぶ者、援助する者、教える行為など)を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学習過程ならびに心身の発達を中心としたの諸概念について概説するとともに、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。

授業の一般目標

学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。
■	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教育心理学の学問領域を学習過程ならびに心身の発達、さらには教育評価の3領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。 [授業外学習]教育心理学の必要性について自分なりに考えてみること。	⑨	[テーマ] さまざまな発達段階説 [内容] 各種の発達段階説について紹介するとともに、自らの発達段階について検討してみる。 [授業外学習] 各種発達段階説を整理しておくこと。
②	[テーマ]学習過程の考え方Ⅰ 学習の定義 [内容] 教育心理学における学習の定義を紹介するとともに、自身の例に照らしてその妥当性を検討する。 [授業外学習]「学習」の定義と一般的な「学習」観との違いを検討すること。	⑩	[テーマ] ヴィゴツキーの理論 [内容] 最近接領域説を紹介するとともに教育と発達の関係について検討する。 [授業外学習] 教育の役割を具体的に考え、原案を作成してみること
③	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅱ 古典的な学習理論と教授法 [内容] 古典的な2種の学習理論および教授法を紹介するとともに、自らの学習観の得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で2説双方から学習援助の方法を検討すること。	⑪	[テーマ] 学習援助における個人差の問題・動機や欲求 [内容] 自らが持ったり経験したりする動機や欲求について、各種理論を基に把握する。 [授業外学習] 自らの学習に対する動機づけの内容を反省すること
④	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅲ 現代に至る学習過程の諸理論 [内容] 主要な学習過程に関する理論を紹介するとともに、自身の学習方法をこれらの理論に照らし、得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で生産的な学習と再生的な学習を検討すること。	⑫	[テーマ] 障害のある子どもとその発達 [内容] 障害を抱えた子どもの発達について、事例をもとに考え、自らの発達観、障害観を改めて振り返る。 [授業外学習]とくに発達障害についての考え方をまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 現代の学習観の問題と教授法 [内容] 「ごまかし勉強」の学習観に照らし自らの学習観を振り返ると共に、現代の学校教育で求められている教授法を紹介する。 [授業外学習]作成した計画の一部や全部について得失を考えること。	⑬	[テーマ] 知能と知能検査 [内容] 知能という概念の必要性と検査内容、ならびに知能指数をめぐる各種の妄説を紹介し、自らの知能観を吟味する。 [授業外学習]知能という考え方で子どもを見ると良いことを考えること。
⑥	[テーマ] 教育評価の意義と目的 [内容] 自らの「評価」観を振り返りながら、教育評価の本来の目的を改めて考える。 [授業外学習] 教育者、学習者、第三者の立場で教育評価を考えてみること。	⑭	[テーマ] 人格の諸理論と人格・性格検査 [内容] 類型論、特性論、状況主義といった人格をめぐる諸理論を紹介しながら、人格・性格観について再考する。 [授業外学習]興味のある検査について調べること。
⑦	[テーマ] 評定方法のいろいろと目標分析 [内容] 教育評価の一部として用いられる各種評定の長短を検討するとともに、教育学習目標をより具体的に考える。 [授業外学習] 任意の単元で教育目標を具体化してみること。	⑮	[テーマ] まとめ 教育現場における教育心理学の発展 [内容] 教育現場での学習者像とその検討を具体的に紹介することにより、教育心理学的観点の必要性を再認識する。 [授業外学習]紹介した検討事項について自分なりに考えてみること
⑧	[テーマ] 発達の要因をめぐる考え方 [内容] 発達という現象を考えるとともに、その要因をめぐるさまざまな学説を紹介し、自らの発達観を吟味する。 [授業外学習]自分なりの発達要因とその寄与度を検討してみること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。小テストについては次時の授業内で解説する。また、その他レポート等は解説、ディスカッションによりフィードバックする。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○		50%
授業外レポート	○	◎		10%
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。
他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。

関連科目			
教科書		参考書	本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社 宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp オフィスアワー 月4限(前)、月3限(後)		

授業科目名	教育の制度 System of Education (L.)				担当教員	金井里弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について講義する。

授業の一般目標

①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。
②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教育法規の基礎を紹介したうえで、教育の様々な側面から具体的な制度の在り様を見ていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかにして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学習]講義内容を復習。
②	[テーマ] 教育法規の基礎知識 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学習]教育法規について復習する。	⑩	[テーマ] 教育職員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。
③	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学習]教育基本法について復習する。	⑪	[テーマ] 教育課程と教科書制度 [内容] 教育課程の編成、近年の改革動向、教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外 関連法規を確認する。
④	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学習]学校教育法における学校の種類と義務教育制度を復習する。	⑫	[テーマ] 日本における学力問題と学力政策 [内容] 学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学習] OECDのPISAが教育に与えた影響について調べる。
⑤	[テーマ] 中央教育行政の理解 [内容] 中央教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学習]文部科学省および内閣府の教育政策について調べる。	⑬	[テーマ] 教員の資質向上と教員政策 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みと政策動向を理解する。 [授業外学習] 近年の教員政策ついて調べる。
⑥	[テーマ] 地方教育行政の理解 [内容] 地方教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学習] 地方教育行政の仕組みについて復習する。	⑭	[テーマ] 教育問題をどう見るか～「教育問題」は作られる～ [内容] 学校教育における事象が教育問題として、解消の対象とされるプロセスを理解し、教育問題の捉え方について考える。 [授業外学習] 近年の教育問題について調べる。
⑦	[テーマ] 学校の設置と管理運営 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学習]本講義の要点の確認とその復習を行う。
⑧	[テーマ] 学校・学級内の制度 [内容] 出席停止、懲戒、学校の設備を中心に、学校・学級内の制度を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学習]本講義の要点の確認とその復習を行う。

成績評価方法(方針)

(1) 期末試験(80%)、(2) 授業内レポート(20%)
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
試験およびレポートの採点結果は、期末試験後に開示する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	○		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				加減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。毎回の予習を必須とし、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
教員免許状取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。

関連科目	教職論A・B、教育課程論、生徒指導論		
教科書	『必携教職六法』(2018年度版もしくは2017年度版)	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階 304 オフィスアワー:木曜日12:40～14:10		

授業科目名	教育課程論 Theory of Curriculum (L.)				担当教員	山谷 幸司
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成20年と21年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。

授業の一般目標

(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。
■	情意的領域	学校での教育課程のあり方について関心をもち、自分の意見を論理的に述べることができる。
■	技能表現的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。

授業計画(全体)

教育課程について、(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 学校教育の不思議 [内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 学習指導要領(2)－教育課程に関するきまり⑦ [内容] 現行学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育課程とは何か [内容] 学校教育の性質と教育課程の意義 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 学習指導要領(3)－教育課程に関するきまり⑧ [内容] 新学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 教育の目的・目標(1)－教育課程に関するきまり① [内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 学習指導要領(4)－教育課程に関するきまり⑨ [内容] 総合的な学習の時間の意義と内容 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育の目的・目標(2)－教育課程に関するきまり② [内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育課程編成の実際(1) [内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ] 教育の目的・目標(3)－教育課程に関するきまり③ [内容] 高校の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育課程編成の実際(2) [内容] 教育課程編成の手順 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育内容と授業時数等(1)－教育課程に関するきまり④ [内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育課程の実施と評価(1) [内容] 指導計画と学習指導案 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育内容と授業時数等(2)－教育課程に関するきまり⑤ [内容] 高校における教育内容・授業時数 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 教育課程の実施と評価(2) [内容] 教育課程の点検と評価 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 学習指導要領(1)－教育課程に関するきまり⑥ [内容] 学習指導要領の意義と変遷 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法(方針)

期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。授業終了時に実施する小テストは評価に反映させない、また、欠席は評価の欠格条件として扱う。成績評価の結果については、オフィスアワー等において個別にフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	95%
授業内レポート				反映させない
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・教育課程というと、細かなきまりが沢山あって難しいと考えるかもしれない。確かに教育課程にはきまりや約束事が多くあるが、順序良く体系的に学んでいけば、それらを理解することはそれほど難しいことではない。積み木のように、ひとつひとつの事項をていねいに積み上げながら授業を進めていくので、一回たりとも授業をおろそかにせず、各回の内容を着実に学んでほしい。

関連科目	教育の基礎理論(2年)、教育の制度(2年)、道徳教育論(3年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論Ⅰ(2年)		
教科書	学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308、オフィスアワー火曜日10:20～11:50		

授業科目名	教育方法論 Educational Methodology(L.)				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育場面を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。

授業の一般目標

学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとすることができる。
■	情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。
■	技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。

授業計画(全体)

授業を実施する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立や改善向上を目指すべく援助していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ～授業の道具立て [内容] 授業を左右する諸要因について解説し、その必要性と学習結果におよぼす影響を知る。 [授業外学習] 理想的な道具立てについて考えてみること	⑨	[テーマ] 指導言② 指示 [内容] 指示の内容とタイミングの重要性について検討するとともに、実際に自らも指示を試行してみる。 [授業外学習] 様々な場面で指示内容を改善してみること
②	[テーマ] 目標・目標行動と型わけ [内容] 多くの教科でも理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学習]身近な教材で、改めて自らの理解を検討すること。	⑩	[テーマ] 指導言③ 発問 [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学習] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。
③	[テーマ] 学習指導案と評価規準 [内容] 学習指導案を検討するともに、目標行動としての評価規準の考え方にふれる。 [授業外学習] 自らも学習指導案を試作してみること	⑪	[テーマ] 指導言④ 発問作成練習 [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学習]自分が作成した発問案をさらに修正してみること。
④	[テーマ] 学習指導の基礎理論～ルレッグシステム [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレッグシステムについて説明をする。さらに教科書の記述を分析してみる。 [授業外学習]他の単元、テキスト等でも分析してみること。	⑫	[テーマ] 板書の方法とノンバーバル・コミュニケーション [内容] 板書の際の留意点について検討すると共に、立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。 [授業外学習]他の授業などでも教師の振る舞いを観察すること
⑤	[テーマ] 学習者の理解と教授ストラテジー [内容] 学習者の理解の様相とそれにおうじた方略(教授ストラテジー)について紹介する。 [授業外学習]気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。	⑬	[テーマ] 情報機器の活用① 授業で用いられるメディアの発展 [内容] 教育場面で用いられる各種メディアを紹介し、その得失と使用上の留意点を中心に述べる。 [授業外学習] 自分なりにメディアの利用上の得失について検討すること。
⑥	[テーマ] 発問とｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学習]身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること	⑭	[テーマ] 情報機器の活用② 自作動画の制作と効果 [内容] 教育における映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学習] 任意の内容で自作映像の内容や構成について考えてみること
⑦	[テーマ] 教育評価のサイクル [内容] 一連の授業の計画、実施、振り返りにおける教育評価のポイントとその繰り返しによる授業改善の必要性について考える。 [授業外学習]各時点における評価内容について整理しておくこと。	⑮	[テーマ] 情報機器の活用③ 双方向型情報機器の活用 [内容] 教育場面で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点、情報モラルの問題を紹介する。 [授業外学習] 教育者の情報モラルについて改めて整理しておくこと
⑧	[テーマ] 指導言① 説明 [内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。 [授業外学習]身近な例で抽象度操作をしてみること。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。提出されたレポートは、授業内で解説もしくはディスカッションを行うことによりフィードバックを行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○	△	60%
授業外レポート				対象としない
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。
教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。

関連科目	教育の心理		
教科書		参考書	宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp オﾌｨｽｱﾜｰ月4限(前) 月3限(後)		

授業科目名	教育相談 School Educational Counseling(L.)				担当教員	志賀野 博・青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要な機能概念である。本授業は学校教育相談学を基本に、その理論と内容・方法・技術・校内指導体制・校外機関との連携・生徒理解・関係心理学等を体系的に講義する。さらに、「学校教育相談」として取り上げられる、いじめや不登校、虐待、発達障害等といった教育現場で直面する問題の現状と課題を把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて講義形式で解説する。

授業の一般目標

学校における教育相談活動の歴史や意義と原理、目的、方法、内容、技法、関連する心理学的基礎、指導体制、生徒理解等を理解する。さらに、不登校・いじめ・虐待・発達障害等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育現場での活用に繋げられるよう考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制、生徒理解等について理解し、説明できる。また、教育相談上の現状と課題を把握・理解し、望ましい教育相談や対応を説明できる。
■	情意的領域	授業に真剣に取り組むことを通し、生徒のよりよい人格の発達や有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような教育相談的支援を理解し、他の教員と協働しながら具体的な課題解決に向けて思考・判断し、教育相談を実践する力を養うことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った講義が中心となるので、授業内容の実践的力量が高められるよう授業外学習への率先した取組みや自主的な教育ボランティア等の体験を勧める。加えて、実践事例の紹介や視聴覚資料の視聴を通しながら実践場面での対応のあり方を考察する。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することで更なる知識の定着と構造化が図られる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員免許取得における位置付け、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項等について説明する。 [授業外学習]シラバス・教科書(生徒指導提要)を準備してくる。	⑨	[テーマ] 教育相談のすすめ方と技法、保護者面接、心理教育と基礎理論等 [内容] 教育相談のすすめ方と技法と保護者面接のあり方、心理教育と基礎理論、心理療法等を概説し、視聴覚資料で補充する。 [授業外学習]教科書p109～112や図書館、Web等で調べ学習を行う。
②	[テーマ]教育相談の歴史と理念(沿革と発展) [内容] わが国における教育相談の歩みとアメリカにおけるスクールカウンセリングとの関係、スクールカウンセラー制度について概説する。 [授業外学習]学習プリントで復習するとともに興味ある箇所をさらに深める。	⑩	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-① [内容] 「いじめ」の構造・態様・変容、現状と課題等について解説する。 [授業外学習]教科書p173～174や学習プリント・Web等で考察する。
③	[テーマ] 学校教育相談の意義・目的・役割・機能など [内容] 学校教育相談の意義、目的、役割、機能などについて解説する。 [授業外学習]教科書p92～94、学習指導要領総則・特活編等で復習する。	⑪	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-② [内容] 「いじめ」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化をはかる。 [授業外学習]図書館、新聞、Web等でいじめ問題に関連する記事で考察する。
④	[テーマ] 学校教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など [内容] 学校教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態などについて解説する。 [授業外学習]教科書p92～98と学習プリントをもとに復習する。	⑫	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-① [内容] 「不登校」の構造・態様・変容、現状と課題について解説する。 [授業外学習]教科書p187～189や学習プリント・Web等で考察する。
⑤	[テーマ] 校内外の教育相談体制と連携、各教師の役割、教育相談の基本 [内容] 学校内外における教育相談体制づくりと連携、学級担任を中心とした多様な教師による教育相談のあり方を解説する。 [授業外学習]教科書p98～108、118～126をもとに復習する。	⑬	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-② [内容] 「不登校」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化をはかる。 [授業外学習]図書館、新聞、Web等で不登校問題に関連する記事で考察する。
⑥	[テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な学校教育相談の実践を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。 [授業外学習]教科書p40～42、66～74や図書館学習で復習する。	⑭	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-① [内容] 「発達障害」「虐待」「少年非行」等の理解、現状と課題について解説する。 [授業外学習]教科書p160～168、182～184やWeb等で復習する。
⑦	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見1 [内容] 教育相談を支える児童・青年期の心理と発達、様々な欲求と行動、欲求不満、心の構造等について解説する。 [授業外学習]教科書p42～65や図書館、Web等で調べ学習を行う。	⑮	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-② [内容] 「発達障害」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化をはかる。 [授業外学習]図書館、新聞、Web等で発達障害関連の記事を読み考察する。
⑧	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見2 [内容] 教育相談を支える関係心理学における葛藤、適応と不適応並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する。 [授業外学習]図書館、Web等で復習し学習を深める。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う。 [授業外学習]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る。

成績評価方法(方針)

定期の筆記試験の結果(80%)に、受講態度や授業内レポート・意欲・関心(20%)を加味して評価する。なお、学則にしたがい総授業回数のうち2/3以上の出席の無い者は定期試験の受験資格が無い。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				評価対象外
授業態度	◎	◎		20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講を基本とする②授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱い③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱④授業は意欲や視力、希望等を考慮した座席指定制とし初回授業時決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る 詳細については、第一回授業時に紹介する。大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。

関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学、その他教職関係科目		
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)	参考書	学習指導要領(含解説)
連絡先	青沼研究室A313 kz-aonuma@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅰ Pedagogy of Physical Education Ⅰ(L.)				担当教員	井上雅勝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に説明する。

授業の一般目標

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。
■	情意的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ，課題などを積極的に検討することができる。
■	技能表現的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、「指導案」などに表することができる。

講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントなどに沿って授業を展開する。

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]講義のねらいなどを学習指導要領で確認する	⑨	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画①) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その1) [授業外学習]資料に基づき講義内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件 [内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する [授業外学習]資料に関する教育関連法令をまとめておく	⑩	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画②) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その2) [授業外学習]資料に基づき講義内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育科教育の目的(現行学習指導要領の趣旨) [内容] 体育科教育の目的を現行学習指導要領の趣旨から概説する [授業外学習]現行学習指導要領などを参考に講義内容を整理しておく	⑪	[テーマ]体育科の指導計画を作成する① [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ①指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
④	[テーマ]体育科教育の目標及び内容(現行学習指導要領の目標及び内容) [内容] 体育科教育の目標及び内容を中学校の学習指導要領を中心に概説する [授業外学習]現行学習指導要領を参考に講義内容を整理しておく	⑫	[テーマ]体育科の指導計画を作成する② [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ②指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
⑤	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:体つくり運動) [内容] 体育科教育の内容として、「体つくり運動」を具体的に概説する [授業外学習]現行学習指導要領を参考に講義内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件) [内容] よい体育授業の条件について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:球技) [内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する [授業外学習]現行学習指導要領を参考に講義内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 体育科の学習指導(学習形態の種類) [内容]学習形態の種類 について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:武道) [内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する [授業外学習]現行学習指導要領を参考に講義内容を整理しておく	⑮	[テーマ]体育の学習・授業評価 [内容]]体育の学習・授業評価について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:水泳) [内容] 体育科教育の内容として、「水泳」を具体的に概説する [授業外学習]現行学習指導要領を参考に講義内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義期間中に作成したレポートの内容を評価する。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜，解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○	◎	80%
授業外レポート	◎	○	◎	20%
演習・実技				評価対象外
授業態度		○		評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

「体育の授業」などを、「教師」の立場として考えながら、本講義を受講すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ・ 保健体育科教育論Ⅳ(免許取得に必要な講義)・保健体育科授業研究Ⅰ・Ⅱ(選択履修)		
教科書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	井上研究室(LC棟2F)		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅱ Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.)				担当教員	入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ.

授業の一般目標

「保健」学習指導の基礎・基本について知り、生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践的能力の基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習指導要領に示された目標や内容ついて説明できる。生徒の健康課題を考えることができる。
■	情意的領域	保健科教育の内容について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる。
■	技能表現的領域	具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 保健科教育の位置づけ(オリエンテーション含む) [内容] 学校保健活動と保健科教育の関わりについて学習する。教員紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価について通知する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 保健科の学習指導1 [内容] 授業の学習形態と模擬授業の実施方法について理解する。 [授業外学習]授業中に指示する
②	[テーマ] 保健科教育の位置づけ2 [内容] カリキュラムに関する基本的事項を押さえ、実施・運用に必要な力を養う。 [授業外学習]授業中に指示する	⑩	[テーマ] 保健科の学習指導2 [内容] ICT活用を含めた教材・教具について理解すると共に単元に見合った教材・教具を発案しあう。 [授業外学習]授業中に指示する
③	[テーマ] 保健科教育の背景となる学問領域の理解と教材研究への活用 [内容] 戦後の授業観・学習観の変遷を学び、自身の『観』を形成するための信念や考え方を考察する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑪	[テーマ] 保健科の学習指導3 [内容] 良い保健授業の条件について理解する。 [授業外学習]授業中に指示する
④	[テーマ] 保健科教育の発展的な学習内容と学習指導への活用 [内容] 諸外国の保健教育の現状を知り、我が国と比較しつつ、現状や課題を見い出す力を養う。 [授業外学習]授業中に指示する	⑫	[テーマ] 保健科の指導計画1 [内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすための学習指導案とはどのようなものかを考察する。 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑤	[テーマ] 保健科教育の目的 [内容] 現行学習指導要領の改定とその趣旨について学習する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑬	[テーマ] 保健科の指導計画2 [内容] 生徒に深い学びをもたらすための学習指導案を作成する。 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑥	[テーマ] 保健科教育の目標 [内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する [授業外学習]過去の学習指導要領を熟読しておく	⑭	[テーマ] 保健科の指導計画3 [内容] 生徒に深い学びをもたらすために作成した学習指導案を発表し合い、議論する。 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑦	[テーマ] 保健科教育の内容1 [内容] 多様な保健科教育の全体像と系統性について学習する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑮	[テーマ] 保健科の学習・授業評価方法 [内容] 生徒に対する授業に対する理解力や思考力の評価方法について学習する。 [授業外学習]場合によっては模擬授業に替える場合もある
⑧	[テーマ] 保健科教育の内容2 [内容] 単元計画の把握と構造図について理解し、作成する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを実施する。 [授業外学習]レポート(指導案・評価カード等の提出)に変更する場合もある

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	60%
授業内レポート	◎	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年), 保健体育科教育論Ⅲ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	保健科教育法入門(大修館書店)	参考書	中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編
連絡先	研究室:A棟3階　　オフィスアワー:木曜日　12:40～14:10予定		

授業科目名	保健体育科教育論 Ⅲ Pedagogy of Education Ⅲ(L.)				担当教員	郡山 孝幸・山梨 雅枝・入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中・高保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「保健体育科教育論Ⅰ」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法を紹介するとともに、および指導内容の在り方について検討させる機会とする。

授業の一般目標

中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させるための授業の在り方を知り、授業実践を行うことで指導方法を探求していく。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。
■	情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる。
■	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる。

授業計画(全体)

・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体つくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。
・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内 容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論Ⅰ」を思い出す	⑨	[テーマ] 「G. ダンス」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する
②	[テーマ] 学習指導要領改訂について [内 容] 保健体育科教育論Ⅰで学んできた内容を想起し、体育の授業づくりについて考えを深める。 [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑩	[テーマ] 模擬授業に関するガイダンス [内 容] 模擬授業 グループ編成＆指導領域の割り振り 各班で指導内容の検討・指導案作成 [授業外学習] グループ毎に指導案の作成。
③	[テーマ] 「A. 体つくり運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑪	[テーマ] 模擬授業の実践 ① [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
④	[テーマ] 「B. 器械運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑫	[テーマ] 模擬授業の実践 ② [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑤	[テーマ] 「C. 陸上競技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑬	[テーマ] 模擬授業の実践 ③ [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑥	[テーマ] 「D. 水泳」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑭	[テーマ] 模擬授業の実践 ④ [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑦	[テーマ] 「E. 球技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑮	[テーマ] 模擬授業の実践 ⑤ [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑧	[テーマ] 「F. 武道」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑯	[テーマ] 模擬授業の実践 ⑥ [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する

成績評価方法(方針)

・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業後のレポート内容について評価する。10～16回目においては模擬授業における指導案作成、指導内容・指導過程・声がけの仕方について等、生徒役のグループによる授業評価と照らし合わせて総合的に評価する。その結果については提出ごと、実践授業ごとにフィードバックするとともに講義演習内で適宜解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○	◎	50%
授業態度		○		評価対象外
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。
・講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する。
・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。
・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。
・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。

関連科目	・保健体育科教育論 Ⅰ ・保健体育科教育論Ⅳ ・各領域の実技授業		
教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編	参考書	
連絡先	郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)、入澤研究室(A棟3階)		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅳ Pedagogy of Health and Physical Education Ⅳ(L.)				担当教員	入澤裕樹・小浜　明・井上雅勝・郡山孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ，中学校・高等学校における「保健・体育」の学習指導を,教師の立場から実施し，その展開の仕方を学ぶ。

授業の一般目標

保健体育の単元計画，学習指導案づくり,模擬授業を通して，授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	保健体育の教科内容について理解している。
■	情意的領域	保健体育の教科内容を中学校・高等学校の生徒の実態に合わせて構成しようとする。
■	技能表現的領域	保健体育の教科内容を展開・表現できる。

授業計画(全体)

保健および体育の授業づくりについて知り，小グループ(あるいは個人)で，模擬授業を実施する。場合によっては2月に4回分程度校外学習を行う予定である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 体育の授業をつくる① [内容] 球技(ゴール型①)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)① [内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑩	[テーマ] 体育の授業をつくる② [内容] 球技(ゴール型②)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)② [内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 体育の授業をつくる③ [内容] 球技(ゴール型③)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
④	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③ [内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ] 体育の授業をつくる④ [内容] 球技(ネット型①)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑤	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④ [内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 体育の授業をつくる⑤ [内容] 球技(ネット型②)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑥	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)① [内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 体育の授業をつくる⑥ [内容] 球技(ネット型③)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑦	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)② [内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] 体育の授業をつくる⑦ [内容] 球技(ベースボール型)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑧	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校) [内容] 全体をまとめる [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合100%)。試験については解説をしながら返却する。場合によっては模擬授業に替える場合もある。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)，保健体育科教育論Ⅱ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	中学,高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)
連絡先	A棟3階306　　オフィスアワー:月曜日　16:00～17:00予定		

授業科目名	福祉科教育論Ⅰ Pedagogy of Social Welfare Ⅰ (L.)				担当教員	関矢 貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	高等学校「福祉」教員免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学習指導要領、中央教育審議会答申等を教材とし、教科「福祉」の成り立ちを概説する。また、各科目の目標と内容等を、教材研究、授業に結びつく基礎的知識・技術を踏まえて詳述する。

授業の一般目標

高等学校福祉科設立の経緯と意義を踏まえ、中等教育で福祉を学ぶ意義を理解する。各教科の目標、内容などを学び理解し、高校生が意欲をもって学ぶ授業実践が出来る知識と技術を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習指導要領及び中央教育審議会答申などを用い学習し、教科「福祉」の成り立ち及び中等教育における福祉のあり方をを理解する。
■	情意的領域	高等学校「福祉」担当教諭として教育現場での活動等の実践が出来るように学習に取り組めるようになる。
■	技能表現的領域	各科目の目標及び内容を理解し、学習指導案の作成及び授業実践ができる知識・技術を修得する。

授業計画（全体）

関連資料を基に学習を進める。資料の他にVTR等の視聴覚教材も取り入れて行う。学習指導要領及び中央教育審議会答申などを学習し、教科「福祉」の成り立ちを段階的に学習する。高等学校で「福祉」の担当教諭とし、教育現場での活動等の実践が出来るよう総合的に学習する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 中等教育で福祉を学ぶことの意義 [内容] 授業の概要と進め方、評価に関する説明をする。「高校生が福祉を学ぶ」をテーマにディスカッションをする。福祉教育のあり方を討論する。 [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑨	[テーマ] コミュニケーション技術の目標と内容 [内容] 基礎的な知識と技術等を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集
②	[テーマ]福祉科教育の理念と意義・歴史 [内容] 中央教育審議会答申等を用い、産業教育と中等教育における福祉科の歴史を通し現在のあり方を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑩	[テーマ] 生活支援技術の目標と内容 [内容] 生活を支援する介護の役割等について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集
③	[テーマ] 福祉科教育の理念と意義 [内容] 学習指導要領、中央教育審議会答申などを用い高校福祉の位置と教育課程について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑪	[テーマ] 介護過程の目標と内容 [内容] 人間の尊厳と自立生活支援及び介護過程の意義、役割について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集
④	[テーマ] 福祉科教育の理念と意義 [内容] 対人援助や社会福祉制度を理解させ、人間としての尊厳と社会福祉の関わりを解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑫	[テーマ] 介護総合演習・介護実習の目標と内容 [内容] 演習や事例研究、実習の意義等を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集
⑤	[テーマ] 学習指導要領の特質と内容 [内容] 学習指導要領を用い、福祉の目標と科目の構成を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑬	[テーマ] こころとからだの理解 [内容] 介護実践に必要な基礎知識等について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集
⑥	[テーマ] 社会福祉基礎の目標と内容 [内容] 学習指導要領などを用い、社会福祉の理念と意義等を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑭	[テーマ] 学習指導案の作成（1） [内容] 授業の方法と基礎技術について解説する [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑦	[テーマ] 社会福祉基礎の目標と内容 [内容] 社会福祉の理念と意義、制度等について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集	⑮	[テーマ] 学習指導案の作成（2） [内容] 模擬授業の実際（他者、自己評価と教材研究）について解説する [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑧	[テーマ] 介護福祉基礎の目標と内容 [内容] 介護の意義と役割等についてかいせつする [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集と編集	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 試験を実施する [授業外学習]試験に向けて学習する

成績評価方法（方針）

学習指導案の作成内容（90%）。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	福祉科教育論Ⅱ　福祉科教材・授業研究		
教科書	学習指導要領（福祉）　福祉科教育法の実際と展開　他	参考書	授業の最初に指示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー：水曜　11：50～13：00		

授業科目名	福祉科教育論Ⅱ Pedagogy of Social Welfare Ⅱ (L.)				担当教員	関矢 貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	高等学校「福祉」教員免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

福祉科教育論Ⅰに引き続き、授業実践に関連した各科目内容の研究及び模擬授業を通して実践形式で学習を行う。

授業の一般目標

・授業実践に関連した各科目内容の研究及び模擬授業を通して実践できる知識・技術を修得する
・高等学校「福祉」担当教諭として教育現場での諸活動等の実践が出来るようになる

授業の到達目標

■	認知的領域	教科、「福祉」の成り立ちを理解する
■	情意的領域	高等学校「福祉」担当教諭として教育現場の諸活動等の実践が出来るように学習に取り組めるようになる
■	技能表現的領域	授業実践に関連した各科目内容の研究及び模擬授業を通して実践できる知識・技術を習得する

授業計画(全体)

教科、高等学校「福祉」の成り立ちを段階的に学習する。「福祉」担当教諭として教育現場での教育諸活動等の実践が出来るよう総合的に学習を進める

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 学習指導案の作成と教材研究及び実践について解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑨	[テーマ] 生活支援技術教材研究 [内容] 生活支援の理解等の題材から教材研究し、指導案を作成する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる
②	[テーマ]福祉情報の活用と授業への応用を学ぶ [内容] 福祉情報の活用と特質及び教育実践への応用を解説する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑩	[テーマ] 生活支援技術模擬授業 [内容] 生活支援の理解等の題材から各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる
③	[テーマ] 社会福祉基礎教材研究 [内容] 理念と意義、人間関係とコミュニケーション、社会保障等の題材から教材研究の実際を解説し指導案を作成させる [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑪	[テーマ] 介護過程教材研究 [内容] 介護過程の意義と役割等の題材から教材研究し、各自指導案を作成する [授業外学習]福祉関連教材の研究
④	[テーマ] 社会福祉基礎模擬授業 [内容] 理念と意義人間関係とコミュニケーション、社会保障等の題材から模擬授業の実践をさせる [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑫	[テーマ] 介護過程模擬授業 [内容] 介護過程の意義と役割等の題材から各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑤	[テーマ] 介護福祉基礎教材研究 [内容] 介護の意義と役割、介護福祉の担い手等の題材から教材研究し、指導案作成を作成する [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑬	[テーマ] こころとからだの理解教材研究 [内容] こころとからだの基礎的理解等の題材から教材研究し、指導案を作成する [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑥	[テーマ] 介護福祉基礎模擬授業 [内容] 介護の意義と役割、介護福祉の担い手等の題材から指導案に沿って各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑭	[テーマ] こころとからだの理解模擬授業 [内容] こころとからだの基礎的理解等の題材から、各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑦	[テーマ] コミュニケーション技術教材研究 [内容] 介護におけるコミュニケーション等の題材から教材研究、指導案作成をする [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑮	[テーマ] 介護総合演習・介護実習模擬授業 [内容] 介護演習、実習等の題材から教材研究し、各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の研究
⑧	[テーマ] コミュニケーション技術模擬授業 [内容] 介護におけるコミュニケーション等の題材から各自模擬授業の実践をする [授業外学習]福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解・到達度を確認する試験を実施する [授業外学習]事前学習を行う

成績評価方法(方針)

試験(50%)。学習指導案の作成内容(20%)。模擬授業実践(30%)。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	福祉科教育論Ⅰ		
教科書	学習指導要領(福祉)　福祉科教育法の構築と展開	参考書	授業の最初に指示する
連絡先	研究室　F棟2階　オフィスアワー:水曜　11:50～13:00		

授業科目名	障害者教育総論 Fundamental Principle of Education of Handicapped People (L)				担当教員	渡邊 康男
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は，障害者の教育全般について，障害のとらえ方や概念，これまでの歴史等を踏まえつつ，学校教育における対象や教育の制度，教育課程や教育の方法などを概説する。

授業の一般目標

障害のある幼児児童生徒の教育に携わる者として必要な基礎的知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者に関わる概念や歴史について記述できる。 特別支援教育にかかる教育課程や現状について説明できる。
■	情意的領域	障害のある幼児児童生徒の指導や支援に関心を持ち，積極的に関わろうとすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となる。より理解を深めるための視聴覚教材を活用する。
特別支援教育の全般について，①障害の捉え方②対象③教育課程④教育制度⑤最新の話題などのテーマから概説する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方，成績評価について 特別支援学校教諭免許のカリキュラムについて [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 特別支援学校の教育課程② [内容] 特別支援学校の目的 [授業外学習] 教職六法で，調べておくこと。
②	[テーマ] 特殊教育から特別支援教育への転換 [内容] 異常児教育から特殊教育，特殊教育から特別支援教育への変遷 [授業外学習] 特別支援教育の変遷についてまとめておくこと。	⑩	[テーマ] 特別支援学校の教育課程③ [内容] 領域と教科，自立活動 [授業外学習] 学習指導要領で調べ整理すること。
③	[テーマ] 障害の概念について [内容] ICF（国際生活機能分類） [授業外学習] ICIDHとICFについて整理すること。	⑪	[テーマ] 特別支援学校の教育課程④ [内容] 自立活動 [授業外学習] 学習指導要領で調べ整理すること。
④	[テーマ] 障害の医学的側面について [内容] 知的障害・発達障害・肢体不自由等の医学的な原因等 [授業外学習] 代表的なダウン症候群についてまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 通常の学校での特別支援教育 [内容] 小・中・高等学校における特別支援教育 [授業外学習] 学習指導要領で調べ整理すること。
⑤	[テーマ] 特別支援教育の対象について① [内容] 特別支援学校・特別支援学級の対象 [授業外学習] 教職六法で，調べるくこと	⑬	[テーマ] 特別支援学校の教育 [内容] 幼稚部から高等部，高等部専攻科 [授業外学習] 学習指導要領で調べ整理すること。
⑥	[テーマ] 特別支援教育の対象について② [内容] 通常の学級における対象について [授業外学習] 教職六法で，調べておくこと。	⑭	[テーマ] 障害者権利条約と教育 [内容] インクルーシブ教育システム構築と合理的配慮 [授業外学習] 障害者権利条約について整理しておくこと。
⑦	[テーマ] 特別支援教育の制度 [内容] 通常の学級から訪問教育までの連続した学びの場 [授業外学習] 訪問教育について法的根拠を調べること。	⑮	[テーマ] 障害者権利条約と教育② [内容] 障害者差別解消法 [授業外学習] 障害者差別解消法について整理しておくこと。
⑧	[テーマ] 特別支援学校の教育課程 [内容] 教育課程の基礎 [授業外学習] 教職六法で，調べておくこと。	⑯	[テーマ] まとめ・試験 [内容] 各回の講義について，テキストをもとに振り返る。 [授業外学習] 自分の学修を振り返り，理解の不十分な部分を確認する。

成績評価方法（方針）

試験は，期末に1回実施する。授業態度を評価に加え、総合的に判断する。
6回以上の欠席者は評価の対象とせず、放棄と見なす。
提出された試験は，解説をしながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート		○		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			◎	20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・特別支援学校教諭免許希望者に限る。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・しっかりと予習・復習を行い、授業参加だけでは単位を修得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・この授業は，特別支援教育の基礎理論として位置づけされており，特別支援学校教諭の必修科目でもあることを自覚した上で受講すること。

関連科目	（2年）知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、肢体不自由者の教育、（3年）知的障害者のスポーツ指導、肢体不自由者のスポーツ指導、知的障害者の教育、病弱者の教育、学習障害者の教育、視覚障害教育		
教科書	特に指定しない	参考書	特別支援教育への招待（宮城教育大学編、教育出版）
連絡先	研究室：A棟3階315		

授業科目名	障害者教育総論 Fundamental Principle of Education of Handicapped People (L)				担当教員	渡邊康男・小澤輝高・高橋 亮
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	高等学校福祉科免許，介護福祉士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、障害（主に、知的障害、肢体不自由、病弱）、発達障害に関する教育・福祉の理念、障害者教育・福祉に関する歴史・思想、社会的・制度的・経営的観点について体系的に講義を行う。また、特殊教育から特別支援教育への転換についての理解をとおして、今後の障害者教育・福祉の具体的方策について講義を展開していく。

授業の一般目標

障害者がこれまで社会の中でおかれてきた歴史を認識し、特殊教育から特別支援教育への転換についての理解をとおして、「障害」「人間」についての見方・考え方を身につける。また、障害者、発達障害者の支援に必要な知識を身につけ、今後の障害者教育・福祉の方向性を考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	自身の障害観、障害者観ついて説明できる。障害者に関わる概念、歴史、基本的な施策を記述できる。
■	情意的領域	身近な障害者支援に気づき、具体的改善点を考慮して実際の支援活動に取組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]（渡邊）オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ]（小澤）障害の医学的側面の基礎（3）運動機能障害 [内容] 遺伝と出生前診断の基本的な考え方、特性の視点から運動機能障害について説明する。 [授業外学習]運動機能障害の特徴について発表できるようにしておくこと。
②	[テーマ]（渡邊）障害の基礎的理解 [内容] 人間の発達と人間を取り巻く環境について説明する。 [授業外学習]「障害観」「人間観」を発表できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ]（高橋）障害者と教育・福祉関係の制度的背景（2） [内容] 障害者に関する教育・福祉関係の法制度及びその成立の背景について説明する。 [授業外学習]資料をもとに復習にしておくこと。
③	[テーマ]（渡邊） 障害の概念、ICF（国際生活機能分類）への変遷 [内容] 障害とは何かについてWHOの定義をもとに、概念とその特性を説明する。 [授業外学習]資料をもとに復習をしておくこと。	⑪	[テーマ]（高橋）難病と社会資源の活用と教育支援 [内容] 特別支援教育と医療的ケアについて、どのような視点で行われているのか説明する。 [授業外学習]リハビリテーションについて発表できるようにすること
④	[テーマ]（渡邊）障害とノーマライゼーション [内容] ノーマライゼーションの思想について、その成立と考え方について説明する。 [授業外学習]自身の身近な事例をもとに、発表できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ]（高橋連携と協働（1）地域におけるサポート体制 行政および関係機関 [内容] 障害児者を取り巻く地域のサポート体制の現状と課題について説明する。 [授業外学習]課題について発表できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ]（渡邊）障害者と教育・福祉間j系の制度的背景（1） [内容] 特殊教育から特別支援教育への転換について、その制度的背景について説明する。 [授業外学習]資料をもとに復習しておくこと。	⑬	[テーマ]（高橋）連携と協働（2）保健・医療・福祉・就労サービスの連携 [内容] 障害者、発達障害者の就労支援に関する実例を紹介しながら、労働の現状と課題について説明する。 [授業外学習]障害者の労働環境について発表できるようにしておくこと
⑥	[テーマ]（渡邊） 発達障害・知的障害と社会資源の活用と教育支援 [内容] 発達障害はどういうことなのか、特別支援教育とはどういうことなのか説明する。 [授業外学習]特別支援教育について、意見を発表できるようにしておくこと。	⑭	[テーマ]（高橋）連携と協働（3）家族への支援 家族の介護力の把握 [内容] 障害者、発達障害者をかかえる家族への支援体制について説明する。 [授業外学習]家族の支援についてそのような方法があるか調べておくこと。
⑦	[テーマ]（小澤）障害の医学的側面の基礎（1） 視覚障害 [内容] 遺伝と出生前診断の基本的な考え方、特性の視点から視覚障害について説明する。 [授業外学習]資料をもとに復習し、自身の考えを発表できるようにすること。	⑮	[テーマ]（高橋）連携と協働（4）事例検討 [内容] 障害者、発達障害者の自立支援に関する実例を紹介する。 [授業外学習]障害者の自立支援に関する実例を発表できるようしておくこと。
⑧	[テーマ]（小澤） 障害の医学的側面の基礎（2）聴覚・言語障害 [内容] 遺伝と出生前診断の基本的な考え方、特性の視点から聴覚・言語障害について説明する。 [授業外学習]聴覚・言語障害の特徴について発表できるようにしておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内レポート（評価割合20%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出された試験及びレポートについては，解説をしながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外の学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・しっかりと予習・復習を行い、授業参加だけでは単位を修得できないと肝に銘じておくこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	
連絡先	研究室：A棟315渡邊康男		

授業科目名	知的障害者の心理・生理・病理 Psychology, physiology, & pathology of Intellectual Disability				担当教員	大村　一史
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

脳のしくみとはたらきの概要を学び、知的障害の心理・生理・病理の特性について理解し、実際の特別支援教育に関わる基本的知識を獲得する。

授業の一般目標

特別支援教育が必要な児童生徒の心理・生理・病理特性の基本的知識の獲得から、障害児研究への応用例までを含めた幅広いトピックで講義を行う。知的障害（発達障害を含む）を主な対象とし、障害児が持つ心と身体の関連性を脳科学の観点から捉えることを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	知的障害の心理・生理・病理に対する正しい知識を脳科学の観点から獲得する。
■	情意的領域	知的障害者への理解を深め、障害とそれを取り巻く環境を適切に認識し、適切な教育支援につなげていくことが出来る能力を獲得する。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿って、パワーポイントを用いた講義を中心に、視聴覚教材を効果的に利用した授業を展開する。単なる一方通行の講義形式のみ偏らないように、教員ー学生または学生ー学生の双方向のディスカッションを取り入れ、学生自らが積極的に授業に参加するスタイルを取り入れる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション：特別支援教育における科学的思考力 [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 二次障害の理解 [内容] 知的障害児・者が陥りやすい二次障害としての社会不適応に関する理解を深める [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと
②	[テーマ] 脳のしくみとはたらき [内容] 脳の基本的な構造と機能を説明する [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑩	[テーマ] グループワーク1 [内容] 障害に関する視聴覚教材を用いて、ディスカッションなどを行う [授業外学習] 自分の意見を持ち、積極的に議論に参加すること
③	[テーマ] 知能とは何か [内容] 知能の基本的概念と測定法について学ぶ [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑪	[テーマ] グループワーク2 [内容] 生命倫理に関する視聴覚教材を用いて、ディスカッションなどを行う [授業外学習] 自分の意見を持ち、積極的に議論に参加すること
④	[テーマ] 知的障害の診断・検査・治療 [内容] 知的障害の診断・検査法とそれらを元にした療育について学ぶ [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑫	[テーマ] 発達障害：LD [内容] 発達障害のうち、LDの心理・生理的特徴を理解し、支援方法のヒントを掴む [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと
⑤	[テーマ] 知的障害の心理・行動特性と支援 [内容] 知的障害の認知的特性を理解し、それに基づいた支援の可能性を説明する [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑬	[テーマ] 発達障害：ADHD [内容] 発達障害のうち、ADHDの心理・生理的特徴を理解し、支援方法のヒントを掴む [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと
⑥	[テーマ] 染色体異常による知的障害 [内容] 遺伝の生物学的な説明を行い、知的障害と遺伝との関係を学ぶ [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑭	[テーマ] 発達障害：ASD [内容] 発達障害のうち、ASDの心理・生理的特徴を理解し、支援方法のヒントを掴む [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと
⑦	[テーマ] 遺伝と出生前診断 [内容] 遺伝子の基礎知識を学び、出生前診断について説明する [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑮	[テーマ] 生命倫理・神経倫理 [内容] 特別支援教育における生命倫理および神経倫理の考え方を学ぶ [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと
⑧	[テーマ] 認知評価から教育支援へ [内容] 知的障害の認知評価に基づいた教育支援の具体的な展開を学ぶ [授業外学習] 資料をもとに復習しておくこと	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるための期末試験を行う [授業外学習] 期末試験に備えてこれまでの資料をしっかりと復習すること

成績評価方法（方針）

期末試験(評価割合70%)、ディスカッション参加(評価割合15%)、リアクションペーパー(評価割合15%)の結果にもとづき評価する。また、積極的な授業参加や真摯な授業態度による加点もある。ただし、出席回数が2/3以上の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		30%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない。授業時にプリントを配布する。	参考書	・発達障害児の医療・療育・教育　松本昭子編　金芳社 ・特別支援教育ー理解と推進のためにー　石部元雄他編　福村出版
連絡先			

授業科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理 Phychology,Physiology,Pathology of Physically Handicapped Person				担当教員	小澤 輝高/笠原 岳人
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

特別支援学校教諭として必要な医学的基礎知識と障害者の心理、家族と地域、介護と教育との連携による支援体制を学習する。

授業の一般目標

身体的障害の医学的基礎知識、障害者を取り巻く状況について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者の肉体的、心理的問題を理解する。
■	情意的領域	知識の習得を通して障害を抱えた方々への支援に必要とされる資質の獲得を目指す。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

前半では身体の構造と機能を解説し、その機能が失われることによって生じる障害、肢体不自由を引き起こす疾患の原因、予後などについて基礎的な事項を講義する。後半では身体障害者の生活支援について事例等を交えながら解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 障害とその基本概念 (小澤) [内容] 障害に関して [授業外学習] 障害について理解できるようにしておくこと	⑨	[テーマ] 肢体不自由者の心理(1) 障害の生活受容 (笠原) [内容] 障害受容に関して [授業外学習] 障害受容に関して説明できるようにしておくこと
②	[テーマ] 障害福祉の理念と基本概念 (小澤) [内容] 障害福祉に関して [授業外学習] 障害福祉について説明できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] 肢体不自由者の心理(2) 適応と適応規制 (笠原) [内容] 障害の適応に関して [授業外学習] 障害の適応に関して説明できるようにしておくこと
③	[テーマ] 肢体不自由の原因・特性 (1) (小澤) [内容] 上下肢の不自由に関して [授業外学習] 上下肢が不自由な場合の身体変化が説明できるようにしておくこと	⑪	[テーマ] 肢体不自由者の心理(3) 心理的な支援 (笠原) [内容] 肢体不自由者の心理的支援に関して [授業外学習] 肢体不自由者の心理的支援に関して説明できるようにしておく
④	[テーマ] 肢体不自由の原因・特性(2) (小澤) [内容] 内部障害に関して [授業外学習] 内部障害について説明できるようにしておくこと	⑫	[テーマ] 肢体不自由者への生活支援 (笠原) [内容] 肢体不自由者の生活支援に関して [授業外学習] 肢体不自由者の生活支援に関して説明できるようにしておくこと
⑤	[テーマ] 精神障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 精神疾患の特性と生活支援に関して [授業外学習] 精神疾患の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑬	[テーマ] 肢体不自由者を支える家族への支援 (笠原) [内容] 肢体不自由者を支える家族支援に関して [授業外学習] 肢体不自由者を支える家族支援が説明できるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 知的障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 知的障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 知的障害の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑭	[テーマ] 肢体不自由者支援の連携体制 (笠原) [内容] 肢体不自由者支援の連携に関して [授業外学習] 肢体不自由者支援の連携に関して説明できるようにしておくこと
⑦	[テーマ] 発達障害の原因・特性と生活支援 (小澤) [内容] 発達障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 発達障害の特性と生活支援に関して説明できるようにしておくこと	⑮	[テーマ] まとめ (笠原) [内容] 講義全体のまとめ [授業外学習]
⑧	[テーマ] 高次脳機能障害・重度重複障害への支援 (小澤) [内容] 高次脳機能障害の特性と生活支援に関して [授業外学習] 高次脳機能障害について説明できるようにしておくこと	⑯	[テーマ] 定期試験 (笠原) [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績評価は、定期試験(評価60%)と、授業内外レポート(評価40%)により、総合的に判断して成績評価を行う。
なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。
・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話を鞄の中にしまっておくこと。
・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・毎週の授業参加 だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。
・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	授業の中で紹介する
連絡先	笠原研究室:F棟2階207号室 オフィスアワー:木曜日14:20～15:50		

授業科目名	病弱者の心理・生理・病理 Health Care and Treatment of Children with Illness : Psychology, Physiology and Pathology				担当教員	八島　猛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

病弱教育における対象児童生徒の主要な疾患について、特に疾患の種類や病態、疾病対処行動、各疾患の心理的特性に視点をおいて概説する.

授業の一般目標

児童生徒個々の実態に応じた教育的支援を行うための基礎的な知識を習得することを目的として、病弱教育における対象児童生徒の主要な疾患について、特に疾患の種類や病態、疾病対処行動、各疾患の心理的特性についての理解を深める.

授業の到達目標

■	認知的領域	病弱教育の対象となる子どもの実態に応じた教育的支援を行うための基礎的な知識を習得する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

子どもの主要な疾患や病態，心理的特性について，基礎的な知識の習得を目指し，適宜，視聴覚教材を使用する。また，事例をあげて解説する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 病気への配慮と教師の対処 [内容] 慢性疾患児の心理的側面に応じた学校教育における配慮について解説する [授業外学習]
②	[テーマ] 病弱教育の対象 [内容] 学校教育における病弱教育の位置づけと具体的な対象について解説する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 病気への配慮と教師の対処 [内容] 慢性疾患児の心理的側面に応じた学校教育における配慮について解説する [授業外学習]
③	[テーマ] 子どもの心理機能の発達(1) [内容] 子どもの心理機能の発達について解説する [授業外学習]	⑪	[テーマ] 重い疾患のある子どもの理解 [内容] 入院を要する子どもの病態と心理について解説する [授業外学習]
④	[テーマ] 子どもの心理機能の発達(2) [内容] 子どもの心理機能の発達について解説する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 重い疾患のある子どもの理解 [内容] 入院を要する子どもの病態と心理について解説する [授業外学習]
⑤	[テーマ] 子どもの病因理解 [内容] 子どもの病因理解の発達について解説する	⑬	[テーマ] 重い疾患のある子どもの理解 [内容] 入院を要する子どもの病態と心理について解説する [授業外学習]
⑥	[テーマ] ストレスと対処 [内容] 病弱児のストレスとその対処について，事例に即して解説する [授業外学習]	⑭	[テーマ] 疾患のある子どもの家族の心理 [内容] 疾患のある子どもの家族の心理について解説する [授業外学習]
⑦	[テーマ] 慢性疾患児の理解 [内容] 子どもの慢性疾患の病態について解説する [授業外学習]	⑮	[テーマ] 疾患のある子どもの家族の心理 [内容] 疾患のある子どもの家族の心理について解説する [授業外学習]
⑧	[テーマ] 慢性疾患児の理解 [内容] 子どもの慢性疾患の病態について解説する [授業外学習]	⑯	[テーマ] まとめ [内容] テストを実施する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績評価方法と履修上の注意のとおり

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎			25%
授業外レポート	◎			15%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となります。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	プリントを配布する	参考書	
連絡先	yashima@juen.ac.jp		

授業科目名	知的障害者のスポーツ指導 Physical Education for Mental Retardation (L.)				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(特別支援学校教員)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、知的障害者における身体活動の指導はどのようなものであるか説明し、知的障害者の運動・スポーツ指導の現状、具体的指導方法、生涯教育へ向けた具体的支援に関する基礎的内容を講義する.

授業の一般目標

知的障害者のスポーツ指導の基本、特性とは何かを知り、知的障害者のスポーツ指導について教育的志向で考えることが出来るようになる。特に、知的障害者の身体的特徴、知的発達と身体発達、知的障害者のスポーツ活動について理解し実際に運動・スポーツ指導のプログラムを立案・発表・検討することにより、体育・スポーツ指導について教育的実践的観点から思考する能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	知的障害者のスポーツ指導の基本、特性について説明できる。知的障害者のスポーツ指導について教育的実践場面から考えることができる。
■	情意的領域	知的障害者の身近なスポーツ活動について教育的志向で取組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義及び知的障害者の運動・スポーツプログラムの立案・発表・検討を行うことでより実践的指導方法を学ぶ。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 知的障害者と生涯教育における余暇活動の必要性と課題 [内容] 生涯教育へ向けた具体的支援について説明する。 [授業外学習]余暇活動の必要性について意見を発表できるようにすること
②	[テーマ] 知的障害者の身体活動とは [内容] 知的障害者の日常的な身体活動について説明する。 [授業外学習]知的障害者の心理・生理・病理を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 演習(1)知的障害者の運動・スポーツプログラム立案と安全管理 [内容] 運動・スポーツプログラムの立案と安全管理について説明する。 [授業外学習]安全管理について、自分の意見を発表できるようにしておくこと
③	[テーマ] 知的障害者の身体的特性 [内容] 知的障害者の身体的特性・特徴について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑪	[テーマ] 演習(2)知的障害者の運動・スポーツプログラムの実際と問題 [内容] 具体的実践例を紹介し、その課題等について話し合う。 [授業外学習]実際にどのような問題点があるか考えておくこと
④	[テーマ] 知的障害者の体育の歴史的変遷 [内容] 障害者教育総論で学習した歴史的変遷を復習する。 [授業外学習]2年生の時に履修した障害者教育総論を復習しておくこと	⑫	[テーマ] 演習(3)グループ毎、演習課題の検討及び決定 [内容] グループを作り、課題の検討を行い、指導プログラムを決定する。 [授業外学習]教材教具の選定や指導上の工夫を発表できるようにすること
⑤	[テーマ] 知的障害者の運動・スポーツの歴史的変遷 [内容] 知的障害者のスポーツ活動の歴史について基本的な考え方について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 演習(4)グループ毎、演習課題実践のまとめ [内容] グループ毎に、課題を実践し、そのまとめを行う。 [授業外学習]発表に備えて各自、活動実践記録と評価を行っておくこと
⑥	[テーマ] 知的障害者の運動・スポーツの意義 [内容] 知的障害者の運動・スポーツにはどのような意義があり、どのような課題があるのか説明する。 [授業外学習]知的障害者の運動・スポーツ特性について考えをまとめること	⑭	[テーマ] 演習(5)演習課題レポートの発表会 [内容] グループ毎、課題レポートをもとに発表をする。 [授業外学習]自己評価、他者評価をし、レポート提出をすること
⑦	[テーマ] 知的障害者の運動・スポーツの指導について [内容] 知的障害者のスポーツ活動に関する組織や指導者等について説明する。 [授業外学習]具体的組織団体にはどのようなものがあるのか調べておくこと	⑮	[テーマ] 授業全体のまとめ [内容] 講義と実践的活動を振り返り、課題等について確認を行う。 [授業外学習]本授業の疑問点や課題等について確認しておくこと
⑧	[テーマ] 知的障害者の具体的な運動・スポーツ指導法に関する諸原則 [内容] 知的障害者に対する指導方法について説明する。 [授業外学習]なぜ諸原則が必要なのか発表できるようにしておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合25%)と、授業外レポート(評価割合15%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート	◎			20%
演習・実技			◎	20%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・しっかりと予習・復習を行い、授業参加だけでは単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目	(2年)知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、肢体不自由者の教育、(3年)知的障害者のスポーツ指導、肢体不自由者のスポーツ指導、知的障害者の教育、病弱者の教育、学習障害者の教育			
教科書	盲学校・聾学校及び養護学校指導要領、盲学校・聾学校及び養護学校指導要領解説、文部科学省		参考書	障害者教育の人間学(粂野豊他・中央法規)バリアフリーをめざす体育授業(筑波大学附属学校保健体育研究会、杏林書院)
連絡先	高橋亮研究室 オフィースアワー金12:40-14:10			

授業科目名	肢体不自由者のスポーツ指導 Teaching Method for Disabled Persons				担当教員	関矢　貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教員免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

肢体不自由児・者のスポーツ活動の現状・実践方法を踏まえ,教育現場で応用実践できる知識・技術を解説し実践する

授業の一般目標

本講義は肢体不自由児・者のスポーツ活動の現状・実践方法を踏まえ、学校教育現場で応用実践できる知識・技術を習得する。また、障害種別に応じた指導方法や場の設定方法を学修し実践ができるようになる

授業の到達目標

■	認知的領域	肢体不自由児・者のスポーツ活動の現状・実践方法を考える
■	情意的領域	学校教育現場で応用実践できる知識・技術を修得する
■	技能表現的領域	学校教育現場で応用実践できる知識・技術を修得し指導できる

授業計画（全体）

各テーマに沿った資料を基に、教育現場で応用実践できる知識・技術を解説する。また、必要に応じて関連する実技、演習（模擬授業）を取り入れ授業を進める

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業者の紹介、授業概要の説明 [授業外学習]授業概要の把握	⑨	[テーマ] スポーツ競技の開発と指導法（グループワーク） [内容] グループ活動・ゲーム種目・運動指導法の考案 [授業外学習]グループで スポーツ競技の開発を行う。
②	[テーマ]心身障害について [内容] 障害の理解 [授業外学習]心身障害について関連資料を収集する。	⑩	[テーマ] スポーツ競技の開発と指導法（グループワーク） [内容] グループ活動・ゲーム種目・運動指導法の考案（指導案の作成） [授業外学習]グループで スポーツ競技の開発を行う。
③	[テーマ] 身体障害者スポーツの実際 [内容] 時系列に身体障害者スポーツの歴史を学ぶ [授業外学習]身体障害者スポーツについて関連資料を収集する。	⑪	[テーマ] スポーツ競技の開発と指導法（グループワーク） [内容] 教材・教具の開発（作成作業と教材研究） [授業外学習]グループで スポーツ競技の開発を行う。
④	[テーマ] 肢体不自由者とスポーツの実際（車いすと身体障害） [内容] 車いす操作とスポーツ競技（含む介助の実際） [授業外学習]車いすについて関連資料を収集する。	⑫	[テーマ] スポーツ競技・ゲーム種目の実践報告 [内容] 新たなスポーツ競技・ゲーム種目の実践と運動指導の実際 [授業外学習]グループで スポーツ競技の準備を行う。
⑤	[テーマ] 肢体不自由者とスポーツの実際（足こぎ車椅子と身体障害・片麻痺） [内容] 足こぎ車椅子の理論と実践（中途障害片麻痺者のスポーツ活動） [授業外学習]足こぎ車椅子について関連資料を収集する。	⑬	[テーマ] スポーツ競技・ゲーム種目の実践報告 [内容] 新たなスポーツ競技・ゲーム種目の実践と運動指導の実際（他者評価） [授業外学習]グループで スポーツ競技の準備を行う。
⑥	[テーマ] 肢体不自由者とスポーツの実際（チエアスキーとアウトリガー） [内容] 雪上スポーツの実際と指導法 [授業外学習]チエアスキーについて関連資料を収集する。	⑭	[テーマ] スポーツ競技・ゲーム種目の実践報告 [内容] 実践と運動指導の実際（自己・グループ評価） [授業外学習]グループで スポーツ競技の準備を行う。
⑦	[テーマ] 肢体不自由児・者のスポーツ活動 [内容] 運動指導の実際（これまでの実践からの考察） [授業外学習]運動指導について関連資料を収集する。	⑮	[テーマ] 学習指導案の作成 [内容] 発表・他者評価・自己評価等の実践を踏まえ学習指導案を再度作成する [授業外学習]グループで指導案の再評価を行う。
⑧	[テーマ] スポーツ競技の開発と指導法 [内容] 肢体不自由児・者のスポーツ種目の理解 [授業外学習]スポーツ競技について関連資料を収集する。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 実践における事前・事中・事後における振り返りをする。理解・到達度と、応用の可能性を確認する [授業外学習]試験準備をする。

成績評価方法（方針）

指導案・教材研究実施内容（90%）。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技			◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	障害者とスポーツ		
教科書	なし（授業に応じて資料を準備する）	参考書	授業の最初に指示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー：水曜　11：50～13：00		

授業科目名	生涯学習概論A Introduction to Lifelong Learning A (L.)				担当教員	門真　洋
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、生涯学習の理念を確認したうえでわが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題についての説明を行なう。

授業の一般目標

生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。 2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。
■	情意的領域	生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみすえての学習をすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修するうえでどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう（よって、上記の認知的領域に重点を置く）。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する。	⑨	[テーマ] 生涯学習関連行政の仕組み [内容] 生涯学習振興のための行政の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
②	[テーマ] 生涯学習とは何か [内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑩	[テーマ] 社会教育行政の役割と組織 [内容] 社会教育行政の果たすべき役割とその組織について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
③	[テーマ] 社会教育とは何か [内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑪	[テーマ] 社会教育関係団体と社会教育行政 [内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
④	[テーマ] 近代日本の社会教育(1) [内容] 明治期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑫	[テーマ] 生涯学習と社会教育施設 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育施設についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑤	[テーマ] 近代日本の社会教育(2) [内容] 大正期および昭和戦前・戦中期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑬	[テーマ] 生涯学習と社会教育職員 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育職員についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑥	[テーマ] 戦後日本の社会教育 [内容] 戦後日本の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑭	[テーマ] 社会教育と家庭教育・学校教育 [内容] 社会教育と家庭教育および学校教育という三つの教育領域の関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑦	[テーマ] 生涯学習政策の展開 [内容] 1980年代からのわが国の生涯学習政策の展開について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑮	[テーマ] 生涯学習と社会教育をめぐる諸問題 [内容] 生涯学習と社会教育についての近年の課題について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑧	[テーマ] 生涯学習の内容と方法 [内容] わが国で展開される生涯学習活動の内容と方法の具体的な状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく。

成績評価方法（方針）

上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評を付して返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論B（2年）、教育社会学（2年）、社会教育計画A（3年）、社会教育演習A（3年）、社会教育計画B（4年）、社会教育演習B（4年）		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行なうこと。		

授業科目名	生涯学習概論B Introduction to Lifelong Learning B (L.)				担当教員	門真　洋
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題および関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館における諸実践を紹介していく。

授業の一般目標

人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心を持ち主体的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。
■	情意的領域	社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容をふまえて社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する。	⑨	[テーマ] ジェンダーと社会教育(1) [内容] ジェンダーの問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
②	[テーマ] 家庭教育と社会教育(1) [内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑩	[テーマ] ジェンダーと社会教育(2) [内容] ジェンダーの問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
③	[テーマ] 家庭教育と社会教育(2) [内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑪	[テーマ] ジェンダーと社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
④	[テーマ] 家庭教育と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑫	[テーマ] 高齢化と社会教育(1) [内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑤	[テーマ] 青少年問題と社会教育(1) [内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑬	[テーマ] 高齢化と社会教育(2) [内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑥	[テーマ] 青少年問題と社会教育(2) [内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑭	[テーマ] 高齢化と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑦	[テーマ] 青少年問題と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑧	[テーマ] レポート作成(1) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく。	⑯	[テーマ] レポート作成(2) [内容] 授業内容全般に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく。

成績評価方法（方針）

前半終了時と学期末にレポートを課す（評価割合100％）。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。レポートは講評を付して返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎		100%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行なうこと。		

授業科目名	社会教育計画A Social Education Planning A(L.)				担当教員	針生　弘・郡山　孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画のあり方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。

授業の一般目標

生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育計画を作成できる。
■	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育施設計画(3) [内容] 博物館の役割について説明する。 [授業外学習] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割 [内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育施設計画(4) [内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画 [内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育施設計画(5) [内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
④	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1) [内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 社会教育施設計画(6) [内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ) [授業外学習] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2) [内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介) [授業外学習] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 社会教育施設計画(7) [内容] 社会体育施設の役割について説明する。 [授業外学習] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成 [内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習) [授業外学習] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。	⑭	[テーマ] 社会教育施設計画(8) [内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ) [授業外学習] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育施設計画(1) [内容] 公民館の役割について説明する。 [授業外学習] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑮	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画 [内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育施設計画(2) [内容] 図書館の役割について説明する。 [授業外学習] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。その結果については，提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	「社会教育計画B」		
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先	針生研究室、郡山研究室		

授業科目名	社会教育計画B Social Education Planning B(L.)				担当教員	郡山　孝幸・針生　弘
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育事業のあり方や、学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに紹介する。

授業の一般目標

社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実際について具体的に思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育事業の企画と実践について考えることができる。
■	情意的領域	社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。
■	技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。

授業計画（全体）

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特色を知るために，生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通し，主体的な取り組みを促す。理解度，到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育事業の展開(8) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 社会教育事業の展開(1) [内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育事業の展開(9) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ) [授業外学習]「高齢者教育」の実際について考えておくこと。
③	[テーマ] 社会教育事業の展開(2) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育事業の展開(10) [内容]社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する) [授業外学習]「生涯学習センター」の実際について考えておくこと。
④	[テーマ] 社会教育事業の展開(3) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1) [内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 社会教育事業の展開(4) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2) [内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 社会教育事業の展開(5) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑭	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3) [内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する) [授業外学習]「学校支援地域本部」の実際について考えておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育事業の展開(6) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑮	[テーマ] 社会教育主事の役割 [内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学習] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育事業の展開(7) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先	郡山研究室(LC棟2階)針生研究室(A棟3階)		

授業科目名	社会教育演習A Seminar on Social Education A(S.)				担当教員	門真　洋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。1. わが国の生涯学習、社会教育を考えるうえで比較の対象とすべきいくつかの国をとりあげて、それぞれの国の生涯学習の特質をその社会状況と関連させながら考察する。2. 諸外国との比較の視点を取り入れながら、わが国の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。

授業の一般目標

(1)授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について理解する。
(2)上記の国々の生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考察することができる。
(3)上記の国々の生涯学習の基本的状況と比較しながら、わが国の生涯学習、社会教育について主体的に考察することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について説明できる。
■	情意的領域	授業でとりあげるいくつかの国およびわが国の生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめて発表することができる。

授業計画(全体)

オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する。	⑨	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(1) [内容] 外国人居住者の問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコと生涯教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑩	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(2) [内容] 非識字問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「OECDのリカレント教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑪	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(3) [内容] 青少年問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
④	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコの学習権宣言」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑫	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(4) [内容] ジェンダーの問題(特に女性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
⑤	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(1) [内容] 発展途上国(アフリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。	⑬	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(5) [内容] ジェンダーの問題(特に男性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
⑥	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(2) [内容] 発展途上国(アジア)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。	⑭	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(6) [内容] 高齢者問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
⑦	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(3) [内容] 先進国(ヨーロッパ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。	⑮	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(7) [内容] 社会教育施設に関する問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。
⑧	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(4) [内容] 先進国(アメリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について事前に十分考察する。発表者は原稿を作成する。	⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容、毎回の授業のまとめとして全員に書いてもらう小レポートの内容および期末のまとめのレポートの内容により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメント・小レポートについては授業中に講評し、期末のまとめのレポートについては講評を付して返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	非常勤講師であるので連絡は教育企画室を通して行なうこと。		

授業科目名	社会教育演習B Seminar on Social Education B(S.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。
1.「地域社会と教育」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。
2.「学社融合」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。

授業の一般目標

(1)「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。
(2)「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
(3)上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
■	情意的領域	上記の分野に関心を持ち、関連する論文の講読をとおして主体的に考察できる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的にまとめて発表することができる。

授業計画(全体)

演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを書いてもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する。	⑨	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑩	[テーマ] 基本的事項の講義(4) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑪	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。
④	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。	⑫	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。
⑤	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。	⑬	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。
⑥	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。	⑭	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。
⑦	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。	⑮	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。
⑧	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(5) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 使用する教材の内容について授業前に十分考察しておく。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 前回のレポート内容についての講評をしながらこの演習のまとめを行なう。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業における発表・コメントの内容、各回の授業内容についての小レポートの内容および期末のまとめのレポートの内容により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメント・小レポートについては授業中に講評し、期末のまとめのレポートについては講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行なうこと。		

授業科目名	教育社会学 Sociology of Education (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について教育社会学の理論の紹介を交えながら概説する。また、各領域の教育活動の事例として特に社会教育施設における諸実践を紹介して、現代社会における社会教育の課題について説明する。

授業の一般目標

(1)現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
(2)上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
■	情意的領域	上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的状況の説明をし、それをふまえて社会教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する。	⑨	[テーマ] 平和・人権問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
②	[テーマ] グローバリゼーションと教育(1) [内容] グローバリゼーションに関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑩	[テーマ] 環境・開発問題と教育(1) [内容] 環境・開発問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
③	[テーマ] グローバリゼーションと教育(2) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑪	[テーマ] 環境・開発問題と教育(2) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
④	[テーマ] グローバリゼーションと教育(3) [内容] グローバリゼーションと教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑫	[テーマ] 環境・開発問題と教育(3) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑤	[テーマ] グローバリゼーションと教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑬	[テーマ] 環境・開発問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑥	[テーマ] 平和・人権問題と教育(1) [内容] 平和・人権問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑭	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] ここまで扱ったさまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。
⑦	[テーマ] 平和・人権問題と教育(2) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑮	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく。
⑧	[テーマ] 平和・人権問題と教育(3) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] テスト問題の解説およびテスト結果についての講評を行ないながら、授業全体のまとめを行なう。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行なうこと。		

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。

授業の一般目標

憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

シラバスに挙げた事項につきテキストの関係個所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ・ 導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審（最大判昭42・5・24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位：最高法規性の意味 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8）、 津地鎮祭事件（最大判昭52・7・13） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） 尊属殺重罰違憲判決（最大判昭48・4・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、 日産自動車事件（最判昭56・3.24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、 板まんだら事件（最判昭56・4・7） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件（最判昭56・3.24） 三菱樹脂事件（最大判昭48・12・12） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、 警察予備隊違憲訴訟 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

テキストを必ず授業で携行すること。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	ワンステップ憲法（嵯峨野書院）	参考書	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	生活文化論 Culture of Living				担当教員	高成田 享
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	福祉レクリエーション・ワーカー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

料理、スポーツ、レジャー、習い事など生活に根差した文化を考えることで、人生を享受できる生活の方法を身に着ける。

授業の一般目標

いろいろな生活文化について、多面的多角的に学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな生活文化を知る
■	情意的領域	人生を豊かにする生活文化の楽しみを学ぶ
■	技能表現的領域	いろいろな生活文化の方法を学ぶ

授業計画(全体)

講義形式で進めるが、できるだけディスカッションの機会をふやしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]生活文化論とは何か 講義概要の紹介 [授業外学習]日常のなかから「生活文化」をさがす	⑨	[テーマ] 人生のステージと生活文化(上) [内容] 子供時代、青年時代、壮年時代、老年時代のそれぞれの人生のステージおける生活文化のありかたを考える [授業外学習]自分の人生の過去、現在を思い返す
②	[テーマ]食文化 [内容] 生活文化のひとつとしての食文化 [授業外学習]自分の育った地域の郷土料理を調べる	⑩	[テーマ] 人生のステージと生活文化(下) [内容] 同上 [授業外学習]ジブの未来の生活を描く
③	[テーマ] ファッション [内容] 文化としての衣類の歴史と現在 [授業外学習]ファッショナブルな服とは何かを考える	⑪	[テーマ]余暇について(上) 「余暇」という概念がいつから登場したのかなど、余暇の歴史を追う [授業外学習]自分にとって「余暇とな何か」を考える
④	[テーマ] 家と部屋 [内容] 生活文化としての住環境について考える [授業外学習]実家の間取りと、それぞれの機能を調べる	⑫	[テーマ]余暇について(中) レクリエーション、レジャー、スポーツなど余暇の形態を調べる [授業外学習]自分の経験したレクリエーションやレジャーを考える
⑤	[テーマ] 家具、室内装飾、道具 [内容] 生活を彩る「もの」について考える [授業外学習]実家または自分の部屋にある家具の機能とデザインを考える	⑬	[テーマ]余暇について(下) 余暇の活かし方 [授業外学習]自分の将来に余暇の過ごし方を描く
⑥	[テーマ]「サザエさん」を読む [内容] 長谷川町子の『サザエさん』に学ぶ生活文化 [授業外学習]『サザエさん』を読んで、現在の生活との相違を考える	⑭	[テーマ]まとめと論文の書き方 講義全体のまとめと、論文の書き方 [授業外学習]これまで学習した内容をいくつかの小論文にまとめる
⑦	[テーマ] 年中行事 [内容] 生活文化から見た年中行事 [授業外学習]自分の育った地域や実家での年中行事を調べる	⑮	[テーマ]小論文 これまで学んだことについて、小論文を作成し、定期試験とする [授業外学習]生活文化にかかわる本を読む
⑧	[テーマ] 家事と育児 [内容] 生活文化から見た家事と育児 [授業外学習]自分の家のしきたりやルールを考える	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席と、毎回のレポート及び最終授業での小論文で評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				50%
授業内レポート	◎	◎	◎	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席	◎			

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席を重視します。ノートを必ず用意してください。私語厳禁。退出を命じた学生には単位を出しません。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	toru@takanarita.com		

授業科目名	文章表現論Ⅰ Academic Writing Ⅰ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・大宮勇雄・小野寺和也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

文章は、「文は人なり」と言われるように、書き手の全人格が集約されるものである。自己表現の重要な手段として様々な文章表現に習熟することを目的とする。

授業の一般目標

文章の書き方の基本的な考え方と技能を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方の理論を理解し、書く力を身に付ける。自由作文、課題作文①、課題作文②、書簡文(手紙、封筒、ハガキ、往復ハガキなど)、自分史、詩歌創作(俳句、短歌、詩)、研究論文(テーマを自分で決めて書く簡易な論文)などを書く。また、語彙力を身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章の書き方の理論を理解する。より多くの言葉の使い方を知る。
■	情意的領域	文章表現に意欲的かつ真剣に取り組む。日本語に対する強い興味・関心を持つ。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟する。より多くの漢字を読み書きできる。

授業計画(全体)

全体として、様々な文章表現に習熟するように、文章を書くことの意味、書き方の基本などについて説明する。自由作文については、最も書きたいテーマを自分で決め800字詰め原稿用紙に書くこと。課題作文①、②については、読解力、思考力、表現力、判断力を身に付けるために、テーマに基づき、小論文としてまとめること。書簡文では、書き方の基本を理解すること。自分史は自分のアイデンティティの確立を目指すこと。詩歌の創作では鑑賞会を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、言葉シリーズの説明、成績評価の方法、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 「自分史」1(他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容] これまでの自分を振り返り800字詰め原稿用紙2枚にまとめる。書簡文2の返却。言葉シリーズ7の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
②	[テーマ]文章についての考え方 [内容] 様々な文章についての説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文の題材について考える。	⑩	[テーマ] 「自分史」2(他) [内容] 自分史をまとめる。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 自由作文についての説明。各自で最も書きたいテーマを決め、原稿用紙にまとめる。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2の題材をについて考える。 言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作(俳句、他) [内容] 俳句(他)の作り方を説明する。俳句(他)を作る。添削した履歴書を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2をまとめる。添削した自由作文1を返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]詩歌創作について。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 一字の題(習、空、器から選択)に基づき800字で書く。添削した自由作文2を返す。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 詩歌(作品集鑑賞) [内容] 俳句(他)、短歌(他)の作品を作者が読み上げ相互に鑑賞し合う。添削した短歌(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]次回の研究論文のテーマについて考えておく。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 資料を読んでテーマに沿って800字にまとめる。添削した課題作文①を返す。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]手紙を出す相手について考えること。言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文の書き方を説明する。各自のテーマに基づき、図書館、パソコン室等で情報収集する。授業の感想。 [授業外学習]研究論文についてまとめる。
⑦	[テーマ] 書簡文1 [内容] 書簡文の書き方の説明。手紙や封筒を書く。添削した課題作文②を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文を完成させる。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が振り返る。
⑧	[テーマ] 書簡文2 [内容] ハガキ、往復ハガキを書く。添削した書簡文1を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]次回の履歴書の書き方を確認すること。言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出された作品は(授業内で)解説しながら返却する。提出された作品の内容、授業への取組み状況などを総合的に見て成績評価を行う。その場合、作品が70%、授業への取組み状況を30%とする。なお、出席状況については、原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
石垣は基礎が最も重要。一カ所でも手を抜けばもろくも崩れ去ります。1回でも欠席すれば基礎の部分に手抜きができることになるので注意しましょう。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F(オフィスアワー月曜日14:20～15:50)、齋藤博研究室E棟2F		

授業科目名	文章表現論Ⅱ Academic Writing Ⅱ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・大宮勇雄・小野寺和也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

原則として、文章表現論Ⅰを履修済みの受講生を対象とする。Ⅰよりも、より内面的・思索的・感性的な文章を目指すことを目的とする。

授業の一般目標

Ⅰで学習し身に付けた文章の書き方の基本的な考え方と技能を踏まえ、更に上の段階を目指し、文章力、語彙力を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方を習得し、書く力を養う。自由作文、課題作文①、課題作文②、履歴書等の書き方、童話・短編小説の創作、書簡文(手紙、ハガキ、年賀ハガキ)、詩歌創作(俳句、短歌、詩)。一方、語彙などを更に多く身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章をより完成度の高いものにする。より広範な言葉についての活用力を身に付ける。
■	情意的領域	文章表現に積極的かつ意欲的に取り組む。日本語に対する興味・関心をより高める。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟することを目指す。より多くの漢字や言葉の使い方ができる。

授業計画(全体)

様々な文章の書き方に関してより理解を深めるようにし、書き方の工夫などができるようにする。自由作文については、各自現在最も関心を抱く人生上の事柄に関するテーマで800字の原稿用紙に書くこととする。課題作文①、②については、内面的な思索を深め、感性を磨き、自分の考えとして的確に表現できるようになることを目指す。書簡文では日本の文化としての形式についても考えるよう指示する。どの場合でも、提出作品は添削し、受講生と面談して返す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、言葉シリーズの説明、成績評価の説明、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスをよく確認すること。	⑨	[テーマ] 童話、短編小説等 [内容] 童話または短編小説を仕上げる。授業の感想。 [授業外学習] 次回の詩歌創作(俳句、短歌、詩、他)について想を練る。
②	[テーマ] 文章についての考え方 [内容] 様々な文章をよりよく書くための心構えについて説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文について考える。	⑩	[テーマ] 詩歌創作1(俳句、他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容]俳句(他)のつくり方の説明。俳句(他)を作る。感想を付して、童話、短編小説を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]短歌(他)について想を練る。言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 人生上の課題について内面的な思索を深めた上での自由作文について説明。原稿用紙に書く。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2について想を練る。言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作2(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]詩について想を練る。言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2を書く。添削した自由作文1を面談して返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作3(詩) [内容] 詩について説明する。詩作する。添削した短歌(他)を返す。言葉シリーズ7を学習する。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 論理的な文章を読み、その内容に基づいて思索を深め、自分の考えとして論理的にまとめる。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 書簡文1 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキの書き方を説明する。手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した詩を返す。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 図表から読み取れることをまとめ、そのことについて自分の考えを書く。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 書簡文2 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した手紙等を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑦	[テーマ] 履歴書Ⅰ [内容] 就職活動のために必要な履歴書の書き方について学び実際に書いてみる。〔授業外の指示等〕 次回の自己PRについて予習する。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 詩歌の作品鑑賞会 [内容]受講生が創作した俳句、短歌の作品集を鑑賞する。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が総括する。
⑧	[テーマ] 履歴書Ⅱ [内容] 自己分析をし、更に自己PRとしてまとめる。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出された作品は(授業内で)解説しながら返却する。提出作品の状況、授業への取組み状況などを総合的にみて成績評価を行う。その割合は、提出作品70%、授業への取組み状況30%とする。なお、出席状況は原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
ひたすら「書く」ことです。とにかく実際に文章を書き、書き込むことによって書く力が身に付くようにしましょう。自分の実力をつける授業だと思って下さい。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F(オフィスアワー月曜日14:20～15:50)、齋藤博研究室E棟2F		

授業科目名	データ処理の基礎 Fundamentals of Data Processing （L. ）				担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

実証的研究において得られるデータは、そのままの形では何を示唆しているかわかりにくい。それらをまとめ、見やすくわかりやすい形にするのがデータ処理であると言える。本講では表計算アプリケーションを用いてこれらのデータ処理の技法を練習、検討する。

授業の一般目標

データにふさわしい処理（代表値、グラフなど）ができる。またそれらを正しく読み取れる。

授業の到達目標

■	認知的領域	表計算ソフトを活用することができる。また、それらにより代表値を算出することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	各種代表値を見やすく、また趣旨をわかりやすくグラフ化することができる。

授業計画（全体）

表計算アプリケーション（EXCEL）の操作方法をまず行い、それらに習熟した後、身近な事例等によって実際に処理技法を適用してみることを通じて、初歩的統計手法の概略を理解してもらう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション：表計算スキル調査（準備） [内容] 本授業について概説し、今後獲得する必要のあるスキルを提示するとともに、次週に予定するEXCELのスキルを確認するための調査の準備を行う。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑨	[テーマ] スキル調査②（プレゼンテーション） [内容] 各自の報告課題について相互評価を行い、スキルの獲得と向上に向けた自律サイクルの目標を検討する。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。
②	[テーマ] 表計算スキル調査 [内容] EXCELを含めたICTスキルについて、受講前の状況を各自で把握しておくための調査を行い、履修の目標設定を検討する。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑩	[テーマ] 計時データによるデータ処理の実例 I [内容] ストップウォッチを用いた実験データをもとに、各種代表値により検討する。 [授業外学習] 様々なグラフを作ってみてください。
③	[テーマ] 表計算スキルアップ練習 I：番地計算など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑪	[テーマ] 計時データによるデータ処理の実例 II [内容] ストップウォッチを用いた実験データによる検討結果を確認する。 [授業外学習] 検討方法ならびに検討論理について確認しなさい。
④	[テーマ] 表計算スキルアップ練習 II：関数など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑫	[テーマ] 書字実験データによるデータ処理の実例 I [内容] 実験データをもとに、相関、相関係数を学ぶ。 [授業外学習] 様々なグラフを作ってみてください。
⑤	[テーマ] 表計算スキルアップ練習 III：グラフなど [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑬	[テーマ] 書字実験データによるデータ処理の実例 II [内容] 実験データをもとに、検定の手順を学ぶ。 [授業外学習] 検定の流れと検定結果の表現についてまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 表計算スキルアップ練習 IV：データベース機能など [内容] EXCELのスキルアップのためのテキストに基づき、各自のペースで練習を行う。 [授業外学習] テキスト以外でも利用可能となるよう、復習してください。	⑭	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例 I [内容] 調査データをもとに、単純集計その他の表現方法を学ぶ。 [授業外学習] 集計の手順についてまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 表計算スキルアップ練習 V：さまざまなグラフ表現とその特徴 [内容] 各種のグラフを取り上げ、その特徴と主な利用法について説明する。 [授業外学習] 復習を中心に。様々なデータに適当なグラフを考えること。	⑮	[テーマ] 質問紙データによるデータ処理の実例 II [内容] 調査データまとめを通じ、結果からの結論をまとめてみる。 [授業外学習] 分析内容、目的について確認しておくこと。
⑧	[テーマ] スキル調査①（表計算） [内容] 表計算スキルを測定するための授業内テストを行い、解答解説を通じ、確実なものとする。 [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について、お互いの評価を目的とした情報獲得作業の一環としてテストを行う。

成績評価方法（方針）

スキル調査のレポートや試験のほか、授業内・外レポートなどを評価する。レポート等はコラボレーションウエア上で共有し、相互評価を行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする（欠席多の場合には評価対象としない）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			20%
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

データ処理の主な手段となる表計算アプリケーションと、能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

※その他の注意
実習室の定員の都合上、履修人数によっては実施クラスの編成を行う場合もある。
学内メールの利用が必要になるので、事前にアカウントの確認をしておくこと。
「情報処理」の単位を修得済みであることが望ましい

関連科目			
教科書		参考書	荒井ら著　手足を動かすEXCEL巡検（自作教材）
連絡先	4体1F　内野研究室　オフィスアワー　火曜14:20-15:50		

授業科目名	メディア・リテラシー実習 Media Literacy				担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

YouTubeの「やってみたシリーズ」等を含め、音声や映像番組の制作・発信する側の視点を体験することにより、受動的にとどめてしまいがちなメディアからの情報を、客観的・合理的に理解する能力を高める。

授業の一般目標

ICTなどによるメディアを用いた情報の受発信が適切に行えるようになる。また、メディアからの情報について客観的な情報判断ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	メディア関連のアプリケーションを活用することができる。
■	情意的領域	客観的な表現ができる。また、客観的に受けとめる事ができる。
■	技能表現的領域	合理的な情報伝達が行なえる。

授業計画（全体）

コンピュータに限らず、映像等を含めたマルチメディア情報の操作技能およびそれらの取り扱いについて総合的に学習する。
主には、軽微な番組制作を目指し、計画・立案から相互批評にいたるまでの一連の実習と、専門家の情報（実際の聴視または書籍から）などを有効に活用して学習を進めていく。
なお、下記授業計画は、動画作成を教材とした場合の内容である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションと授業準備 [内容] 事前説明と授業準備、用具準備などについて [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑨	[テーマ] 映像番組の作成3 [内容] 絵コンテや台詞など、台本の作成と検討を行う [授業外学習] 効率良く作業できるよう、復習してください。
②	[テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成1 [内容] コンテンツ作成の計画と検討を行なう [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑩	[テーマ] 映像番組の作成4 [内容] 撮影場所の設定やカメラワークなどの検討を行う [授業外学習] 効率良く作業できるよう、復習してください。
③	[テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成2 [内容] 絵コンテや台詞の作成と検討を行なう [授業外学習] 効率良く作業できるよう、復習してください。	⑪	[テーマ] 映像番組の作成5 [内容] リハーサルの実施と撮影計画の検討を行う [授業外学習] リハーサルの結果や撮影計画について再確認をしてください。
④	[テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成3 [内容] 背景やキャラクタの設定について検討を行なう [授業外学習] 効率良く作業できるよう、復習してください。	⑫	[テーマ] 映像番組の作成6 [内容] 撮影準備と番組撮影の実施1 [授業外学習] 実施結果を振り返り、整理して下さい。
⑤	[テーマ] 教材アプリケーションによる番組の作成4 [内容] アプリケーションツールに簡易番組の作成情報を設定し番組作りを行なう [授業外学習] 効率良く作業できるよう、復習してください。	⑬	[テーマ] 映像番組の作成7 [内容] 撮影準備と番組撮影の実施2 [授業外学習] 実施結果を振り返り、整理して下さい。
⑥	[テーマ] プレゼンテーションと相互評価1 [内容] 各自の作品について、相互評価を行なう [授業外学習] 相互評価の結果を元に、復習してください。	⑭	[テーマ] プレゼンテーションと相互評価2 [内容] 各自の作品について、相互評価を行なう [授業外学習] 相互評価の結果を振り返り、整理して下さい。
⑦	[テーマ] 映像番組の作成1 [内容] ビデオカメラの操作・撮影方法を学習する [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 相互評価を参考に撮影計画と内容の再確認を行い、内容を整理する [授業外学習] 実施結果を振り返り、整理して下さい。
⑧	[テーマ] 映像番組の作成2 [内容] コンテンツ作成の計画と検討を行なう [授業外学習] 復習を中心にしてください。	⑯	[テーマ] （レポート提出） [内容] アニメーション作品、映像作品、撮影計画の提出

成績評価方法（方針）

課題提出状況と出席状況を単位認定の必要条件とし、成績は各課題の内容によって評価する。レポート等はコラボレーションウエア上で共有し、相互評価を行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				対象としない
授業内レポート	○	◎	◎	100%
授業外レポート	○	○		欠格条件
演習・実技			○	加減点要素
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・「情報処理」の履修が完了していること（学内メールが使えること）
・実習室にて講義と操作実習を実施する
・履修人数によっては、講義と実習部門を交互に実施する場合がある
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

※なお、能動的学習環境の支援を意図するコラボレーションウェアの活用を前提とするので、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	4体1F　内野研究室　オフィスアワー　火曜14:20-15:50		

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)				担当教員	藪　耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

広義のスポーツについて、歴史学的観点から講述する。とりわけ本講義では、①現代に繋がる“modern”としての近代、②スポーツのイデオロギー的性格、に主眼を置くことで、単なる知識としてのスポーツの歴史ではなく、歴史を通じてスポーツの今日的な課題をクリティカルに問う力を養うことを目的とする。

授業の一般目標

①スポーツの歴史的な変遷について、人類の歴史的展開過程と関連づけて理解することができる。
②近代スポーツが誕生した理由および歴史的意味について説明することができる。
③スポーツの歴史的意味や役割を批判的に検討することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	各時代の体育・スポーツの特徴や、基本知識について説明することができる。
■	情意的領域	歴史について関心をもつ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義は、身体運動文化の歴史的変遷過程を時系列的に辿りながら、その文化の基底を成す歴史と社会のあり方を問う。つまり、各時代の特徴的な身体運動文化を基点に、その文化を定位する特定の様式、および文化を取り巻く諸要素から、各時代・社会のありようを探りたい。なお授業では映像や画像資料も多用するが、基本はレジュメに従うので、毎回持参するのを忘れないようにすること。また授業時間確保の観点から、レジュメは原則として②・⑤・⑨・⑫回のみ配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ スポーツの歴史を学ぶ意味 ［内容］ なぜ現代社会に生きる私たちがスポーツの歴史を知る必要があるのかを考える。 ［授業外学習］ 図書館でスポーツ史関連の書籍を探して読む	⑨	［テーマ］ 国民と体育 ［内容］ 国民国家の誕生と公教育としての体育 ［授業外学習］ フリードリヒ・ヤーンという人物を調べる
②	［テーマ］ 古代ギリシャのスポーツ ［内容］ 古代オリンピックの成立と展開 ［授業外学習］ 古代オリンピックについて調べてみる	⑩	［テーマ］ スポーツと市民 ［内容］ 労働者階級とスポーツクラブ ［授業外学習］ プロスポーツ選手の誕生について調べてみる
③	［テーマ］ 古代ギリシャの体育 ［内容］ プラトンの体育思想 ［授業外学習］ 体育の歴史を調べてみる	⑪	［テーマ］ 帝国主義とスポーツ ［内容］ クーベルタンと近代オリンピック ［授業外学習］ ピエール・ド・クーベルタンという人物を調べてみる
④	［テーマ］ 古代ローマの余暇と政治 ［内容］ パンとサーカス ［授業外学習］ 映画「ベン・ハー」を鑑賞する	⑫	［テーマ］ 近代日本におけるスポーツ受容① ［内容］ 日本における体育・スポーツの展開 ［授業外学習］ 明治・大正時代について簡単な予習をしておく
⑤	［テーマ］ 中近世の民衆娯楽① ［内容］ マス・フットボールとは何か？ ［授業外学習］ マス・フットボールについて調べてみる	⑬	［テーマ］ 近代日本におけるスポーツ受容② ［内容］ スポーツと思想善導 ［授業外学習］ 戦争とスポーツの関係について調べてみる
⑥	［テーマ］ 中近世の民衆娯楽② ［内容］ マス・フットボールの衰退要因と近代化 ［授業外学習］ 近代化ということばについて調べてみる	⑭	［テーマ］ 近代日本と武道 ［内容］ 「創られた伝統」としての武道 ［授業外学習］ 武道と武術の違いを調べてみる
⑦	［テーマ］ 福音主義と合理的娯楽 ［内容］ パブリックハウスとブラッディスポーツ ［授業外学習］ 動物愛護の歴史について調べてみる	⑮	［テーマ］ テスト① ［内容］ 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する ［授業外学習］
⑧	［テーマ］ スポーツと教育 ［内容］ パブリックスクールにおけるスポーツ ［授業外学習］ 「ラグビー校」について調べてみる	⑯	［テーマ］ テスト② ［内容］ 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する ［授業外学習］

成績評価方法（方針）

定期試験を重視する（90点満点）。その他、自学自習も評価する（10点）。自学自習は自発的な学習意欲に基づくレポートであり、テーマはスポーツと歴史・社会に関するものなら何でも良い。従って提出は任意であり、書式その他も全て自由とする。但し、活用した情報源の提示は必須とし、また盗用は一切認めない。提出されたレポートは可能な限り授業時に解説を交えて返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	—	90%
授業内レポート	—	—	—	評価対象外
授業外レポート	○	○	○	10%
演習・実技	—	—	—	評価対象外
授業態度	○	○		減点対象
出席	△	◎	—	減点対象

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業の進行を妨げる行為、特に私語は厳禁とし、場合によってはペナルティを課す。また高等教育である以上、講義内容は相当に高度であり、真剣な態度での受講と、積極的なノートテイクは必須である。ただし、質問などには必ず真摯に対応する。教員からの教えを待つのではなく、教員と学生とが相互に高めあう関係を期待したい。なお、プリント配布時（講義時間）に取り損ねた場合は、アップローダー（http://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/）から各自でダウンロード＆プリントアウトすること（教員を頼らない）。パスワードはsportshistory。なお、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	人文社会系科目全般		
教科書	使用しない	参考書	使用しない（授業時間内に適宜紹介する）
連絡先	kt-yabu@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツ政策論 Sport Policy(L.)				担当教員	荒牧　亜衣
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーションコーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツ政策の理論と制度について説明し、主に国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について講義を行う。具体的な政策課題を取り上げながら、スポーツに関する政策の主体と構造を踏まえ、その決定プロセスについて解説する。

授業の一般目標

国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的な知識を修得し、スポーツ政策をめぐる諸問題について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的知識を身につけ、特に日本におけるスポーツ政策の現状と課題について説明できる。
■	情意的領域	スポーツ政策の視点から、身近なスポーツ事業に興味を持つことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

資料を用いた講義を中心とする。スポーツ政策の理論と制度について解説した後、国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について説明する。授業内課題に個人やグループで取り組むことにより理解を深める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツ政策とは [内容] 授業の概要、進め方について説明する。また、政策科学という領域ついて紹介しながら、スポーツ政策とは何かについて紹介する。 [授業外学習]政策とは何か発表できるようにしておくこと	⑨	[テーマ] 国によるスポーツ政策(4) [内容] 日本の学校体育政策について、特に運動部活動の政策的展開と体育教員をめぐる諸課題について解説する。 [授業外学習]運動部活動とは何かについて発表できるようにしておくこと
②	[テーマ] 日本のスポーツ行政組織 [内容] 日本のスポーツ行政組織を対象に、国と地方公共団体のスポーツ行政組織について説明する。 [授業外学習]スポーツに振興に関わる関連中央省庁について調べておくこと	⑩	[テーマ] 地域のスポーツ政策(1) [内容] 地方自治体のスポーツ行政について説明する。また、国民体育大会の現状と課題についても解説する。 [授業外学習]国民体育大会の歴史について調べておくこと
③	[テーマ] スポーツ政策の形成過程 [内容] スポーツ基本法について紹介し、国レベルと地方公共団体におけるスポーツ政策の形成過程について説明する。 [授業外学習]スポーツ基本法の前文を読んでおくこと	⑪	[テーマ] 地域のスポーツ政策(2) [内容] 地方自治体によるスポーツ産業振興について、プロ・スポーツチームの誘致やスポーツイベント開催等の事例を用いて解説する。 [授業外学習]地方自治体によるスポーツ産業振興の事例を調べておくこと
④	[テーマ] スポーツ政策の体系と実施 [内容] 日本のスポーツの行政計画について説明し、諸外国のスポーツ振興計画についても紹介する。 [授業外学習]自分が関心のある国のスポーツ振興計画について調べておくこと	⑫	[テーマ] スポーツの資格と雇用 [内容] 日本におけるスポーツに関わる資格について説明する。特に、日本体育協会の資格認定制度について紹介する。 [授業外学習]スポーツに関わる資格にどんなものがあるか調べておくこと
⑤	[テーマ] スポーツ政策の主体と構造 [内容] 日本のスポーツ統括団体の役割を中心に、スポーツ政策の主体とその構造について説明する。 [授業外学習]日本のスポーツ統括団体について調べておくこと	⑬	[テーマ] スポーツの国際政策 [内容] ヨーロッパを中心に、国際的なスポーツに関わる憲章等について紹介するとともに、国際連合のスポーツ政策についても解説する。 [授業外学習]政策の評価とはどのようなことか説明できるようなること
⑥	[テーマ] 国によるスポーツ政策(1) [内容] スポーツの公共性という視点から、生涯スポーツという概念や日本の健康体力政策について説明する。 [授業外学習]生涯スポーツという概念について調べておくこと	⑭	[テーマ] オリンピックと政策 [内容] オリンピック競技大会の招致等のプロセスについて説明し、スポーツ政策の視点からオリンピック・ムーブメントについて解説する。 [授業外学習]諸外国におけるスポーツ政策について説明できるようになること
⑦	[テーマ] 国によるスポーツ政策(2) [内容] 日本の競技スポーツ政策について説明する。また、アンチ・ドーピング政策についても解説する。 [授業外学習]アンチ・ドーピングに関する活動について調べておくこと	⑮	[テーマ] テスト① [内容] 事前に出題された課題に関連する論述試験を行う。 [授業外学習]出題された課題に取り組むこと
⑧	[テーマ] 国によるスポーツ政策(3) [内容] 日本のスポーツ施設の現状と政策課題について解説する。また、スポーツ施設の設置基準と整備計画、管理運営についても説明する。 [授業外学習]日本のスポーツ施設の現状について調べておくこと	⑯	[テーマ] テスト② [内容] 授業の理解度を確認するため、筆記試験を行う。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

テスト(50%)、授業内課題(30%)、授業外課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	○	◎		30%
授業外レポート	○	◎		20%
演習・実技				
授業態度		○		加点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業は静粛を条件とし、質問に対しては積極的に発言すること。
・授業計画は、進捗状況により変更することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツ社会学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツクラブマネジメント論(3年)		
教科書	指定しない	参考書	菊幸一ら編(2011)スポーツ政策論. その他授業中に適宜紹介する。
連絡先	荒牧亜衣(A棟510)　ai-aramaki@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スキーⅡ SkiⅡ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦　岡田 成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スキーⅠで修得した技能を踏まえ、スキーの理論や運動特性を学習すると共に応用技術の修得へと発展させていく。
実習は1月中旬の期間において2泊3日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。

授業の一般目標

修得技能は、スキーⅠで初めてスキーを行った者でも全日本スキー連盟バッヂテスト2級を目標とする。スキー経験の長い者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。

授業の到達目標

■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。

授業計画(全体)

技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。
ナイタースキーも実施する。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
　授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。
　各自の技能評価用紙を提出させる。

2. 実習
　①開講式
　　ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。
　③実技
　　全体で班分けを行い、正式の講習班を編成する。
　　講習班の決定後は、各班毎に講習を実施する。
　　1)パラレルターン(大回り):スキッディング、カービング
　　2)パラレルターン(小回り):スキッディング、カービング
　　3)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り
　　4)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース
　④閉講式

成績評価方法(方針)

修得技能と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. スキーⅠの単位修得者に限る。
2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。
3. オリエンテーションは11月中～下旬を予定。
4. 実習費は、25000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。
5. 必ずカービングスキーを準備すること。レンタルの取り扱いはない。
6. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	スキーⅠ(1年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階　55-3002(研究室直通)　hr-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	マリンスポーツⅠ Marine Sports Ⅰ(P.A.)				担当教員	高橋　弘彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	NAUI SCUBA DIVER
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

マリンスポーツの1つであるスクーバダイビングを実施する。はじめにコンファインドウォーター(プール)において基本的な潜水技術を習得し、それを基にオープンウォーター(海洋)において応用技術を習得する。またスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学に関する知識も習得する。オープンウォーター実習(海洋実習)は、山形県鶴岡市にて実施する。

授業の一般目標

スクーバダイビングに必要な水中技能を習得し、水中における物理学、生理学、医学等の分野について理解することにより、各自で安全にオープンウォーターでのダイビング活動が行えるようになる。
同時にNAUI SCUBA DIVERの資格認定を受ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	水中におけるダイバーの行動と安全性に関連する、物理学、生理学、医学等の分野について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	インストラクターの管理なしでオープンウォーターにおけるダイビング活動を行う事が出来るようになる。

授業計画(全体)

①水泳技能、②スキンダイビング技能、③スクーバダイビング技能と、段階的に技能を習得させていく。技能習得が不十分な場合には次の段階には進むことはできない。その場合、各自での個別練習が必要となる。併せてスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学等に関する理論講義及び筆記試験も実施する。
海洋でのダイビング本数は5～6本を予定。安全性確保の観点から、受講希望者が指導可能人数を超えた場合は、水泳技能上位者から受講を許可していく。

授業テーマとその内容

①水泳技能(本学プール)
　スクーバダイビングに必要な基礎泳力(長時間水泳、生存水泳、水平潜水等)の習得
②スキンダイビング技術(本学プールおよび他プール)
　マスククリア、シュノーケルクリア、フィンキック、シュノーケリング、サーフェスダイブ、エントリー、エギジット、水面・水中機材脱着
③スクーバダイビング技術(本学プールおよび他プール)
　機材のセッティング、装着・脱装、耳抜き、潜行・浮上、マスク・レギュレータクリア、マスク・レギュレータ脱着、オクトパスブリージング、水面・水中移動、マスクなし遊泳

3. 理論
NAUI SCUBA DIVERテキストを用いて実施(物理学、生理学、医学等)
上記内容に関する筆記試験(正答率80%以上)

4. オープンウォーター(海洋)
①コンファインドウォーターにおける習得技術の実施
②ライン潜行・浮上、バディシステム、ジャイアントストライド・バックロールエントリー
③中性浮力、ホバリング、緊急スイミングアセント、オクトパスブリージングアセント、水中機材脱着、ダイブプランの作成
④コンパスナビゲーション、ナチュラルナビゲーション、フリー潜行・浮上、安全停止

3. 費用(概算):①④は物品購入時に支払う。②③はオープンウォーター実習終了時に支払う。
①NAUI SCUBA DIVERテキスト(含申請料)(15000円程度)
②レンタル:タンク(18000円程度)
③宿泊:2泊6食(16000円程度)
④個人購入品:水中でコンタクトレンズは使用できないため、近視の者はマスク用オプチカルレンズ(両眼で18000円程度)が必要となる。

その他
・個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。
・12月に実施されるマリンスポーツⅡに個人的にオプション参加することで、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。
・2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定が可能となる。
ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。

成績評価方法(方針)

修得技術と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。
2. オリエンテーションは5月上～中旬を予定。
3. 学科講義、プール実習は6～7月、オープンウォーター実習は8月中旬から下旬にかけて実施予定であるが、オープンウォーター実習は天候、海況により変更になる場合がある。
4. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	マリンスポーツⅡ(3年)		
教科書	NAUI SCUBA DIVER　テキスト	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通)　hr-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	マリンスポーツⅡ Marine SportsⅡ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	NAUI ADVANCED SCUBA DIVER NAUI SPECIALTY DIVER
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

マリンスポーツⅠでNAUI SCUBA DIVERとしての認定を受けた者に対し、各種のダイビング活動を紹介・実施させるとともに、海外リゾートにおけるダイビングスタイルを経験させる。
実習は、11月下旬から12月中旬の間に4泊5日の日程でグアムにて実施する。

授業の一般目標

マリンスポーツⅠで修得した水中技能をさらに高め、様々なダイビングスタイルを経験することにより、さらに安全なダイビング活動が行えるようになる。同時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの資格認定を受ける。NAUI ADVANCED SCUBA DIVER所持者に関しては、各種SPECIALTY DIVERの認定を受ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	複数のダイブプランを作成できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	様々な条件下におけるダイビング活動を安全に行う事が出来るようになる。

授業計画(全体)

スクーバダイビングの経験本数を増やすことにより、ダイビングスキルを向上させていく。特にボートダイビング、ナビゲーション、ディープダイビングにおけるスキルを向上させる。
ダイビング本数は8本を予定。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERコース及びNAUI SPECIALTY DIVERコースに関する説明を行う(5月中旬を予定)。

2. スキルチェック(プール・海洋1本目)
 NAUI SCUBA DIVERコースで実施した基本スキルのチェック

3. ボートダイビング
 ①ボート上での機材のセッティング
 ②エントリーとエギジット
 ③ドリフトダイビング

4. ナビゲーション
 ①コンパスナビゲーション
 ②ナチュラルナビゲーション

5. ディープダイビング
 ①ダイビングプランの作成と実施
 ②確実な安全停止

6. 沈潜ダイビング
 ①中性浮力の確実なコントロールとフィンスキル

7. 費用(概算)
 ①NAUI ADVANCED DIVERテキスト(含申請料)(10000円程度)
 ②ダイビング費用(360ドル程度)
 ③旅費(グアム4泊5日食費別:150000円程度):燃油サーチャージ'により1～2万円は変動する可能性あり
 ④出入国税:3000円程度
 ⑤旅行保険:6000円程度

その他
・8月に実施されるマリンスポーツⅠに個人的にオプション参加することで、事前にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定を行う。ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。

成績評価方法(方針)

修得技術と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 履修は原則としてマリンスポーツⅠの単位修得者とする。但し、個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければ履修を認める。この場合、必ず相談に来ること。
2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。
3. オリエンテーションは5月中旬を予定。
4. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	マリンスポーツⅠ(1年)		
教科書	NAUI ADVANCED DIVER テキスト	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	テニス Tennis (P.A.)				担当教員	佐藤　周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。

授業の一般目標

基本技術の修得だけではなく、歴史・ルール・審判方法・試合の運営等についても理解してもらいたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。
■	技能表現的領域	基本技術の修得とゲームでの実践

授業計画（全体）

テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。
悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説	⑨	[テーマ] テニスの基礎知識1 [内容] テニスの歴史
②	[テーマ] 基本技術その1　ミニテニス [内容] ・ワンバウンドでボールを打ち合う（グランドストローク） ・ダイレクトでボールを打ち合う（ボレー）	⑩	[テーマ] テニスの基礎知識2 [内容] テニスのルールと運用
③	[テーマ] 基本技術その2　グランドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グランドストローク（フォアハンド）	⑪	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解1
④	[テーマ] 基本技術その3　サービス [内容] 前回を発展して、グランドストロークを向上させるとともに、サービスの基本を学ぶ	⑫	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解2
⑤	[テーマ] 基本技術その4　ボレー [内容] 前回に加えて、ネットでのボレーの基本を学ぶ	⑬	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解3
⑥	[テーマ] 基本技術その5　スマッシュ [内容] 前回に加えて、ボレーとスマッシュの基本を学ぶ	⑭	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解4
⑦	[テーマ] 基本技術その6　サービスリターン [内容] サービスリターンの基本を学ぶ	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本技術の修得度をテストする
⑧	[テーマ] 基本技術その7　バックハンド・ストローク [内容] バックハンドストロークを学ぶ	⑯	[テーマ] テニスの基礎知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする

成績評価方法（方針）

授業参加度、実技テスト、筆記テストの結果を総合して評価する。
提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				10%
授業内レポート	◎			10%
授業外レポート				10%
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎		40%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行う事

・テニスコートの関係で，受講者の制限をします。（40名以内）
初回授業日に，抽選を行い受講者を決定します。
詳細は，別途掲示します。

・コートを傷めないシューズ（テニスシューズ）を各自準備すること。

・ラケット,ボールは貸し出します。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	
連絡先	sy-sato@sendai-u.ac.jp　オフィスアワー　木曜日10:20-11:50		

授業科目名	バドミントン Badminton(P. A.)				担当教員	菊地　直子・林　直樹
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保健体育教諭・ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。

授業の一般目標

バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	打法とフライト、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	基本的な打法について、実際に習得している。

授業計画(全体)

バドミントンいついて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。	⑨	[テーマ]　競技としてのバドミントンを知る [内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。
②	[テーマ] バドミントンを知る [内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。	⑩	[テーマ] ゲームの方法　シングルス① [内容] シングルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
③	[テーマ]　基本的技術の習得1　アンダーハンドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。	⑪	[テーマ] ゲームの方法　シングルス② [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
④	[テーマ] 基本的技術の習得2　オーバーヘッドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑫	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス① [内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。
⑤	[テーマ] 基本的技術の習得3　サーブとその他の返球 [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑬	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス② [内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
⑥	[テーマ]　基本的技術の習得4　スマッシュ、クリアストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑭	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス③ [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
⑦	[テーマ] 基本的技術の習得5　ドロップ、ドライブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本的スキルをマスターしているか実技テストを行う。
⑧	[テーマ] 基本的技術の習得6　プッシュ、レシーブ [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記によるテストを行う。

成績評価方法(方針)

定期試験は、筆記テストを1回実施する(評価割合50%)。また、実技(評価割合50%)についても評価する。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
試験は授業内で返却し、解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	50%
授業態度		◎		
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・3回以上欠席した学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・安全配慮の観点から、靴下の着用を義務付ける。
・毎年受講希望生が多数のため、質の保障・安全上の配慮から、人数を抽選などで調整する(最大60名)。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室第4体育館1階　9号室　オフィスアワー　火曜10:20～11:50		

授業科目名	ソフトボール Softball (P.A.)				担当教員	入澤　裕樹・森本　吉謙・小野寺　和也
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ソフトボールは，投・打・走・捕など，基本的運動の多くが含まれるスポーツ種目である．本授業では，ソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し，また，それらを習得するべく各種の練習方法を紹介する．加えて，ゲームを通じて，実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する．

授業の一般目標

ソフトボールにおける技術や戦術の基本，およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり，かつ集団競技の中で他者との関わりを積極的に持つことが出来るようになる．特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては，最終的に自身が出来るようになると同時に，適切な指導法を身に付ける．

授業の到達目標

■	認知的領域	ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる．
■	情意的領域	集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになる．
■	技能表現的領域	理解したことを実践でき，加えてウインドミル投法を出来るようになる．

授業計画（全体）

毎時間テーマに沿った各技術を学習した後，それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う．先ずキャッチボール，投手のウインドミル投法，野手の守備といった個人の防御技術，および，基本的な打撃，バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する．その後に，併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する．最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い，実際のゲームの中で勝敗を競い合う．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法	⑨	[テーマ] 集団の防御技術①（送球および併殺プレイ） [内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
②	[テーマ] 個人の防御技術①（キャッチボールの基本） [内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する	⑩	[テーマ] 集団の防御技術②（内外野の連携プレイ） [内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
③	[テーマ] 個人の防御技術②（ウインドミル投法その1） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑪	[テーマ] 審判法 [内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ
④	[テーマ] 個人の防御技術③（ウインドミル投法その2） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第1節）
⑤	[テーマ] 個人の防御技術④（野手の基本技術） [内容] ゴロ処理，フライ処理の習得のためのドリルを実践する	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第2節）
⑥	[テーマ] 個人の攻撃技術①（打撃の基本技術その1） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑭	[テーマ] ゲーム③ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第3節）
⑦	[テーマ]個人の攻撃技術②（打撃の基本技術その2） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑮	[テーマ] ゲーム④ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（最終節）
⑧	[テーマ] 個人の攻撃技術③（戦術的な攻撃と走塁） [内容] バント，エンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する	⑯	[テーマ] テスト（実技試験） [内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする

成績評価方法（方針）

試験は，実技試験を1回実施する（評価割合100%）．試験については改善等の助言を与えながら技のできばえ等について振り返る．
授業中における態度は試験結果からの減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

バットやグローブ等の用具の準備，後片付けを全員で協力して行うこと．また，遅刻者については，ウォーミングアップが不十分となるので，障害防止の観点から授業参加を認めない場合もある．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．
大学の設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	無し		
教科書	無し	参考書	無し
連絡先	研究室：A棟3階302　オフィスアワー：木曜　12:40～14:10		

授業科目名	新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A.)				担当教員	河野未来
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。

授業の一般目標

学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。
■	技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。

授業計画(全体)

新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。
技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方	⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連携をもとに演技を創作する。
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連携を考えてみる。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑯	[テーマ] 演技発表会(DanDanDance&Sports) [内容] ・創作した演技を発表する。

成績評価方法(方針)

習得技能と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			○	20%
授業態度		○		10%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室:第4体育館1階　オフィスアワー:　水曜日　14:20～15:50		

授業科目名	テーピング Taping (P.A.)				担当教員	山口貴之・小田桂吾・村上憲治
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習し、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。

授業の一般目標

スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーピングの目的を的確に説明できる。
■	情意的領域	テーピングの効果を選手に指導できる。
■	技能表現的領域	目的に応じたテーピングが巻ける。

授業計画（全体）

運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返しおこなう。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介．テーピングの購入方法．授業の進め方．成績・評価の説明	⑨	[テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
②	[テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生のメカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明	⑩	[テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
③	[テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明	⑪	[テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技
④	[テーマ]足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑫	[テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技
⑤	[テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑬	[テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技
⑥	[テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技	⑭	[テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技
⑦	[テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技	⑮	[テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価
⑧	[テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技	⑯	[テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価

成績評価方法（方針）

実技テスト90%、授業態度10%で評価する。実技テストについては、授業内で個別に解説し評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			有
演習・実技	◎		◎	90%
授業態度		◎		10%
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	コンディショニング論		
教科書	なし	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥
連絡先	山口研究室　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	レクリエーション実技Ⅱ Practical Skill on Recreation Ⅱ(P. A.)				担当教員	仲野・小池・高崎・岡田
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション指導者資格
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 岡田:支援実習3(スタンツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する

授業の一般目標

様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する

授業の到達目標

■	認知的領域	創作や演出の基本や留意点が理解できる
■	情意的領域	人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく
■	技能表現的領域	レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく

授業計画(全体)

<ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・岡田)
①クラス (1体 → 4体 → 剣道) ②クラス (4体 → 剣道 → 1体) ③クラス (剣道 → 1体 → 4体)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する ・ アイスブレイクの技法 :受講学生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ	⑨	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ
②	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野2 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる	⑩	[テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。
③	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野3 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその2 リピートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する	⑪	[テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。
④	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。	⑫	[テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。
⑤	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野5 [内容] レクリエーションダンスの創作:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。	⑬	[テーマ] スタンツとは [内容] スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。	⑭	[テーマ] スタンツのバリエーション [内容] 楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームを幾つか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。
⑦	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価	⑮	[テーマ] スタンツの発表 [内容] グループごとにスタンツを発表し、受講生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。
⑧	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価	⑯	[テーマ] [内容]

成績評価方法(方針)

出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	○		30%
演習・実技		◎	◎	30%
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論など		
教科書	特になし	参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・小池・高崎・岡田 各研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践D Voluntary Activity Practice D				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。

授業計画(各回のテーマ等)

1. ボランティア事前研修の受講
 a.ボランティア活動を実践するための手続きについて
  ①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
  ②ボランティア保険への加入
 b.ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識
  ※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」

2. ボランティア活動の実際
 a.下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。
  ①学内における障害を持つ学生の支援 (聴覚障害者のノートテーカーなど)
  ②地域における高齢者、障害児・者の支援 (社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)
  ③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
  ④留学生の学習の支援
 b.参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。
 c.ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。
  ※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。
 d.年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。

3. 単位認定試験(レポート提出)の受験
 単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。

成績評価方法(方針)

本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				欠格要件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。
・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。

関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D		
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)	参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目		

授業科目名	北米のプロスポーツ事情 Pro Sports in North America				担当教員	マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっていいほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないのも事実である。さまざまな事が日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。

授業の一般目標

学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と問題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。

授業の到達目標

■	認知的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
■	情意的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方、北米のプロ・スポーツの巨大さとその内容の紹介 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑨	[テーマ] NHL(ナショナルアイスホッケーリーグ)について [内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、組織・収益構造等 レポートB:期末レポートアウトライン提出 [授業外学習]
②	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅰ [内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑩	[テーマ] MLS(メジャーリーグ・サッカー)について [内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷、各国の事情 [授業外学習]次回内容のTV放送について、調査してくる事
③	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅱ [内容]現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑪	[テーマ] TV放映と放映権について [内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容 [授業外学習]次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。
④	[テーマ] マイナーリーグ プロベースボールについて [内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、実情と役割等レポートA:期末レポート課題題目提出 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑫	[テーマ] スタジアムについて [内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅰ [内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑬	[テーマ]アマチュアスポーツについて [内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。 [授業外学習]次回内容のエージェントについて、調査してくる事
⑥	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]次回内容のNBAについて、調査してくる事。	⑭	[テーマ]エージェント [内容]エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情 [授業外学習] レポートC:期末レポート提出 ／質疑応答とまとめ
⑦	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅰ [内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑮	[テーマ]ドラッグ [内容] プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。 [授業外学習] 質疑応答の内容を考えてくる事
⑧	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備	⑯	[テーマ] 質疑応答／期末アンケート [内容] 質疑応答、レポートおよび授業についてのディスカッション

成績評価方法(方針)

小テスト授業内レポートで40%、期末レポート60%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		60%
授業外レポート	◎	◎		40%
演習・実技				
授業態度	○	○		
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・講義受講人数は80人に限定。
それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、
単位修得不可。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠りお喋り携帯使用厳禁 3回目以上注意者は退室。
・自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。
・期末レポート不提出は、単位修得不可。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	教科書は使用しない。その都度プリント配布。	参考書	特になし。授業内で指示
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	海外短期研修A Brief Seminar Abroad A				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修B・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修B Brief Seminar Abroad B				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修C Brief Seminar Abroad C				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修D Brief Seminar Abroad D				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　プレミアムコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　運動・栄養・食品衛生留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学CCEL　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・C		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

5. 介護福祉士及び社会福祉士に関する科目

授業科目名	介護概論Ⅱ Introduction to Nursing Care Ⅱ(L.)				担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士受験資格、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護サービスの概要、ケアマネジメントやケアプランの流れとしくみを通し、多職種連携の実践により利用者の生活を持続させる視点について解説する。

授業の一般目標

介護を必要とする人を生活の観点から捉えた上で、介護サービスの特性や地域連携のあり方について学び、利用者の生活を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護サービスの概要や特性について説明できる。また、介護実践における連携の意義、目的、役割を理解している。
■	情意的領域	介護サービスやケアマネジメントに関心を持ち、利用者の生活上の課題に意欲的に取組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いた講義を展開するが、利用者の生活をより身近に、そして理解を深めるため事例を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 介護サービス提供の場の特性2 [内容] 施設系サービス提供の場とその特性について説明する [授業外学習]身の回りで、事例がないか情報収集しておくこと
②	[テーマ] 介護サービスと介護福祉士の働く場 [内容] 介護サービスの基本と特性について時代背景を基に説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑩	[テーマ] 介護実践における連携1 [内容] 多職種連携の意義と目的について説明する [授業外学習]チームアプローチの必要性について説明できるようにする
③	[テーマ] 介護サービスの概要 [内容] 介護サービスが生活支援であることについて説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 介護実践における連携2 [内容] 他の福祉職種の機能と役割、連携について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 介護サービスとケアマネジメント [内容] より良い介護サービスを展開するためケアマネジメントの必要性について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 介護実践における連携3 [内容] 保健医療職種の機能と役割、連携について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] ケアプラン・ケアマネジメントの流れとしくみ [内容] 介護サービス提供の流れとしくみを説明し、介護過程の関係について説明する [授業外学習]]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 介護実践における連携4 [内容] 地域連携の意義と目的について説明する [授業外学習]地域連携の意義と必要性について説明できるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 介護保険のサービスと種類 [内容] 介護保険制度の概要と介護サービスの種類とその内容について説明する [授業外学習]介護保険サービスの内容を発表できるようにしておくこと	⑭	[テーマ] 介護実践における連携5 [内容] 地域住民・ボランティアの機能と役割について説明する [授業外学習]社会資源とその重要性について説明できるようにしておくこと
⑦	[テーマ] 多様化する介護サービスと提供の場 [内容] 介護サービスを提供する対象や場について説明する [授業外学習]次週に向け、予習しておくこと	⑮	[テーマ] 介護実践における連携6 [内容] 地域包括支援センター等の機能と役割について説明する [授業外学習]教科書、資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 介護サービス提供の場の特性1 [内容] 居宅系サービス提供の場とその特性について説明する [授業外学習]身の回りで、事例がないか情報収集しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	レクリエーション活動援助法Ⅱ(2年)、生活支援技術に基礎Ⅱ(1年)、生活支援技術の実践と応用Ⅰ・Ⅱ(2年)、生活支援と居宅介護(2年)、生活支援と高齢者介護(2年)、介護過程Ⅰ・Ⅱ(2年)		
教科書	最新介護福祉全書3介護 介護の基本 メヂカルフレンド社	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211 オフィスアワー:火曜日 12:40～14:10		

授業科目名	生活と生活支援 Lifestyle Support(L.)				担当教員	大山 さく子/沼野 夏生/和泉 安希子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自立に向けた家事支援の意義と目的を学び、利用者の生活と環境整備の重要性を学べるように展開する。

授業の一般目標

居住環境の整備や家庭生活の営みについて、その重要性を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	利用者にとって安心で心地よい生活とは何か説明できる。また、家事支援の目的について説明できる。
■	情意的領域	利用者個々の生活に関心を持ち、家事支援の技術について意欲的に取り組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いて展開するが、利用者の生活をより身近に、そして理解を深めるため事例や視覚教材を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(大山) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 家庭生活の理解(和泉) [内容] 家庭生活の意義いついて説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと
②	[テーマ]生活支援における居住環境整備(大山) [内容] 住まいの役割と基礎的事項について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑩	[テーマ] 家庭生活の営みについて(和泉) [内容] 家庭生活の変化や高齢者のいる具体的場面を挙げながら説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 居住環境の整備について(沼野) [内容] 住生活の変化や居住環境整備の意義について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑪	[テーマ] 生活設計の考え方(和泉) [内容] 家庭管理と家庭経済について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 生活空間と介護(大山) [内容] 生活の場についての考え方・とらえ方とケアの関係について説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑫	[テーマ] 家庭生活の営み(和泉) [内容] 食生活や快適な室内の環境整備の知識について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 居住環境のアセスメント (沼野) [内容] 日常生活上の問題点やICFの視点に基づく環境整備のアセスメントについて説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 被服に関する基礎的事項(和泉) [内容] 被服を取り巻く変化や被服の役割と機能について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 安心で心地よい生活の場に関する基礎的事項(沼野) [内容] 住まいにおける安心・快適な室内環境確保について説明する [授業外学習]安心・快適な室内環境を説明できる	⑭	[テーマ] 家事の介護①(和泉) [内容] 家事支援における介護技術とICFの考え方について説明する [授業外学習]教科書を復習すること
⑦	[テーマ] 安心で心地よい生活の場づくりの工夫(沼野) [内容] 高齢者と住居、及び他職種の役割と協動について説明する [授業外学習]家の中の危険な箇所について調べてくること	⑮	[テーマ] 家事の介護②(和泉) [内容] 調理・洗濯・掃除・裁縫・衣類、寝具等具体的な支援について説明する [授業外学習]それぞれの家事支援の役割を説明できるようにしておくこと
⑧	[テーマ] 集団生活の場における居住環境の工夫・留意点(沼野) [内容] 集団生活の定義や施設空間を住まいにする工夫について説明する [授業外学習]身の回りで、事例がないか情報収集しておくこと	⑯	[テーマ] テスト(大山) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内課題レポート(評価割合10%)、グループ活動(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。 出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		◎		10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ(1年)、リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、レクリエーション活動援助法Ⅰ(1年)、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)、生活支援と居宅介護(2年)		
教科書	新・介福士養成講座第6巻 生活支援技術Ⅰ 中央法規	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211 オフィスアワー:火曜日 12:40～14:10		

授業科目名	コミュニケーション技術論 Communication Skill(L.)				担当教員	後藤満枝／大山さく子／福田伸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

コミュニケーションは、介護を学ぶ上での基本となるものである。この授業では、介護現場で必要とされる利用者や利用者の家族、多職種等との関係調整のための「コミュニケーション技術」について理解を深められるよう説明する。また、記録や報告等を含めた介護における技術についても説明する。

授業の一般目標

介護場面での実践に向けて、利用者や利用者の家族、多職種等とのコミュニケーションの重要性、記録や報告等の必要性について理解することができる。また、対象者の状況に応じた実際のコミュニケーション技法や、記録・報告の方法について知ることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	利用者及び家族等とのコミュニケーションの重要性や実際の技法について説明できる。介護における記録や報告の必要性を説明することができる。
■	情意的領域	コミュニケーション障害のある利用者や家族の状況に関心を示すことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

この授業は、複数の教員によるオムニバス形式で行う。各授業テーマに沿って、教科書や資料等を用いて解説を加えながら内容の確認をしていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(大山) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]利用者の特性に応じたコミュニケーション1(福田) [内容] コミュニケーション障害とその原因について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
②	[テーマ] 介護におけるコミュニケーションの役割(大山) [内容] コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの基本について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 利用者の特性に応じたコミュニケーション2(福田) [内容] 感覚機能が低下している人とのコミュニケーション技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
③	[テーマ] 介護におけるコミュニケーションの役割(大山) [内容] 利用者や利用者の家族との信頼関係の形成について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 利用者の特性に応じたコミュニケーション3(福田) [内容] 運動機能が低下している人とのコミュニケーション技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
④	[テーマ] 介護における生活支援とコミュニケーション(大山) [内容] 介護技術とコミュニケーションの関係や、介護福祉士に求められるコミュニケーション技術について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 利用者の特性に応じたコミュニケーション4(福田) [内容] 認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
⑤	[テーマ]介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション1 (後藤) [内容] 話を聴く技法、利用者の感情を表現する技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 介護におけるチームのコミュニケーション(後藤) [内容] チームのコミュニケーションの必要性とその方法について説明する。また、介護における報告・連絡・相談、会議について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
⑥	[テーマ]介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション2 (後藤) [内容] 利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 記録(後藤) [内容] 介護における記録の意義・目的や記録の書き方と留意点などについて説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。
⑦	[テーマ]介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション3 (後藤) [内容] 相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引き出す技法について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑮	[テーマ]授業のまとめ(大山・後藤・福田) [内容] これまでの授業を振り返り解説する。 [授業外学習] これまでの授業について教科書等で復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション4(後藤) [内容] 利用者と利用者の家族の意向を調整する技法等について説明する。 [授業外学習] 授業内容を教科書等で復習しておくこと。	⑯	[テーマ] テスト(大山・後藤・福田) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるためにテストを行う。 [授業外学習] テストに備えて復習しておくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験(100%)と授業態度(加点・減点あり)によって評価する。なお、筆記試験は各担当教員の結果を総合して評価する。担当教員によっては授業内レポートまたは小テスト等の課題を課し、評価の一部にする場合もある。レポートについては授業内で解説をしながらフィードバックし、試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。単位認定に関しては、出席率2/3以上が前提となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				加点・減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度の善し悪しによっては、成績評価の加点・減点を行うこともある。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・部活動の大会等でやむを得ず欠席する場合は事前に欠席届を提出すること。
・欠席した場合は、その分の授業を補おうという積極的な姿勢を求める。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護概論Ⅰ、介護概論Ⅱ、コミュニケーション技術演習、生活と生活支援、生活支援技術の基礎Ⅰ、生活支援技術の基礎Ⅱ、介護過程Ⅰ、介護実習Ⅰ		
教科書	新・介護福祉士養成講座　第5巻　コミュニケーション技術 中央法規	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211、後藤研究室:F棟2階202、福田研究室:G棟2階212　オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	生活支援技術の基礎Ⅱ Lifestyle Support Skill Basic Ⅱ(S.)				担当教員	後藤満枝／福田伸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自立支援の視点をふまえ、介護を必要とする人々の安全で快適な環境の整備、食事、入浴、排泄、移動、身じたく等の日常生活援助について、基本的知識・技術を習得できるよう、解説をもとに演習を展開する。

授業の一般目標

介護に必要な基本的知識を身につけ、介護を必要とする人々の身体的状況や、心理的状況などについて理解することができる。また、対象者の日常生活の自立を促し、対象者の状態に応じた安全で、安楽な基本的介護技術を展開することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	介護に必要な基本的知識について説明することができる。
■	情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮できる。
■	技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を展開することができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って、教科書や視聴覚教材を用いて解説を加えながら、内容の確認を行う。特に重要な項目や技術については、デモンストレーションを取り入れ、その後グループごとに演習を展開し、技術の習得につなげる。教員が随時技術指導・確認を行うが、授業終了時に感想等を聞き、助言を行うなど、まとめとして、補足説明を加える。なお、授業で得た知識や学び等をレポートにまとめ、提出してもらう課題を課す場合もある。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 自立に向けた移動の介護1(福田) [内容] 前期の復習を兼ねて、移動の介護について講義・演習を行う。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業内容を復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 自立に向けた食事の介護2(後藤) [内容] 前回に引き続き、安全で適切な食事介助の方法について演習を行う。 [授業外学習]実際に食事の介護を行うため、エプロンを持参すること。
②	[テーマ] 自立に向けた移動の介護2(福田) [内容] 車椅子とベッド間の移乗介助について演習を行う。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業内容を復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 自立に向けた排泄の介護1(後藤) [内容] 尿気・便器を用いた排泄介助方法について説明し、演習を行う。 [授業外学習]演習の際、実習着の下にハーフパンツを着用すること。
③	[テーマ] 自立に向けた移動の介護3(福田) [内容] ストレッチャーを使用した移動の介護について演習を行う。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業内容を復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 自立に向けた排泄の介護2(後藤) [内容] おむつを用いた排泄介助方法について説明し、演習を行う。 [授業外学習]演習の際、実習着の下にハーフパンツを着用すること。
④	[テーマ] 自立に向けた入浴・清潔保持の介護1(後藤) [内容] 身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な入浴介助の技法について実際に演習を行う。 [授業外学習]実際に入浴するため、水着とバスタオルを持参すること。	⑫	[テーマ] 緊急時の対応の知識と技術1(福田) [内容] バイタルサインについて学び、その観察、測定方法について演習を行う。 [授業外学習]授業内に配布したプリントを復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 自立に向けた入浴・清潔保持の介護2(後藤) [内容] 身体を清潔に保つ方法として、安全で的確なベッド上での洗髪介助の技法について実際に演習を行う。 [授業外学習]実際に先発するため、タオルを持参すること。	⑬	[テーマ] 緊急時の対応の知識と技術2(福田) [内容] 緊急時の処置方法について解説をもとに演習を行う。 [授業外学習]授業内に配布したプリントを復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 睡眠の介護(後藤) [内容] 睡眠の意義・目的・メカニズム、実際の援助方法について解説する。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業内容を復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 終末期における介護技術(福田) [内容] 終末期の心理的、肉体的特徴について解説し、終末期の実際の介護について、解説をもとに演習を行う。 [授業外学習]教科書をよく読み、授業内容を復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 罨法の介護(福田) [内容] 罨法の目的と効果について講義し、実際の罨法の方法について演習を通して学ぶ。 [授業外学習]授業内に配布したプリントを復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 授業のまとめ(福田) [内容] これまでの授業を振り返り、解説する。 [授業外学習]これまでの授業について教科書等で復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 自立に向けた食事の介護1(後藤) [内容] 安全で適切な食事介助の方法について演習を行う。 [授業外学習]実際に食事の介護を行うため、エプロンを持参すること。	⑯	[テーマ] テスト(後藤・福田) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]テストに備えて、復習しておくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験、実技試験の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席3分の2以上が前提となる。試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎	◎	40%
授業態度				加点・減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本授業は学外の「介護実習Ⅰ」に直接つながる授業である。毎回演習や体験を通しての学習になるため、授業をできるだけ休まないようにすること。
・3分の2以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)
・授業態度によっては、成績評価の加点・減点を行うこともある。
・授業中の身だしなみも授業態度として評価する。
・介護実習室では実習着、体育館シューズを着用すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション技術論、生活と生活支援、生活支援技術の基礎Ⅱ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202、福田研究室:LC棟2階212　オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	介護福祉とレクリエーション活動援助 Care Work and Social Welfare Recreation Work (S.)				担当教員	小池和幸・高崎義輝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	介護福祉士、福祉レクリエーションワーカー、 高校福祉科教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

1)生活支援としてのレクリエーション支援について福祉レクリエーションの基礎理論を基に体系的に講義する。2)介護福祉現場で実践されている福祉レクリエーション支援を実技、演習形態で紹介する。

授業の一般目標

福祉レクリエーションの基礎知識をベースに、介護福祉領域や健康づくりの現場におけるレクリエーション支援者として必要な福祉レクリエーションの諸理論及び活動(レクリエーション・アクティビティ)を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	福祉レクリエーションの基礎的な考え方について理解できる。介護福祉領域及び健康づくり現場における福祉レクリエーション支援の必要性について説明できる。
■	情意的領域	介護福祉領域及び健康づくりの現場等における福祉レクリエーション支援への関心が広がる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

福祉レクリエーション支援に必要な考え方を演習と実技を交えながら授業をすすめる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(小池)(高崎) [内容] 介護福祉と福祉レクリエーション支援の関連性について。(介護福祉現場と福祉レクリエーション支援の実際について) [授業外学習]授業概要を事前に読む。	⑨	[テーマ] レクリエーション・アクティビティ5 (高崎) [内容] テーブルゲームの紹介2(テレビゲーム等の体験と活用法) [授業外学習]体験したアクティビティのまとめと整理。
②	[テーマ]福祉レクリエーションの概念と目的 (小池) [内容] レクリエーション、レクリエーション活動など福祉レクリエーションを理解するうえでのキーワード。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。	⑩	[テーマ] 生活のレクリエーション化 (小池) [内容] 基礎生活の快適さを追求する生活のレクリエーション化と生活の快論について。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
③	[テーマ] 社会福祉におけるレクリエーションの役割とその変遷 (小池) [内容] 社会福祉のこれまでの流れとレクリエーションの役割。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。	⑪	[テーマ] レクリエーションの生活化(小池) [内容] レクリエーション自立の過程について。自己決定の段階について。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
④	[テーマ] 人間らしい生活と福祉レクリエーション(楽しさの追及) (小池) [内容] 人間らしい生活の構成要素や人間の基本的欲求とレクリエーションの所在について。福祉レクリエーションと楽しさ。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。	⑫	[テーマ] 福祉レクリエーション支援の手順1(小池) [内容] 福祉レクリエーション総合計画(分析・概念化・検討・決定) [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
⑤	[テーマ] レクリエーション・アクティビティ1(高崎) [内容] 介護予防教室で実施できるアクティビティの紹介1(人間交流を目的とした活動)、楽しい運動指導に必要なキューイング技術の理解。 [授業外学習]体験したアクティビティのまとめと整理。	⑬	[テーマ] 福祉レクリエーション支援の手順2(小池) [内容] APIEプロセスについて。対象の理解と福祉レク固有のアセスメントの視点について。※レポート課題の提示。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
⑥	[テーマ] レクリエーション・アクティビティ2(高崎) [内容] 介護予防教室で実施できるアクティビティの紹介2(筋力トレーニングを目的とした活動)、伝承遊び。 [授業外学習]体験したアクティビティのまとめと整理。	⑭	[テーマ] 福祉レクリエーション支援と 障害、ICIDH、ICF(小池) [内容] 福祉レクリエーション支援と 障害、ICIDH、ICFについて [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
⑦	[テーマ] レクリエーション・アクティビティ3(高崎) [内容] イベントインフォメーション。(パソコンを利用したポスター作り) [授業外学習]ポスターの完成	⑮	[テーマ] 福祉レクリエーション支援の役割と方法(小池) [内容] 福祉レクリエーション支援の役割についてビデオ教材などを用いてまとめる。 [授業外学習]授業資料の整理と本日の復習。
⑧	[テーマ] レクリエーション・アクティビティ4(高崎) [内容] テーブルゲームの紹介1(簡単に出来るテーブルゲームの体験と活用法) [授業外学習]体験したアクティビティのまとめと整理。	⑯	[テーマ] まとめ(小池)(高崎) [内容] 介護福祉サービスと福祉レクリエーション支援についてのディスカッション。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業内レポート(評価割合20%)、授業外総合レポート(評価割合80%)、の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価に加えず欠格条件とする。提出されたレポートは解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				なし
授業内レポート	○			20%
授業外レポート	◎			80%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)
・授業態度が悪い(私語、居眠り等)学生は、成績評価から減点する。
・講義の授業は資料を用意するがきちんとノートを取ること。
・教室は前から順に着席すること。
注)レポート課題等提出物は指定された様式で丁寧に作成されたもののみを受け付ける。(条件を満たさないレポートは評価対象から除外する。)

関連科目	介護福祉とレクリエーション援助演習、福祉レクリエーション実技		
教科書	なし(必要に応じて資料を配布する。)	参考書	「楽しさ追及を支える理論と支援の方法」日本レク協会編
連絡先	小池和幸(F201)水14:20～15:50　高崎義輝(F216)水14:20～15:50		

授業科目名	介護福祉とレクリエーション援助演習 Skill Training for Care Work and Social Welfare Recreation Work (S.)				担当教員	小池和幸・高崎義輝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	介護福祉士、福祉レクリエーションワーカー、 高校福祉科教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

主に介護福祉領域における、ケアプランに基づく福祉レクリエーション支援についての講義及び演習（福祉レクリエーション支援の介入演習等）を行う

授業の一般目標

介護福祉現場における生活支援の実際を理解し、福祉レクリエーション支援及び、福祉レクリエーション支援計画の方法について理解する。また、介護福祉領域における福祉レクリエーション支援における介入技術（個別への介入技術、グループダイナミクスを活用した介入技術）の知識と技術を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	個人への介入技術やグループダイナミクスを活用した福祉レクリエーション介入技術について理解する。福祉レクリエーション支援に必要な計画を立案の知識を理解する。
■	情意的領域	対象者中心（クライアントオリエンテッド）の福祉レクリエーション支援志向になる。
■	技能表現的領域	福祉レクリエーション支援の方向性を理解したアセスメント及び計画ができる。個別及びグループを介した福祉レクリエーション支援ができる。

授業計画（全体）

事例などを教材にして、実際に福祉レクリエーション支援計画を立て、模擬的に支援する。 個人作業、グループ作業を適宜組み合わせながら進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（小池）（高崎） [内容] ①授業概要及びスケジュール等の説明 ② 楽しさ追及を支える福祉レク支援とは ③授業のキーワード [授業外学習]授業概要を事前に読む。	⑨	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習6 （高崎） [内容] グループワークとレクリエーションワークについて。 [授業外学習]授業資料の整理と復習。
②	[テーマ]福祉レク支援プロセス演習1（小池） [内容] ①福祉施設におけるレクリエーションサービスの現状②しせつの理念に基づくレクリエーションサービス③分析・概念化・検討・決定④APIE [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑩	[テーマ]福祉レク支援プロセス演習7（高崎） [内容] グループダイナミクスを活用した介入（計画）。レクリエーション支援の準備。 [授業外学習]授業資料の整理と復習。
③	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習2（小池） [内容] ①アベドンの社会的相互作用の段階を活用したレクリエーション活動グループの作り方 [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑪	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習8（高崎） [内容] グループダイナミクスを活用した介入（計画）。レクリエーション支援の準備。 [授業外学習]グループごとに支援の準備
④	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習3（小池） [内容] ①福祉レクリエーション援助のアセスメント②ICFを活用したアセスメント [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑫	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習9（高崎） [内容] グループダイナミクスを活用した介入（実施1）。CSSPの活用。※レク支援の様子をグループごとにビデオに記録。 [授業外学習]グループごとに支援の準備。
⑤	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習4（小池） [内容]①福祉レクリエーション援助のアセスメント（簡易アセスメントシート） [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑬	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習10（高崎） [内容]グループダイナミクスを活用した介入（実施2）。CSSPの活用。※レク支援の様子をグループごとにビデオに記録。 [授業外学習]グループごとに支援の準備。
⑥	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習5（小池） [内容] 楽しさの追及（楽しさ／楽しみ）②ナッシュのレジャー体験の在り方③自己決定の段階④わたしの求める楽しさ、余暇歴、余暇自己診断 [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑭	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習11（高崎） [内容] グループダイナミクスを活用した介入（評価1）。※記録ビデオを基にレク支援を評価する。 [授業外学習]グループダイナミクスを活用したレク支援のポイント整理。
⑦	[テーマ] 前半演習におけるキーワードのまとめ（小池） [内容] これまでの授業におけるキーワードのおさらい。授業確認レポートについて [授業外学習]授業資料の整理と復習。（確認レポートのための事前準備）	⑮	[テーマ] 福祉レク支援プロセス演習12（高崎） [内容] グループダイナミクスを活用した介入（評価2）。※記録ビデオを基にレク支援を評価する。 [授業外学習]グループダイナミクスを活用したレク支援のポイント整理。
⑧	[テーマ] 授業確認レポート（小池） [内容] 前半授業確認レポートの作成及び提出。 [授業外学習]授業資料の整理と復習。	⑯	[テーマ] まとめ（小池）（高崎） [内容] 介護福祉現場におけるレク活動援助の役割とその具体的な展開方法についてディスカッションする。 [授業外学習]介護福祉とレク支援の関係をレポートにまとめる。

成績評価方法（方針）

授業内レポート（評価割合40%）、授業外総合レポート（評価割合30%）、演習・実技（評価割合30%）の結果を総合して成績評価を行う。出席は評価に加えず欠格条件とする。提出されたレポートは解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				なし
授業内レポート	○	○		40%
授業外レポート	○	○		30%
演習・実技	○	○	○	30%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない（欠格条件）
・授業態度が悪い（私語、居眠り等）学生は、成績評価から減点する。
・講義の授業は資料を用意するがきちんとノートを取ること。
・教室は前から順に着席すること。
注）レポート課題等提出物は指定された様式で丁寧に作成されたもののみを受け付ける。（条件を満たさないレポートは評価対象から除外する。）

関連科目	介護福祉とレクリエーション援助演習、福祉レクリエーション実技		
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する。）	参考書	「楽しさ追及を支えるサービスの企画と実施」日本レク協会編 「楽しさの追及のための介入技術」日本レク協会編
連絡先	小池和幸（F201）水14:20～15:50　高崎義輝（F216）水14:20～15:50		

授業科目名	生活支援技術の実践と応用Ⅰ Lifestyle Support Skill Practice and Application Ⅰ(S.)				担当教員	後藤満枝／福田伸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護の専門職として確かな技術と説明能力を身につけるため、アセスメントに基づく技術習得に必要な演習を行う。

授業の一般目標

日常における生活行為を利用者本位の視点で捉え、自立支援に基づいた尊厳を支える介護として実現・具現化することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	アセスメントを行うことの必要性や観察のポイントについて説明できる。
■	情意的領域	利用者個々の生活活動等の違いや変化に気づくことができる。
■	技能表現的領域	アセスメントに基づき、利用者の状態に応じた介護技術を展開することができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って、講義と演習の双方を取り入れながら展開する。原則として、はじめにアセスメント項目について解説(講義)、その後、アセスメントに基づいた実際の生活支援技術(介護技術)の確認(演習)をしていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション (後藤・福田) [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]生活支援技術Ⅰ・Ⅱの教科書を読み、予習・復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 身じたくに関するアセスメント項目②(講義) (後藤) [内容] 身じたくにおけるアセスメントの視点について、事例をもとに解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点をおさえておくこと。
②	[テーマ] 日常生活行為における個別性の意識化①(講義・演習) (福田) [内容] 日常生活行為を意識化することの必要性について説明する。生活行為の個々の違いから個別支援が求められることについて解説する。 [授業外学習]講義内容を復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 身じたくに必要な生活支援技術①(演習) (後藤) [内容] 事例をもとに、アセスメントに基づいた基づいた身じたくの介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における身じたくの介助のポイントを復習しておくこと。
③	[テーマ] 日常の生活行為における個別性の意識化②(演習) (福田) [内容] 移動等の日常の生活行為を振り返り、人間の自然な身体の動きを確認、個々の生活習慣等に基づいた介助方法を探る。 [授業外学習]人間の自然な身体の動きについて振り返ること。	⑪	[テーマ] 身じたくに必要な生活支援技術②(演習) (後藤) [内容] 事例をもとに、アセスメントに基づいた基づいた身じたくの介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における身じたくの介助のポイントを復習しておくこと。
④	[テーマ] 移動に関するアセスメント項目①(講義) (福田) [内容] 移動・移乗におけるアセスメントの視点について解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。	⑫	[テーマ] 排泄に関するアセスメント項目①(講義) (後藤) [内容] 排泄におけるアセスメントの視点について解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。
⑤	[テーマ] 移動に関するアセスメント項目②(講義) (福田) [内容] 移動・移乗におけるアセスメントの視点について、事例をもとに解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。	⑬	[テーマ] 排泄に関するアセスメント項目②(講義) (後藤) [内容] 排泄におけるアセスメントの視点について、事例をもとに解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。
⑥	[テーマ] 移動動作に必要な生活支援技術①(演習) (福田) [内容] 事例をもとに、アセスメントに基づいた移動・移乗介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における移動・移乗介助のポイントを復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 排泄に必要な生活支援技術①(演習) (後藤) [内容] 事例をもとに、アセスメントに基づいた排泄介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における排泄介助のポイントを復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 移動動作に必要な生活支援技術②(演習) (福田) [内容]事例をもとに、アセスメントに基づいた移動・移乗介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における移動・移乗介助のポイントを復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 排泄に必要な生活支援技術②(演習) (後藤) [内容] 事例をもとに、アセスメントに基づいた排泄介助について演習を行う。 [授業外学習]事例における排泄介助のポイントを復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 身じたくに関するアセスメント項目①(講義) (後藤) [内容]身じたくにおけるアセスメントの視点について解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。	⑯	[テーマ] テスト (後藤・福田) [内容] 授業の理解度・達成度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]これまでの講義と演習の内容のポイントを整理しておくこと。

成績評価方法(方針)

筆記試験(80%)、演習時の技術(20%)の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席率2/3以上が前提となる。試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度の善し悪しによっては、成績評価の加点・減点を行うこともある。
・授業中の身だしなみも授業態度として評価する。
・介護実習室で授業を行う際は実習着、体育館シューズを着用すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・公欠は原則として認めないが、やむを得ず欠席する場合は事前に欠席届を提出すること。
・欠席した場合は、その分の授業を補おうという積極的な姿勢を求める。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	生活支援技術の基礎Ⅰ、生活支援技術の基礎Ⅱ、生活支援の実践と応用Ⅱ、介護実習Ⅰ、介護過程Ⅰ、介護総合演習Ⅰ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202、福田研究室:LC棟2階212 オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	生活支援技術の実践と応用Ⅱ Lifestyle Support Skill Practice and Application Ⅱ (S.)				担当教員	後藤満枝／福田伸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護の専門職として確かな技術と説明能力を身につけるため、アセスメントに基づく技術習得に必要な演習を行う。

授業の一般目標

日常における生活行為を利用者本位の視点で捉え、自立支援に基づいた尊厳を支える介護として実現・具現化することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	アセスメントを行うことの必要性や観察のポイントについて説明できる。
■	情意的領域	利用者個々の生活活動等の違いや変化に気づくことができる。
■	技能表現的領域	アセスメントに基づき、利用者の状態に応じた介護技術を展開することができる。

授業計画（全体）

各授業テーマに沿って、講義と演習の双方を取り入れながら展開する。原則として、はじめにアセスメント項目について解説（講義）、その後、アセスメントに基づいた実際の生活支援技術（介護技術）の確認（演習）をしていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション （後藤・福田） [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]生活支援技術Ⅰ・Ⅱの教科書を読み、予習・復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 食事に必要な生活支援技術（演習） （福田） [内容] アセスメントに基づいた基づいた食事介助について演習を行う。 [授業外学習]アセスメントに基づく食事介助のポイントを復習しておくこと。
②	[テーマ] 一日を通した生活行為の時間的推移と個別性（講義・演習） （後藤） [内容] 一日を通した生活行為が個々にどのように異なるのか、学生個々や介護実習先の利用者などの事例をもとに振り返り、確認していく。 [授業外学習]授業内容を復習すること。	⑩	[テーマ] 罨法について（講義・演習） （福田） [内容] 罨法について解説し、それをもとに演習を行う。 [授業外学習]授業内容の復習をすること。
③	[テーマ] 居住環境に関するアセスメントと生活支援技術（講義・演習） （後藤） [内容] 居住環境のアセスメンの視点について解説、アセスメントの視点に基づいた安心で快適な生活の場づくりについて考える。 [授業外学習]安心で快適な生活の場とはどのようなものか、考えること。	⑪	[テーマ] 緊急時の対応について（講義） （福田） [内容] 緊急時の対応について、介護職と看護職等の他職種との連携について交えながら解説する。。 [授業外学習]]講義内容の復習をすること。
④	[テーマ] 入浴・清潔保持に関するアセスメント項目（講義） （後藤） [内容] アセスメントに基づいた入浴・清潔保持の介助について演習を行う。 [授業外学習]アセスメントに基づく入浴介助のポイントを復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 緊急時の対応について（演習） （福田） [内容] 緊急時の対応について、解説をもとに演習を行う。 [授業外学習]授業内容の復習をすること。
⑤	[テーマ] 入浴・清潔保持に必要な生活支援技術（演習） （後藤） [内容] アセスメントに基づいた入浴・清潔保持の介助について演習を行う。 [授業外学習]アセスメントに基づく入浴介助のポイントを復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 終末期ケアについて（講義・演習） （福田） [内容] 終末期のケアについて解説し、それをもとに演習を行う。 [授業外学習]授業内容の復習をすること。
⑥	[テーマ] 睡眠に関するアセスメント項目と生活支援技術（講義） （後藤） [内容] 睡眠におけるアセスメントの視点について解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。	⑭	[テーマ] まとめ（講義） （後藤） [内容] これまでの授業のまとめを行う。 [授業外学習]これまでの授業内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
⑦	[テーマ] 睡眠に関するアセスメント項目と生活支援技術（演習） （後藤） [内容]アセスメントに基づいた睡眠の介護と、体位変換、安楽な姿勢の介助について演習を行う。 [授業外学習]体位変換の方法等について復習しておくこと。	⑮	[テーマ] まとめ（講義） （福田） [内容] 前回に引き続き、これまでの授業のまとめを行う。 [授業外学習]これまでの授業内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。
⑧	[テーマ] 食事に関するアセスメント項目（講義） （福田） [内容]食事におけるアセスメントの視点について解説する。 [授業外学習]講義内容を復習し、アセスメントの視点を整理しておくこと。	⑯	[テーマ] テスト （後藤・福田） [内容] 授業の理解度・達成度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]これまでの講義と演習の内容のポイントを整理しておくこと。

成績評価方法（方針）

筆記試験（80%）、演習時の技術（20%）の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席率2/3以上が前提となる。試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度の善し悪しによっては、成績評価の加点・減点を行うこともある。
・授業中の身だしなみも授業態度として評価する。
・介護実習室で授業を行う際は実習着、体育館シューズを着用すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・公欠は原則として認めないが、やむを得ず欠席する場合は事前に欠席届を提出すること。
・欠席した場合は、その分の授業を補おうという積極的な姿勢を求める。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ、生活支援の実践と応用Ⅰ、介護実習Ⅰ、介護過程Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習Ⅰ・Ⅱ		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室：F棟2階202、福田研究室：LC棟2階212　オフィスアワー：別途連絡する		

授業科目名	生活支援と居宅介護 Lifestyle Support & Home Care Elders(L.)				担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自立に向けた家事支援の意義と目的を学び、利用者の視点にたった生活支援技術を学べるように展開する。

授業の一般目標

個別性のある自立・自律に向けた生活支援技術を習得し、利用者とその家族の状況について理解し、その人らしく生きるための生活環境づくりを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	利用者が生活の中で求めていく幸せとは何か説明できる。また、家事支援の意義と目的を説明できる。
■	情意的領域	個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援が出来る。また、個々の利用者の生活課題に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いて展開するが、利用者の生活をより身近に、そして理解を深めるため事例や視覚教材を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 家事支援における介護の工夫① [内容] 家事の介助の方法について、具体的場面を挙げながら説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ]家事の支援の意義と目的 [内容] 生活支援、家事支援の意義と目的について社会背景を基に説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑩	[テーマ] 家事支援における介護の工夫② [内容] 家事の介助の方法について、具体的場面を挙げながら説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 自立支援を支える家事の支援とは [内容] 自立生活を支える家事の支援のあり方・考え方について説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点① [内容] 利用者の障害の状態や家族形態の状況による介助の留意点について説明する [授業外学習]利用者の障害状態や家族形態の状況による介助の留意点がわかる
④	[テーマ] 家事の支援における利用者のアセスメント① [内容] ICFの視点に基づく高齢者のアセスメントについて説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点② [内容] 事例を基に、さまざまな利用者に応じた介助の留意点について話し合う [授業外学習]身近な事例を収集し、次週のグループ活動に発表できる
⑤	[テーマ] 家事の支援における利用者のアセスメント② [内容] ICFの視点に基づく障害者のアセスメントについて説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点③ [内容] 学生の事例を基に、グループで話し合い、介助の留意点についてまとめる [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 家事の支援における利用者のアセスメント③ [内容] ICFの視点に基づく介護機能の低下した家族のアセスメントについて説明する [授業外学習]ICFの視点に基づいた利用者のアセスメントを発表できる	⑭	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携① [内容] 他職種連携の意義と目的・役割について説明する [授業外学習]チームアプローチの必要性について説明できる
⑦	[テーマ] 家事に参加することを支える介護の工夫① [内容] 事例をもとに、高齢者の意欲を出す介護の工夫・働きかけについて説明する [授業外学習]意欲を持たせるための介護の工夫について発表できる	⑮	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携② [内容] 他職種との協働について事例を基に説明する [授業外学習]それぞれのチームの役割を説明できるようにしておくこと
⑧	[テーマ] 家事に参加することを支える介護の工夫② [内容] 事例をもとに、障害者の意欲を出す介護の工夫・働きかけについて説明する [授業外学習]身の回りで、事例がないか情報収集しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内課題レポート(評価割合10%)、グループ活動(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		◎		10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位修得は出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の 授業参加だけでは、単位を取得できない。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ(1年)、リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、レクリエーション活動援助法Ⅰ(1年)、生活と生活支援(1年)、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)、生活支援と高齢者介護(2年)		
教科書	新・介護福祉士養成講座第6巻生活支援技術Ⅰ 中央法規	参考書	
連絡先	大山研究室:F棟2階211　　オフィスアワー:火曜日 12:40～14:10		

授業科目名	生活支援と高齢者介護 Lifestyle Support and Elderly Care(L.)				担当教員	篠原
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

廃用症候群・認知症・内部障害の特性について説明し、適切な介護方法について講義する。介護機器、各種福祉機器、用具について解説する。

授業の一般目標

1. 廃用症候群の原因、予防方法について理解し、その生活支援ができる。2. 認知症高齢者、内部障害者について理解し、生活支援等の介護ができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	廃用症候群、認知症、高次機能障害、内部障害の介護について説明できる。
■	情意的領域	廃用症候群、認知症、高次機能障害、内部障害の利用者へ尊厳ある態度で接することができる。
■	技能表現的領域	自立支援に基づいた尊厳を支える介護の在り方を伝えるための技術や方法を選択し、適応できる。

授業計画(全体)

教科書・資料・パワーポイントを用いた講義を中心に、テーマに応じ共同作業としてのグループワークやレポート作成をする。学びのシェアとして発表会を行う。学びを深めるためにビデオ学習を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標、進め方、成績評価の方法について説明する [授業外学習]介護実習で学んだ高齢者のイメージを整理すること	⑨	[テーマ] 認知症高齢者 [内容] 事例に基づく介護の展開(2)について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
②	[テーマ]廃用症候群とは [内容] 原因因子、促進因子、悪循環について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑩	[テーマ] 高次機能障害とは [内容] 障害と利用者の特性について説明する。 [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
③	[テーマ] 廃用症候群とは [内容] 身体的合併症について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑪	[テーマ] 高次機能障害の介護 [内容] 介護技術の視点や留意点について説明する。 [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
④	[テーマ] 廃用症候群とは [内容] 諸症状についてグループワークする [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑫	[テーマ] 高次機能障害の介護 [内容] 事例に基づく介護の展開について説明する。 [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
⑤	[テーマ] 廃用症候群とは [内容] グループごとの日常生活支援について発表する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑬	[テーマ] 内部障害とは [内容] 呼吸器・循環器者の介護について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
⑥	[テーマ] 認知症高齢者 [内容] 認知症に関する基礎的知識について説明し、中核症状、周辺症状を説明する。 [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑭	[テーマ] 内部障害 [内容] 人工肛門増設者(オストミー)の介護について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
⑦	[テーマ] 認知症高齢者 [内容] 日常生活援助、介護について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑮	[テーマ] 内部障害 [内容] ストーマ用品、福祉用具について説明し、介護の視点と家族支援について説明する。 [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること
⑧	[テーマ] 認知症高齢者 [内容] 事例に基づく介護の展開(1)について説明する [授業外学習]テキストの該当箇所を予習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

出席2/3以上を必須条件にし、定期テスト(80%)、演習(10%)、レポート(10%)の総合評価とする。提出されたレポートは授業内で解説等を加え返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	◎		5%
授業外レポート	◎	◎		5%
演習・実技		◎	◎	10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	介護概論Ⅰ・Ⅱ(1年)、リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、レクリエーション活動援助法Ⅰ(1年)、生活と生活支援(1年)、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)、生活支援と居宅介護(2年)、認知症の理解Ⅰ(2年)		
教科書	新・介護福祉士養成講座 第8巻生活支援技術Ⅲ 中央法規	参考書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書11 障害の理解
連絡先	研究室:F棟2階212 オフィスアワー:月曜日 12:40～14:10		

授業科目名	生活支援と障害者介護Ⅰ Lifestyle Support and Handicapped Persons Care Ⅰ				担当教員	山田 睦美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

授業の一般目標

利用者の生活状態を的確に把握し、自立支援のための工夫や福祉用具の活用を理解する。また、自立支援に資する介護を他職種と連携し、計画的に提供することを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	視覚障害者の生活の理解とその状況に応じた介護技術を理解し、支援のあり方が説明できる。
■	情意的領域	個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援が出来る。また、個々の利用者の生活課題に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	コミュニケーション介護に必要な技術・技法が適用できる。基本的な点字を習得し会話ができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いて展開するが、利用者の生活をより身近に、そして理解を深めるため視覚教材や点字板を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 点字の基礎と表記の実習 [内容] 点字の概要、書くポイント、読み方の基礎について説明する。 [授業外学習]教科書を復習しておくこと
②	[テーマ]視覚障害者に応じた介護とは [内容] 視覚障害者の状態・状況に応じた介護と介護技術について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑩	[テーマ] 点字文法・分かち書きと文章の書き方 [内容] 語の書き表し方や文節分かち書きなどの書き方などを説明する。 [授業外学習]簡単な文章が書けるように復習しておくこと
③	[テーマ] 視覚障害者と生活の理解① [内容] 視覚障害からくる生活への影響と支援の方法について説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 一般の目にふれる点字の読みと理解 [内容] 点字の実践を行い、中途障害者のコミュニケーションのあり方について説明する [授業外学習]コミュニケーションの方法と留意点について説明できること
④	[テーマ] 視覚障害者と生活の理解② [内容] 視覚障害からくる生活への影響と支援の方法について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 日常生活介護① [内容] 具体的事例や援助場面を想定し、健康管理、身辺整理等の方法について説明する [授業外学習]援助の方法を説明できるようにしておくこと
⑤	[テーマ] 家事支援と環境整備 [内容] 視覚障害者の家事支援の方法と環境整備について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 日常生活介護② [内容] 具体的事例を基に、健康管理、身辺整理の方法について説明する [授業外学習]援助の方法について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 介護技術の展開とは [内容] 視覚障害者の状態・状況に応じた介護技術の方法について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑭	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携① [内容] 他職種連携の意義と目的・役割について説明する [授業外学習]チームアプローチの必要性について説明できること
⑦	[テーマ] コミュニケーション介護 [内容] 視覚障害者の生活とコミュニケーションについて説明する。また、点字筆談、話し方、各種福祉用具の取り扱いについて説明する [授業外学習]福祉用具の使用方法について説明できるようにしておくこと	⑮	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携② [内容] 他職種との協働と社会資源の利用について事例を基に説明する [授業外学習]それぞれのチームの役割を説明できるようにしておくこと
⑧	[テーマ] 視覚障害者と読書及び情報収集 [内容] 視覚障害者の情報収集について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内課題レポート(評価割合10%)、点字実技(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート		◎		10%
演習・実技		◎		10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、生活と生活支援(1年)、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)、生活支援と居宅介護(2年)、生活支援と高齢者介護(2年)、生活支援と障害者介護Ⅱ(2年)・Ⅲ(3年)		
教科書	初めての点訳 全国視覚障害者情報提供施設協会	参考書	新・介護福祉士養成講座第8巻生活支援技術Ⅲ 中央法規
連絡先			

授業科目名	生活支援と障害者介護Ⅱ Lifestyle Support and Handicapped Persons CareⅡ				担当教員	大山さく子/工藤 豊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

聴覚・言語障害のある人の介護の原則と状態・状況に応じた生活支援技術を学べるように展開する。

授業の一般目標

利用者の生活状態を的確に把握し、自立支援のための工夫や福祉用具の活用を理解する。また、自立支援に資する介護を他職種と連携し、計画的に提供することを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	聴覚・言語障害者の生活の理解とその状況に応じた介護技術を理解し、支援のあり方が説明できる。
■	情意的領域	個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援が出来る。また、個々の利用者の生活課題に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	コミュニケーション介護に必要な技術・技法が適用できる。基本的な手話を用い会話ができる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿い教科書および資料を用いて展開するが、利用者の生活をより身近に、そして理解を深めるため視覚教材や手話を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(大山) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	⑨	[テーマ] 手話、筆談、読話によるコミュニケーション②(工藤) [内容] 手話の成立と発展について説明する。また、コミュニケーション手段と留意点について説明する [授業外学習]手話の復習をしておくこと
②	[テーマ]聴覚・言語障害者に応じた介護とは(大山) [内容] 聴覚・言語障害者の状態・状況に応じた介護と介護技術について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑩	[テーマ] 手話、筆談、読話によるコミュニケーション③(工藤) [内容] コミュニケーション技術と福祉用具を用い、会話する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 聴覚・言語障害者と生活の理解①(工藤) [内容] 聴覚障害からくる生活への影響と支援の方法について説明する [授業外学習]教科書を復習すること	⑪	[テーマ] 具体的事例や援助場面を想定し習得する①(工藤) [内容] 中途失聴・難聴者のコミュニケーションについて説明し、手話の実践する [授業外学習]コミュニケーションの方法と留意点について説明できること
④	[テーマ] 聴覚・言語障害者と生活の理解②(工藤) [内容] 言語障害からくる生活への影響と支援の方法について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 具体的事例や援助場面を想定し習得する②(工藤) [内容] 高齢聴覚障害者のコミュニケーションとサポートについて事例を基に説明する [授業外学習]身近な事例を収集し、次週のグループ活動に発表できること
⑤	[テーマ] 家事支援と環境整備(工藤) [内容] 聴覚・言語障害者の家事支援の方法と環境整備について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 具体的事例や援助場面を想定し習得する③(工藤) [内容] 事例を基に、ペアで手話の実践 [授業外学習]手話での基本的な会話ができるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 介護技術の展開とは(工藤) [内容] 聴覚・言語障害者の状態・状況に応じた介護技術の方法について説明する [授業外学習]教科書を基に復習しておくこと	⑭	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携①(大山) [内容] 他職種連携の意義と目的・役割について説明する [授業外学習]チームアプローチの必要性について説明できること
⑦	[テーマ] コミュニケーション介護(工藤) [内容] 聴覚・言語障害者の生活とコミュニケーションや筆談、読話、手話、補聴器等福祉用具の取り扱いについて説明する [授業外学習]福祉用具の使用方法について説明できるようにしておくこと	⑮	[テーマ] 他職種の役割と協働・連携②(大山) [内容] 他職種との協働と社会資源の利用について事例を基に説明する [授業外学習]それぞれのチームの役割を説明できるようにしておくこと
⑧	[テーマ] 手話、筆談、読話によるコミュニケーション①(工藤) [内容] ことばの機能と役割について説明する [授業外学習]教科書や資料を基に復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト(大山) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内課題レポート(評価割合10%)、点字実技(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。 出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		◎		10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	リハビリテーション論(1年)、コミュニケーション技術(1年)、生活と生活支援(1年)、生活支援技術の基礎Ⅰ・Ⅱ(1年)、生活支援と居宅介護(2年)、生活支援と高齢者介護(2年)、生活支援と障害者介護Ⅰ(2年)・Ⅲ(3年)		
教科書	聴覚・言語障害者とコミュニケーション 一番ヶ瀬康子監修	参考書	新・介護福祉士養成講座第8巻生活支援技術Ⅲ中央法規
連絡先	大山研究室:F棟2階211 オフィスアワー:火曜日 12:40～14:10		

授業科目名	介護過程Ⅱ The Process of Nursing CareⅡ				担当教員	後藤満枝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護過程の意義・目的・目標を理解し、実際の事例に基づいた介護計画の立案、実施、評価方法について演習を通して学ぶ。

授業の一般目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、ICFの視点に基づいた介護過程を展開し、介護計画を立案することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標が理解できる。
■	情意的領域	利用者の視点に立った介護過程の展開ができる。
■	技能表現的領域	事例に基づき、介護過程の展開ができる。

授業計画（全体）

ICFの視点に基づいた介護過程とは何か、どんな目的があるのかについて理解した後、事例を用いて、利用者の情報収集、アセスメント、介護計画の立案の方法について学ぶ。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 介護過程の意義・目的・目標について [内容] ICFの視点に基づいた介護過程とは何かについて学ぶ [授業外学習]ICFについて教科書を熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 介護計画の立案1 [内容] ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
②	[テーマ]情報収集の方法 [内容] ICFの視点に基づいた情報収集の意義と方法について学ぶ。 [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑩	[テーマ] 介護計画の立案2 [内容] 介護計画の立案の方法と実際について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
③	[テーマ] 情報収集1 [内容] 事例における情報収集の方法を学ぶ [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑪	[テーマ] 介護計画の立案3 [内容] 介護計画の立案の方法と実際について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。
④	[テーマ] 情報収集2 [内容] 事例における情報収集の方法を学ぶ [授業外学習]情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	⑫	[テーマ]実施と評価 [内容] 介護計画の実施と評価方法について学ぶ。 [授業外学習]介護計画の実施と評価について教科書を読んでおくこと。
⑤	[テーマ]アセスメントとは何か アセスメントの方法1 [内容] ICFの視点に基づいたアセスメントの意義と方法について学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑬	[テーマ] 介護計画の実施1 [内容] 介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学ぶ。 [授業外学習]記録と報告について教科書を読んでおくこと。
⑥	[テーマ] アセスメントの方法2 [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑭	[テーマ] 介護計画の実施2 [内容] 介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学ぶ。 [授業外学習]介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。
⑦	[テーマ] アセスメントの方法3 [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑮	[テーマ] 介護計画の評価 [内容] 介護計画の評価方法について学び、実際に介護計画の評価を行う。 [授業外学習]介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 介護計画立案の方法について [内容] 事例におけるアセスメントの方法と実際を学ぶ。 [授業外学習]アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 今までの授業のまとめを行う。 [授業外学習]実際に自分が立案した介護計画をよく読んでおくこと。

成績評価方法（方針）

授業内レポート、演習の結果に基づき、総合的に評価する。ただし、授業出席の3分の2以上が前提となる。なお、レポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			70%
授業外レポート				
演習・実技			○	30%
授業態度				加点・減点あり
出席				結核条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

介護過程の授業は、毎回の授業の積み重ねが基本となります。できるだけ、欠席のないように授業に出席してください。
また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行ってください。

関連科目	介護過程Ⅰ・介護過程Ⅲ		
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202 オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	介護過程Ⅲ The Process of Nursing Care Ⅲ				担当教員	後藤満枝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

介護過程の意義・目的・目標を理解し、実際の事例に基づいた介護過程の立案、実施、評価方法について、演習を通して学ぶ。

授業の一般目標

他科目で学習した知識や技術を統合して、ICFの視点に基づいた介護過程を展開し、介護計画を立案することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の展開について理解することができ、記録、報告の方法についての理解ができる。
■	情意的領域	利用者の視点に立って、介護過程の展開ができる。
■	技能表現的領域	事例に基づいての介護過程の展開ができ、また、記録、報告ができる。

授業計画(全体)

各、授業テーマに沿って、事例に基づき、グループワークを中心にした授業展開を行う。介護過程とは、何かについて理解したあと、実際の介護計画の立案、実施、評価について学んでいく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 介護記録の必要性と根拠について1 [内容] 専門職に求められる記録と報告の役割について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 介護記録の書き方3 [内容] 介護記録を正しく効率的に書くための方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
②	[テーマ] 介護記録の必要性と根拠について2 [内容] 関係法規、指導、監査時に必要な記録とは何かについて学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 介護過程とICF1 [内容] ICFの視点に基づいた記録の方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
③	[テーマ] 介護記録の必要性と根拠について3 [内容] 福祉サービスを利用する人の立場で記録と報告について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 介護過程とICF2 [内容] 実際の事例を通して、介護過程と介護の原則について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
④	[テーマ] 利用者の安心・安全のための介護記録1 [内容] 介護実践の視点で考える介護記録とは何かについて学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 介護過程とICF3 [内容] 介護過程とICFの関係について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 利用者の安心・安全のための介護記録2 [内容] 利用者の安全を守るための記録とは何かについて学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑬	アセスメントと介護実践1 [内容] 事例を通して介護過程の展開方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 利用者の安心・安全のための介護記録3 [内容] ケアの質の向上・他職種連携のための記録について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑭	アセスメントと介護実践2 [内容] 事例を通して介護過程の展開方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 介護記録の書き方1 [内容] 介護記録の実際の書き方、内容について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑮	アセスメントと介護実践3 [内容] 事例を通して介護過程の展開方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 介護記録の書き方2 [内容] 介護記録を正しく効率的に書くための方法について学ぶ。 [授業外学習] 授業内容について教科書の該当箇所を復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 授業のまとめ [内容] 授業のまとめ(介護過程と介護計画の立案、記録とその方法についての振り返りを行う。 [授業外学習]まとめを通して、介護過程についての振り返りを行う。

成績評価方法(方針)

授業内レポート(70%)、演習(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。ただし出席3分の2以上が前提となる。なお、レポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			70%
授業外レポート				
演習・実技			○	30%
授業態度				加点・減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

介護過程の授業は、毎回の授業の積み重ねが基本となります。できるだけ、欠席のないように授業に出席してください。
また、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行ってください。

関連科目	介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ		
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規	参考書	
連絡先	後藤研究室:F棟2階202 オフィスアワー:別途連絡する		

授業科目名	介護実習Ⅰ Nursing Care Practice Ⅰ				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	介護福祉士受験資格、福祉レクリエーション・ワーカー他
	履修の方法	選択	単位数	3		

授業の概要

この授業は学外における介護実習である。これまでの学内での学びを通して得た知識・技術をもとに、介護実習施設において介護を必要とする人々に適切な介護を展開できるよう、実習施設側と連携し指導する。特に、利用者のさまざまな生活の場面にふれ、日常生活の実際、利用者の全人的な理解と介護の基本について学べるよう指導する。

授業の一般目標

利用者の暮らしや住まい等の日常生活を理解し、多様な介護サービスについて理解を深める。また、施設の機能や基本的なケアについて体験を通して学び、介護福祉士や他職種の役割を理解することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	施設の機能や介護サービスを利用する利用者の生活環境について説明できる。また、介護福祉士や他職種の役割について説明できる。
■	情意的領域	慣れ親しんだ地域社会で暮らす高齢者や障害者が施設等を利用しながら生活する状況を理解するとともに、個別ケアの実践の重要性について考えることができる。
■	技能表現的領域	利用者や家族とのかかわりを通したコミュニケーションの実践・多職種協働・安全安楽な介護技術の確認ができる。

授業計画（全体）

介護実習Ⅰは、介護総合演習Ⅰにおける事前指導をふまえて行われる。実習中は実習指導者による指導と並行して、担当教員も巡回時に指導を行う。介護実習Ⅰでは、実習指導者の指導の下、これまでに得た知識・技術を活用し、利用者個々の特性に応じて展開される介護技術を身につけることができるよう助言・指導する。

授業テーマとその内容

1. 実習施設・事業の概要、介護サービスについて指導する。

2. 利用者の生活リズムや個性を理解できるよう指導する。

3. 利用者・家族とのコミュニケーション、尊厳ある態度でのコミュニケーションについて指導する。

4. 安全・安楽な介護技術について指導する。
   ①基本的な介護技術
   ②個性・障害に応じた介護技術
   ③心地良さ・介護予防に対応できる介護技術

5. 福祉用具の管理方法について指導する。

6. 多職種との協働や関係機関との連携について指導する。

7. 介護職の健康管理について指導する。

8. 介護におけるリスクマネジメントについて指導する。

9. 実習日誌への的確な記録・記述について指導する。

成績評価方法（方針）

介護実習成績評価表（実習施設からの評価）（30%）、担当指導教員評価（70%）に基づいて、総合的に評価する。ただし、規定の実習日数を出席することが条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・実習上知り得た利用者の情報等に関する守秘義務を遵守すること。
・施設利用者のプライバシーを保護するよう配慮すること。
・実習中は実習指導者や担当教員の指示に従い、自己判断で行わないこと。
・実習期間は、実習生としてふさわしい服装で臨むこと。
・学ぶ機会を与えていただいたことに感謝し、実習生として謙虚な態度で臨むこと。
・実習中に他の授業を欠席する場合は、事前に介護実習用の欠席届を該当科目の担当教員へ提出すること。

関連科目	介護総合演習Ⅰ、介護総合演習Ⅱ		
教科書	仙台大学介護実習要項	参考書	
連絡先	福田研究室：G棟2階212　オフィスアワー：火曜日　14:20～15:50		

授業科目名	介護実習Ⅱ Nursing Care Practice Ⅱ				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

介護実習Ⅱにおいては、利用者の個別性と生活障害を理解するために「介護過程の展開」を通して学習する。この「介護過程の展開」における一連のプロセス(情報収集～分析・解釈～ニーズの明確化～目標設定～計画立案～実践)では、信頼関係構築に求められるコミュニケーション・スキルや洞察力を養うことの必要性を理解できるよう主体的に取り組むことが求められる。

授業の一般目標

①対象理解と信頼関係構築に向けた円滑なコミュニケーション展開ができる。 ②個別性を踏まえた介護実践が展開できる。 ③介護が提供される場の特性を理解し、関係職種との連携・協働の重要性を理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	施設の機能や介護サービスを利用する利用者の生活環境について説明できる。また、介護福祉士や他職種の役割について説明できる。
■	情意的領域	慣れ親しんだ地域社会を離れ、高齢者や障害者が施設等を利用しながら生活する状況を理解する。個々の利用者に応じた生活支援の重要性について考え、実践することができる。
■	技能表現的領域	利用者や家族とのかかわりを通したコミュニケーションの実践・多職種協働・安全安楽な介護技術の確認ができる。

授業計画(全体)

介護実習Ⅱは、介護総合演習Ⅱにおける事前指導をふまえて行われる。実習中は実習指導者による指導と並行して、担当教員も巡回時に指導を行う。介護実習Ⅱでは、実習指導者の指導の下、これまでに得た知識・技術を活用し、利用者個々の特性に応じて展開される生活支援に求められる技術を身につけることができるよう助言・指導する。

授業テーマとその内容

1. 実習施設・事業の概要、介護サービスについて指導する。
2. 利用者の生活リズムや個性を理解できるよう指導する。
3. 利用者・家族とのコミュニケーション、尊厳ある態度でのコミュニケーションについて指導する。
4. 安全・安楽な介護技術の確認と実践について指導する。
   ①基本的な介護技術
   ②個性・障害に応じた介護技術
   ③心地良さ・介護予防に対応できる介護技術
5. ICFの視点に基づいた介護過程の展開を指導する。
6. 多職種との協働や関係機関との連携について指導する。
7. 介護職の健康管理について指導する。
8. 介護におけるリスクマネジメントについて指導する。
9. 実習日誌への的確な記録・記述について指導する。
10. 人権擁護と倫理性の保持について指導する。
11. 報告・連絡・相談の重要性について指導する。

成績評価方法(方針)

介護実習成績評価表(実習施設からの評価)(30%)、担当指導教員評価(70%)に基づいて、総合的に評価する。ただし、規定の実習日数を出席することが条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・実習上知り得た利用者の情報等に関する守秘義務を遵守すること。
・施設利用者のプライバシーを保護するよう配慮すること。
・実習中は実習指導者や担当教員の指示に従い、自己判断で行わないこと。
・実習期間は、実習生としてふさわしい服装で臨むこと。
・学ぶ機会を与えていただいたことに感謝し、実習生として謙虚な態度で臨むこと。
・実習中に他の授業を欠席する場合は、事前に介護実習用の欠席届を該当科目の担当教員へ提出すること。

関連科目	介護総合演習Ⅱ　介護総合演習Ⅲ		
教科書	仙台大学介護実習要項	参考書	
連絡先	福田研究室:G棟2階212　オフィスアワー:火曜日　14:20～15:50		

授業科目名	介護実習Ⅲ Nursing Care Practice Ⅲ				担当教員	大山さく子・後藤満枝・篠原真弓・堀江竜弥・福田伸雄
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	介護福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

介護実習Ⅲは、学生個々の実習課題を達成するための総合的な実習と位置付ける。生活支援活動が科学的実践であることを理解するために「介護過程の展開」における一連のプロセス(情報収集～分析・解釈～ニーズの明確化～目標設定～計画立案～実践～評価)を実践する。本実習における体験的実践の積み重ねを通し、介護福祉専門職としての自覚と人間的な成長とともに、人間観、介護観、倫理観、職業観を確立させていく。

授業の一般目標

①対象理解と信頼関係構築に向けた円滑なコミュニケーション展開ができる。 ②個別性を踏まえた介護実践が展開できる。 ③介護が提供される場の特性を理解し、関係職種との連携・協働の重要性を理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	施設の機能や介護サービスを利用する利用者の生活環境について説明できる。また、介護福祉士や他職種の役割について説明できる。
■	情意的領域	慣れ親しんだ地域社会を離れ、高齢者や障害者が施設等を利用しながら生活する状況を理解する。個々の利用者に応じた生活支援の重要性について考え、実践することができる。
■	技能表現的領域	利用者や家族とのかかわりを通したコミュニケーションの実践・多職種協働・安全安楽な介護技術の確認ができる。

授業計画(全体)

介護実習Ⅲは、介護総合演習Ⅲにおける事前指導をふまえて行われる。実習中は実習指導者による指導と並行して、担当教員も巡回時に指導を行う。介護実習Ⅲでは、実習指導者の指導の下、これまでの実習で習得した知識・技術を基に活用し、利用者個々の特性に応じて展開すべき生活支援に求められる技術を身につけることができるよう助言・指導する。

授業テーマとその内容

1. 実習施設・事業の概要、介護サービスについて指導する。
2. 利用者の生活リズムや個性を理解できるよう指導する。
3. 利用者・家族とのコミュニケーション、尊厳ある態度でのコミュニケーションについて指導する。
4. 安全・安楽な介護技術の確認と実践について指導する。
   ①基本的な介護技術
   ②個性・障害に応じた介護技術
   ③心地良さ・介護予防に対応できる介護技術
5. ICFの視点に基づいた介護過程の展開を指導する。
6. 多職種との協働や関係機関との連携について指導する。
7. 介護職の健康管理について指導する。
8. 介護におけるリスクマネジメントについて指導する。
9. 実習日誌への的確な記録・記述について指導する。
10. 人権擁護と倫理性の保持について指導する。
11. 報告・連絡・相談の重要性について指導する。

成績評価方法(方針)

介護実習成績評価表(実習施設からの評価)(30%)、担当指導教員評価(70%)に基づいて、総合的に評価する。ただし、規定の実習日数を出席することが条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・実習上知り得た利用者の情報等に関する守秘義務を遵守すること。
・施設利用者のプライバシーを保護するよう配慮すること。
・実習中は実習指導者や担当教員の指示に従い、自己判断で行わないこと。
・実習期間は、実習生としてふさわしい服装で臨むこと。
・学ぶ機会を与えていただいたことに感謝し、実習生として謙虚な態度で臨むこと。
・実習中に他の授業を欠席する場合は、事前に介護実習用の欠席届を該当科目の担当教員へ提出すること。

関連科目	介護総合演習Ⅱ　介護総合演習Ⅲ　介護過程Ⅲ		
教科書	仙台大学介護実習要項	参考書	利用者の生活がわかる記録の書き方:日総研出版
連絡先	福田研究室:G棟2階212　オフィスアワー:火曜日　14:20～15:50		

授業科目名	社会福祉援助技術現場実習指導 ① 3年前期 Teach to Social Work Practice Ⅰ				担当教員	高橋亮
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義・演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

社会福祉援助技術現場実習の事前指導として、①社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解及び学習を行なう。実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場でのボランティア活動を促し、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解できるようにする。

授業の一般目標

福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職に求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に相談援助実習に対応できる能力を習得することを目標とする。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る技術について具体的にかつ実際的に理解し実践的な技術等を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解ができる。
■	情意的領域	実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場を理解できる。
■	技能表現的領域	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解でき、現場実習で相談援助の実際が実習できる。

授業計画（全体）

社会福祉援助技術現場実習の意義を理解する。社会福祉援助技術現場実習の意義や利用者、実習先の理解を深めるために事前ボランティア活動を積極的に行い、これまで学んだ知識、技術等を具体的にかつ実際的に理解できるようにする。事前実習指導は実習前の6ヶ月間ボランティア活動の振り返りと配属予定実習先や機関の事前学習及び実習記録の書き方の演習を繰り返し実施、見直しを通して理解を深める。事後実習指導は実習終了後、実習報告書の作成及び継続的な考察を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] オリエンテーション 事前実習指導としての位置づけを理解する。 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑨	[テーマ] ボランティア活動を振り返る。 [内容] グループ討論 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 実習指導の意味と目的 [内容] 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意味と目的 配属実習の意味理解 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑩	[テーマ] ボランティア活動討論② [内容] グループ討論 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] 社会福祉士として自己に求められる課題分析 [内容] 自分の実習課題分析 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] 現場体験学習及び見学実習 [内容] 個々人の配属実習先での体験 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] ボランティア活動の重要性を知る [内容] 多様な現場での間接経験としてのボランティアと実習準備 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑫	[テーマ] 実習における個人保護について [内容] 個人情報保護法 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] 配属実習先の事前学習－グループ編成 [内容] 演習－グループ演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] 実習関連書類作成演習① [内容] 個人票作成 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 分野別グループワーク演習－高齢者分野 [内容] 小6法から高齢者関連法律理解 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑭	[テーマ] 実習関連書類作成演習② [内容] 実習計画書の下書き [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] 地域福祉分野－グループ演習 [内容] 社協の実践・実際調査 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑮	[テーマ] 実習関連書類作成 [内容] 演習実習関連書類作成③ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] 配属実習先訪問学習－個々人の実習指導 [内容] 個別指導 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] テスト [内容] まとめ [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内レポート（評価割合20%）を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎			10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			20%
授業態度	◎			10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・配属実習先の評価及び講義・演習・ボランティア活動の取組で評価する。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目	社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、演習Ⅰ、演習Ⅱ		
教科書	社会福祉士相談援助実習 白澤政和他、日本社会福祉士養成校協会	参考書	
連絡先	高橋亮研究室 オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術現場実習指導 ② Teach to Social Work Practice Ⅱ				担当教員	高橋亮
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義・演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

社会福祉援助技術現場実習の事前指導として、①社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解及び学習を行なう。実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場でのボランティア活動を促し、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解できるようにする。

授業の一般目標

福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職に求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に相談援助実習に対応できる能力を習得することを目標とする。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る技術について具体的にかつ実際的に理解し実践的な技術等を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解ができる。
■	情意的領域	実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場を理解できる。
■	技能表現的領域	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解でき、現場実習で相談援助の実際が実習できる。

授業計画（全体）

社会福祉援助技術現場実習の意義を理解する。社会福祉援助技術現場実習を通じて、これまで学んだ知識、技術等を具体的にかつ実際的に理解できるようにする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 後期の実習指導内容理解 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑨	[テーマ] 児童分野グループ発表 [内容] 発表及びグループ討論 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 現場体験学習及び見学実習内容を討議（グループ演習） [内容] 配属実習の意味理解 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑩	[テーマ] 高齢者分野グループ発表 [内容] 発表及びグループ討論 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] 社会福祉士として自己に求められる課題分析（実習計画書作成） [内容] 実習課題（下書き） [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] 障害者分野グループ発表 [内容] 発表及びグループ討論 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] ボランティア活動の重要性を知る（前期を振り返ってボランティ活動） [内容] 多様な現場での間接経験としてのボランティアと実習準備 [授業外学習]	⑫	[テーマ] その他分野発表 [内容] 発表及びグループ討議 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] 配属実習先への実習計画作成① [内容] 実習計画書作成-演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] 実習記録の書き方ー演習① [内容] ボランティア内容を中心に作成 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 配属実習先への実習計画作成② [内容] 実習先の事業内容理解 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 実習記録の書き方演習② [内容] 実習日誌演習 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] 実習先の関連職種理解 [内容] 実習先の実践・実際調査 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑮	[テーマ] 実習記録の書き方演習③ [内容] 実習日誌書き方演習③ [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] 配属実習先に関する学習 [内容] 配属実習先訪問学習ー個々人の実習指導 [内容] 個別指導 [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] 実習記録の書き方演習④ [内容] まとめ・記録書き方に対するコメント [授業外学習] 個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合50%）。また、授業内レポート他（評価割合50%）を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。
出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎			10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技	◎			20%
授業態度	◎			10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・配属実習先の評価及び講義・演習・ボランティア活動の取組で評価する。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと

関連科目	社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習		
教科書	宮田和明他、『社会福祉実習』、中央法規、2005	参考書	
連絡先	高橋亮研究室		

授業科目名	社会福祉援助技術現場実習指導③ 4年　前期 Teach to Social Work Practice Ⅲ				担当教員	高橋亮
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

社会福祉援助技術現場実習の事前指導として、①社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解及び学習を行なう。実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場でのボランティア活動を促し、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解できるようにする。

授業の一般目標

福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職に求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に相談援助実習に対応できる能力を習得することを目標とする。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る技術について具体的にかつ実際的に理解し実践的な技術等を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉小6法に定められている配属実習先（施設・事業所・機関・団体・地域社会）について基本的な理解ができる。
■	情意的領域	実習先で行なわれている介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を深めるために、多様な福祉現場を理解できる。
■	技能表現的領域	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解でき、現場実習で相談援助の実際が実習でき、実習報告書が書ける。

授業計画（全体）

社会福祉援助技術現場実習の意義を理解する。社会福祉援助技術現場実習を通じて、これまで学んだ知識、技術等を具体的にかつ実際的に理解できるようにする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容]　事後実習指導内容理解 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑨	[テーマ] グループ討論① [内容] 配属実習先別共同グループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 実習先へのお礼状 [内容]　実習お礼状の作成 [授業外学習]　御礼状	⑩	[テーマ] グループ討論② [内容] 配属実習先別共同グループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] 実習報告書作成－下書き① [内容] 実習報告書（下書き） [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑪	[テーマ] グループ討論③ [内容] 配属実習先別共同グループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] 実習報告書作成① [内容] 実習のまとめ [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑫	[テーマ] 実習評価と全体総括① [内容] 実習評価及びグループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] 実習報告書作成② [内容] 実習まとめ [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑬	[テーマ] 実習評価と全体総括② [内容] 実習評価及びグループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑥	[テーマ] 実習報告 [内容] 実習報告会（3年生共同）① [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑭	[テーマ] 実習評価と全体総括③ [内容]実習評価及び グループ討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] 実習報告 [内容] 実習報告会（3年生共同）② [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑮	[テーマ] 実習日誌を返す。 [内容]　実習記録・評価表・出席簿回収し、実習記録及び実習評価に基づく討論 [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] 実習報告 [内容] 実習報告会（3年生共同）③ [授業外学習]　個人学習からの新しい発見を分かち合うための予習	⑯	[テーマ] 実習日誌を返す。 [内容] 実習記録・評価表・出席簿回収し、実習記録及び実習評価に基づく討論 [授業外学習〕

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合50%）。また、授業内レポート他（評価割合50%）を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。
出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。
提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎			10%
授業外レポート	○			10%
演習・実技	◎			10%
授業態度	◎			20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習		
教科書	宮田和明他、『社会福祉実習』、中央法規、2005	参考書	
連絡先	高橋亮研究室　オフィースアワー金12:40-14:10		

授業科目名	社会福祉援助技術現場実習 Social Work Practice				担当教員	高橋亮・関矢貴秋
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	社会福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	6		

授業の概要

社会福祉福祉援助技術現場実習では、配属実習先で(社会福祉協議会、施設、機関など)24日間、利用者や地域住民の生活支援に焦点を合わせ、相談援助の在り方について学ぶ。また、相談援助に関する知識、及び技術を実践を通して利用者個々人の理解、地域住民の理解、組織や施設の理解できる。

授業の一般目標

1. 社会福祉相談援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、社会福祉援助後術演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識や技術を理解し、活用できる。 2. 配属実習先(施設や機関)の社会的機能や専門職特に社会福祉士の役割や機能を理解する。 3. サービス利用者や地域住民のニーズを把握し、配属実習先で提供するサービス内容の把握、地域福祉計画等について理解する。4. 専門職としての社会福祉士としての将来について考える。

授業の到達目標

■	認知的領域	配属実習先の機能や役割について理解し、説明できる。社会福祉士の組織内での役割機能について理解でき、説明できる。
■	情意的領域	社会福祉相談援助技術について現場での実践に基づいて、相談業務を理解でき利用者や地域住民のニーズを把握できる。
■	技能表現的領域	相談援助に関わる関連法制度の理解及び関連技術を学び、相談援助の実際を把握する。

授業計画(全体)

配属実習先での実習計画に基づき、24日間相談援助技術に関する実習を行う。各配属実習先には巡回担当教員が巡回指導を行う他、週1回帰校日を設け1週間の実習記録の確認及び実習中の悩みや戸惑いについて話し合う。また、1週間ごとに振り返りシートを作成してもらう。巡回時は、施設や機関での実習指導担当職員と実習生の実習内容や学校での指導などについて話し合い、改善点等を検討する。

授業テーマとその内容

1. 社会福祉相談援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、社会福祉援助後術演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識や技術を理解し、活用するように指導する。 2. 相談援助の対象であるサービス利用者や地域住民の個々人を理解するように指導する。 3. 配属実習先(施設や機関)の役割や機能について理解するように指導する。 4. 相談援助技術と関連する援助技術について指導する。 5. 社会福祉分野における関連法制度を理解できるよう指導する。 6. 多職種や他機関・施設との連携や他地域との連携等について学ぶように指導する。7. 実習日誌について適切な表現及び記述するように指導する。

成績評価方法(方針)

配属実習先での評価(30%)や巡回担当教員及び現場実習指導の演習(70%)に基づき、総合的に評価する。ただし、実習規定の24日を出席することを条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・実習機関や施設で実習中に得られた情報に関しては秘密を保持すると。
・実習期間は実習先の担当職員及び担当教員の指示に従い、自己判断で行わないこと。
・実習期間は実習生として相応しい服装をすること。
・実習期間中は止むを得ない事情(病気、事故、親族の葬儀など)以外は欠席しないこと。
・実習期間中は会社説明会や企業訪問など就職活動を行わないこと。

関連科目	社会福祉援助技術現場実習指導、社会福祉援助技術演習Ⅰ、Ⅱ		
教科書	社会福祉実習指導	参考書	社会福祉援助技術実習指導テキスト
連絡先	各研究室:E棟2階、F棟2階		

授業科目名	医療的ケア実施の基礎 The basics of medical care for care work				担当教員	堀江　竜弥　/　篠原　真弓
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎について学習する。

授業の一般目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などが安全・適切なケアに欠かせないことの理解ができる。
■	情意的領域	観察に基づく情報収集から的確なアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。
■	技能表現的領域	医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎が習得できる。

授業計画（全体）

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。
医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習する。その後「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ 個人の尊厳と自立（堀江） ［内容］ 個人の尊厳と自立について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑨	［テーマ］ 感染予防（篠原） ［内容］ 感染予防について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
②	［テーマ］ 医療の倫理（堀江） ［内容］ 医療の倫理について ［授業外学習］ 前回配布資料を基に復習しておくこと	⑩	［テーマ］ 職員の感染予防（篠原） ［内容］ 職員の感染予防について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
③	［テーマ］ 利用者や家族の気持ち、説明と同意（堀江） ［内容］ 利用者や家族の気持ち、説明と同意について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑪	［テーマ］ 療養環境の清潔、消毒法（篠原） ［内容］ 療養環境の清潔、消毒法について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
④	［テーマ］ 保健医療に関する制度（堀江） ［内容］ 保健医療に関する制度について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑫	［テーマ］ 滅菌と消毒（篠原） ［内容］ 滅菌と消毒について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑤	［テーマ］ 医行為に関する法律（堀江） ［内容］ 医行為に関する法律について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑬	［テーマ］ 身体・精神の健康（篠原） ［内容］ 身体・精神の健康について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑥	［テーマ］ チーム医療と介護職との連携（堀江） ［内容］ チーム医療と介護職との連携について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑭	［テーマ］ 健康状態を知る項目（バイタルサインなど）（篠原） ［内容］ 健康状態を知る項目（バイタルサインなど）について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑦	［テーマ］ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施（堀江） ［内容］ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑮	［テーマ］ 急変状態について（篠原） ［内容］ 急変状態についてについて ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑧	［テーマ］ 救急蘇生法（堀江・篠原） ［内容］ 救急蘇生法について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑯	［テーマ］ まとめ（堀江） ［内容］ 基礎知識の習得状況について確認する ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと

成績評価方法（方針）

試験は、医療的ケアの安全・適切な実施に必要な基礎知識の習得状況を確認する目的で行う。
試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。。試験は個別に解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎	◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅠ・Ⅱ　喀痰吸引　経管栄養　医療的ケア演習		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13　医療的ケア	参考書	
連絡先	研究室：A棟5階507　　オフィスアワー：水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	喀痰吸引 Sputum Suction				担当教員	堀江　竜弥
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎知識と実施手順について学習する。

授業の一般目標

高齢者および障害児・者の喀痰吸引を、安全・適切に実施するために必要な知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応が理解ができる。
■	情意的領域	観察に基づく情報収集から的確なアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。
■	技能表現的領域	喀痰吸引を実施するために必要な基礎知識と実施手順が習得できる。

授業計画（全体）

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。
医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習する。その後「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ 呼吸器系の仕組みと働き ［内容］ 呼吸器系の仕組みと働きについて ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑨	［テーマ］ 急変および事故発生時の対応、事前対策 ［内容］ 急変および事故発生時の対応、事前対策について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
②	［テーマ］ 呼吸状態 ［内容］ 呼吸状態について ［授業外学習］ 前回配布資料を基に復習・予習しておくこと	⑩	［テーマ］ 喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持 ［内容］ 喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
③	［テーマ］ 喀痰吸引法とは ［内容］ 喀痰吸引法について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑪	［テーマ］ 喀痰吸引の技術と留意点① ［内容］ 喀痰吸引の技術と留意点について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
④	［テーマ］ 人工呼吸器と吸引 ［内容］ 人工呼吸療法に関する機材の仕組と人工呼吸器装着者に関する生活支援について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑫	［テーマ］ 喀痰吸引の技術と留意点② ［内容］ 喀痰吸引の技術と留意点について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑤	［テーマ］ 小児の呼吸 ［内容］ 小児の呼吸について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑬	［テーマ］ 喀痰吸引に伴うケア ［内容］ 喀痰吸引に伴うケアについて ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑥	［テーマ］ 喀痰吸引に関係する呼吸器系の感染と予防 ［内容］ 喀痰吸引に関係する呼吸器系の感染と予防について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑭	［テーマ］ 報告および記録① ［内容］ 報告および記録について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑦	［テーマ］ 利用者や家族の心理・説明と同意 ［内容］ 利用者や家族の心理・説明と同意について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑮	［テーマ］ 報告および記録② ［内容］ 報告および記録について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑧	［テーマ］ 喀痰吸引に伴う危険と事後の安全確認 ［内容］ 喀痰吸引に伴う危険と事後の安全確認について ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑯	［テーマ］ まとめ ［内容］ 基礎知識の習得状況について確認する ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと

成績評価方法（方針）

試験は、喀痰吸引に必要な基礎知識の習得状況を確認する目的で行う。
試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。試験結果は個別に解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎	◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅠ・Ⅱ　医療的ケア実施の基礎　経管栄養　医療的ケア演習		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13　医療的ケア	参考書	
連絡先	研究室：A棟5階507　　オフィスアワー：水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	経管栄養 Tube Feeding				担当教員	堀江　竜弥
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎知識と実施手順について学習する。

授業の一般目標

高齢者および障害児・者の経管栄養を、安全・適切に実施するために必要な知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応が理解ができる。
■	情意的領域	観察に基づく情報収集から的確なアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。
■	技能表現的領域	経管栄養を実施するために必要な基礎知識と実施手順が習得できる。

授業計画(全体)

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。
医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習する。その後「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　消化器系の仕組みと働き [内容]　消化器系の仕組みと働きについて [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑨	[テーマ]　経管栄養法にともなう危険と注入後の安全確認 [内容]　経管栄養法にともなう危険と注入後の安全確認について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
②	[テーマ]　消化・吸収と消化器に出現する症状 [内容]　消化・吸収と消化器に出現する症状について [授業外学習]　前回配布資料を基に予習しておくこと	⑩	[テーマ]　急変および事故発生時の対応、事前対策 [内容]　急変および事故発生時の対応、事前対策について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
③	[テーマ]　経管栄養法とは [内容]　経管栄養法について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑪	[テーマ]　経管栄養に用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持 [内容]　経管栄養に用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
④	[テーマ]　注入する内容物に関する知識 [内容]　注入する内容物に関する知識について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑫	[テーマ]　経管栄養の技術と留意点① [内容]　経管栄養の技術と留意点について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑤	[テーマ]　経管栄養法の実施上における留意点 [内容]　経管栄養法の実施上における留意点について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑬	[テーマ]　経管栄養の技術と留意点② [内容]　経管栄養の技術と留意点について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑥	[テーマ]　小児の経管栄養 [内容]　小児の経管栄養について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑭	[テーマ]　経管栄養法に必要なケア [内容]　経管栄養法に必要なケアについて [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑦	[テーマ]　経管栄養法に関係する感染と予防 [内容]　経管栄養法に関係する感染と予防について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑮	[テーマ]　報告および記録 [内容]　報告および記録について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑧	[テーマ]　利用者や家族の心理・説明と同意 [内容]　利用者や家族の心理・説明と同意について [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑯	[テーマ]　まとめ [内容]　基礎知識の習得状況について確認する [授業外学習]　テキスト及び映像資料による学習をしておくこと

成績評価方法(方針)

試験は、経管栄養に必要な基礎知識の習得状況を確認する目的で行う。
試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。試験結果は個別に解説する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅠ・Ⅱ　医療的ケア実施の基礎　喀痰吸引　医療的ケア演習		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13　医療的ケア	参考書	
連絡先	研究室:A棟5階507　オフィスアワー:水曜日　10:20～11:50		

授業科目名	医療的ケア演習 Medical Care for Care work				担当教員	堀江　竜弥　・　篠原　真弓
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	介護福祉士国家試験受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

喀痰吸引および経管栄養についての目的、目標を理解し、実際の口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引、胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養が安全に正しく実施できる方法について演習を通して学習する。

授業の一般目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	喀痰吸引、経管栄養に必要な人体の構造と機能、急変状態への対応が理解ができる。
■	情意的領域	観察に基づく情報収集から的確なアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。
■	技能表現的領域	喀痰吸引、経管栄養を実施するための実施手順、救急蘇生法について習得できる。

授業計画（全体）

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。
医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習する。その後「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］　口腔内吸引①（堀江・篠原） ［内容］　口腔内吸引の概要 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑨	［テーマ］　気管カニューレ内吸引③（堀江・篠原） ［内容］　気管カニューレ内吸引の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
②	［テーマ］　口腔内吸引②（堀江・篠原） ［内容］　口腔内吸引の実際 ［授業外学習］ 前回配布資料を基に復習しておくこと	⑩	［テーマ］　経管栄養①（堀江・篠原） ［内容］　胃ろうによる経管栄養の概要と実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
③	［テーマ］　口腔内吸引③（堀江・篠原） ［内容］　口腔内吸引の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑪	［テーマ］　経管栄養②（堀江・篠原） ［内容］　胃ろうによる経管栄養の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
④	［テーマ］　鼻腔内吸引①（堀江・篠原） ［内容］　鼻腔内吸引の概要 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑫	［テーマ］　経管栄養③（堀江・篠原） ［内容］　腸ろうによる経管栄養の概要と実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑤	［テーマ］　鼻腔内吸引②（堀江・篠原） ［内容］　鼻腔内吸引の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑬	［テーマ］　経管栄養④（堀江・篠原） ［内容］　腸ろうによる経管栄養の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑥	［テーマ］　鼻腔内吸引③（堀江・篠原） ［内容］　鼻腔内吸引の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑭	［テーマ］　経管栄養⑤（堀江・篠原） ［内容］　経鼻経管栄養の概要と実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑦	［テーマ］　気管カニューレ内吸引①（堀江・篠原） ［内容］　気管カニューレ内吸引の概要 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑮	［テーマ］　経管栄養⑥（堀江・篠原） ［内容］　経鼻経管栄養の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと
⑧	［テーマ］　気管カニューレ内吸引②（堀江・篠原） ［内容］　気管カニューレ内吸引の実際 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	⑯	［テーマ］　心肺蘇生法（堀江・篠原） ［内容］　救急蘇生法の手順と留意点 ［授業外学習］ テキスト及び映像資料による学習をしておくこと

成績評価方法（方針）

試験は、喀痰吸引および経管栄養に関する実技試験を行う。
試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。実技試験の結果は、即時伝達する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話の電源を切り、をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	こころとからだⅠ・Ⅱ　医療的ケア実施の基礎　喀痰吸引　経管栄養		
教科書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13　医療的ケア	参考書	
連絡先	研究室：A棟5階507　　オフィスアワー：水曜日　10:20～11:50		

6. 教職に関する科目

授業科目名	養護実習Ⅰ Student－Teacher Training Ⅰ(L)				担当教員	江口、山谷、小濱、久能、入澤、志賀野、大内、郡山
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	養護教諭普通1種免許状
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

4年次で実施される養護実習Ⅱの事前指導の内容とする。養護実習Ⅱに参加を希望する者は、この科目を受講しなければならない。

授業の一般目標

養護実習Ⅱに参加する基礎的技能、心構え、態度等を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	養護実習の意義を理解する。
■	情意的領域	意欲的に養護実習に参加する。
■	技能表現的領域	養護実習の基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

養護実習の意義、学校現場の理解、養護実習の心構え、養護実習の方法流れを確認し、保健指導や保健学習指導案等の作成、教材・教具の作成等を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ]定期健康診断参観及び補助(1) [内容] 仙台市内の高等学校での実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
②	[テーマ]学習指導案(保健) [内容]学習指導案とは何かを理解する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 定期健康診断参観及び補助(2) [内容]仙台市内の高等学校で実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
③	[テーマ]教育実習の理解 [内容] 授業とは異なる、実際の現場に臨んで実習をすることの意義を理解する [授業外学習]仙台大学編「教育実習の手引」を読んでおく	⑪	[テーマ] 定期健康診断参観及び補助(3) [内容]仙台市内の高等学校で実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
④	[テーマ] 学校現場の理解 [内容]教職員の一員として小学校・中学校・高等学校それぞれの現場の体制を理解しておく [授業外学習]	⑫	[テーマ]定期健康診断補助(4) [内容] 仙台市内の高等学校で実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
⑤	[テーマ]養護実習の理解 [内容] 養護実習全体の流れを理解する [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと	⑬	[テーマ]定期健康診断補助(5) [内容] 仙台市内の高等学校での実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
⑥	[テーマ]定期健康診断の参観及び補助の事前指導 [内容]健康診断の準備及び及び健康診断票の記入の仕方 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと	⑭	[テーマ]定期健康診断補助及び事後措置のための資料作成(1) [内容] 仙台市内の高等学校での実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
⑦	[テーマ]実践高等学校の見学及び打合せ [内容]仙台市内の高等学校での実施 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 定期健康診断補助及び事後措置のための資料作成(2) [内容] 仙台市内の高等学校での実践 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと
⑧	[テーマ]教育実習の実際と教育実習生に望むこと [内容]先輩養護教諭の講話 [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと	⑯	[テーマ] 実習報告書の作成 [内容]各自、実習報告書をまとめ提出する [授業外学習]学校保健実務必携を復習しておくこと

成績評価方法(方針)

出席及び実習報告書を中心に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		◎		60%
演習・実技		◎		20%
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①3年次後期から4年次にわたって開講する。
②開講は不定期であり、指示に従って受講すること。
③養護実習Ⅱを履修するための科目であることを理解し受講すること。
④大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	仙台大学編「教育実習の手引」 学習指導要領	参考書	学校保健実務必携
連絡先	研究室F棟209		

授業科目名	養護実習Ⅱ Student-Teacher Training Ⅱ (F. E)				担当教員	江口 千恵
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実習	関連資格	養護教諭1種免許状
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

自主開拓校の小学校、中学校、高等学校、または仙台市内協力校の小学校、中学校における養護実習であり、期間は3週間である.

授業の一般目標

学校教育の現実と実際とに触れることを通して、これまでに学習してきた一般教養、養護教諭の職務、教職専門教養について再吟味するとともに、学校教員の職務活動の一端を経験することにより、将来の養護教諭としての決意と適性を確認し、大学における学習への新たな意欲を持つ機会とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育全体に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。
■	情意的領域	児童生徒と直接関わることにより、養護教諭に求められる役割に対する理解を深める。
■	技能表現的領域	保健学習、保健指導における教材研究や指導技術及び援助技術の具体的方法を理解する

授業計画(全体)

学校経営・学校運営に関する講話、保健学習や保健指導の指導案作成、教材研究、研究授業、委員会や部活動の参観・補助等を実施する。

授業テーマとその内容

授業テーマとその内容は、実習校ごとに決定される。

成績評価方法(方針)

実習校における評価報告書と実習日誌により評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○		○	50%
演習・実技	○		○	50%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・養護実習1履修者を原則とする。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	既習の養護教諭関連科目		
教科書	仙台大学編「教育実習の手引」	参考書	
連絡先	研究室 F棟209		

授業科目名	教職論A Introduction to Teaching Profession A				担当教員	大内悦夫・青沼一民・井上雅勝・末永精悦・江尻雅彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(保体、養教、栄養教諭、特別支援、高校福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。

授業の一般目標

次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要な人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。

授業計画(全体)

教員免許状取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの関する学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料(プリント)等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教員の身分と関係法規(菊地) [内容] 教員の身分の法的位置づけ [授業外学習]授業の復習	⑨	[テーマ] 教員の採用と研修(井上) [内容]優れた人材確保と教員研修。 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]学習指導要領と教員(菊地) [内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 教科指導と教員(青沼) [内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 特別支援教育(菊地) [内容]特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 教科外指導と教員(青沼) [内容]教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教職と関係法規Ⅰ(大内) [内容]日本国憲法と教育基本法、学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 学級経営、校務分掌と教員(青沼) [内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]教職と関係法規Ⅱ(大内) [内容] 学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教員の服務規程Ⅰ(末永) [内容] 教員の服務規定について。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]教職と関係法規Ⅲ(大内) [内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ]教員の服務規程Ⅱ(末永) [内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]これからの教員に求められる資質・能力(井上) [内容]望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 学校における防災教育(末永) [内容] 防災教育のあり方について。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 教員養成と教員免許制度(井上) [内容]教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ]筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	95%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		5%
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

教師を目指すものとして、常に課題意識を持ち、真摯に受講することを望む。授業内外のレポートについては点検し、次の授業で内容を検討する。大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。

関連科目	他の教職関連科目		
教科書	「必携教職六法」(協同出版)	参考書	「学習指導要領」
連絡先	・大内研究室 A303 ・青沼研究室 A313 ・井上研究室		

授業科目名	教職論B Introduction to the teacher Training B （L.）				担当教員	江口千恵 ・ 針生 弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（養護教諭1種）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育原理または教育法規を中心にしながら、、教職の意義と養護教諭の仕事と役割を講義する。そのために、養護教諭の免許状を取得するために必要な科目履修のガイダンスを行い学生にその自覚を促す。また、養護教諭の採用について体系的に講義を行う。

授業の一般目標

教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を考察し、教職への意欲やその適正を養う。同時に、教職の希望実現にむけた学習計画が立案し実施できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職の意義、教員の役割、養護教諭の職務内容等について理解する。
■	情意的領域	教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を考察し、養護教諭になるために必要な知識の理解と学習に取組むことが出来るようになる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動に必要な支援を自ら考えることができる。

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させたり、教員採用試験の過去問を解かせたりしながら、理解度・到達度を確認する。授業テーマの内容によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 履修ガイダンス （針生） [内容] 講義の目的や成績評価の方法について説明する。 [授業外学習]シラバスを熟読する	⑨	[テーマ] 学校保健計画（江口） [内容] 学校保健計画の法的根拠の、具体的な内容を理解させる。また、学校保健委員会の役割についても設置の根拠とともに解説する。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
②	[テーマ] 教職の意義について（針生） [内容] 養護教諭の仕事と養護教諭になるための学習の流れについて説明する。 [授業外学習]自分の養護教諭との関りについて発表できるようにしておく	⑩	[テーマ] 保健管理における学校環境衛生（江口） [内容] 学校環境衛生に関する法的根拠を解説し、学校環境衛生活動の具体的内容を理解させる [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
③	[テーマ] 養護教諭の身分と関係法規について（針生） [内容] 教員の資格と求められる資質について解説する。 [授業外学習]資料をもとに復習をしておく	⑪	[テーマ] 保健管理のおける健康診断（江口） [内容] 学校における健康診断の法的根拠を解説し健康診断の種類および内容を理解させる。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
④	[テーマ] 養護教諭の採用と研修について（針生） [内容] 優れた人材確保と教員研修について説明する。 [授業外学習]資料をもとに復習しておく	⑫	[テーマ] 保健管理における感染予防（江口） [内容] 学校における感染症予防の法的根拠を解説し感染症の種類および内容を理解させる。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
⑤	[テーマ] 養護教諭の服務内容について（針生） [内容] 教員の職務上の義務と身分上の義務、養護教諭としての服務について解説する。 [授業外学習]資料をもとに、自身の考えを発表できるようにしておく	⑬	[テーマ] 保健室経営・学校保健組織活動の推進について（江口） [内容] 保健室の役割と円滑に進めるための組織活動の重要性を理解させる。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
⑥	[テーマ] 求められる教師像（針生） [内容] 「魅力ある養護教諭」に求められるものについて解説する。 [授業外学習]どのような養護教諭になりたいか発表できるようにしておく	⑭	[テーマ] 保健管理における健康観察・学校における救急処置（江口） [内容]健康観察の法的根拠を解説し、その目的と手順を考えさせる。また、学校における救急処置の法的根拠を解説し、その実施範囲について理解させる。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
⑦	[テーマ] 特別支援教育と養護教諭の役割（針生） [内容] 発達障害の子どもたちに対する養護教諭の役割について解説する。 [授業外学習]発達障害の子どもの教育支援の課題をまとめておく	⑮	[テーマ] 学校保健に関する組織活動・学校安全（江口） [内容]学校保健に関する組織活動と学校保健委員会についてその関係法規とともに解説する。また学校安全の内容を解説する。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する
⑧	[テーマ] 学校保健の概要 （江口） [内容] 学校保健とは学校における保健管理と保健教育をいうことの具体的内容を解説し、養護教諭の役割を関係法規とともに理解させる。 [授業外学習]関連する教採問題とともに重要な点を確認する	⑯	[テーマ] テスト（江口） [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をする

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合20%）と、授業外レポート（評価割合20%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行なうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・自己学習（時間外学習、ボランティア活動等）の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	保健医療論・栄養学概論・医学一般・運動生理学（1年）、運動障害救急法・精神保健学・衛生公衆衛生学・養護概説・看護学概論Ⅰ（2年）、看護学概論Ⅱ・看護学実習・健康相談・学校保健学・養護演習（3年）、養護実習Ⅰ（3-4年）、養護実習Ⅱ（4年）		
教科書	「必携学校小六法」共同出版　「新訂版学校保健実務必携第4次改訂版」第一法規	参考書	
連絡先	研究室：A棟306針生弘　F棟209 江口千恵		

授業科目名	道徳教育論 Theory of Moral Education （L）				担当教員	久能和夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中保体・養護・特別支援・栄養）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

小・中・高等学校の道徳教育を通じ，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い，自立し，健全な自尊感情を持ち，主体的・自律的に生きる力を育成するために，道徳性を養う。

授業の一般目標

基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。
■	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」について，どう意欲的に取り組むか理解する。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。

授業計画（全体）

授業は，基本的にはプリントを用意し，それを基に講義中心に行うが，多くの機会にレポートを提出，常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 道徳教育とは何か [内容] 今，求められている規範意識について学び，規範の根拠としての人間尊重の精神について考える [授業外学習]慣習，法律，倫理と道徳の関係についての書籍を読む	⑨	[テーマ]道徳授業と評価 [内容]特別の教科　道徳科（学習指導要領）に示されている「評価」について考える [授業外学習]「特別の教科　道徳」（仮称）に関連する各種報道を調べる
②	[テーマ]戦後の教育改革と道徳教育 [内容]戦後の教育改革で，一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ [授業外学習]道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる	⑩	[テーマ]道徳授業と体験学習 [内容]体験活動の教育的意義，「道徳の時間」と体験活動のかかわりについて考える [授業外学習]学習指導要領を読む
③	[テーマ] 学習指導要領と道徳的価値 [内容]教育基本法と道徳教育，学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ [授業外学習]学習指導要領の内容項目について調べる	⑪	[テーマ]個性の尊重 [内容]「個性」に対する日本と欧米の違い（価値観の相違）を分析し，学校教育における「個性」の伸長について考える [授業外学習]学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる
④	[テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法 [内容]特別の教科「道徳科」をめぐる現状と課題，そして本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える [授業外学習]道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える	⑫	[テーマ]道徳授業のアプローチ① [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学1年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]
⑤	[テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力 [内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し，学校と家庭・地域社会の連携・協力につて考える [授業外学習]新聞の関連ニュースを読む	⑬	[テーマ]道徳授業のアプローチ② [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学2年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑥	[テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方 [内容]「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み，レポートを書く [授業外学習]「教師論」に関係する書籍を読む	⑭	[テーマ]道徳授業のアプローチ③ [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学3年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑦	[テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」 [内容]道徳性の発達（コールバーグ理論）と相対主義を踏まえ，若者と規範意識について考える [授業外学習]「道徳性の発達」に関する書籍を読む	⑮	[テーマ]国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌 [内容]戦後日本の「愛国心」論の類型を知り，教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する [授業外学習]関連する書籍を読む
⑧	[テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ [内容]学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられた高等学校における「道徳教育」の進め方について考える [授業外学習]高等学校学習指導要領を読む	⑯	[テーマ]テスト [内容]道徳教育論を学習してのまとめを行う [授業外学習]

成績評価方法（方針）

筆記試験（レポートを含む）の結果に，受講態度（出席状況含む）等を加味して評価する。なお，欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		
出席		○		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・講義を中心に進めるが，自分が学習した道徳教育を振り返りながら，教師を目指す者として，常に課題意識を持って学んで欲しい。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	中学校学習指導要領解説「道徳編」。毎時，資料プリント配付	参考書	
連絡先	久能研究室 （A棟3F　307） 0224-55-1165(直通)		

授業科目名	生徒指導論A Theory of student guidance A(L.)				担当教員	江尻／志賀野
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体、高福祉）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、各学校で行われる生徒指導・進路指導及びキャリア教育の意義や原理、児童生徒全体への、その指導の進め方やあり方及び校内外並びに関係機関との連携のあり方、そして個別の児童生徒の生徒指導上、進路指導上の課題に向き合う指導の考え方とあり方を教育相談等の方法も含め概説する。

授業の一般目標

生徒指導の意義・目的・原理・内容・方法等や自らの生き方・あり方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、学校内外における生徒指導・進路指導のあり方や指導体制、教育相談や発達障害への具体の対応等を知る。加えて、学校における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で興味深く、充実したものになる教育活動に繋げられる実践力を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	生徒指導と進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握しより望ましいその指導のあり方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援のあり方を説明できる。
■	情意的領域	授業に真剣に取り組むことを通し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、他の教員と協働しながら具体的な課題解決に向けて思考・判断し、生徒指導を実践する力を養うことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への主体的取組や教育ボランティア等を勧める。特に教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、多様なマスメディアを駆使し国や地方における生徒指導に係る教育政策の動向や法的対応等の動向を把握することは、当事者意識を基盤とする思考・判断や態度・行動とも直結し、実践力の大きな向上が望まれるよい起点となる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（志賀野） [内容] 教員免許取得における位置付け、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項等について説明する。 [授業外学習]教科書（生徒指導提要）p1～21について予習する。	⑨	[テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論 （大内） [内容]進路指導のねらい（定義）と意義、歴史、基礎理論と教育課程における位置づけ、生徒指導との関連について解説する。 [授業外学習]学習プリントと配付資料等に基づきながら学習を深める。
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法（1）（志賀野） [内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と自己指導能力を育成する三機能、指導上の留意点等について解説する。 [授業外学習]教科書p1～p13、学習指導要領総則・特活等で学習を深める。	⑩	[テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育 （大内） [内容]進路指導の基本的性格と原理、キャリア教育の意義と内容を解説し、具体の進路指導（キャリア教育）の計画・展開、実践例を概説する。 [授業外学習]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育の学習を深める。
③	[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法（2）（志賀野） [内容]生徒指導における集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・成長を促す生徒指導、学校運営と生徒指導等について解説する 。 [授業外学習]教科書p14～22や学習プリントをもとに学習を深める。	⑪	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）（志賀野） [内容] 少年非行等・暴力行為・薬物乱用・喫煙・飲酒の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する。 [授業外学習]教科書p163～172やWeb等で考察を深める。
④	[テーマ] 児童生徒理解の意義と方法（志賀野） [内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する。 [授業外学習]教科書p40～41、66～74と学習プリントで学習を深める。	⑫	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）（志賀野） [内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する。 [授業外学習]教科書p173～174やWebで文科省関係資料等に当たる。
⑤	[テーマ] 教育相談と発達障害・生徒指導との関係（志賀野） [内容] 生徒指導と教育相談・発達障害の関係、学校教育相談の特質・方法・対象・形態・技術について解説する。 [授業外学習]教科書p50～53、92～117を中心に学習を深める。	⑬	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）（志賀野） [内容]不登校の歴史的変遷、昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、不登校に関する関係法令・各種通知等について解説する 。 [授業外学習]教科書p187～189やWebで文科省関係資料等に当たる。
⑥	[テーマ] 生徒指導体制と生徒指導の進め方 （大内） [内容] 教職員の役割と守秘義務・生徒指導体制（組織・生徒指導主事）のあり方、年間指導計画と基本的生活習慣と校内規律等を解説する。 [授業外学習]教科書p75～91、127～147と学習プリントで復習する。	⑭	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導（4）（志賀野） [内容] その他の生徒指導上における課題（虐待・高校中途退学・自殺等）の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する。 [授業外学習]教科書p175～190やWeb等で関係省庁資料に当たる。
⑦	[テーマ]生徒指導と危機管理について （大内） [内容]学校における生徒指導と危機管理体制と安全教育、家庭・地域と関係機関との連携について解説する。 [授業外学習]教科書p148～151、208～218で学習を深める。	⑮	[テーマ]生徒指導に関する法制度等（志賀野） [内容]懲戒と体罰・校則・出席停止等の課題と現状、関係法制度や各種通知等について解説する 。 [授業外学習]教科書p192～197やWebで文科省資料等に当たる。
⑧	[テーマ]教育課程と生徒指導 （大内） [内容]教育課程（教科・道徳教育・総合的な学習・特別活動等）と生徒指導・進路指導との関連について解説する。 [授業外学習]教科書P23～39で生徒指導と教育課程の相互関連をまとめる。	⑯	[テーマ]期末テスト [内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト（筆答試験）を行う。 [授業外学習]学習プリントを中心に学習を深める。

成績評価方法（方針）

定期の筆記試験の結果（70%）に、授業態度や授業内レポート・意欲・関心（30%）を加味して評価する。なお、学則に従い各オムニバス教員の授業回数のうち2/3以上の出席の無い者は定期試験の受験資格が無い。かつ総欠席数が6回以上の者は評価対象外（放棄）とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				実施せず
演習・実技				評価対象外
授業態度	◎	◎		30%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講を基本とする②授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また、自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱い③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱④授業は意欲や視力、希望等を考慮した座席指定制とし初回授業時決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る 詳細については、第一回授業時に紹介する。大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。

関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目等		
教科書	生徒指導提要（文部科学省 教育図書出版）	参考書	学習指導要領（総則・特別活動、含解説）・教育小六法
連絡先	江尻研究室		

授業科目名	生徒指導論B Theory of student guidance B(L.)				担当教員	久能和夫/江口千恵/江尻雅彦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(養護教諭・栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生徒指導は教育相談・学習指導と同様に重要な機能概念である。本授業は生徒指導を基本に養護教諭及び栄養教諭の専門性を生かしながら生徒とどのように関わるかを講義する。また、様々な生徒指導上の課題に対し、学校全体の組織運営上の協働的な養護教諭・栄養教諭の意味あるあり方、健康相談・食育等における実践的課題解決に向けた望ましい支援のあり方を体系的な講義とともに討議を通しながら明らかにする。

授業の一般目標

生徒指導の意義・原理・目的・内容・方法等や学校内外における生徒指導体制と連携、教育相談、健康相談、発達障害、食育、危機管理、食物アレルギー等を理解する。さらに、学校現場における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、養護教諭・栄養教諭の立場から、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で、興味深く、充実したものになる教育活動に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	生徒指導の意義や目的・原理・内容・方法等について説明できる。また、養護教諭・栄養教諭として生徒指導上の現状と課題を把握し、より望ましい生徒指導のあり方を指摘できるとともに、専門性を生かした児童生徒との関わり方について考察する。
■	情意的領域	授業に真剣に取り組むことを通し、養護・栄養教諭として児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、他の教員と協働しながら具体的な課題解決に向けて思考・判断し、生徒指導を実践する力を養うことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

三人の教員がオムニバス形式で、各授業のテーマに沿った講義が中心となる。内容により実践的課題解決力に結びつくようなアクティブラーニング的手法(集団討議による)を取り入れた授業展開も行う。とりわけ学校外における教育臨床への参加や主体的な学習は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので、より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への主体的な取組みや自主的な教育ボランティア等の参加を勧める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション及び生徒指導の意義と原理・方法(1)(志賀野) [内容] 免許取得上の授業の位置づけ、授業計画と内容、成績評価・留意事項等について説明する。生徒指導の意義と原理・方法を解説する。 [授業外学習]シラバス・教科書(生徒指導提要)p1～8を予習する。	⑨	[テーマ] 性に関する教育の指導方法と課題①(江口) [内容] 学校における性に関する教育の必要性を考えさせ、その方法と課題について理解させる(性周期とホルモン・妊娠)。 [授業外学習] 各自指導案を作成させる。
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(2)(志賀野) [内容] 自己指導能力を育成する生徒指導と三機能並びに生徒指導の形態(個別指導・集団指導)と校内外体制と連携を解説する。 [授業外学習]教科書p14～22、75～81、212～217を予習する。	⑩	[テーマ] 性に関する教育の指導方法と課題②(江口) [内容] 学校における性に関する教育の必要性を考えさせ、その方法と課題について理解させる(性感染症・避妊)。講義6～10のまとめを行う。 [授業外学習] 各自指導案を作成させる。
③	[テーマ] 生徒指導と養護教諭・栄養教諭の職務(志賀野) [内容] 養護教諭・栄養教諭の役割と校内組織並びに各々の職務と生徒指導上の課題と対策のあり方について解説し対応を話し合わせる。 [授業外学習]学習プリントやWeb・図書館等で復習し、さらに深める。	⑪	[テーマ] 食育とは何か(久能) [内容] 食育基本法や食育推進基本計画について概説し、食育の意義を説明し、理解させるとともに様々な課題への実践的な対応を説明する。 [授業外学習]資料をもとに食育に対する理解を深め、食育の定義をまとめる。
④	[テーマ] 当面する生徒指導上の諸問題1(志賀野) [内容] いじめ・不登校の定義と様相、構造を解説し、理解させる。また、相談的な対応の在り方を考えさせる。 [授業外学習]教科書p173～174、187～189を予習する。	⑫	[テーマ] 生活習慣病の予防について(久能) [内容] 低年齢化している生活習慣病の背景にある食生活について概説し、現状と課題をまとめるとともにその対応の在り方を話し合わせる。 [授業外学習]肥満の問題についての具体的対応を考察し、深める。
⑤	[テーマ] 当面する生徒指導上の諸問題2(志賀野) [内容] いじめ・不登校の現状と課題を解説し、理解させる。さらに国の行政対策について解説する。また、講義1～5のまとめを行う。 [授業外学習]関連項目(問題行動調査)を図書館やWeb等で調べる。	⑬	[テーマ] 食物アレルギーについて(久能) [内容] 食物アレルギーの原因と症状を概説し、また、食物アレルギーの現状と課題をまとめ、学校現場における対応を実践的に説明する。 [授業外学習]食物アレルギーに関する教師への支援を具体的にまとめる。
⑥	[テーマ] 学童期の精神保健(江口) [内容] 様々な精神発達理論を踏まえて、学童期の精神保健の特徴について学ばせ、その課題を考えさせる。 [授業外学習]既習の精神保健や教育心理などを復習しておく。	⑭	[テーマ] 児童生徒の栄養教育について(久能) [内容] 三色食品群、6つの基礎食品の活用方法を理解させ、年齢別に理解できる教育内容について概説するとともに考察を深めさせる。 [授業外学習]上記内容を活かした栄養教育の方法についてまとめる。
⑦	[テーマ] 思春期の精神保健(江口) [内容] 様々な精神発達理論を踏まえて、思春期の精神保健の特徴について概説し、その課題を考えさせる。 [授業外学習]精神医学との関連について、さらに学習内容深める。	⑮	[テーマ] 児童生徒の安全に関わる問題とまとめ(久能) [内容] 児童生徒をとりまく、危険と安全教育並びに危機管理と安全教育の進め方を概説する。また、講義11～15のまとめを行う。 [授業外学習]既習事項の復習から学習内容を深める。
⑧	[テーマ] 特別支援教育と発達障害(江口) [内容] 発達障害について概説し、特別支援教育について説明する。 [授業外学習] 発達障害児童の支援について考えさせる。	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 養護教諭・栄養教諭としての児童生徒への生徒指導のあり方を試験を通してまとめる。 [授業外学習]これまでの学習内容を各自がまとめ、復習する。

成績評価方法(方針)

定期試験結果(70%)に、出席状況を含む授業態度や授業レポート(30%)を加味して評価する。なお、学則にしたがい各オムニバス教員の授業回数のうち2/3以上の出席の無い者は定期試験の受験資格が無い。かつ総授業回数のうち総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。各オムニバス教員の成績を100点満点で採点し、各教員成績の合計を3で割り、四捨五入して評定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				評価対象外
授業態度	◎	◎		30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講を基本とする②授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱い③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱い④授業は意欲や視力等を考慮した座席指定制とし初回授業時決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る。大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。

関連科目	教育相談・教育心理学・特別活動論等			
教科書	生徒指導提要(文部科学省) 学校保健実務必携(第一法規)	参考書	小学校・中学校学習指導要領(文部科学省)	
連絡先	江口研究室(F209)　久能研究室(A307)			

授業科目名	特別活動論 Theory of Extracurricular Activities (L.)				担当教員	金井/針生/末永
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。

授業の一般目標

①特別活動の目標と内容について理解する。
②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。
③学級活動を実践することにより、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について理解できるようにする。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。
■	技能表現的領域	学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。

授業計画(全体)

特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、歴史、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。 [授業外学習]『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。	⑨	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
②	[テーマ] 特別活動の史的変遷 [内容] 日本における特別活動がいかなる史的変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。 [授業外学習]日本史を復習する。	⑩	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
③	[テーマ] 学級・ホームルーム活動 [内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑪	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
④	[テーマ] 学校行事 [内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑫	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑤	[テーマ] 中間試験 [内容] 特別活動の意義、目的、内容、指導方法に関する知識の定着を図る。 [授業外学習]特別活動の意義、目的、内容、指導方法の復習。	⑬	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑥	[テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計 [内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑭	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑦	[テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成 [内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑮	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑧	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 本授業の全体を振り返り、総括する。 [授業外学習] 本授業の全体を復習する。

成績評価方法(方針)

(1) 中間試験(50%)、(2)授業内レポート・作成物(20%)、(3)模擬授業(30%)
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
各評価結果については授業内でフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	○	○	20%
授業外レポート				
演習・実技	◎	○	◎	30%
授業態度				加減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。予習を必須とし、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
教員免許状取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
なお、教科書指定としている「中学校学習指導要領解説 特別活動編」は、文部科学省ウェブサイトからプリントアウトし、毎授業持参すること。
第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。

関連科目	教育の制度A、生徒指導論、道徳教育論、教育課程論		
教科書	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(平成29年7月) ※未出版のため、文部科学省ウェブサイトから印刷すること。	参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	研究室 A棟3階 304 オフィスアワー:木曜日12:40～14:10		

授業科目名	教職総合演習 Seminar of Teaching Profession				担当教員	山谷・大内・渡邊・青沼・久能・志賀野・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。

授業の一般目標

学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。本演習はクラス分けを行い、各担当教員により授業を実施する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。
■	情意的領域	内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。
■	技能表現的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 全体オリエンテーション [内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]授業の実践(3) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
②	[テーマ]授業の構想(1)-授業構想のプロセス- [内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ]授業の実践(4) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
③	[テーマ]授業の構想(2)-教材研究- [内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ]授業の実践(5) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
④	[テーマ]授業の構想(3)-授業のデザイン- [内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解すする。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式- [内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]授業の構想(4)-学習指導案の作成- [内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1- [内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]授業の構想(5)-学習指導案の作成- [内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。 [授業外学習]学習指導案の完成	⑭	[テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2- [内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]授業の実践(1) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑮	[テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3- [内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ]授業の実践(2) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート				実施しない
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならいものであるので、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでもらいたい。

関連科目	既習の教職関連科目		
教科書	学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書	参考書	授業時に紹介する
連絡先	代表担当者 山谷(研究室A308)		

授業科目名	教職総合実技 Exercise of teaching profession(P.A.)				担当教員	入澤裕樹　他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は，将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし，学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである．開講されている13の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の中から，学生自身に各授業回に受講する種目を選択させ授業を展開していく．

授業の一般目標

保健体育の教員として，授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を修得する．また，各実技種目において，履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき，その克服していく過程において，運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する．

授業の到達目標

■	認知的領域	各実技種目の要点を理解する．
■	情意的領域	「できる」喜びを身を以て知る．
■	技能表現的領域	体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける．

授業計画（全体）

種目は，体操（含体つくり運動）、陸上，器械運動，水泳（以上A群），バレーボール，バスケットボール，サッカー，ハンドボール，ラグビー（以上B群）柔道，剣道，ダンス（以上C群）とし，A，B群からは2つC群からはそれぞれ1つずつ選択する．その際，選択できる種目は1・2年次の実技種目の単位を修得した種目に限定される．5つの種目をそれぞれ3回ずつ受講し，それぞれの担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録していく形で進める．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員等の紹介．履修計画の作成． ＊3年前期までの成績表を必ず持参すること．	⑨	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
②	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑩	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
③	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑪	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
④	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑫	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
⑤	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑬	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
⑥	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑭	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
⑦	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑮	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ
⑧	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 選択した 実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、テニス、柔道、剣道、ダンス】の基礎的技術・技能を学ぶ	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業全体を通じた実技の要点を整理する．

成績評価方法（方針）

成績評価は，履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する（評価割合80%）と共に，各種目の要点を整理したレポートを提出する（評価割合20%）．授業中における態度は成績評価の減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			20%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	◎	◎	80%
授業態度		◎		減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本授業の対象者は，4年次に教員採用試験を必ず受験する強い意志を持っている者で，3年次開講の教職キャリア演習を履修している者に限る．
保健体育教員の候補者として優れた人材の育成をねらいとしているので，目標が不明確のままでの受講は，他の学生の迷惑となるので厳に慎むこと．
最初のオリエンテーションに欠席した場合、履修できない場合がある．
なお，各種目において受講生の数が著しく偏るようであれば人数調整を行う場合がある．
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと．

関連科目	体操（含体つくり運動），陸上，器械運動，水泳，バレーボール，バスケットボール，ハンドボール，サッカー，ラグビー，テニス，柔道，剣道，ダンスⅠ，教職キャリア演習Ⅰ，教職キャリア演習Ⅱ		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	入澤裕樹:A棟302　オフィスアワー　木曜日12:40～14:10		

授業科目名	教職実践演習(教諭) Seminar for Teaching Profession				担当教員	大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邉・青沼・入澤・金井・末永・江尻
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。授業は、各テーマに関する簡単な講義ののち、教育実践自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。その後、高等学校2校を訪問し実際の学校現場の実践を観察する。この参観を元に、自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。

授業の一般目標

教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。
■	情意的領域	教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。
■	技能表現的領域	教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班毎に実施する。(2)教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3)各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4)各学校を訪問し、その実践を観察する。(5)(3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
②	[テーマ]本演習の取り組み [内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。 [授業外学習]自身の教育実習の内容をまとめる。	⑩	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
③	[テーマ] 教育実践自己評価シートの作成 [内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。 [授業外学習]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。	⑪	[テーマ] 学校参観の振り返り。 [内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。 [授業外学習]各学校での観察をまとめる。
④	[テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。 [内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。 [授業外学習]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。	⑫	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑤	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑬	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑥	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑭	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑦	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑮	[テーマ] 良き教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。 [授業外学習]発表レポートをまとめる。
⑧	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート		○		10%
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度	○	◎	○	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をするので、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。レポートはその都度評価し、次の授業に於いて内容を検討する。
大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	大内研究室 A303		

授業科目名	教職実践演習(養護教諭) Seminar for Teaching Profession (P.A)				担当教員	江口　千恵
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(養護教諭1種)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

すでに終了した教育実習の内容をパワーポイントを用いて説明・紹介し他の校種での実習学生と実習内容を共有する。また、次のそれぞれのテーマ(。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性、対人関係能力、③児童生徒理解、④保健室経営、⑤保健管理・保健指導)から、実習での課題を1つあげて、同じくパワーポイントで説明したうえで、事例検討等を行い、グループ討議を行う。司会進行などすべて学生が主体となって進める。

授業の一般目標

教職課程の履修を通じてこれまで学んだ知識技能と養護実習等から得られた学校保健活動、児童生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成をはかるとともに、あわせてその確認を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教員としての実践的指導力のうち、とくにプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力における事故の課題を理解し成長させることができる。
■	情意的領域	教員として実践的指導力の向上に向けての意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	教員として必要な実践的指導のための基礎的・基本的技能(資料作成・プレゼンテーション・討議)を習得する。

授業計画(全体)

(1)全員パワーポイントを作成し発表し、討議する。(2)発表内容は教育実習の経験をもとにテーマを各自設定し、またその内容で討議を実施する。(3)討議は学生の司会進行によって実施しまとめる。 (4)終了後は各自発表用ルーブリックとグループディスカッション用ルーブリックを記入し提出する。 (5)教員は、両ルーブリックを学生の感想をまとめで次回配布し評価を共有する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]　学生⑧ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]教育実習から学んだことをまとめておくこと。
②	[テーマ]　学生① [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]クラスメートの養護実習から気づいた点をまとめておくこと。	⑩	[テーマ]　学生⑨ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]教育実習から学んだことをまとめておくこと。
③	[テーマ] 学生② [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習の内容をまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 学生⑩ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]クラスメートの教育実習から学んだことをまとめておくこと。
④	[テーマ] 学生③ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習から気づいた点をまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 学生⑪ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習で学んだ事例をまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 学生④ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習の事例をまとめておくこと。	⑬	[テーマ] 学生⑫ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習で学んだ事例をまとめておくこと。
⑥	[テーマ]　学生⑤ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習で学んだ事例をまとめておくこと。	⑭	[テーマ] 学生⑬ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習で学んだ事例をまとめておくこと。
⑦	[テーマ]　学生⑥ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]養護実習の場面で気づいた生徒の様子をまとめておくこと。	⑮	[テーマ] 学生⑭ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習で学んだ事例をまとめておくこと。
⑧	[テーマ]　学生⑦ [内容] 教育実習での指導場面の様子を発表して、テーマ関する内容を全員で討議する。 [授業外学習]自身の養護実習の内容をまとめておくこと。	⑯	[テーマ] まとめ [内容]自分自身の発表を振り返り、ルーブリックの集計をもとに自己の課題を発表する。 [授業外学習]　発表およびグループディスカッションルーブリックをまとめておく。

成績評価方法(方針)

受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート		○		10%
授業外レポート	◎	◎		10%
演習・実技	◎	○	◎	80%
授業態度	○	◎	○	減点アリ
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本演習で取り上げる内容は、学校の教員として必ず身に付けておかなければならないものであるので、各時間ともに積極的に受講すること。
・養護教諭の資格取得を希望する学生が中心に受講することになるため、各テーマにおける演習では自らの体験を踏まえて積極的に取り組むこと。
・教育研修センターや学校における公開研究会等への参加の際には自らの課題をしっかり持ち、大学最終学年としての自覚をもち臨むこと。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行う。

関連科目			
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	研究室　F棟209		

授業科目名	教職キャリア演習 I Special Seminar for Teacher I				担当教員	山谷幸司、荒井龍弥、金井里弥、菊地博、末永精悦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(中高／保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

授業を実践するために必要な力とは何か。本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。中高保健体育免許希望者限定。

授業の一般目標

学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教師の食目や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	学校教師としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校におけるスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
④	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解① [内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。 [授業外学習]学習指導要領の該当部分を熟読する。	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解② [内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践④ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	小学校・中学校学習指導要領	参考書	中学校体育実技(学研)
連絡先	山谷(A棟308)、荒井(A棟309)、金井(A棟304)、菊地(A棟515)、末永(A棟310)		

授業科目名	教職キャリア演習Ⅱ Special Seminar for Teacher Ⅱ				担当教員	渡邊康男・江口千恵
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(養護教諭、栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。

授業の一般目標

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解 [内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]　学校訪問のスケジュール、留意事項等を整理し確認する。
④	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解① [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解② [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]　連携プログラムの内容・スケジュールをしっかり確認する。	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する(担当:学外講師)。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。
提出されたレポートについては，コメントを付して返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	渡邊康男(A棟3階)		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅰ Physical Education Ⅰ				担当教員	入澤裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる。

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる。

授業計画(全体)

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 球技の授業をおこなう(模擬授業) [内容]球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析する－球技 [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学習] 学習指導要領を熟読し、保健体育に関する内容を調べておくこと	⑩	[テーマ] 器械運動の授業をおこなう(模擬授業) [内容]器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析する－器械運動 [内容] 器械運動領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 陸上競技の授業をおこなう(模擬授業) [内容]陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析する－陸上競技 [内容] 陸上競技領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 武道領域の授業をおこなう(模擬授業) [内容]武道領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育授業を分析する－武道 [内容] 武道領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析する－心身の機能の発達と心の健康 [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 健康と環境の授業をおこなう(模擬授業) [内容]健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析する－健康と環境 [内容] 健康と環境領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう(模擬授業) [内容]傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析する－傷害の防止 [内容] 傷害の防止領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] 模擬授業の振り返り [内容] 前時までの内容を振り返り、レポートを作成する。 [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく

成績評価方法(方針)

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する。また、レポート作成を通じ、自身や他者の模擬授業の取組も評価する。提出されたレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70%
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅱ(選択履修)		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅱ Physical Education Ⅱ				担当教員	入澤 裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる。

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる。

授業計画(全体)

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 体操(体つくり運動)の授業をおこなう(模擬授業) [内容]体操(体つくり運動)領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析するー体操(体つくり運動) [内容] 体操(体つくり運動)領域の授業を分析する [授業外学習]学習指導要領を熟読し、保健体育に関する内容を理解しておくこと。	⑩	[テーマ] ダンスの授業をおこなう(模擬授業) [内容]ダンス領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析するーダンス [内容] ダンス領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 水泳の授業をおこなう(模擬授業) [内容]水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析するー水泳 [内容] 水泳領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう(模擬授業) [内容]健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 保健授業を分析するー健康な生活と疾病の予防 [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析するー現代社会と健康 [内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析するー生涯を通じる健康 [内容]生涯を通じる健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析するー社会生活と健康 [内容] 社会生活と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] 模擬授業の振り返り [内容] 前時までの内容を振り返り、レポートを作成する。 [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく

成績評価方法(方針)

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70%
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ(選択履修)		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302		

授業科目名	福祉科教材・授業研究 Studies in Teaching of Social Welfare				担当教員	関矢 貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	高等学校「福祉」教員免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

高等学校福祉科における教育諸活動に関連した題材をもとに教材研究し、指導案作成と模擬授業の方法を修得する。

授業の一般目標

高等学校福祉科における教育諸活動に関連した、教材研究及び実践演習を模擬授業を通して修得し、福祉科教諭としての素養を高める。

授業の到達目標

■	認知的領域	「福祉」授業実践に関連した教材研究及び授業実践を考案、計画できる。
■	情意的領域	「福祉」授業実践に関連した教材研究及び授業研究ができるようになる。
■	技能表現的領域	「福祉」授業実践に関連した教材研究及び授業実践演習を模擬授業を通して実践できるようになる。

授業計画(全体)

単元を基に本時の指導計画まで一連の指導の方法を学習する。本時の指導計画(学習指導案)を作成する過程で教材研究・授業研究の方法を学ぶ。学習指導案を基に模擬授業を実施する。模擬授業を相互に評価し教材の開発や、授業のあり方を実践を通して学習する。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員及び学生間での紹介。授業の概要と進め方、評価に関する説明 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集に取り掛かる	⑨	[テーマ]・学習指導案の段階的作成方法の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 福祉関連教材の研究
②	[テーマ]・教材研究の方法と実践 [内容] ・福祉関連教材研究 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集	⑩	[テーマ]・学習指導案の段階的作成方法の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 必要に応じた教材研究
③	[テーマ]・教材研究の方法と実践 [内容] ・福祉関連教材研究 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集	⑪	[テーマ]・学習指導案の段階的作成方法の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 必要に応じた教材研究
④	[テーマ]・教材研究の方法と実践 [内容] ・福祉関連教材研究 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集	⑫	[テーマ]・模擬授業と合評会の方法と総合評価 [内容] 学習指導案の編集と模擬授業の実践 [授業外学習] 模擬授業の準備と教材研究
⑤	[テーマ]・授業実践方法と組み立て方の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集と編集	⑬	[テーマ]・模擬授業と合評会の方法と総合評価 [内容] 学習指導案の編集と模擬授業の実践 [授業外学習] 模擬授業の準備と教材研究
⑥	[テーマ]・授業実践方法と組み立て方の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集と編集	⑭	[テーマ]・模擬授業と合評会の方法と総合評価 [内容] 学習指導案の編集と模擬授業の実践 [授業外学習] 模擬授業の準備と教材研究
⑦	[テーマ]・授業実践方法と組み立て方の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 福祉関連教材の発掘と収集と編集	⑮	[テーマ]・総合評価を基に自己評価と教材開発(授業実践の再構築) [内容] ・模擬授業実践と合評会をふり返り、授業実践の再構築 [授業外学習] 関連教材研究
⑧	[テーマ]・学習指導案の段階的作成方法の学習 [内容] ・学習指導案の段階的作成 [授業外学習] 福祉関連教材の研究	⑯	[テーマ]・総合評価を基に自己評価と教材開発(授業実践の再構築) [内容] ・模擬授業実践と合評会をふり返り、授業実践の再構築とまとめ [授業外学習] 関連教材研究

成績評価方法(方針)

学習指導案・教材研究実施内容(90%)。出席は評価割合に加えず欠格条件とする

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート	◎			50%
演習・実技			◎	10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	福祉科教育論Ⅰ・Ⅱ		
教科書	学習指導要領(福祉) 福祉科教育法の構築と展開	参考書	授業の最初に指示する
連絡先	研究室 F棟2階 オフィスアワー:水曜 11:50～13:00		

授業科目名	養護演習 Nursing practice				担当教員	江口　千恵
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	養護教諭普通一種免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

養護概説の理論を踏まえ、養護教諭に関わる基礎的・基本的な知識の理解を深め、心身の健康課題への対応、さらに健康の保持増進に対する指導方法を援助方法を習得する。また、養護教諭としての健康観・教育観・人間観を培い、養護実習につながるように育成する。

授業の一般目標

①児童生徒個々の発育・成長に関する健康状態を正しく把握する観察力を養う。
②健康課題や問題発生を想定し、適切にアセスメントするため演習を通して実践力を養う。
③課題解決するための実践力・企画力・調整能力を育成する。

授業の到達目標

■	認知的領域	養護教諭の専門的知識や理論を生かし、児童生徒の心身の健康課題の把握と指導及び援助に繋げる。
■	情意的領域	豊かな人間性を培い、命への畏敬や人権への尊厳、暖かな人との関わりができる。
■	技能表現的領域	個々の健康課題から学校保健活動全体に対応できる技術と資質を身につける。

授業計画（全体）

教育的関わりを達成するためのスキルの重要性を理解する。養護教諭の職務内容に応じて保健管理や保健指導等、学校保健活動の推進者として学校経営にも参画できる実践力を演習を通して習得する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 養護演習のオリエンテーション [内容] ①養護概説との関連をふまえ、養護演習で学ぶ内容を理解させる。 ②養護教諭の資格取得に必要な教育課程を各自確認させる [授業外学習]シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 内科的救急処置・熱中症 [内容] ①熱中症の分類と症状　②熱中症の対応　③熱中症の予防の指導方法 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習
②	[テーマ]健康診断の演習 [内容] ①児童生徒の定期健康診断の内容と方法の演習 ②教職員の定期健康診断の内容と方法 [授業外学習]教職論B・養護概説で学んだ内容の復習	⑩	[テーマ]内科的救急処置・アレルギー [内容] ①免疫とアレルギーの復習　②食物アレルギーの理解と対応　③気管支喘息の理解と対応　④エピペン　⑤担架の使い方 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習
③	[テーマ] 健康診断結果と事後措置① [内容]①健康診断結果の通知や保健指導の演習②健康診断結果の統計処理③保健指導に必要な知識の確認 [授業外学習]健康診断結果の課題を健康教育に生かす	⑪	[テーマ] 内科的救急処置・演習 [内容] ①エピペンの取り扱い方　②救急時の体位　③AED　④トリアージ [授業外学習]社会資源が開催している救急処置への関心を持つ
④	[テーマ]健康診断の結果と事後措置② [内容]①保健指導に必要な疾患の知識　②眼科疾患　③耳鼻科疾患　④腎疾患　⑤心疾患　⑥肥満指導 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習	⑫	[テーマ]部活動におけるけがの予防 [内容]①学校生活で起こる発達段階に応じた傷害の特性　②障害のメカニズム [授業外学習]日常生活等で起きる事故に対して関心を持つ
⑤	[テーマ] 学校環境衛生のための検査 [内容] ①定期点検と日常点検の内容の復習　②養護教諭が行う日常の点検の演習 [授業外学習]教職論B・養護概説で学んだ内容を復習しておく。	⑬	[テーマ]外科的救急処置・骨折や捻挫 [内容] ①全身の骨格及び骨格筋復習　②骨折の症状と分類　③骨折の対応　④捻挫と骨折　⑤冷罨法の演習 [授業外学習]様々な情報に関心を持ち、取捨択一できるようにする
⑥	[テーマ] 試験 [内容] 授業の内容の確認と定着　考査後はすぐに模範解答を行い要点の解説と確認を行う。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 外科的救急処置・熱傷の対応 [内容]①皮膚解剖復習　②熱傷の程度　③熱傷の応急処置 [授業外学習]授業で学んだことを復習する
⑦	[テーマ]学校における救急処置の実際実際 [内容] ①学校生活の中で児童生徒の救急対応について理解する。②内科的な救急処置③外科的な救急処置④心の問題への危機介入 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習	⑮	[テーマ] 外科的救急処置・頭部外傷の対応 [内容] ①頭部解剖復習　②頭部外傷の分類　③頭部外傷の対応 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習
⑧	[テーマ]内科的救急処置・頭痛及び腹痛と発熱 [内容] ①救急搬送を要する頭痛　②発熱の観察と対応　③急性腹症の理解　④急性腹症の対応　⑤食中毒の対応 [授業外学習]教職論B・養護概説・医学一般・看護学で学んだ内容の復習	⑯	[テーマ] 試験 [内容]授業を通して専門的知識が理解できたか確認する [授業外学習]

成績評価方法（方針）

講義の筆記試験は授業の最後に1回実施する。また、実技の評価は、授業中の取り組みや技術的能力を見極める。さらに授業態度等を総合し成績の評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		○	70%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	◎	10%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①養護教諭としての健康観、教育観、人間観を培う自己研鑽に努める。
②1/3以上欠席した場合、単位を修得することができない。やむを得ない事情がある場合は、「欠席届」を提出
③授業態度が悪い学生は、評価の際、減点の対象とする。
④20分以上の遅刻は欠席とみなす。
⑤大学設置基準に90分の予習・復習が義務づけられている。自己の養護教諭像をイメージしながら学校保健関連の自主学習に努める。
⑥大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	教職論B　養護概論　学校保健学　健康相談　看護学概論　衛生・公衆衛生学		
教科書	新訂版学校保健実務必携第四次改訂版	参考書	養護教諭のための救急処置等
連絡先	研究室F棟209		

授業科目名	教育実習Ⅰ Student－Teacher Training Ⅰ (F. E.)				担当教員	山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状（中高保体・高福祉）
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

4年次で実施される教育実習（Ⅲ・Ⅳ）の事前指導（実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等）及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。

授業の一般目標

教育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得する。
■	情意的領域	教育実習に参加する意欲をもつ。
■	技能表現的領域	教育実習の基礎的基本的技能を習得する。

授業計画（全体）

教育実習の意義、教育実習現場の理解（中学校・高校）、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成等

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（3年)(山谷・渡邊・金井) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 教育実習の反省と総括(山谷・渡邊・金井) [内容]教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。 [授業外学習]
②	[テーマ]教育実習の意義と内容(大内) [内容] 教育実習の意義と内容を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ]実習現場の理解(末永) [内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎（保健）(入澤) [内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎（体育）(郡山) [内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] オリエンテーション（4年)(山谷・渡邊・金井) [内容] 必要書類・教育実習日誌等のの書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 教育実習の心構え(1)(久能) [内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 教育実習の心構え(2)(山谷) [内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席及び実習報告書を中心に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート		△		80%
演習・実技				実施しない
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・3年次後期から4年次にわたって開講する。
・開講は不定期であるため指示に従って受講すること。

関連科目	3年次までに開講する教職関連科目すべて		
教科書	仙台大学編『教育実習の手引き』、『学習指導要領』	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	教職支援センター B棟2階		

授業科目名	教育実習Ⅲ Student－Teacher Training Ⅲ (F. E.)				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画(全体)

高校における実習体験

授業テーマとその内容

高校(福祉)の教員免許状取得希望者を対象に2週間の現場実習を実施する。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習の場合は、③部活動の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」であるが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。
同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法(方針)

実習校における成績評価を基礎に、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・高校の保健体育・福祉免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

授業科目名	教育実習Ⅳ Student－Teacher Training Ⅳ (F. E.)				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画(全体)

中学・高校における保健体育科の教育実習体験。

授業テーマとその内容

中学、高校において3週間の現場実習を行う。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習では、③課外活動(部活動)の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」だが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法(方針)

実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。
・中学、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

授業科目名	知的障害者の教育 Education for Mental Retarded People				担当教員	渡邊 康男
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

特別支援教育の概要を踏まえつつ，知的障害者の特性及び知的障害教育の特質等について具体的に解説する。

授業の一般目標

特別支援教育の概要を知る。特に知的障害者の特性及び知的障害者の自立を目指した具体的教育内容や指導・支援方法に関する基礎的知識を獲得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別支援教育や知的障害者の教育について概略を説明できる。
■	情意的領域	障害のある児童生徒の指導・支援に関心を持ち，積極的に関わろうとすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想や疑問を授業内に小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション・特別支援教育とは [内容] 担当教員の紹介，授業の目標，シラバスの説明等 特別支援教育とは何か [授業外学習]シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(5) [内容] 生活単元学習・作業学習 [授業外学習] 資料をもとに，指導の形態について復習しておくこと。
②	[テーマ] 特別支援教育とその対象 [内容] 特別支援教育の対象及びその変遷 [授業外学習] 特別支援教育の対象について整理しておくこと。	⑩	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(6) [内容] 自立活動 [授業外学習] 自立活動の6区分27項目について整理しまとめること。
③	[テーマ] 知的障害者教育の変遷(1) [内容] 知的障害教育の歩み [授業外学習] 特別支援教育の対象について復習しておくこと	⑪	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(7) [内容] 知的障害者の就労について [授業外学習] 障害のある人の就労について調べておくこと。
④	[テーマ] 知的障害者教育の変遷(2) [内容] 知的障害教育と学習指導要領 [授業外学習] 特別支援学校学習指導要領関係資料を読んでおくこと。	⑫	[テーマ] 関連する障害の理解と支援(1) [内容] 自閉症の理解と支援 [授業外学習] 自閉症について障害特性をまとめること。
⑤	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(1) [内容] 教育課程の編成 [授業外学習] 資料をもとに，教育課程について整理してまとめること。	⑬	[テーマ] 関連する障害の理解と支援(2) [内容] 発達障害の理解と支援 [授業外学習] 発達障害の定義について確認し，それぞれについてまとめる。
⑥	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(2) [内容] 個別の指導計画について [授業外学習] 資料をもとに，個別の指導計画について復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 学校における取組 [内容] 校内支援体制・交流及び共同学習について [授業外学習] 交流及び共同学習について文部科学省の資料を探すこと。
⑦	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(3) [内容] 個別の教育支援計画について [授業外学習] 資料をもとに，指導計画と支援計画の相違を確認しておくこと。	⑮	[テーマ] 知的障害教育の今日的課題 [内容] インクルーシブ教育システムについて [授業外学習] 障害者の権利条約についてその概要を調べること。
⑧	[テーマ] 知的障害教育の内容と方法(4) [内容] 日常生活の指導・遊びの指導 [授業外学習] 資料をもとに，指導の形態について復習しておくこと。	⑯	[テーマ] まとめ・試験 [内容] 各回の授業について，テキストを下に振り返る。 まとめの意味で試験を実施する。 [授業外学習] 自分の理解が不十分な部分について，確認し明らかにする。

成績評価方法（方針）

試験は，期末試験を1回実施する。（評価割合70%） また，授業内レポート（評価割合30%）を課し，これらの結果を総合して成績評価を行う。授業態度によっては減点の対象とする。提出されたレポートや試験は，解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・2/3以上の出席のないものは，単位の修得はできない。（欠格条件）
・授業中は携帯電話は鞄の中にしまうこと。
・授業計画は，進度によって若干の変更があり得ること。
・自己学習（校外での学習，ボランティア活動等）の成果や授業テーマについて積極的に発表することを期待する。

関連科目	病弱者の教育　肢体不自由者の教育　情緒障害教育総論　視覚障害教育総論　聴覚障害教育総論 特別支援学校教育実習Ⅰ　特別支援学校教育実習Ⅱ		
教科書	特別支援学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説書	参考書	ふしぎだね知的障害のおともだち ミネルヴァ書房
連絡先	研究室　A棟3階315		

授業科目名	肢体不自由者の教育 Education for Physically Impaired Person				担当教員	鳴海宏司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

身体の動きに不自由があるとはどういうことかについて学習し，肢体不自由教育の意義，教育課程の基本構造及び編成の実際について学習する。さらに，自立活動の指導の実際，コミュニケーションの課題と指導の実際及び教科指導の実際についても学習する。

授業の一般目標

①子どもの運動発達の順序性，方向性について説明できる。②子どもの初期的発達段階（感覚運動期）における発達の状態に即して，必要な教育的支援の内容を解説できる。③教育課程の構造を説明できる。④自立活動の指導内容・方法等の基本を説明できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動発達の様相が初期的発達段階(感覚運動期)にとどまっている場合の教育的支援について説明できる。
■	情意的領域	レポート作成に積極的に取り組み，発表できる。また，実技演習等に積極的に取り組む。
■	技能表現的領域	姿勢変換や姿勢作りのための基礎的なかかわり方ができる。

授業計画（全体）

子どもの運動発達の概要について学習する。それを受けて，運動障害の子ども達のための教育課程について学習し，その中核領域である「自立活動」の目標・指導内容・指導方法等について学習する。運動障害の子どもとのかかわりの実際については実技演習的な学習としてすすめていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 肢体不自由教育とはどういう教育か [内容] 肢体不自由教育の対象になる子ども －脳性運動障害児とそれ以外の一般肢体不自由児について－ [授業外学習]ホームページ等で，いくつかの肢体不自由を主とする特別支援学校の状況を調べておく	⑨	[テーマ] 自立活動の指導法－1 [内容] 運動発達の機序に基づく指導の実際 [授業外学習]資料「運動発達の概要」（第4回授業時配付資料）を復習しておく
②	[テーマ]肢体不自由教育の教育課程 [内容] 教育課程の類型とその内容 [授業外学習]特別支援学校学習指導要領第3編解説を読んでおく	⑩	[テーマ] 自立活動の指導法－2 [内容] 感覚統合法の理論と実際（前庭系，触覚系，固有感覚系の働き） [授業外学習]]参考図書（新・感覚統合法の理論と実際）を読んでおく
③	[テーマ] 脳性まひの子ども [内容] 脳性まひの子どもの障害の状態 [授業外学習]前時に配付された資料を読んでおく	⑪	[テーマ] 自立活動の指導法－3 [内容]動作法の理論と実際 [授業外学習]教科書第2章第5節を読んでおく
④	[テーマ] 子どもの運動発達－1 [内容] 主として姿勢・移動運動の発達 [授業外学習]誕生から歩き始めまでの標準的な粗大運動の発達を調べて整理しておく	⑫	[テーマ] 自立活動の指導法－4 [内容] コミュニケーション課題への取り組み，AACの基本 [授業外学習]教科書第2章第6節を読んでおく
⑤	[テーマ] 子どもの運動発達－2 [内容] 主として目と手の協応の発達 [授業外学習]0か月から24か月までの標準的な微細運動の発達を調べて整理しておく	⑬	[テーマ] 教科指導の実際－1 [内容] 読み・書き・数の学習レディネスの形成 [授業外学習]教科書第2章第7節を読んでおく
⑥	[テーマ] 教育課程の中核としての「自立活動」 [内容] 自立活動の目標 [授業外学習]教科書第1章第4節を読んでおく	⑭	[テーマ] 教科指導の実際－2 [内容] 肢体不自由の障害特性が学習に及ぼす影響についての整理と，それらに対応した指導の工夫 [授業外学習]教科書第3章第1節～第4節を読んでおく
⑦	[テーマ]「自立活動」の内容の6つの区分－1 [内容]「健康の保持」，「心理的な安定」，「人間関係の形成」の具体的な内容 [授業外学習]特別支援学校学習指導要領解説－自立活動編－を読んでおく	⑮	[テーマ] 肢体不自由教育の諸課題 [内容]特別支援学校に求められる地域のセンター的機能等 [授業外学習]教科書第1章第3節を読んでおく
⑧	[テーマ]「自立活動」の内容の6つの区分－2 [内容]「環境の把握」，「身体の動き」，「コミュニケーション」の具体的な内容 [授業外学習]特別支援学校学習指導要領解説－自立活動編－を読んでおく	⑯	[テーマ] テスト [内容] 論述形式による試験により，授業の理解度・到達度の確認をする [授業外学習]これまでの授業資料等を整理し，復習しておく

成績評価方法（方針）

定期試験，授業内レポート，出席状況，授業態度による総合評価。なお，怠学による欠席は減点対象とする。また，授業態度が悪い場合，減点対象とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎	○		20%
授業外レポート				
演習・実技		○		減点あり
授業態度		○		欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・障害のある子どもの信頼を裏切らない人間性を磨くこと。
・実技演習が多いので，いつでも運動できる服装で受講すること。
・単位修得に当たっては2／3以上の出席を必要とする（欠格条件）。
・学習態度が形成されない者については単位を認定しない（欠格条件）。
・許可する場合を除いて，授業中のパソコン，スマホ等の使用を禁止する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・課題レポートの作成，予習，復習等を確実に実施すること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	肢体不自由教育シリーズ1 肢体不自由教育の基本とその展開	参考書	新・感覚統合法の理論と実際，動作法ハンドブック－基礎編－，特別支援学校学習指導要領及び解説，肢体不自由教育ハンドブック
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	病弱者の教育 Education for Sickly Impaired Person				担当教員	鳴海宏司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

病気の治療過程にある子どもの心理社会的課題について学習し，その解決のために病弱教育が果たす役割とは何か，その具体的展開がどうなされているか等について学習する。

授業の一般目標

①病弱教育の対象になる子どもとはどういう子どもかを知る。
②病弱教育の意義を知り，病気の治療過程にある子どもにどのような教育的支援が必要か考えられるようになる。
③病弱を主とする特別支援学校の教育課程がどのように編成され，どのように展開されているか知る。

授業の到達目標

■	認知的領域	病弱教育の意義と，教育課程の類型について，その具体的内容を説明できる。
■	情意的領域	病気の治療過程にある子どもの教育的支援にあたるときの心構えを身に付ける。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

病気の治療過程にある子どもが抱える心理社会的課題及び学校教育上の課題を整理し，病弱教育が果たすべき役割を把握する。その上で，病類ごとの，教育上必要になる配慮事項について具体的に把握する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 病弱教育の対象になる子ども [内容] 学校教育法施行規則の中でどのように規定されているか等について学ぶ。 [授業外学習]特別支援教育に関連する教育法規に目を通しておく	⑨	[テーマ]「準ずる課程」での自立活動の実際 [内容] 指導計画の作成の仕方，ねらい，指導内容，指導方法等について学ぶ。 [授業外学習]「特別支援学校学習指導要領解説－自立活動編－」を読んでおく
②	[テーマ]子どもの病気の認知 [内容] 子どもにとって病気とは何か，子どもは自分の病気をどのように認知していくか等について学ぶ。 [授業外学習]配付された資料に目を通し予習しておく	⑩	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－1 [内容] 筋，神経系疾患の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ Ⅵ－4）を読んでおく
③	[テーマ] 病気の治療過程にある子どもの心理社会的課題 [内容] 年齢段階でみられる課題，病類でみられる課題について理解する。 [授業外学習]講義内容を復習しておく	⑪	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－2 [内容] 呼吸器系疾患及びアレルギー疾患の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ Ⅹ－5）を読んでおく
④	[テーマ] 病弱教育の意義 [内容] 病弱教育に何が求められているか，果たすべき役割とは何かについて考え，まとめる。　病弱特別支援学校の紹介VTR視聴 [授業外学習]前時までの講義内容をまとめ「意義」について考えておく	⑫	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－3 [内容] 若年性糖尿病の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ Ⅳ－2）を読んでおく
⑤	[テーマ] 病弱教育の教育課程－1 [内容] 教育課程の類型とその具体的内容について学ぶ。 [授業外学習]前時のVTRから，どのような教育課程が編成されていたかまとめ，	⑬	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－4 [内容] 腎臓疾患の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ ⅩⅣ－2，3）を読んでおく
⑥	[テーマ] 病弱教育の教育課程－2 [内容]「準ずる課程」でおさえておくべきことを学習する。 [授業外学習]講義内容を整理し復習しておく	⑭	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－5 [内容] 白血病の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ Ⅱ－2）を読んでおく
⑦	[テーマ] 病弱教育の教育課程－3 [内容]「知的障害の各教科の代替による課程」でおさえておくべきことを学習する。 [授業外学習]知的障害特別支援学校の教育課程について調べておく	⑮	[テーマ] 病類ごとの教育上の配慮－6 [内容] 心の病の子どもの場合について学ぶ。 [授業外学習]参考書（病弱教育Q&A PARTⅤ Ⅴ－4，9，10）を読んでおく
⑧	[テーマ] 病弱教育の教育課程－4 [内容]「自立活動を主とする課程」でおさえておくこと，及び訪問教育の実際について学ぶ。 [授業外学習]講義内容を整理し復習しておく	⑯	[テーマ] テスト [内容] 論述形式による試験により，授業の理解度・到達度の確認をする [授業外学習]これまでの授業資料等を整理し，復習しておく

成績評価方法（方針）

定期試験，授業内レポート，出席状況，授業態度による総合評価。なお，怠学による欠席及び授業態度が悪い場合，減点対象とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・病気の子どもの信頼を裏切らない人間性を磨くこと。
・単位修得にあたっては2／3以上の出席を必要とする（欠格条件）。
・学習態度が形成されない者については単位を認定しない（欠格条件）。
・許可する時を除いて，授業中のパソコン，スマホ等の使用を禁止する。
・欠席する（した）場合は必ず欠席届を提出すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・課題レポートの作成，予習，復習は確実に実施すること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書	「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた　病気の子どものガイドブック　病弱教育における指導の進め方」	参考書	病気の子どもの心理社会的支援入門第2版， http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	視覚障害教育総論 Education for Students with Visual Impairments				担当教員	猪平　眞理
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

視覚の障害は人に行動の制限や視覚的情報・模倣に不足を生じさせる。ここでは視覚の仕組みから疾患や障害を学び、視覚障害者の教育・支援のあり方や具体的な指導方法等の理解を図る。

授業の一般目標

視覚のしくみとはたらきからその障害について学習し、視覚障害者の特性や具体的な教育・支援の方法について理解を深め、実際の特別支援教育に関する基礎的知識を獲得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別支援教育における視覚障害教育の専門に関わる基礎的知識を獲得する。
■	情意的領域	視覚障害者の特性や具体的な教育・支援の方法について理解する。
■	技能表現的領域	点字の初歩的な読み書きの技能を身に付ける。

授業計画（全体）

毎回、講義資料を配布し、それに基づいて授業を進める。より理解を深めるためにパワーポイントやビデオ等を活用する予定である。また、各授業毎に、授業の感想と課題を小レポートとして提出させ、理解度・到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 視覚障害教育とその対象 [内容] 視覚障害の程度と範囲 [授業外学習] 特別支援教育の対象となる障害種別を把握しておくこと	⑨	[テーマ] [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 視覚のしくみとはたらき [内容] 主な眼疾患とその特性 [授業外学習] 教科書の第1章を読んでおくこと	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 視覚障害教育の歴史的変遷 [内容] 盲学校の創設からの発展、視覚特別支援学校に至る経緯 [授業外学習] 教科書の第2章を読んでおくこと	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 視覚障害教育の教育課程 [内容] 視覚障害教育の指導課程の特徴 [授業外学習] 他の障害種の場合の資料にも目を通しておくこと	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 視覚障害乳幼児の支援 [内容] 視覚障害乳幼児の育児と自立への支援 [授業外学習] 教科書の第8章を読んでおくこと	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 視覚障害教育の内容と方法(1) [内容] 視覚障害児の空間概念の指導と配慮 [授業外学習] 学習の指示等]教科書の第5、6章を読んでおくこと	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 視覚障害教育の内容と方法(2) [内容] 視覚障害児の観察指導の配慮と実際 [授業外学習] 教科書の第5～7章を読んでおくこと	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 視覚障害教育の方法と実際 [内容] 点字の理論と実際 [授業外学習]学習内容の復習を確実に行うこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業内小レポート(評価割合35%)と、授業外レポート(評価割合50%)、及び、点字技能の習得(評価割合15%)を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			35%
授業外レポート	○			50%
演習・実技			○	15%
授業態度		○		減点を有す
出席	○			欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

視覚障害児の発達やその支援、指導を考える中で「人間」に対する理解を深め、教育の本質的なあり方を学んで欲しい。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行、討論等での積極的な発言を意欲的に行うよう期待する。

関連科目			
教科書	香川邦生編著『四訂版 視覚障害教育に携わる方のために』慶応義塾大学出版会2010年	参考書	香川邦生・千田耕基編『視力の弱い子どもの学習支援』教育出版2009年
連絡先	m-ino@staff.miyakyo-u.ac.jp		

授業科目名	聴覚障害教育総論 Education of the Deaf				担当教員	石川 健
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許状
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

聴覚障害教育について、生理・病理・心理面からその特性や具体的支援方法について理解させ、早期発見から早期教育、そして、社会自立にいたるまでの聴覚障害教育の現状を紹介する。

授業の一般目標

聴覚に障害があることによりコミュニケーション面で大きく不自由を覚える。それが二次的に人格形成にも大きく影響を及ぼす。それを克服して、社会自立を図らせることが聴覚障害教育の大きな目標である。このことを踏まえて聴覚障害者の言語獲得から社会自立にいたるまでの聴覚障害教育の現状を知らせる。

授業の到達目標

■	認知的領域	聴覚障害の生理・病理・心理、聴覚障害への補償、聴覚障害教育の教育課程、教育の変遷等について理解する
■	情意的領域	聴覚障害を克服させ社会自立を図らせるためにはどうあればよいかを考える。
■	技能表現的領域	聴力検査の概要、オージオグラム作成、補聴器の扱い方等を理解する。

授業計画（全体）

「聴覚障害の理解」や「聴覚障害者の聞こえと聴覚活用」等についてはプリントや実習を通して講義を進める。「聴覚障害教育」の現状については自作の資料やビデオ等の活用、聴覚障害教育の現場の見学、体験談の聴取等を通して理解を図らせたい。 テーマによっては、授業の中で自らの考えを述べてもらいながら進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 聴覚障害の理解 [内容] ・聞こえの仕組みと障害 ・心理的発達への影響 [授業外学習]	⑨	[テーマ] テスト [授業外学習]
②	[テーマ] 聴覚障害者の聞こえ [内容] ・聴力検査と聴覚活用の意義 [授業外学習]	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 聴覚障害とコミュニケーション [内容] ・「きこえ」と「ことば」の発達 ・コミュニケーションの発達 [授業外学習]	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 聴覚障害教育の実際 ―乳幼児期・幼児期の教育 [内容] 早期発見・両親援助・聴覚支援学校幼稚部の教育の実際 [授業外学習]	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 聴覚障害教育の実際 ―義務教育段階における教育 [内容] 小学校段階・中学校段階における教育の実際	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 聴覚障害教育の実際 ―聴覚支援学校の見学 [内容] 最早期教育から社会自立まで、一貫した聴覚障害教育の取り組みの様子を知る [授業外学習]	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 聴覚障害教育の歩みと今後の展望 [内容] ・諸外国、並びに、日本における聴覚障害教育の歩み ・聴覚障害教育の今後の在り方	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 聴覚障害者の社会自立 [内容] 聴覚に障害のある方の言語獲得段階から学校教育段階、そして、社会自立に至るまでの歩みを聞く。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

聴覚障害者の特性や聴覚障害教育の基礎知識と現状・課題等について、出席及び討論への参加、課題レポートなどの提出により総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎	○	30%
授業内レポート	◎	◎	◎	20%
授業外レポート	◎			20%
演習・実技			◎	10%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

聴覚障害児の発達や教育方法・社会自立等を考えるなど、聴覚障害者の生活全般に関心を持つような積極的な姿勢を期待する。
さらに、聴覚障害者の情報補償のための聴覚補償、ノートテイク（要約筆記）、手指言語、視覚教材等の活用等に関心をも持ってほしい。
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目			
教科書		参考書	特別支援学校学習指導要領：文部科学省
連絡先	非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	情緒障害教育総論 Indroduction to education for emotionally disturbed children				担当教員	渡邊康男
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

特別支援教育の概要をふまえつつ，情緒障害児者の特性や情緒障害教育の概要について解説する。

授業の一般目標

特別支援教育の概要を確認する。
情緒障害児者の特性や具体的教育内容・方法についての基礎的な知識を獲得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	情緒障害の生理・病理・心理，教育内容・方法について基礎的な事柄を理解する。
■	情意的領域	情緒障害教育に関心を持ち，積極的に関わろうとする。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となる。
4年次教育実習の時期との関係から，各自が調べたものの発表なども含めて展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション 特別支援教育とその対象 [内容] 特別支援教育とは その中の情緒障害の位置づけについて [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 情緒障害教育について [内容] 情緒障害教育の概要について [授業外学習] 学校教育における情緒障害について調べること。	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 情緒障害教育の対象 [内容] 自閉症について [授業外学習] 自閉症の特徴について整理してまとめること。	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 情緒障害教育の対象2 [内容] かん黙について [授業外学習] かん黙の特徴について整理すること。	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 情緒障害教育の対象3 [内容] 不登校等について [授業外学習] 不登校の特徴について整理すること。	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 情緒障害教育の現状 [内容] 特別支援学級の実際について [授業外学習] 接したことのある情緒障害児について概要をまとめる。	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 情緒障害教育の今後の展望 [内容] 情緒障害教育のこれからの方向について [授業外学習] 望ましい情緒障害教育について，自分の考えをまとめる。	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] まとめ [内容] 各回の授業を振り返り，まとめる。 [授業外学習] 自らの不十分な部分について，確認し学修すること。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポート（評価割合80%）とし，受講態度を総合して成績評価を行う。
欠席は，評価結果に加えず，欠格条件となる。
提出されたレポートは，解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			80%
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと
・2/3以上の出席のないものは，単位の修得はできない。（欠格条件）
・授業中は携帯電話は鞄の中にしまうこと。
・授業計画は，進度によって若干の変更があり得ること。
・自己学習（校外での学習，ボランティア活動等）の成果や授業テーマについて積極的に発表することを期待する。

関連科目	知的障害者の教育 病弱者の教育 肢体不自由者の教育 情緒障害教育総論 視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論 特別支援学校教育実習Ⅰ 特別支援学校教育実習Ⅱ		
教科書	特別支援学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説書	参考書	授業内で紹介する。
連絡先	研究室：A棟3階315		

授業科目名	学習障害等教育総論 Generality of education for Developmental Disabilites				担当教員	渡邊康男
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

特別支援教育の概要を踏まえつつ，学習障害等の発達障害児の特性及びその児童生徒への教育内容・方法等について具体的に解説する。

授業の一般目標

特別支援教育の動向を理解し，学習障害等の発達障害（LD,ADHD,HFA)について，その特性や指導の実際（実態把握，教育課程，学級作り教材教具の工夫等）理解する。
通常の学級における特別支援教育に関する基礎的知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別支援教育や発達障害児の教育について概略を説明できる。
■	情意的領域	障害のある児童生徒の指導・支援に関心を持ち，積極的に関わろうとすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となる。より理解を深めるための視聴覚教材を活用する。
講義中心ではあるが，グループ等での演習も取り入れ，具体的に支援方法等を考える時間を設ける。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ オリエンテーション ［内容］ 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，成績評価の方法等 ［授業外学習］ シラバスを熟読すること。	⑨	［テーマ］ 教育相談の実際 ［内容］ 発達障害と生育歴 ［授業外学習］ 赤ちゃんの発達について，大筋をまとめてみること。
②	［テーマ］ 特別支援教育の動向について ［内容］ 最近の特別支援教育の動向について ［授業外学習］ 特別支援教育の変遷について整理すること。	⑩	［テーマ］ 教育相談から指導へ ［内容］ 相談主訴のとらえ方と指導の内容 ［授業外学習］ 様々な指導法について調べること。
③	［テーマ］ 障害者の権利に関する条約をめぐる動きについて① ［内容］ 障害者の権利に関する条約と特別支援教育について① ［授業外学習］ 障害者の権利に関する条約について，概要を調べること。	⑪	［テーマ］ 実態把握の方法の実際 ［内容］ 知能検査の実際（演習）言語性検査 ［授業外学習］ 検査方法について，十分復習しておくこと。
④	［テーマ］ 障害者の権利に関する条約をめぐる動きについて② ［内容］ インクルーシブ教育システムと合理的配慮について ［授業外学習］ 合理的配慮について，文科省の答申を調べること。	⑫	［テーマ］ 実態把握の方法の実際2 ［内容］ 知能検査の実際（演習）動作性検査 ［授業外学習］ 検査方法について，十分復習しておくこと。
⑤	［テーマ］ 特別支援教育の現状について ［内容］ 特別支援教育の現状について 通常の学級に在籍する発達障害に着目して ［授業外学習］ 文部科学省の調査等について，資料等で確認すること。	⑬	［テーマ］ 指導法の工夫 グループ等での演習 ［内容］ 発達障害児の指導方法について ［授業外学習］ 各自，指導法補や教材を検討しておくこと。
⑥	［テーマ］ 学習障害について（病理・心理・特性等） ［内容］ 学習障害の病理・心理・特性等について ［授業外学習］ 学習障害の特徴について，整理しておくこと。	⑭	［テーマ］ 指導法の工夫2 グループ等での演習 ［内容］ 発達障害児の指導方法について 自閉症を中心に ［授業外学習］ 各自，指導法補や教材を検討し整理すること。
⑦	［テーマ］ 注意欠陥多動性障害について（病理・心理・特性等） ［内容］ 注意欠陥多動性障害の病理・心理・特性等について ［授業外学習］ 注意欠陥多動性障害の特徴について，整理しておくこと。	⑮	［テーマ］ 個別の教育支援計画を考える。 ［内容］ 個別の指導計画と教育支援計画について ［授業外学習］ 自立活動解説を読んでおくこと。
⑧	［テーマ］ 高機能自閉症について（病理・心理・特性等） ［内容］ 高機能自閉症の病理・心理・特性等について ［授業外学習］ 高機能自閉症の特徴について，整理しておくこと。	⑯	［テーマ］ まとめ・試験 ［内容］ 各回の授業について，テキストを下に振り返る。 まとめとして，試験を行う。 ［授業外学習］ 自分の不十分な箇所について，確認し，学修する。

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内レポート（評価割合10%），演習への取り組み（評価割合10%）とし，これらの結果を総合して成績評価を行う。
提出されたレポートや試験は，解説しながら返却する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート		○		10%
授業外レポート				
演習・実技		○		10%
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をおこなうこと。
・2/3以上の出席のないものは，単位の修得はできない。（欠格条件）
・授業中は携帯電話は鞄の中にしまうこと。
・授業計画は，進度によって若干の変更があり得ること。
・自己学習（校外での学習，ボランティア活動等）の成果や授業テーマについて積極的に発表することを期待する。

関連科目	知的障害者の教育 病弱者の教育 肢体不自由者の教育 情緒障害教育総論 視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論 特別支援学校教育実習Ⅰ 特別支援学校教育実習Ⅱ		
教科書	特別支援学校学習指導要領解説書 自立活動編	参考書	授業内で紹介する。
連絡先	研究室：A棟3階315		

授業科目名	特別支援学校教育実習Ⅰ Student-Teacher Training Ⅰ for Spcial needs education				担当教員	渡邊康男 他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

特別支援学校で行う教育実習の事前・事後指導

授業の一般目標

実習を行う上で求められる指導技術や教材研究について具体的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。
■	情意的領域	特別支援学校教諭に求められる資質を理解する。
■	技能表現的領域	指導技術や教材研究について具体的に理解する。 学習指導案を作成できる。

授業計画(全体)

教育実習の心得や学習指導案の作成について，具体的に学ぶ。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，成績評価の方法等 [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 特別支援学校における教育実習の心得 [内容] 実習に臨むに当たっての諸注意 [授業外学習] 教育実習の手引きを熟読すること。	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 障害のある子どもの実際 [内容] 障害特性の理解について [授業外学習] 子どもとの接し方について考えておくこと。	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 障害のある子どもの実際 [内容] 指導内容・方法を考える。 [授業外学習] 様々な指導方法を調べておくこと。	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 特別支援学校における教育課程1 [内容] 知的障害を対象とする特別支援学校の教育課程 [授業外学習] 特別支援学校学習指導要領・解説で調べておくこと	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 学習指導案の作成1 [内容] 生活単元学習 [授業外学習] 事前に先輩諸氏の学習指導案を集めておくこと	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 学習指導案の作成2 [内容] 生活単元学習2 [授業外学習] 先輩諸氏の学習指導案を集めておくこと	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 学習指導案の作成3 [内容] 自立活動 [授業外学習] 先輩諸氏の学習指導案を集めておくこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

作成する学習指導案(80%)・授業外レポート(20%)
提出された学習指導案やレポートは，解説しながら返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			80%
授業外レポート		◎		20%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・特別支援学校教育実習Ⅰの履修許可基準を満たしていること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	特別支援学校関係の全ての科目		
教科書	特別支援学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説書	参考書	授業内で紹介する。
連絡先	研究室:A棟3階315		

授業科目名	特別支援学校教育実習Ⅱ Student-teacher Training Ⅱ for Special needs education				担当教員	渡邊康男
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実習	関連資格	特別支援学校教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自主開拓校または協力校(宮城県内の特別支援学校), いずれかの特別支援学校における2週間の教育実習

授業の一般目標

学校現場の実際に触れることをとおして, これまで学習してきた一般教養, 教職教養, 教科専門について, 改めて整理し学習する。
特別支援学校教員の職務の一端を体験することによって, 将来の特別支援学校教諭としての決意と適性を確認し, 大学での学習への新たな意欲を喚起する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。
■	情意的領域	児童生徒と直接触れ合うことにより, 特別支援学校教諭に求められる資質を理解する。
■	技能表現的領域	指導技術や教材研究の具体的方法を理解する。

授業計画(全体)

各実習校の計画に従って, 学校経営, 学校運営に関する講話, 学習指導案の作成, 教材研究, 授業実践, 研究授業, 各種委員会や部活動等の参観, 参加, 実践を行う。

授業テーマとその内容

これまでの特別支援学校教諭教員免許にかかる学習を生かし, 特別支援学校(知的障害・病弱・肢体不自由のいずれか)において, 実際に教育実習生として, 指導教員の指導の下で実践する。

成績評価方法(方針)

実習校における実習評価報告書及び教育実習日誌により評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・特別支援学校教育実習Ⅰの履修者で保健体育教員免許取得見込みの者を対象とする。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	特別支援学校教育実習Ⅰ, 特別支援教育に関する科目		
教科書	仙台大学「教育実習の手引き」 特別支援学校学習指導要領	参考書	
連絡先	研究室:A棟3階315		

7. 自由科目

授業科目名	地域スポーツ戦略論 Sport in Community(L)				担当教員	荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	アシスタントマネジャー，社会教育主事任用
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義では、スポーツイベント開催を通じた地域活性化やスポーツを通じたまちづくり等についての事例を紹介しながら、スポーツが地域に果たす役割について解説する。

授業の一般目標

地域スポーツの現状と課題について学び、地域スポーツの意義について理解できるようになる。また、地域の活性化やまちづくりを念頭においたスポーツイベントやスポーツ活動を企画する力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。
■	情意的領域	地域と地域スポーツに興味・関心をもち、積極的にスポーツイベント等に参加できるようになる。
■	技能表現的領域	地域活性化やまちづくりを視野にスポーツイベントやスポーツ活動を企画できるようになる。

授業計画(全体)

資料を用いた講義を中心とする。前半は、スポーツイベントとしてのオリンピック競技大会を対象に、さまざまな視点から地域スポーツについて考える機会とする。後半、地域活性化やまちづくりをねらいとしたスポーツイベントやスポーツ活動の企画に向けて各テーマについて解説する。授業内課題に個人またはグループで取り組むことによって、理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 地域スポーツとは [内容] 本授業で取り扱う地域スポーツの射程について解説するとともに、授業計画、成績評価方法等について説明する。 [授業外学習] 自分が暮らす地域の現状について発表できるようにしておく	⑨	[テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(2) [内容] 日本の地方自治体における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。 [授業外学習] 地方自治体について調べておくこと
②	[テーマ] ママさんバレーと東洋の魔女 [内容] ママさんバレーを地域スポーツの萌芽ととらえ、コミュニティの課題解決手段としてのスポーツについて解説する。 [授業外学習] 東洋の魔女について調べておくこと	⑩	[テーマ] スポーツ実施状況の現状と課題 [内容] 第2期スポーツ基本計画の概要を説明し、日本におけるスポーツの実施状況の現状と課題について解説する。 [授業外学習] 第2期スポーツ基本計画について調べておくこと
③	[テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(1) [内容] 1964年東京大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学習] 1964年東京大会について調べておくこと	⑪	[テーマ] 生涯スポーツと総合型地域スポーツクラブ [内容] 生涯スポーツという概念について解説するとともに、総合型地域スポーツクラブの理念や課題について説明する。 [授業外学習] 自分が暮らす地域のクラブについて調べておくこと
④	[テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(2) [内容] 1976年モントリオール大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学習] 1976年モントリオール大会について調べておくこと	⑫	[テーマ] 運動部活動問題 [内容] 運動部活動における諸問題を概観し、地域スポーツの視点から課題解決の方策について探る。 [授業外学習] 運動部活動にかかわる問題について調べておくこと
⑤	[テーマ] 聖火が照らした＜沖縄＞ [内容] 沖縄で行われた聖火リレーを対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学習] 聖火リレーについて調べておくこと	⑬	[テーマ] 大学スポーツと地域 [内容] 大学スポーツと地域の関わりについて国内の事例を紹介し、日本版NCAA構想の可能性について議論する。 [授業外学習] 日本版NCAA構想について調べておくこと
⑥	[テーマ] スポーツイベント×地域 [内容] 第5回目までの講義内容を整理し、スポーツイベント開催を通じた地域の活性化やまちづくりの可能性について解説する。 [授業外学習] 第5回までの授業内容について復習する	⑭	[テーマ] 企業スポーツと地域 [内容] 国内のバレーボールチームの状況を概観しながら、企業スポーツと地域の関係について解説する。 [授業外学習] 企業とは何かについて発表できるようにしておくこと
⑦	[テーマ] 2020年東京大会の検証 [内容] 2020年東京大会が地域にもたらすものとは何か。大会計画を解説し、個別及びグループワークを通じて検証する。 [授業外学習] 2020年東京大会の開催計画を調べておくこと。	⑮	[テーマ] テスト① [内容] スポーツイベントの開催toまちづくりに関する論述試験を行う。 [授業外学習] 論述試験に関連して出題される授業外レポートに取り組むこと
⑧	[テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(1) [内容] 日本の中央政府における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。 [授業外学習] 文部科学省とスポーツ庁の関係について調べておく	⑯	[テーマ] テスト② [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための試験を行う。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

テスト(50%)、レポート課題(30%)、授業内課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業内で解説し、内容についてフィードバックする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		○	50%
授業内レポート	◎		○	20%
授業外レポート		○	◎	30%
演習・実技				
授業態度		○		加点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。
・授業計画は進捗状況等に応じて変更することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。

関連科目	スポーツ社会学(1年)，スポーツ経営学(1年)、スポーツマーケティング論(2年)、スポーツ産業論(3年)		
教科書		参考書	各回授業において適宜紹介する。
連絡先	荒牧亜衣(A棟510) ai-aramaki@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	トレーニング方法論 Training Methods				担当教員	柴山一仁・中屋敷眞・門野洋介・黒澤尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	アスレティックトレーナー、NSCA-CPT
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

本講義では、トレーニングの一般原則ならびに競技力向上を狙いとした各種トレーニングの方法論を概説する。また、実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる、個々のトレーニングをいかにして組み合わせ、配置するかについて、トレーニング構成の諸原則に基づき説明する。

授業の一般目標

主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般的理論およびそれらの具体的な方法論を理解する。また、短期、中期、長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え、実際の計画立案ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツトレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる。トレーニング計画の理論的な立案ができるようになる。
■	情意的領域	スポーツトレーニング理論に関して、積極的な興味関心を持てるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義では、競技力向上を目的とした運動（手段）すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え、筋力、スピード、持久力、柔軟性、調整力を養成する各種体力トレーニングの方法論について講義を行う。その後に、個々のトレーニングをいかに構成するかについて、大きく週間、月間、年間でのトレーニング周期に分けて、各々における諸原則を示す。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス（柴山） [内容] 担当教員の紹介および授業の内容、成績評価方法等について説明する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] スキルの獲得とその獲得過程（黒澤） [内容] スキルの獲得とその獲得過程について説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
②	[テーマ] トレーニングとは（中屋敷） [内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑩	[テーマ] 技術・戦術トレーニング（黒澤） [内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
③	[テーマ] トレーニングの一般原則（中屋敷） [内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑪	[テーマ] トレーニング構成の一般原理（黒澤） [内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
④	[テーマ] トレーニング負荷（柴山） [内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を含め説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑫	[テーマ] 競技的状態（スポーツ・フォーム）（門野） [内容] 競技的状態とは何か、その周期的発達特性を含めて説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
⑤	[テーマ] 筋力の養成法（柴山） [内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑬	[テーマ] トレーニングの期分け（門野） [内容] トレーニングの期分けについて説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
⑥	[テーマ] スピード・パワーの養成法（柴山） [内容] スピードおよびパワーの種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑭	[テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成（門野） [内容] 1週間、1ヶ月、1年間を基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
⑦	[テーマ] 持久力の養成法（柴山） [内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑮	[テーマ] トレーニング分析と管理（門野） [内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。
⑧	[テーマ] 巧緻性の養成法（黒澤） [内容] 巧緻性とは何か、そしてその具体的な養成法を説明する [授業外学習] 配布資料を復習すること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を1回実施する（評価割合80%）。また、授業内レポートを課す場合がある（評価割合20%）。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

- 私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。
- 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- 2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない（欠格条件）。
- 授業計画は授業の進み具合いにより変更する場合がある。
- 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書		参考書	スポーツ・トレーニング理論（村木征人）
連絡先	柴山一仁（A415、kz-shibayama@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	レジャー・レクリエーション論 Theory of Leisure and Recreation (L.)				担当教員	仲野　隆士
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	レクリエーション・インストラクター　レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。

授業の一般目標

社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる
■	情意的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学習] 配布資料で復習しておくこと	⑩	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑪	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
④	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑫	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1　高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑤	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑬	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2　少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑥	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑭	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3　地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑮	[テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑧	[テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		50%
授業内レポート	◎	○		50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	レクリエーション支援論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など		
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編	参考書	『やさしいレクリエーション実践』 (財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室		

授業科目名	スポーツマネジメント実習 Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.)				担当教員	岡田成弘・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・馬佳濛・荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	2・集中	授業方法	実習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター、 レクリエーション・インストラクター、ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	コース必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の場を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を理解し、説明できる。
■	情意的領域	実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。

授業計画（全体）

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。受講生は、夏季及び冬季休業中の日程を確認し、実習先を決定する。実習施設の代表者による事前オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

授業テーマとその内容

■事前指導
6月中旬まで
　第1回オリエンテーション・・・スポーツマネジメント実習について（実施概要、実習の心得、日程　調査）（日時・場所は掲示板で告知します）
6月下旬
　実習の日程、施設（班）が決定
7月上旬
　第2回オリエンテーション・・・班ごとにリーダーを決定し、連絡網を作成する。個人調査票の作成（2枚）、実習意志確認書の作成（1枚）を行う。
7月下旬
　第3回オリエンテーション・・・実習施設毎に、実習受入代表者による実習内容等の説明（正装で参加）
8月以降
　本番までに・・・班ごとに施設までの交通手段を決定し、担当教員に報告する
　　実習直前に、リーダーは担当教員に連絡を取り、実習について確認を行う。また施設の担当者にも電話で連絡をし、挨拶をする。
　実習本番（冬季の実習もある）

■実習先毎に実習
概ね以下のような指導実習を行う。
・施設利用者（小・中・高・大・一般）を対象として指導実習　　・朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操・ゲーム・ソングなどの指導
・団体毎の炊飯指導・ハイキング・キャンプファイヤー・ゲーム大会などへの指導、助言、補助活動
・施設内外の活動エリアの環境整備・所内での生活指導（指導担当職員の指示の下、補助者として活動する）
・指導担当職員から与えられた課題での自由研究や学習　　・指導を受けた内容について確認記録や資料の整理　　・指導略案の作成や実習日誌の整理

■実習施設
　宮城県蔵王自然の家
　宮城県志津川自然の家
　国立花山青少年自然の家
　　※どの施設で実習するかを選ぶことはできない。

■実習費
　約15,000円程度（実習先、活動内容によって少し変わる場合があります）

大学の代表として実習先に受け入れてもらうので、相応しくない学生は、例え履修をしていても実習に行かせることができません。
特に、無断欠席や提出物未提出などがある場合、実習をキャンセルさせることがあります。

成績評価方法（方針）

実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	100%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・事前オリエンテーションには、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。
・本コース教員1名が各施設を担当するので、実習前及び実習中に問題などが発生した場合、速やかに連絡を取り対応を仰ぐこと。自分勝手な判断をしないようにしてほしい。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をを行うこと。

関連科目	スポーツマネジメント概論（2年）、スポーツクラブ・マネジメント実習（3年）、野外・レクリエーション・マネジメント実習（3年）		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	岡田研究室　A棟5階　A509		

授業科目名	野外教育・活動論 Outdoor Education & Outdoor Activity				担当教員	岡田　成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	(公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。

授業の一般目標

野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。
■	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。
■	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。

授業計画(全体)

前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンツの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格について説明する。 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] キャンプと人 [内容] キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
②	[テーマ]野外教育と野外活動 [内容] グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑩	[テーマ] キャンプと自然 [内容] キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史的変遷を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
③	[テーマ] 冒険教育とは [内容] 冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑪	[テーマ] キャンプのルールとマナー [内容] キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。 [授業外学習]必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。
④	[テーマ] 冒険教育の実際 [内容] 冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑫	[テーマ]　Leave No Trace [内容] 自然の中で活動する時の7つの原則(技能や倫理観)を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑤	[テーマ] 環境教育とは [内容] 環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	⑬	[テーマ] キャンプの安全管理1 [内容] キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑥	[テーマ] 環境教育の実際 [内容] 環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	⑭	[テーマ] キャンプの安全管理2 [内容] キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑦	[テーマ] キャンプの特性 [内容] キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑮	[テーマ] まとめと振り返り [内容] 授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。 [授業外学習]これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。
⑧	[テーマ] キャンプの指導 [内容] キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業での小レポート:20点　→毎回の授業の最後に提出する。次回の授業でそのコメントに対して回答する。
課題(課題レポートとグループ課題発表)　:30点　→小レポートとグループ課題について、授業内で発表、ディスカッション及び解説を行う
筆記試験(期末試験):50点　→試験終了後、試験問題についての解説を行う

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	○	◎	○	20%
授業外レポート	◎	○	◎	15%
演習・実技	○	◎	◎	15%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をを行うこと。

関連科目	キャンプ実習(1年集中)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	杏林書院「野外教育の理論と実践」
連絡先	岡田研究室(A棟509)		

授業科目名	野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習） Management of Outdoor and School Recreation Activities（L. S. ）				担当教員	仲野隆士・高崎義輝・岡田成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

野外・学校レクリエーション ・イベント企画について、レクリエーション支援のマネジメント論などを基に企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について事例を用いたり実際にグループワークを通して習得させる。また、生涯スポーツとして近年、多くの国民に親しまれている「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について習得させる。

授業の一般目標

企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について実際にグループワークを通して学習し理解する。「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外・学校レクリエーションのマネジメントに必要な基礎的な知識や技術を説明できる
■	情意的領域	野外・学校レクリエーション活動の楽しみや面白さなどを体験を交えて伝えることができる
■	技能表現的領域	ウォークラリーや簡単な野外・学校レクリエーションの企画と運営ができる

授業計画（全体）

レクリエーションや野外活動などの指導者が地域や職場、学校などで野外における活動支援（イベントや教室を含む）を実施する場合に要求されるレクリエーション・マネジメントの部分を主眼に学習を進める。ウォークラリーの企画と運営は、実際に作成したコマ図を基にコースを歩き体験する。その他は野外・学校レクリエーション事業のマネジメントの授業を7回展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（仲野・高崎・岡田） [内容] ・担当教員の紹介、授業目標と進め方、成績評価の方法 ・野外レクリエーションの実際(ウオークラリーの事例) [授業外学習] シラバスを読んでおく。	⑨	[テーマ] プロジェクトワイルド 体験・指導準備 [内容] 環境教育プログラムのパッケージドプログラムであるプロジェクトワイルドを体験する。次回授業で指導できるように準備を行う。 [授業外学習]プロジェクトワイルドを指導できるように準備してくる。
②	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画1 [内容] ・ウオークラリー・イベント企画のための基礎知識 ・ウォーキングマップの作成のための現場下見 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑩	[テーマ] プロジェクトワイルド 指導 [内容] アレンジを加えたプロジェクトワイルドを指導する。最後に、野外教育プログラムの指導法について解説する。 [授業外学習]野外教育の指導法について復習する。
③	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画2 [内容] ・ウォーキングマップの作成 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑪	[テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際 仲野1 [内容] 目玉っこコンクールを実施し、表彰までを演出する [授業外学習] 身近なテーマでできる野外レクイベントを理解する
④	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画3 [内容] ・ミニウォークラリー大会の実施 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑫	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野2 [内容] 学校や地域におけるレクリエーション・イベント企画のための基礎理論の学習 [授業外学習]レジャー・レクリエーション関連のイベントについて話ができるように
⑤	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画4 [内容] ・ミニウォークラリー大会の振り返りとまとめ [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑬	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野3 [内容] 具体的な事例に基づくレクリエーション・イベントの立案 分けられた班毎に取り組む [授業外学習] 配布されたイベント立案に必要な資料を予め予習しておく
⑥	[テーマ] イニシアティブゲーム 体験 [内容] グループに分かれて野外教育プログラムの一つであるイニシアティブゲームを体験し、その理論と実践方法を理解する。 [授業外学習]イニシアティブゲーム開発のアイディアを考えてくる。	⑭	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野4 [内容] レクリエーション・イベント企画案のプレゼンテーションの準備 [授業外学習] 時間内にまとめきれない場合は、班毎に集まり完成させておくと
⑦	[テーマ] イニシアティブゲーム 開発・指導準備 [内容] イニシアティブゲームのプログラム開発に取り組む。次回指導ができるように準備を行う。 [授業外学習]イニシアティブゲームを指導できるように準備してくる。	⑮	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野5 [内容] レクリエーション・イベント企画案プレゼンテーションの実施：各班10分程度のプレゼンテーションとする [授業外学習] プレゼンテーションのためのパワーポイントスライドを完成させておく
⑧	[テーマ] イニシアティブゲーム 指導 [内容] グループごとに開発したイニシアティブゲームを、実際に指導する。参加者からのフィードバックをもとに、ゲームを完成させる。 [授業外学習]フィードバックをもとにゲームを完成させレポートを作成する。	⑯	[テーマ] 総括：全体のまとめ 修了レポート作成 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

イベント企画の企画書の内容、ウォークラリーのコマ図の完成度、ポスターなどの完成度、プレゼンテーションなどを基に、総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	○			40%
授業外レポート			◎	30%
演習・実技			◎	30%
授業態度			◎	減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論、野外教育・活動論など		
教科書		参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・高崎・岡田 各研究室		

授業科目名	野外レクリエーション・マネジメント実習 Outdoor Recreation Management Internship				担当教員	岡田　成弘、仲野　隆士
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

大学での講義・演習の授業で修得した知識・技能をもとに、実社会における現場実習を通し、より実践的な能力を育成する。特に、野外活動指導者やレクリエーションの指導者として身につけるべき資質・知識・技術を関連施設における10日程度の実習を通してマネジメントの観点から体験的に学習してもらう。

授業の一般目標

事前指導においては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、積極的に業務に取り組み、現場での経験を通して、野外レクリエーションの実態を学ぶ。実習後は、実習先の課題と現状をレポートとしてまとめ、実習での取り組みや成果をプレゼンテーションとして発表する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の職務内容を理解し、説明できる. 実習先の現状と課題を把握・分析することができる。
■	情意的領域	実習先で積極的に取り組む。協力することができる
■	技能表現的領域	実習先での日々の成果を日誌にまとめることができる。実習で学んだことをプレゼンテーションすることができる。

授業計画（全体）

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを数回行う。5～6月に受講生全員を集めてオリエンテーションを行い、その際に最終的に実習先施設を決定する。6月以降は、施設ごとに事前指導を受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に10日間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

授業テーマとその内容

■オリエンテーション（5～6月の予定）
本実習の履修者全員を集めて、実習の概要、実習先の紹介、実習先を決定する

■事前指導（6～7月の予定）
実習までに延べ1～2回の事前指導を実施する
・ 実習受け入れ団体の内容把握
・ 事前準備の確認
・ 実習先職員による最終オリエンテーション

■実習先毎に実習
期間原則として10日間以上（原則的に，受け入れ団体の要望に応じる）
《基本的な学習内容》
・ 職務の理解
・ 実習先の理解
・ 職場におけるコミュニケーション
〈専門的な学習内容〉（例）
・ イベントの企画・運営・評価
・ 用具，備品の管理
・ 文書の作成
※ 担当教員による巡回指導

■事後指導
実習のふりかえりと評価
・ レポートの作成
・ 受入団体別プレゼンテーション

■実習先
・みちのく杜の湖畔公園 エコキャンプみちのく、 ハイジキッズアカデミー、 モリウミアス、 くりこま高原自然学校、 仙台市体育館（親子でキャンプinおおくら） 等

その他、各自で実習先を選んでもよい。その場合、必ず野外レクリエーションを実践している施設・団体を選ぶこと。また、事前に必ず岡田・仲野に相談すること。

成績評価方法（方針）

実習先の指導担当者による評価、レポート、プレゼンテーション、事前オリエンテーション参加状況・態度などを基に、総合的に成績評価を行う。
レポート及びプレゼンテーションについては、提出・発表時で担当教員が確認し、コメント・フィードバックを行う

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート	○	○	○	15%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	70%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・各自が、主体的・積極的に取り組むことが何よりも大切な前提条件となる。単なる授業として取り組むのではなく、卒業後の就職につながるように前向きな気持ちで積極的に関わってもらいたい。
・事前指導に出席していない学生は、実習に参加することができないので、掲示板を確認のうえ必ず事前指導に参加すること。なお、実習にあたっては、受け入れ団体への交通費・滞在費・食等を自己負担する必要があるので注意すること。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をを行うこと。

関連科目	スポーツマネジメント概論，スポーツマネジメント演習，スポーツマネジメント実習，スポーツ施設の経営・管理，スポーツクラブ・マネジメント論（含演習），野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習），野外教育・活動論，キャンプ		
教科書	特になし	参考書	実習先によって適宜紹介する
連絡先	岡田研究室A棟5階509、仲野研究室A棟5階508		

授業科目名	スポーツクラブ・マネジメント論(含演習) Management of Sport Clubs (L.(S.))				担当教員	永田秀隆・弓田恵里香
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方は公共・民間を問わず重要である。スポーツ組織としての各種スポーツクラブに着目し、そこでのマネジメントの現状を踏まえ、今後よりよく実践していくためにはどのような視点、あるいは技術が必要となるのか、認識した上で実践できるようにする。

授業の一般目標

各種のスポーツクラブ等におけるマネジメントに関する知識を理解するとともに、その知識を踏まえ現場で実践できるような技術を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツクラブにおけるマネジメントの基本構造が説明できる。
■	情意的領域	総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブでのマネジメントを職業としても意識することができる。
■	技能表現的領域	スポーツクラブでのマネジメントの理解を通して、実際にクラブを経営できうる技能を身につけることができる。

授業計画(全体)

本授業はスポーツクラブ・マネジメント実習にスムーズに取り組めるための前提科目と考えており、より現場を意識した実践的な授業内容(演習的要素が強い)となる。授業方法はティーム・ティーチング方式を取り入れ、個々の学生やグループにキメの細かい対応ができるように心がける。テーマに沿った資料を必要に応じて配布し、また理解を深めるためDVD等も活用する。数回授業内容に沿ったレポートを課すので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／生涯スポーツ論 [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／生涯スポーツの概念、必要性や方法について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] クラブのつくり方 [内容] 事業計画(ビジネスプラン)作成に向け組織・プロセス・法人格といった構成要素の説明も含めDVD等の視聴により総合型クラブの実際の姿をイメージする [授業外学習]総合型クラブのモデル例を踏まえ今後の具体化に備える
②	[テーマ] スポーツクラブの意義 [内容] 総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)や民間スポーツクラブがなぜ必要なのか、その意義や役割について解説し、考察する [授業外学習]スポーツクラブとはどのようなものか調べておく	⑩	[テーマ] マーケティング [内容] スポーツクラブのマーケティングにおける意義、プロセス、広告・宣伝・会員募集戦略等について説明し、実際の方法について考える [授業外学習]マーケティングとは何か、復習しておく
③	[テーマ] 地域におけるスポーツ行政 [内容] 総合型クラブの場合、行政との関わりは必要不可欠であることが多い事から、地域社会における総合型クラブと行政との連関について考える [授業外学習]行政がクラブにどのような役割を果たすか考える	⑪	[テーマ] スポーツ施設・設備の管理 [内容] スポーツ施設や設備等といった、特にハード面の経営・管理について概説する。また、近年注目される指定管理者制度との兼ね合いについても述べる [授業外学習]指定管理者となっているスポーツクラブの事例を収集しておく
④	[テーマ] クラブの事業計画と事業内容 [内容] クラブのミッションやビジョンに基づき、スポーツクラブの柱となる事業について、その計画の立て方や内容について説明する [授業外学習]クラブの事業内容に関するイメージを膨らませておく	⑫	[テーマ] 財源の確保と効率的な資金運用(会計事務管理含む) [内容] 上記テーマについて、専門的な立場の方をお招きし、その詳細及び具体例について解説いただき、また試算等を体験する [授業外学習]スポーツクラブにおける支出の項目(費目)を考えてくる
⑤	[テーマ] 事業評価(経営評価)と結果の活用 [内容] 前回授業の事業計画と内容を評価することの必要性とその仕方、また結果をその後へ活用させることの意義等について述べる [授業外学習]経営評価とはどういうことか調べておく	⑬	[テーマ] リスクマネジメント [内容] 指導レベルでのリスクのみならず、クラブ運営にまつわるリスクの存在を列挙し、そのことについて考察を深める [授業外学習]リスクマネジメントの定義を調べておく
⑥	[テーマ] 事業評価(経営評価)の実際 [内容] 事業評価(経営評価)の考え方の中から、特に住民側の評価(経営成績の評価)について、質問紙調査を想定し、実際にアンケートを作成する [授業外学習]質問紙を下書きし、ワープロで打ち、期限までに提出する	⑭	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成① [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する [授業外学習]クラブが対象とする地域的な範囲や特性について調べる
⑦	[テーマ] クラブマネジャーの役割 [内容] スポーツクラブの核となるクラブマネジャーの役割、資質等について解説し、その後チェックシートにて各自のマネジャーとしての能力・資質を確認する [授業外学習]マネジャーの役割についてイメージを膨らませておく	⑮	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成② [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する、という前回の続きであるが、ワープロで仕上げる [授業外学習]事業計画書(ビジネスプラン)の書式をフォーマットしておく
⑧	[テーマ] ホスピタリティ・マネジメント [内容] 現場で活躍するクラブマネジャーをお招きし、マネジャーとしての取組みやクラブ運営について、ホスピタリティ・マネジメントの考え方も交え、報告いただく [授業外学習]当該スポーツクラブのことを事前に調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(50%)、授業内レポートとリアクションペーパー(50%)の結果に基づき、総合的に評価する。
授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				評価対象外
授業態度		○		減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、体育学科スポーツマネジメント・コースの選択必修科目となる。また、スポーツクラブ・マネジメント実習の前提科目との位置づけでもあるので、前記実習を志望する学生は、特に皆出席を目指してもらいたい。
・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、スポーツ政策論(4年)		
教科書		参考書	(財)日本体育協会『総合型クラブ創設ガイド』、武藤泰明『プロスポーツクラブのマネジメント』東洋経済新報社他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)　A棟5階504:弓田研究室(er-yumita@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	音楽・器楽演奏 Instrumental music performance				担当教員	荒井　富雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。

授業の一般目標

音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。
■	情意的領域	音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く
2.二部合唱練習
3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習（ビデオやDVDの鑑賞）

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
②	[テーマ] 音楽の三要素 [内容] ①音楽の三要素　②これからの合唱における各パート決め	⑩	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
③	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑪	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する
④	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑫	[テーマ]　器楽演奏発表 [内容]　器楽演奏発表
⑤	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する	⑬	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞
⑥	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞	⑭	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）
⑦	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）	⑮	[テーマ] まとめ(レポート) [内容] まとめ(レポート)
⑧	[テーマ] 音楽心理学 [内容] ①音楽心理学　②ボディパーカッション(リズムアンサンブル)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト

成績評価方法（方針）

毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。
出席率が2/3以上に達しない者は、原則として評価の対象外とする。（各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技			◎	30%
授業態度	◎			50%
出席				減点あり

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を修得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	なし		
教科書	特に指定しない	参考書	なし
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	スポーツターフ管理概論　Ⅰ Introduction to Sport Turf Management Ⅰ				担当教員	小島　文雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級，　スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション。二つの資格について 解説する [内容]　担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習]　シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ]　芝生に関する療法的知識、学外講師による講義 [内容]　芝生の生理的、心理的効果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ]　構内芝生における実習その1 [内容]　芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑩	[テーマ]　芝生管理機械、芝草学会講師による講義 [内容]　1．草刈り機の種類と機能、2．管理機械の種類と機能、3．今後の管理機械について [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
③	[テーマ]　芝草入門　Ⅰ、芝草学会講師による講義 [内容]　芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ]　芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義 [内容]1．雑草防除の基礎、2．芝草雑草の特徴、3．除草剤の作用特性、4．芝地における雑草 [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
④	[テーマ]　構内芝生における実習その2 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ]　構内芝生における実習その4 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説 [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ]　芝草入門　Ⅱ、芝草学会講師による講義 [内容]　暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑬	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト [内容]　課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画)　D(実施)　C(点検)　A(改善)サイクルで改善する [授業外学習]　授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ]　芝生の一般管理、芝草学会講師による講義 [内容]　1．芝生の管理とは、2．芝生の刈り込み、3．芝生の施肥、4．芝生の灌水について説明する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑭	[テーマ]　定期試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。 [授業外学習]　定期試験に備えて復習する
⑦	[テーマ]　構内芝生における実習その3 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑮	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　表蔵王国際ゴルフクラブを見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習]　芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にする。
⑧	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念　その1，第1回小テスト [内容]　経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する [授業外学習]　自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する	⑯	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習]　上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施，実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。解説の中で成績評価が理解できるように自己採点する。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届(0.4ポイント扱い)と自習成果表(0.4から0.6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅱを先に受講する事が出来る
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)　スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	＊体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 ＊屋外体育施設の建設指針　＊ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内　オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		

授業科目名	スポーツターフ管理概論 Ⅱ Introduction to Sport Turf Management Ⅱ				担当教員	小島 文雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級， スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、二つの資格について 解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良,6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑩	[テーマ] 構内芝生における実習その5 [内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する 。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
③	[テーマ] 構内芝生における実習その1,課題の取り組み [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ] 農業気象学、課題提出期限，第1回小テスト [内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境 [授業外学習] 常日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする
④	[テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ] 農薬概論と関係法令 、学外講師による講義 [内容] 1.農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関わる法令、5. 農薬取締り法の概説 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4.芝草管理と害虫 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑬	[テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会，第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学習] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ] 測量理論の解説，芝生の造成 [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。 [授業外学習] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける	⑭	[テーマ] 定期試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。 [授業外学習] 定期試験に備えて復習する
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その2 (芝生に関する工学的知識) [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。 [授業外学習] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する	⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] ﾕｱﾃｯｸｽﾀｼﾞｱﾑを見学して、芝生の維持管理について説明する。 各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習] 芝生管理の機械類の各種類について説明出来る様にする。
⑧	[テーマ] 構内芝生における実習その3、 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。 春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習] 上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施する。実技テストまたは授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅰを後で受講する事が出来る
・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅰ(2年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	*ｶﾗｰﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽ*芝生の校庭*園芸療法とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ *目で見るゴルフ場の芝草病害*ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内 オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		

授業科目名	卓球 Table Tennis				担当教員	馬　佳濛
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

1．卓球は、誰でも手軽に楽しむことができ、生涯スポーツとして最も適した種目の一つである。卓球を続けることによって、心身ともにバランスよく鍛えることができ、特に動体視力の強化に効果的である。2．基本技術から戦術等に至るまで、実践ゲームでも応用できる技術を習得させる。よりイメージを掴みやすくさせるために、実際に模範演技を見せながら解説する。3．技術レベル、習得状況等の個人差を配慮したうえで指導する。

授業の一般目標

1．卓球のルール、用具を知る。2．ボールの打ち感覚、動きを身に付ける。
3．ラリーを続けるようになる。4．ボールの回転を理解でき、いろいろなサーブを出せることと、相手のレシーブに対応ができる。
5．卓球の一連の基本技術を指導できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	卓球競技について理解し、ルール、競技構造を知る。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	基本的技術を習得する。

授業計画（全体）

卓球競技の各基本技術を習得してから、実践で活用できるシングルスとダブルスのゲームに展開していく。技能習得のレベルに応じてクラス分けて行う場合もある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]授業の目標と進め方，成績評価方法，用具の説明等	⑨	[テーマ] 実践② [内容] フォアハンド強打，シングルスゲーム
②	[テーマ] 基本の技術の習得① [内容] 卓球の歴史，各打法の紹介，ラケットの握り方，ゲーム	⑩	[テーマ] 実践③ [内容] バックハンド強打，ダブルスゲームの手法の紹介
③	[テーマ] 基本の技術の習得② [内容] 打球時の基本姿勢，フォアハンド，ゲーム	⑪	[テーマ] 実践④ [内容] カット打法，ダブルスゲーム
④	[テーマ] 基本の技術の習得③ [内容] バックハンド，バックショート，裏面打法，ゲーム	⑫	[テーマ] 実践⑤ [内容] シングルスとダブルスの基本戦術の紹介，応用練習
⑤	[テーマ] 基本の技術の習得④ [内容] フットワーク、前後左右への動き，ゲーム	⑬	[テーマ] 実践⑥ [内容] リーグ戦
⑥	[テーマ] 基本の技術の習得⑤ [内容] サーブ，レシーブ，ゲーム	⑭	[テーマ] 復習 [内容] 各種技術の復習、上達度合の確認。
⑦	[テーマ] 基本の技術の習得⑥ [内容] ツッツキ，各種サーブとそのレシーブの紹介，ゲーム	⑮	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト
⑧	[テーマ] 実践① [内容] ルールの説明，シングルスゲームの手法の紹介，ゲーム	⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト

成績評価方法（方針）

実技試験（評価割合70%）、実技実施状況（評価割合15%）、授業態度（評価割合15%）、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、全体の2/3以下の場合は成績評価対象外とする。本授業の到達目標、授業運営、成績評価基準に関する補足説明。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○		◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	○	○	15%
授業態度		◎		15%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1．授業態度が悪い学生に対して、減点や受講資格を失う場合もある。
2．運動しやすい服装と室内用靴を着用すること。
3．受講者同士で練習相手となるため、お互いの協力度、学びあうように努めること。
4．受講希望者が多い場合、設備関係、質の保障を考慮することから、人数を抽選などで調整する。
5．大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	第五体育館2F　研究室23　jm-ma@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックトレーニング論 I Athletic Training I (L)				担当教員	山口貴久/高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器(筋と骨格)の機能解剖について、身体の部位ごとに深く学んでいく。

授業の一般目標

運動器の機能解剖の基礎を身に付け、アスレティックトレーニングやストレングストレーニングなど様々な分野で応用できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
■	情意的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教科書に基づき、身体の部位ごとに、1)骨　2)関節と靭帯　3)筋・腱　4)その他の重要な軟部組織について、骨模型やスライドなどのVisual aidを用いて講義を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学習] 運動器の概論について予習・復習をする	⑨	[テーマ] 体幹の機能解剖 I (山口) [内容] 頸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 胸部の解剖と機能について予習する
②	[テーマ] 概論 I (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 骨・関節・靭帯の概論について予習・復習をする	⑩	[テーマ] 体幹の機能解剖 II (山口) [内容] 胸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 腰部の解剖と機能について予習する
③	[テーマ] 概論 II (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 骨格筋の概論について予習・復習をする	⑪	[テーマ] 体幹の機能解剖III (山口) [内容] 腰部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について予習する
④	[テーマ] 概論III (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 股関節の解剖と機能について予習する	⑫	[テーマ] 上肢の機能解剖 I (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について復習する
⑤	[テーマ] 下肢の機能解剖 I (高橋) [内容] 股関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について予習する	⑬	[テーマ] 上肢の機能解剖 II (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肘関節の解剖と機能について予習する
⑥	[テーマ] 下肢の機能解剖 II (高橋) [内容] 膝関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 下腿の解剖と機能について予習する	⑭	[テーマ] 上肢の機能解剖III (山口) [内容] 肘関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 手関節と手の解剖と機能について予習する
⑦	[テーマ] 下肢の機能解剖III (高橋) [内容] 下腿の解剖と機能について説明する [授業外学習] 足関節の解剖と機能について予習する	⑮	[テーマ] 上肢の機能解剖IV (山口) [内容] 手関節と手の解剖と機能について説明する [授業外学習] テストに備える
⑧	[テーマ] 下肢の機能解剖IV (高橋) [内容] 足関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 頸部の解剖と機能について予習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

テスト結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
・本授業は日本体育協会公認アスレティックトレーナー認定試験の受験資格取得に必要な授業であるため、その指導方針に沿って授業をすすめる
・本授業は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論、スポーツ傷害の予防と評価		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②	参考書	
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	コンディショニング論 Introduction to Conditioning (L.)				担当教員	高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー, JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を具体的な事例を交え解説する。

授業の一般目標

コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。

授業計画(全体)

授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(小田) [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習]シラバスの熟読	⑨	[テーマ] トレーニング計画②(高橋) [内容] トレーニング計画の立案、設計について説明 [授業外学習]教科書p70-84を読んで予習と復習をする
②	[テーマ]コンディショニングとは(小田) [内容] コンディショニングの概念、目的について説明 [授業外学習]教科書p2-10を読んで復習と予習をする	⑩	[テーマ] ストレッチング(高橋) [内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明 [授業外学習]教科書p178-208;p272-277を読んで復習と予習をする
③	[テーマ] コンディショニングの要素①(小田) [内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明 [授業外学習]教科書p6-21を読んで復習と予習をする	⑪	[テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン(高橋) [内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]教科書p272-277;p93-97を読んで復習と予習をする
④	[テーマ] コンディショニングの要素②(小田) [内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明 [授業外学習]教科書p12-24を読んで復習と予習をする	⑫	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング①(高橋) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]教科書p95-97;p120-135を読んで復習と予習をする
⑤	[テーマ] コンディション評価①(小田) [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]教科書p27-50を読んで復習と予習をする	⑬	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング②(高橋) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]教科書p120-135;p87-93;p139-147を読んで復習と予習をする
⑥	[テーマ] コンディション評価②(小田) [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]教科書p35-59を読んで復習と予習をする	⑭	[テーマ] アジリティー・スタビライゼーショントレーニング(高橋) [内容] アジリティー・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]教科書p87-93;p139-147を読んで復習する
⑦	[テーマ]トレーニングの基礎(高橋) [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]教科書p52-64を読んで復習と予習をする	⑮	[テーマ] 総括・復習(小田) [内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える [授業外学習]これまでカバーした教科書の内容を復習する
⑧	[テーマ]トレーニング計画①(高橋) [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]教科書p60-76を読んで復習と予習をする	⑯	[テーマ] テスト(小田) [内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・日本体育協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修をおこなうこと

関連科目	コンディショニング実習		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑥	参考書	
連絡先	高橋研究室　第4体育館1階研究室3　Email: ys-takahashi@sendai-u.ac.jp;　オフィスアワー:水曜日12:40～14:10		

授業科目名	コンディショニング実習 Conditioning Practicum				担当教員	小田桂吾・山口貴久・高橋陽介
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー・ ・JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

この実習は日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、競技力向上および傷害予防を目的としたコンディショニング指導に必要な知識と技術の向上を図る。

授業の一般目標

アスレティックトレーナーとして種目別の競技特性を理解し、実際に指導を実践できることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る知識を習得する。
■	情意的領域	選手、スタッフ、他領域の専門家とコミニュケーションが取れるようにする。
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る技術を習得する。

授業計画（全体）

各テーマに合わせた内容の実習を行う。各実習終了後、実技テストを行い理解度、到達度の確認を行う。

授業テーマとその内容

以下の内容を理解し、実践できるよう知識と技術を習得する。
・競技力向上を目的としたトレーニング指導方法
・競技種目特性を理解したコンディショニングおよびリコンディショニングの指導方法
・競技復帰を目標としたアスレティックリハビリテーションおよび再発予防を目的としたトレーニング指導
・傷害の特性を理解したコンディショニングの指導

成績評価方法（方針）

評価は実技試験の結果に基づき評価する。試験は授業内で解説しながらフィードバック解説する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○			20%
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	○	○	○	減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。
・授業計画はオリエンテーション時に連絡する。

関連科目	コンディショニング論、アスレティックトレーニング論Ⅰ		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑥	参考書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト①～⑤、⑦～⑨
連絡先	小田桂吾　A棟5階514　kg-oda@sendai-u.ac.jp　オフィスアワー：水曜日12:40～14:10		

授業科目名	スポーツ栄養学 Sport Nutrition(L.)				担当教員	真野芳彦 ・ 平良拓也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康運動実践指導者、 ﾄﾚｰﾅｰ資格関係
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング（運動）・栄養（食事）・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。

授業の一般目標

競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング（運動）・栄養（食事）・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。
■	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教科書およびPower Pointを使い授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は，原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、スポーツと栄養について [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践① [内容] 運動中のエネルギー基質を理解する [授業外学習] 模擬問題を復習すること
②	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割①(トレーニングと糖質) [内容] スポーツ・運動時の糖代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。	⑩	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践② [内容] 糖質の特徴と利用方法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
③	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割②(トレーニングと脂質) [内容] スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。	⑪	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践③ [内容] 身体作り：筋増強の栄養摂取法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
④	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割③(トレーニングとタンパク質) [内容] スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。	⑫	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践④ [内容] 身体作り：骨強度とアスリートの骨強度の現状 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑤	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割④(トレーニングとビタミン・ミネラ [内容] スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。	⑬	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑤ [内容] 減量方法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑥	[テーマ] 基礎体力を高める食事① [内容] 基礎体力を高めるために必要な食事量を理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。	⑭	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑥ [内容] アスリートの酸化ストレスと抗酸化能を学ぶ [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑦	[テーマ] 基礎体力を高める食事② [内容] 基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。	⑮	[テーマ] まとめ(スポーツと栄養について) [内容] スポーツと栄養の関係についてまとめる [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑧	[テーマ] 基礎体力を高める食事③ [内容] 基礎体力を高めるために重要な食事摂取タイミングについて理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

出席、筆記試験ならびに指定課題による総合評価

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度		○		減点あり
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
・学則に示された出席数に満たない学生は，評価対象外とする（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・原則として運動生理学、運動生化学は履修済みのこと。

関連科目	健康と栄養・食事		
教科書	適宜資料配布	参考書	「スポーツ栄養学」-トレーニング効果を高める食事 編著者：藤井久雄 (株)アイ・ケイコーポレーション
連絡先	研究室：平良（25記念館2階） 0224-55-1593 tk-taira@sendai-u.ac.jp		